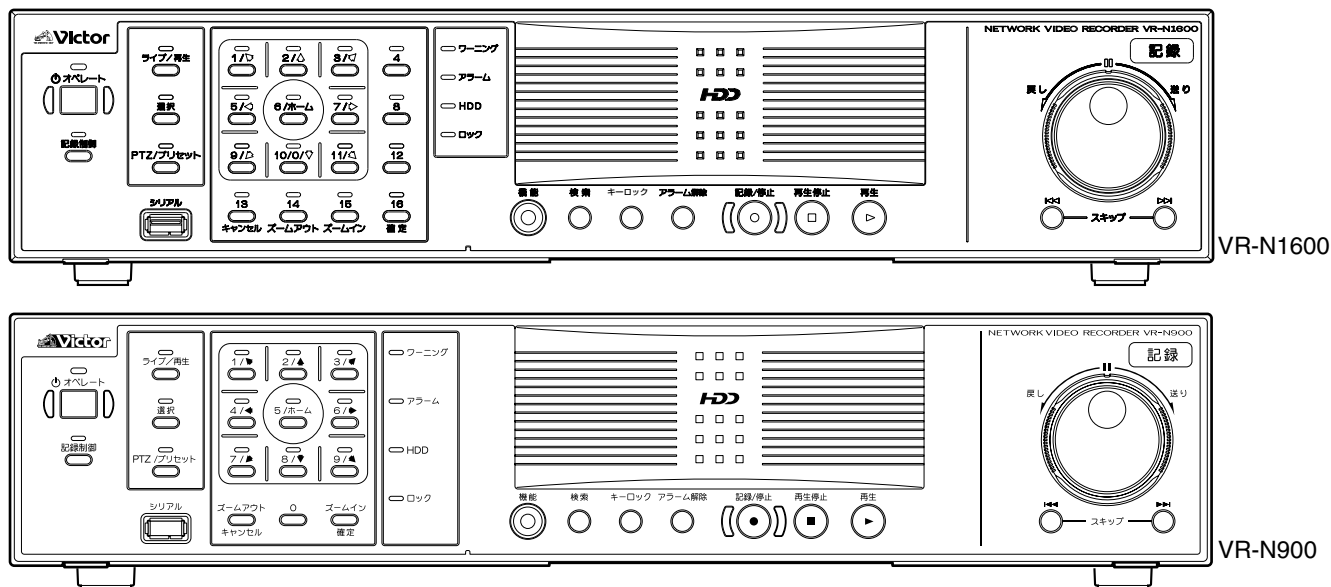


ネットワークビデオレコーダー

型名 **VR-N1600**
VR-N900

取扱説明書
VR-N900 (B)



お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

Powered by Milestone

特長

ネットワークカメラの自動検出機能

複雑なカメラ登録作業の手間を大幅に軽減します。

500GB 大容量ハードディスク内蔵

HDD 増設に対応

2TB2 台（外付）まで増設が可能です。（VR-N900）

1TB（内蔵 500GB 増設）、2TB2 台（外付）まで増設が可能です。（VR-N1600）

9 チャンネル同時 120 イメージ/秒の記録が可能 (VR-N900)

4 チャンネルのアナログ入力を装備 (VR-N900)

80 イメージ/秒の表示・配信性能を確保 (VR-N1600)

60 イメージ/秒の表示、30 イメージ/秒の配信性能を確保 (VR-N900)

同時記録再生が可能

記録中でも記録画像の再生やジョグ・シャトル再生、スキップ再生をすることができます。

ダイレクトサーチ

希望の日時・アラーム位置を、すばやく検索することができます。

停電復帰記録

記録中に停電が発生した場合、停電復帰後に停電前の記録モードで自動的に記録を再開します。

アラーム記録機能

記録中にアラーム信号が入ると、自動的にアラーム記録モードで記録を開始します。

動き検出機能

設定したライブ映像内の“動き”を自動的に検出して、記録を開始します。検出エリアはカメラごとに設定することができます。

アラームメール発報機能

アラーム・動き検出時に、電子メールの発報ができます。

RAID1 に対応 (VR-N1600)

内蔵 HDD を増設すると RAID1 に対応できます。

2 つのハードディスクに同じデータを書き込み（ミラーリング）、1 つが故障してもそのまま運用を継続することができます。

16 チャンネル同時 160 イメージ/秒の記録が可能 (VR-N1600)

NVR Viewer を起動しない場合は、16 チャンネル同時 240 イメージ/秒までの記録が可能です。

双方向音声カメラに対応 (VR-N1600)

音声入力端子 1（AUDIO IN 1）に入力されたマイク音声を、双方向音声対応カメラへ送信し、カメラに接続されたスピーカから出力します。

この取扱説明書の見かた

■ ドキュメントについて

以下の 2 つのドキュメントがあります。

(1) スタートアップガイド

冊子として同梱されています。また、PDF ファイルとして提供されています。CD-ROM に入っています。


(2) 取扱説明書（本 PDF）

PDF ファイルとして提供されています。CD-ROM に入っています。

■ 本文中の記号の見かた

ご注意 操作上の注意が書かれています。

メモ 機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

 参考ページや参照項目を示しています。

■ 本書の記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、© などのマークは省略してあります。
- Milestone、XProtect Enterprise は、Milestone Systems 社の登録商標です。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書では、特別な場合を除いて VR-N1600 の画像やイラストを使用して説明をしております。VR-N900 の画像やイラストを使用する場合、イラストの右上に機種名を表示してあります。

■ Milestone 製組込ソフトウェアに関するエンドユーザーライセンス契約

これは、お客様、Milestone Systems A/S (Milestone) および日本ビクター株式会社 (ビクター) における、ビクターネットワークビデオレコーダ (NVR) 製品に組み込まれた Milestone 社製ソフト (以下本件ソフトといいます) に関する契約です。本件ソフトには、ビクター NVR 製品販売時またはその後に提供される本件ソフトの関連ソフトコンポーネント、媒体、印刷物およびオンラインまたは電子文書を含みます。

本件ソフトを組み込んだビクター NVR 製品の使用をもって、お客様は本契約の条件および条項に同意され、これらに拘束されることとなります。

本件ソフトは、各国の著作権法・著作権に関する国際条約のほか、知的財産に関する法律や条約・協定で保護されており、本契約に従ってライセンスされます。

1. 使用許諾

Milestone はお客様に対し、ビクター NVR 製品上で本件ソフトを使用する権利を許諾します。

2. 著作権

本件ソフトに関する著作権その他の権利は、Milestone が保有します。本契約で明示的に許諾される場合を除き、Milestone はその一切の権利を留保します。

3. 非保証

Milestone とビクターは、本件ソフトについて一切の保証をしません。本件ソフトおよび関連文書は現状有姿で、商用性、特定目的への適合性や非侵害に関するものを含め、一切の保証なく提供されます。本件ソフトの使用または性能より生じるあらゆるリスクは、ユーザーとしてのお客様の負担となります。特定装置または他のソフトウェアとともに使用した場合、本件ソフトによって適法による制限を受けたりまたは適法に反する調査やデータプロセッシングが可能となる場合があることをお客様はご了解下さい。適法に使用しているか否かを検証するのは、ユーザーとしてのお客様の責任となります。

4. 限定責任

Milestone、ビクターまたはそれらのサプライヤーは、本件ソフトを使用しまたはこれを使用できなかった場合、もしくは正当にサポートされまたはされなかった場合に生じる特別、付随的、間接または派生的損害 (逸失利益、ビジネスの中断、ビジネス情報の喪失、その他金銭上の損失を含みますが、これに限りません) については、Milestone またはビクターがその可能性を予見していた場合であっても、一切を保証しません。いかなる場合であっても、本条に基づく Milestone およびビクターの保証は、お客様がビクター NVR 製品のうち本件ソフト部分に対しお支払いになった相当額を上限とします。

なお、本条の規定は、適法で認められる限り有効とします。

5. 雑則

- (1) お客様は本件ソフトがビクター NVR 製品に組み込まれていることを了解し、本件ソフトを複製しないものとします。
- (2) お客様は本件ソフトをビクター NVR 製品から取り除いたり、そのコピーを第三者に提供してはならないものとします。
- (3) 適法で認められ、かつ本契約上それを否認することができない場合を除き、本件ソフトに対しリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルをしてはなりません。
- (4) お客様は、本件ソフトを組み込んだビクター NVR 製品の譲受人が本契約の条件に同意した場合、本件ソフトに関するお客様の権利をかかる譲受人に譲渡することができます。

6. 終結

お客様が本契約のいずれかの規定に違反した場合、Milestone は本契約を終結しうるものとします。その場合、お客様は本件ソフトの使用を中止しなければなりません。

7. 準拠法

本契約は日本国法を準拠法とし、また本契約に関する紛争の第一審管轄裁判所は、東京地方裁判所とします。

はじめに

VR-N900/VR-N1600（以下、「本デバイス」といいます）には、日本ビクター株式会社が Microsoft Corporation よりライセンスを受けているソフトウェア、Windows®XP Embedded Runtime（以下、「本ソフトウェア」といいます）がインストールされています。本デバイス及び本ソフトウェアのご使用にあたっては、下記のマイクロソフトソフトウェアライセンス条項へのご同意が必要になります。

マイクロソフトソフトウェアライセンス条項

Windows®XP Embedded Runtime

本ライセンス条項は、お客様と日本ビクター株式会社との契約を構成します。以下のライセンス条項を注意してお読みください。これらのライセンス条項は本デバイスに含まれる本ソフトウェアに適用されます。本ソフトウェアには、本ソフトウェアが記録された別の媒体も含まれます。本デバイスのソフトウェアには、マイクロソフトまたはその子会社からライセンス許諾されたソフトウェアが含まれています。また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。

- 更新プログラム
- 追加ソフトウェア
- インターネットベースのサービス
- サポートサービス

ただし、これらの製品に別途ライセンス条項が付属している場合は、当該ライセンス条項が適用されるものとします。お客様がマイクロソフトから更新プログラムまたは追加ソフトウェアを直接入手された場合、日本ビクター株式会社ではなく、マイクロソフトが当該更新プログラムまたは追加ソフトウェアを許諾します。

以下に説明するように、一部の機能を使用することにより、インターネットベースのサービスのために特定のコンピュータ情報を送信することにお客様が同意されたものとします。

本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合、本ソフトウェアを使用または複製することはできません。この場合、日本ビクター株式会社に問い合わせ、お支払いいただいた金額の払戻しに関する方針を確認してください。

お客様が本ライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には以下が許諾されます。

1 使用に関する権利

お客様は、本ソフトウェアを取得したデバイスで本ソフトウェアを使用できます。

2 追加のライセンス条件および追加の使用権

a. 固有の使用。

日本ビクター株式会社は、本デバイスを特定の目的で使用するよう設計しています。お客様は当該使用目的に限り本ソフトウェアを使用できます。

b. その他のソフトウェア。

お客様は、他のプログラムが以下の条件を満たす場合に限り、本ソフトウェアで他のプログラムを使用できます。

- 製造業者の固有のデバイス使用目的を直接サポートする。
- システムユーティリティ、リソース管理、またはウイルス対策や類似する保護対策を提供する。

コンシューマまたはビジネスタスクやプロセスを提供するソフトウェアを本デバイスで実行することはできません。該当するソフトウェアには、電子メール、ワードプロセッサ、表計算、データベース、スケジュール作成、および家計簿ソフトウェアが含まれています。本デバイスは、ターミナルサービスプロトコルを使用して、サーバーで実行されるこれらのソフトウェアにアクセスできます。

c. デバイス接続。

● お客様は、ターミナルサービスプロトコルを使用して、電子メール、ワードプロセッサ、スケジュール作成や表計算などのビジネスタスクやプロセスソフトウェアを実行する別のデバイスに本デバイスを接続することができます。

● お客様は、最大 10 台のデバイスに本ソフトウェアへのアクセスを許可し、以下を利用することができます。

- ファイルサービス
- プリントサービス
- インターネットの情報サービス
- インターネット接続共有サービスおよびテレフォニーサービス

この 10 台という制限は、「マルチプレキシング」または接続数をプールの他のソフトウェアもしくはハードウェアを介し本ソフトウェアに間接的にアクセスするデバイスにも適用されます。お客様は TCP/IP を介していつでも無制限に受信できます。

3 使用許諾の適用範囲

本ソフトウェアは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本契約は、お客様に本ソフトウェアを使用する限定的な権利を付与します。日本ビクター株式会社およびマイクロソフトはその他の権利をすべて留保します。適用法によりこの権利を超越した権利が与えられる場合を除き、お客様は本契約書で明示的に許可された方法でのみ本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、本ソフトウェアに組み込まれた使用方法を制限する技術的制限に従うものとし、詳細については、本ソフトウェアのマニュアルを参照するか、日本ビクター株式会社にお問い合わせください。上記の制限にもかかわらず、法律上許容される範囲において、以下の行為は一切禁止されています。

- 本ソフトウェアの技術的な制限を回避する方法で利用すること
- 本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること
- 本契約書に指定される数を超えて本ソフトウェアの複製を作成すること
- 第三者が複製できるように本ソフトウェアを公開すること
- 本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与すること
- 本ソフトウェアを商用ホスティングサービスで使用する

本契約書で定められている場合を除き、任意のデバイス上で本ソフトウェアにアクセスする権利は、当該デバイスにアクセスするソフトウェアまたはデバイスに関するマイクロソフトの特許またはその他の知的財産権を行使する権利をお客様に付与するものではありません。

お客様は、リモートデスクトップなどのリモートアクセス技術を使用して、別のデバイスから本ソフトウェアにリモートアクセスすることができます。他のソフトウェアにアクセスするプロトコルの使用に必要なライセンスの取得にはお客様が責任を負うものとします。

●リモートブート機能。

日本ビクター株式会社がデバイスにおいて本ソフトウェアのリモートブート機能を有効にしている場合、お客様は以下の操作ができます。

- (i) 本ソフトウェアの複製 1 部をお客様のサーバーにインストールして、ライセンス取得済みデバイスにリモートブートプロセスの一環として展開するためのみに Remote Boot Installation Service (RBIS) ツールを使用する。
 - (ii) リモートブートプロセスの一環として本ソフトウェアをデバイスに展開するためのみに Remote Boot Installation Service を使用する。
 - (iii) 本ソフトウェアをライセンス取得済みデバイスにダウンロードして、ライセンス取得済みデバイスで使用する。
- 詳細については、本ソフトウェアのマニュアルを参照するか、日本ビクター株式会社にお問い合わせください。

●インターネットベースのサービス。

マイクロソフトは、本ソフトウェアと共にインターネットベースのサービスを提供します。マイクロソフトは随時このサービスを変更または中止できるものとします。

a. インターネットベースのサービスに関する同意。

本ソフトウェアには、以下に説明するインターネットを経由してマイクロソフトのコンピュータシステムに接続する機能が含まれます。接続が行われる際、通知が行われない場合があります。これらの機能を解除したり、使用しないことも選択できます。これらの機能に関する詳細については、以下の Web サイトをご参照ください。

<http://www.microsoft.com/windowsxp/downloads/updates/sp2/docs/privacy.msp>

これらの機能を利用することで、お客様はマイクロソフトがこれらの情報を収集することに同意されたものとします。マイクロソフトはこれらの情報を利用してお客様を特定したり、お客様に連絡したりすることはありません。

b. コンピュータ情報。

以下の機能はインターネットプロトコルを使用しており、お客様の IP アドレス、オペレーティングシステムの種類、ブラウザの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、ならびに本ソフトウェアをインストールしたデバイスの言語コードなどのコンピュータ情報を適切なシステムに送信します。マイクロソフトは、お客様にインターネットベースの複数のサービスを提供するためにこれらの情報を利用します。

●Web コンテンツ機能。

本ソフトウェアには、関連するコンテンツをマイクロソフトから取得し、お客様に提供する機能が含まれます。コンテンツを提供するために、これらの機能は、お客様が使用しているオペレーティングシステムの種類、本ソフトウェアの名称およびバージョン、本ソフトウェアをインストールしたデバイスのブラウザの種類および言語コードをマイクロソフトに送信します。この機能の例として、クリップアート、テンプレート、オンライントレーニング、オンラインアシスタンス、および Appshelp が含まれます。これらの機能は、起動しない限り動作せず、お客様は、これらの機能を解除することも、使用しないことも選択できます。

●電子認証。

本ソフトウェアはデジタル証明書を使用します。これらの電子認証は、X.509 標準暗号化情報を使用し、インターネットユーザーを特定します。本ソフトウェアは証明書を取得し、証明書失効リストを更新します。このセキュリティ機能は、お客様がインターネットに接続した場合にのみ作動します。

●Auto Root Update

Auto Root Update 機能は信頼できる認証機関のリストを更新します。Auto Root Update 機能は解除することができます。

マイクロソフトソフトウェアライセンス条項 (つづき)

●Windows Media Player

お客様が Windows Media Player を使用すると、マイクロソフトに対して以下が確認されます。

- お客様の地域において利用可能なオンライン音楽サービス
- Windows Media Player の最新バージョン
- Codec(コンテンツの再生に必要な Codec がデバイスにない場合)。

お客様は、この機能を解除することができます。

詳細については、<http://microsoft.com/windows/windowsmedia/mp10/privacy.aspx> をご参照ください。

●Windows Media Digital Rights Management

コンテンツ所有者は、著作権を含む知的財産権を保護する目的で、Windows Media Digital Rights Management (WMDRM) 技術を使用しています。本ソフトウェアおよび第三者のソフトウェアは、WMDRM で保護されたコンテンツを再生、複製する際に WMDRM を使用します。本ソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、コンテンツ所有者がマイクロソフトに対して、保護されたコンテンツを WMDRM を使用して再生または複製する本ソフトウェアの機能を無効にするよう要請することがあります。無効にされた場合も、その他のコンテンツは影響を受けません。保護されたコンテンツのライセンスをダウンロードする際、お客様はマイクロソフトがライセンスに失効リストを含めることに同意したものとします。コンテンツ所有者は、お客様がこれらのコンテンツにアクセスする前に、WMDRM のアップグレードを要請することがあります。WMDRM を含むマイクロソフトソフトウェアは、アップグレードに先立ってお客様の同意を求めます。アップグレードを行わない場合、お客様はアップグレードが必要なコンテンツにアクセスできません。インターネットに接続する WMDRM 機能は解除することができます。この機能が解除されている場合、正規のライセンスを取得している限り、コンテンツを再生することは可能です。

c. インターネットベースサービスの不正使用。

お客様は、これらのサービスにダメージを及ぼす可能性のある方法、または第三者によるサービスの使用を妨げる方法で、これらのサービスを使用することはできません。また、サービス、データ、アカウント、またはネットワークへの不当なアクセスを試みるためにこれらのサービスを使用することは一切禁じられています。

4 Windows Update Agent (Software Update Services と呼ばれます)

デバイスにインストールされた本ソフトウェアには、必要なサーバーコンポーネントがインストールされたサーバーにデバイスを接続して更新プログラム (「Windows Update」) にアクセスできるようにした Windows Update Agent (「WUA」) 機能が含まれています。Windows Update が付属するこのマイクロソフトソフトウェアライセンス条項または他の EULA の免責に限らず、お客様は、デバイスにインストールする Windows Update について、マイクロソフトおよびその子会社は保証を行わないことを認め、同意するものとします。

5 製品サポート

サポート方法については、日本ビクター株式会社にお問い合わせください。サポートの連絡先については本デバイス付属の文書をご参照ください。

6 バックアップ用の複製

お客様は、本ソフトウェアのバックアップ用の複製を 1 部作成することができます。バックアップ用の複製は、お客様が本ソフトウェアを本デバイスに再インストールする場合に限り使用することができます。

7 ライセンス証明書 (「Proof of License」または「POL」)

お客様が本ソフトウェアを本デバイスにインストールされた状態、CD-ROM またはその他の媒体で入手された場合、本ソフトウェアが正当に許諾されたものであることは、正規のマイクロソフト「Certificate of Authenticity」ラベルが正規の本ソフトウェアに付属していることをもって識別することができます。正規のラベルはデバイス上もしくは日本ビクター株式会社のソフトウェア梱包に貼付されている必要があります。ラベルが別途付属する場合は、無効とみなされます。お客様が本ソフトウェアの使用許諾を受けていることを証明するため、ラベルが貼付されたデバイスもしくは梱包材を保管してください。正規のマイクロソフトソフトウェアを識別する方法については、<http://www.howtotell.com> をご参照ください。

8 第三者への譲渡

お客様は、本ソフトウェアを、本デバイス、Certificate of Authenticity ラベル、および本契約書と一緒にのみ、第三者に直接譲渡することができます。譲渡の前に、本ソフトウェアの譲受人は本ライセンス条項が、譲渡および本ソフトウェアの使用に適用されることに同意しなければなりません。お客様は、バックアップ用の複製を含む本ソフトウェアの複製を一切保持することができません。

9 非フォールトトレラント

本ソフトウェアは、フォールトトレラントではありません。日本ビクター株式会社は、本ソフトウェアを本デバイスにインストールし、本デバイスでの本ソフトウェアの実行に責任を負います。

10 使用の制限

マイクロソフトソフトウェアは不具合に対して自動的に対応できる機能または性能を持たないシステムを対象にしています。お客様は、万一誤作動した場合に人身傷害もしくは死亡につながる可能性のあるデバイスまたはシステムでマイクロソフトソフトウェアを使用することはできません。使用の制限には、原子力施設の操業、航空機の航行、通信システム、および航空管制が含まれます。

11 本ソフトウェアの保証なし

本ソフトウェアは、何ら保証のない現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供されます。本ソフトウェアの使用から生じるリスクは、お客様が負うものとし、他の明示的な保証または条件は規定いたしません。本デバイスもしくは本ソフトウェアに関する保証は、マイクロソフトまたはその子会社が負うことはなく拘束されるものではありません。法律上許容される最大限において、商品性、特定目的に対する適合性、非侵害性に関する黙示の保証について日本ビクター株式会社およびマイクロソフトは一切責任を負いません。

12 責任の制限

マイクロソフトおよびその子会社の責任は、250 米ドル (US\$250.00) を上限とする直接損害に限定されます。その他の損害 (派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、または付随的損害を含みますがこれらに限定されません) に関しては、一切責任を負いません。

この制限は、以下に適用されるものとし、

- 本ソフトウェア、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ (コードを含みます) または第三者のプログラムに関連した事項
- 契約違反、保証違反、無過失責任、または該当法で許可されている範囲の過失に関する主張

マイクロソフトがこのような損害の可能性について知らされていた場合も制限が適用されるものとし、

上記の制限は、一部の国では付随的、派生的、およびその他の損害の免責、または責任の制限が認められないため、適用されない場合があります。

13 輸出規制

本ソフトウェアは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本ソフトウェアに適用されるすべての国内法および国際法を遵守することに同意されたものとし、これらの法律には、輸出対象国、エンドユーザーおよびエンドユーザーによる使用に関する制限が含まれます。

詳細については www.microsoft.com/japan/exporting をご参照ください。

もくじ

はじめに

特長	2
もくじ	8
正しくお使いいただくためのご注意	10
各部の名称とはたらき (VR-N1600)	12
各部の名称とはたらき (VR-N900)	16
背面の端子について	20
VR-N1600 と VR-N900 の操作の違いについて	21
ラックに取り付ける	21
オペレーションロック	22
初回起動時について	22

準備

システム接続例	26
時計表示について	27
パフォーマンスメーターについて	28
文字の入力・マウスポインターについて	28
マウスを使って文字を入力する (マウスを使用する場合)	29
フロントパネルからマウスポインタを操作する (マウス (別売) を接続しない場合)	29
カメラ名、ビュー名の日本語入力機能について	30
モニター解像度の変更	31
設定変更時のご注意	31

基本操作

電源を入れる／切る	32
オペレート ON / OFF の切り換え	32
ログオン	33
メインメニューを表示する	34
NVR Viewer について	35
フロントパネル操作でライブ映像を見る	36
[ライブ映像表示] 画面を表示する	36
ビューを選択する	36
カメラを選ぶ	36
カメラを操作する	37
マウス操作でライブ映像を見る	38
[ライブ映像表示] 画面を表示する	38
ビューを選択する	38
カメラを選ぶ	38
PTZ 機能を使い画像を見る	39
プリセット機能を使う	40
その他便利な機能	40

フロントパネル操作で記録画像を再生する	42
ビューを選択する	42
日時指定で記録画像を検索する	42
記録画像を再生、スキップ、停止する	43
再生スピードを変える (ジョグ・シャトル再生)	43
マウス操作で記録画像を再生する	44
ビューを選択する	45
[時間ナビ] で記録画像を検索する	45
タイムライン・ブラウザで記録画像を検索する	46
シーケンスを使い記録画像を検索する	46
アラートリストから記録画像を検索する	47
スマート検索	47
記録画像を再生、スキップ、停止する	48
音声を聞く	49
画像や音声を CD、DVD などに書き込む (エクスポート)	49
一時ファイルの削除 (本機での操作)	52
RW の消去 (本機での操作)	52
USB 書き込み操作 (本機での操作)	52
監視用パソコンからの操作	53
記録画像を印刷する (監視用パソコンからの操作)	53
カメラ映像を記録する	54
記録の種類について	54
停電時の記録動作について	54
記録制御モードにする	55
強制記録モードにする	55
スケジューラの設定	55
画像の記録設定をする	57
カメラ設定画面の説明	58
画質設定をする	60
音声の記録設定をする	61
カメラ名変更とカメラ番号の設定	62
画面表示設定	62
画面表示について (グループとビュー)	62
グループとビューを作成する	63
カメラをビューに追加する	65
カメラ設定を調節する	65
他のパソコンからビューを使う	66
画面自動切替を設定する	66
ホットスポット (拡大画像) を設定する	68
[Html ページ] を使う	69
静的イメージ (GIF, JPEG ファイルなど) を使う	69
マトリックスの表示位置を設定する	69

応用操作	
メインメニュー	70
メニュー画面一覧	70
ユニット設定	71
OS 設定	75
配信設定	78
自動検出設定	82
カメラ記録設定	86
カメラを追加する	88
アナログカメラについて (VR-N900)	88
アナログカメラを追加する場合 (VR-N900)	88
デバイス編集	89
PTZ カメラの設定 (COM1/COM2)	90
PTZ プリセット設定	92
レコーディングサーバーを停止する	92
[PTZ プリセット] 画面を表示する	92
プリセット位置を設定する	94
イベントでプリセット位置を移動する	94
PTZ カメラを使って自動パトロールを行う	95
入出力ポート、イベントについて	97
入出力設定	97
背面入出力端子について	99
VMD イベントを設定する	99
タイマーイベントを設定する	99
出力を設定する	100
[詳細設定] 画面	100
イベントボタンを設定する	101
ジェネリックイベントを設定する	102
イベント通知の設定をする	104
出力ポートの設定をする	104
カメラの出力設定	105
モーション設定	106
一般設定	108
E メール設定	109
アーカイブの設定	110
データベースの設定	112
フラッシュメモリーユーティリティ	113
自動検出設定	115
言語設定	117
ハードディスクユーティリティ	118
初期設定に戻す	119
配信設定の詳細	120
パソコンと接続する	122
音声送信アプリ操作 (VR-N1600)	128
イベント音声設定 (VR-N1600)	130
音声をコピーする	131
設定をコピーする	132
パスワードを設定する	132
通信設定をする	133

その他	
対応機器	134
対応ネットワークカメラ	134
UPS の接続	134
増設ハードディスクについて	134
増設ハードディスクを接続する	134
NAS について	135
特殊なキー操作について	136
イベントまたはモーション発生の前後を記録する	136
PTZ カメラ制御について	137
メンテナンス情報の表示	138
エクスポートビューワー	139
ジョイスティックの設定を変更する	141
NAS を設定する	142
記録時間表 (VR-N1600)	143
記録時間表 (VR-N900)	145
初期値一覧	147
こんなときは	152
保証とアフターサービス	153
仕様	154
VR-N1600	154
VR-N900	155

正しくお使いいただくため の注意

保管および使用場所

- 次のような場所に置かない
誤動作や故障の原因となります。
 - 許容動作温度 (5℃ ~ 40℃) 範囲外の暑いところや寒いところ
 - 許容動作湿度 (30%RH ~ 80%RH) 範囲外の湿度の多いところ (結露なきこと)
 - 変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
 - トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
 - ほこりや砂の多いところ
 - 振動の激しいところ
 - 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
 - 厨房など蒸気や油分の多いところ
 - 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生するところ
- 本機および本機に接続したケーブルが強い電波や磁気が発生するところ (例、ラジオ、テレビ、変圧器、モニターなどの近く) で使用された場合、画像にノイズが入ったり、色彩が変わることがあります。

取り扱いについて

- 機器を重ねて使用しない
お互いの熱やノイズの影響で誤動作したり故障したり、火災の原因となることがあります。
- 通風孔をふさがない
通風孔をふさぐと、内部の熱が逃げないので火災の原因となります。本機を横倒し、逆さま、あお向けの状態で使用しないでください。
- 本機の上に物を置かない
テレビモニターのような重いものや、本機からはみ出るような大きなものを置くとバランスが崩れて倒れたり、落ちたりしてケガの原因になることがあります。
- 本機の上に乗らない
倒れたり、こわれたりしてケガの原因となることがあります。特に小さいお子様には注意してください。
- 本機の上に水の入ったもの (花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など) を置かない
機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。
- 内部に物を入れない
通風孔などから、金属類や燃えやすいものなどが入ると火災や感電の原因となります。

ハードディスクドライブについて

- ハードディスクドライブ (以下 HDD) のデータを読み書きするヘッドとディスクの距離はわずか 0.02μm 程度です。HDD に振動や衝撃が与えられた場合、ヘッドがディスクに衝突し、ディスクの表面に打痕やディスクのかけらが発生することになります。これにより、データが読み出せなくなるばかりか、使用しつづけますとヘッドクラッシュ (損傷) に陥る原因になりますので、取り扱いには十分ご注意ください。
 - 設置時および設置場所の移動について
通電中や電源を切った直後 (約 1 分間) は、移動や設置作業は絶対に行わないでください。電源を切っても、HDD はしばらくの間は惰性で回転しているため、この間振動や衝撃を与えると HDD 故障の原因になることがあります。衝撃を与えないように緩衝材などで包んで移動させてください。
 - 取り扱いについて
 - 本機に振動や衝撃を与えないようていねいにお取り扱いください。
 - 記録・再生の動作中や HDD へのアクセス中に、電源プラグを抜かないでください。
 - HDD は消耗品です。使用環境により異なりますが、周囲温度 25℃ でご使用した場合、18,000 時間を目安に交換することをお勧めします。(ただし、この時間は目安であり、HDD の寿命を保証するものではありません。) メンテナンスの計画、費用などのご相談は、ご購入先の販売店、または別紙のサービス窓口案内をご覧ください。
 - 外付けハードディスクを増設される場合は、システムの安定動作のため、UPS (無停電電源装置) のご使用をおすすめします。[UPS の接続] (☞ 134 ページ)
 - ハードディスクのフォーマットや切断処理をしているときに停電が発生すると、UPS を接続している場合でも、その後の運用に支障が生じることがあります。
 - 万一本機、およびハードディスクドライブなどの不具合により、正常に記録できなかつたり、再生できなかつた場合、その内容の補償についてはご容赦ください。
 - ハードディスクを交換した場合は、記録された画像が消去されます。また、本機のソフトウェアのバージョンアップによって、記録画像が消去されることがありますので、ご注意ください。
- ### 時計について
- より正確な時刻で記録するために、外部時刻サーバーのご使用をおすすめします。
 - 動作環境によっては、日差 10 数秒程度のずれが発生する場合があります。
 - 本機内部のバックアップ用リチウム電池の容量が低下した場合、時刻が大きくずれることがあります。]
 - 時刻サーバーは LAN2 のネットワークに接続してください。

移動について

- 移動するときは接続コード類を外す
移動するときは、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- 通電中や電源を切った直後（約1分間）は、移動や設置作業は絶対に行わない
電源を切っても、HDD はしばらくの間は惰性で回転しているため、この間振動や衝撃を与えると HDD 故障の原因になることがあります。
- 衝撃を与えないように緩衝材などで包んで移動させてください。
- 本機に振動や衝撃を与えないようていねいにお取り扱いください。

電源コードについて

- 付属のコードは本機以外の機器で使わない
- 電源コードの上に重いものを乗せたり、コードを本機の下敷きしない
コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。
- 電源コードは、本機に付属のもの以外を使用しない
必ず本機に付属のものをご使用ください。耐圧の異なるコードや、傷ついたコードを使用すると、火災や感電の原因になります。
- 記録・再生の動作中や HDD へのアクセス中に、電源コードを抜かない

お手入れについて

- お手入れは、電源を切ってから行ってください。
- 本機は柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジンでふくと、表面がとけたり、くもったりします。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。

省エネについて

- 長時間使用しないときは、安全および節電のため、システムの電源を切ってください。

著作権について

- 本機で録画・録音したものを営利目的、または公衆に試聴することを目的として放映することは、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意ください。
- 録画（録音）したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権上、権利者に無断で使用できません。

その他

- 落雷などにより電源電圧が変動した場合、システム保護のため電源電圧が安定するまで操作できないことがあります。
- 機器設置等で入出力端子に触れる際にはあらかじめ静電気を除去した後、作業を行なってください。
- 静電気により誤動作をする場合がありますので、動作中は本機のリアパネルに触れないでください。
- 短いアラーム記録などで本機に記録されたデータの数が増えると、検索やバックアップ動作に時間がかかる場合がありますが、故障ではありません。
- テレビ放送や録画（録音）物などから、記録したものは、個人として楽しむほかは、著作権上権利者に無断で使用できません。
- 分割画面のとき、映像の境目（黒く見える部分）の幅が、入力信号によって異なって見えます。これはカメラ入力信号の特性であり、故障ではありません。本機の調整により改善することができます。お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。
- 本機は精密機器であるハードディスクを搭載しております。振動や衝撃を与えないよう取り扱いには十分ご注意ください。
- 特に通電中やハードディスクへのアクセス中に振動や衝撃を与えると、故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- 本機を移動する場合は、電源を抜いて約1分間経過してから行ってください。
- 記録・再生の動作中やハードディスクへのアクセス中に、背面の電源スイッチを切ることや電源コードを抜くことをしないでください。故障の原因となります。

この装置を一般家庭で使用した場合ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与えるおそれがあります。

Milestone XProtect Enterprise(XPE) と本機のマスター/スレーブ接続時のご注意

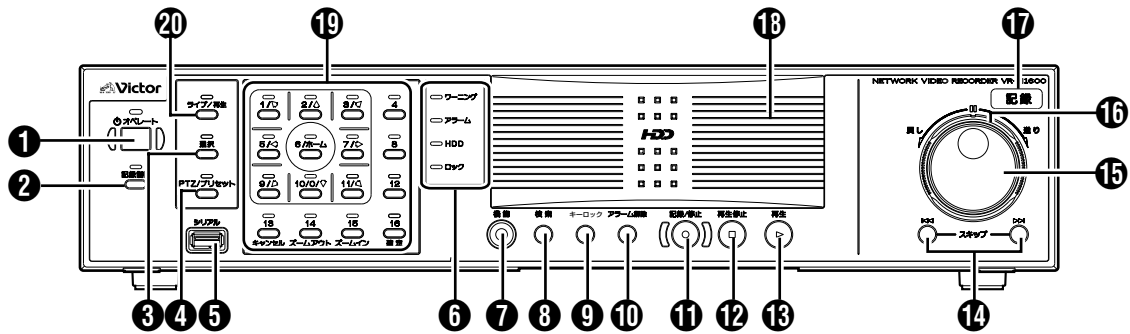
マスター PC から、スレーブに設定された本機への接続は1つにしてください。スレーブに設定された本機が、複数のマスター PC から接続された場合、本機は正常に動作しないことがあります。

ソフトウェアのインストールについて

- 本機用に提供されている以外のアプリケーションソフトウェアなどを本機にインストールしないでください。本機の動作が不安定になることがあります。この場合、保証の対象外となります。

各部の名称とはたらき (VR-N1600)

前面



① [オペレート] ボタン・表示灯

オペレート ON/OFF を切り換えます。ボタンを押すと“ON”、長押しすると“OFF”となり、起動処理中および終了処理中は表示灯が点滅します。

② [記録制御] ボタン・表示灯

記録制御モードの ON/OFF を切り換えます。記録制御モード時は表示灯が点灯します。

[機能] ボタンを押しながら [記録制御] ボタンを押すと、メインメニューが表示されます。

メモ:

- 記録制御モード時および記録中は、メインメニューを表示させることはできません。
- 記録制御モードは、カメラ記録設定に従って記録されるモードです。(☞ 55 ページ)

③ [選択] ボタン・表示灯

テンキー ⑩ をカメラ選択モードに設定します。カメラ選択モード時は、表示灯が点灯します。(☞ 38 ページ)

④ [PTZ/プリセット] ボタン・表示灯

テンキー ⑩ の PTZ/プリセットモードを切り換えます。ボタンを押すたびに両モードが切り換わります。PTZ モード時は表示灯が点灯し、プリセットモード時は表示灯が点滅します。

⑤ [シリアル] 端子

マウス (別売)、フラッシュメモリー (別売)、または UPS (別売) の通信制御端子と接続します。

メモ:

- 増設用ハードディスクは背面の [SERIAL 1 ~ 4] 端子に接続してください。(☞ 14 ページ)

ご注意:

- 使用しない場合は、付属のシリアル端子カバーを付けてください。
- 静電気により誤動作する場合があります。あらかじめ静電気を除去したあとに作業を行なってください。

⑥ 状態表示灯

■ [ワーニング] 表示灯

エラーなどが発生すると、点灯します。(☞ 152 ページ)
[アラーム解除] ボタンを長押しすると、消灯します。

■ [アラーム] 表示灯

アラーム発生時に点灯します。
[アラーム解除] ボタンを押すと、消灯します。

■ [HDD] 表示灯

内蔵 HDD アクセス時に点灯します。

■ [ロック] 表示灯

オペレーションロック中に点灯します。(☞ 22 ページ)

⑦ [機能] ボタン

このボタンを押しながら、他のボタンを押すことで、それぞれの機能が利用できます。

『特殊なキー操作について』(☞ 136 ページ)

⑧ [検索] ボタン

再生モード時に日時検索入力画面を表示します。

(☞ 42 ページ)

⑨ [キーロック] ボタン

[機能] ボタンを押しながら [キーロック] ボタンを押すと、フロントパネルのキー操作が無効となります。(キーロックモード) 解除する場合は、再度同じ操作をしてください。“ソフトウェアキーボード”を表示/非表示させるときに押しします。

メモ:

- ソフトウェアキーボードは、文字を入力するために使います。(☞ 28 ページ)

⑩ [アラーム解除] ボタン

イベント発生時やモーション検知時の [アラーム] 表示を解除します。長押しすると、[ワーニング] 表示灯が消灯します。

11 [記録/停止] ボタン

このボタンを押すことで、全カメラの記録を開始します。(記録制御モード中は、記録制御モード解除後全カメラの記録を開始します。)記録を停止するときは、このボタンを長押しします。

また、記録制御モード中に長押しすると、記録制御モードが解除されます。

メモ:

- 強制記録モードは、カメラ記録設定にかかわらず全カメラを記録するモードです。カメラ記録設定で設定する画像保存のフレームレートで記録されます。(58 ページ)

12 [再生停止] ボタン

再生モード時に再生を停止します。

13 [再生] ボタン

再生モード時、シャトル角度に応じた再生を行います。

14 [スキップ] ボタン

■ [◀◀]

メニュー画面や設定画面で、選択されている項目を逆方向へ移動させるときに押します。再生モード時、選択カメラの1つ前のシーケンスの先頭へ移動します。長押しで選択カメラのデータベースの先頭画像へ移動します。

■ [▶▶]

メニュー画面や設定画面で、選択されている項目を順方向へ移動させるときに押します。再生モード時、選択カメラの次のシーケンスの先頭へ移動します。長押しで選択カメラのデータベースの最後の画像へ移動します。

メモ:

- シーケンスはイベント、モーション検出で記録される記録画像のまとめりです。
- 記録画像はデータベースとして保存されます。本機では記録データをデータベースと呼んでいます。

15 ジョグダイヤル

再生モード時、コマ送りをします。

16 シャトルダイヤル

再生モード時、再生スピードと再生方向を設定します。角度に応じて 1/20, 1/5, 1, 2, 5, 10, 20 倍速が設定できます。

17 [記録] 表示灯

記録中に、点灯します。また、エマーゼンシー記録、EXT REC IN 記録中は点滅します。

18 センターパネル

取りはずさないでください。

19 テンキーボタン・表示灯

[0] ~ [16]

● ログイン画面

- パスワード(数字)入力に使用します。([1] ~ [10/0], [10/0] ボタンは“0”が入力されます。)

● メインメニューの各設定画面

- テンキー PTZ モード
メニュー項目を選択します。([2/↑], [10/0/↓])
- テンキーカメラ選択モード
数字を入力するのに使います。([1] ~ [10/0], [10/0] ボタンは“0”が入力されます。)

● ライブ映像表示画面、記録画像再生画面

- テンキーカメラ選択モード

選択するカメラ番号を選びます。このとき、選んだカメラ入力に対応する表示灯が点灯します。

● テンキー PTZ モード (ライブ映像表示画面のみ)

カメラを矢印の方向へ移動します。([1/↖][2/↑][3/↗][5/←][7/→][9/↘][10/0/↓][11/↙]、[6/ホーム] はホームポジションへ移動します。)

● テンキープリセットモード (ライブ映像表示画面のみ)

プリセットポジションを選択します。([1] ~ [9]、最初に [10/0/↓] を押すと 10 から 19 まで選択できます。)

● 記録画像の検索中

検索したい日付、月、週、時刻などを絞り込む際に使用します。

([1] ~ [10/0]、[10/0] ボタンは“0”が入力されます。)

● ソフトウェアキーボード表示中

● テンキー選択モード

数字を入力するのに使います。([1/↖] ~ [10/0]、[10/0] ボタンは“0”が入力されます。)

● テンキー PTZ モード (ライブ映像表示画面のみ)

マウスポインタを矢印の方向へ移動することができます。([1/↖][2/↑][3/↗][5/←][7/→][9/↘][10/0/↓][11/↙]、[6/ホーム] は画面中央へ移動します。)

[13/ キャンセル]

● メインメニューの各設定画面

選択をキャンセルします。

[14/ ズームアウト]

● ライブ映像表示画面、記録画像再生画面

● テンキー PTZ モード (ライブ映像表示画面のみ)

ズームアウトします。

● テンキープリセットモード

次のビューを選択します。

- [機能] ボタンを押しながら [14/ ズームアウト] ボタンを押すと、VGA 出力の解像度切り換えができます。

[15/ ズームイン]

● ライブ映像表示画面、記録画像再生画面

● テンキー PTZ モード (ライブ映像表示画面のみ)

ズームインします。

● テンキープリセットモード

前のビューを選択します。

- [機能] ボタンを押しながら [15/ ズームイン] ボタンを押すと、VGA 出力の解像度切り換えができます。

[16/ 確定]

● メインメニューの各設定画面

選択を確定します。

● ソフトウェアキーボード表示中

マウスのクリック動作を行います。

20 [ライブ/再生] ボタン・表示灯

[ライブ映像表示] モード、[再生] モードを切り換えます。

[ライブ映像表示] モード時は表示灯が点灯します。

壁紙画面で [ライブ/再生] ボタンを押すと、[ライブ映像表示] 画面が表示されます。

[機能] ボタンを押しながら [ライブ/再生] ボタンを押すと、NVR Viewer と本体内部の配信サーバーを再起動します。

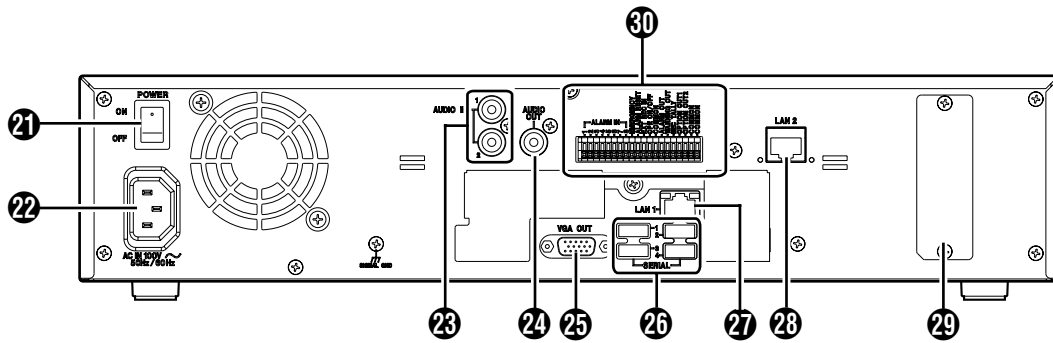
[機能] ボタンを押しながら [ライブ/再生] ボタンを長押しすると、システムをログオフします。

メモ:

- [オートログオン] が設定されている場合は、ログオフ後すぐにログオン動作が始まります。(71 ページ『ユニット設定』)

各部の名称とはたらき (VR-N1600) (つづき)

背面



21 電源スイッチ

電源を入/切します。

メモ: _____

- 電源を切る場合は、必ず前面のオペレートボタンを長押ししてオペレート OFF 状態にしてください。

22 [AC IN 100V~50Hz/60Hz] 電源入力端子

付属の電源コードで AC100V のコンセントに接続します。

23 [AUDIO IN 1/AUDIO IN 2] 音声入力端子 1・2 (RCA)

音声記録したい機器の音声出力端子と接続します。

24 [AUDIO OUT] 音声出力端子 (RCA)

ライブ映像表示のときは、ライブ音声を出力します。

再生中は、記録されている音声を出力します。

メモ: _____

- 静止画再生時、x1 以外のサーチ時、コマ送り再生時は、音声出力されません。

25 [VGA OUT]VGA 出力端子

ライブ映像、記録画像やメニュー画面を出力します。

26 [SERIAL 1~4] シリアル端子 1~4

マウス (別売)、フラッシュメモリ (別売)、増設用ハードディスク (別売)、または UPS (別売) の通信制御端子と接続します。

27 [LAN1]LAN1 接続端子 (カメラネットワーク)

LAN ケーブルでネットワークカメラ (別売) のネットワークに接続します。

	色	状態	
左側表示灯	オレンジ色	消灯	ネットワークに接続していません。
		点灯	ネットワークに接続しています。
		点滅	通信中です
右側表示灯	緑色	消灯	10Mbit/秒で通信しています。
		点灯	100Mbit/秒で通信しています。
	オレンジ色	点滅	1Gbit/秒で通信しています。

28 [LAN2]LAN2 接続端子 (イントラネットワーク)

LAN ケーブルでリモートパソコンのネットワークに接続します。

	色	状態	
左側表示灯	緑色	消灯	ネットワークに接続していません。
		点滅	ネットワークに接続しています。
右側表示灯	緑色	消灯	通信していません。
		点滅	通信中です。

29 コネクターカバー

メモ: _____

- 取りはずさないでください。

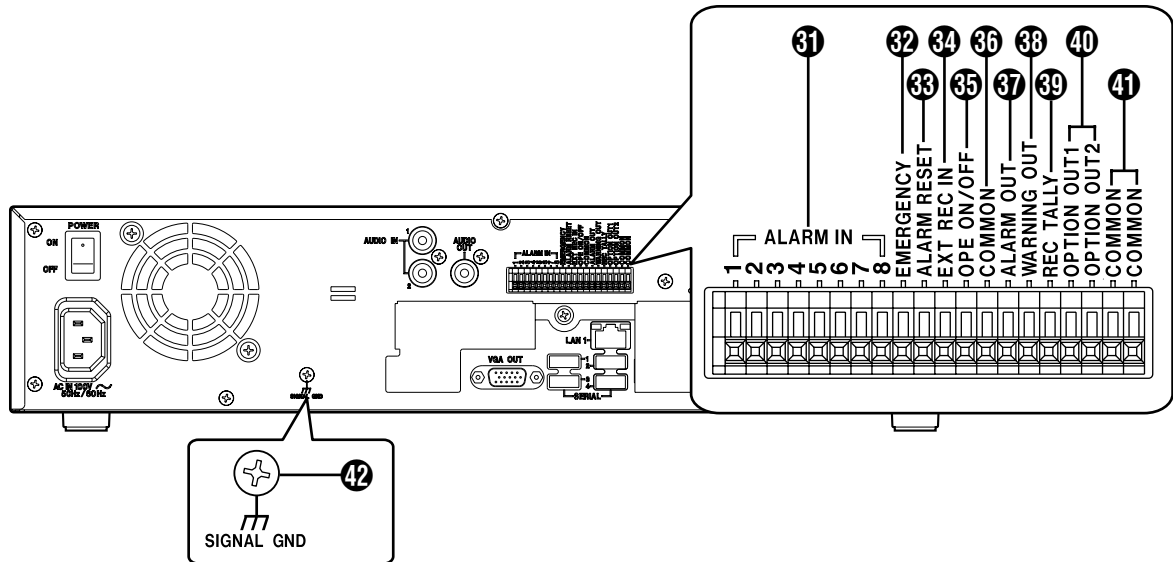
30 信号入出力端子

外部アラームの信号や、外部機器からの信号を受け本機を動作させたり、また信号を出力することにより外部機器を動作させたりします。

メモ: _____

- 適合線径 AWG22 ~ 28

背面入出力端子



■ 入力ポート

③① [ALARM IN1 ~ 8] アラーム入力端子 1 ~ 8

信号がこの端子に入力されるタイミングでアラーム記録を開始させます。

③② [EMERGENCY] エマージェンシー入力端子

信号がこの端子に入力されると、全カメラの記録を開始します。

③③ [ALARM RESET] アラームリセット入力端子

ALARM OUT 信号を出力中に信号が入力されたとき、ALARM OUT 出力を停止させます。

本体の [アラーム] 表示灯 ⑥ を消灯します。長押しすると、本体の [ワーニング] 表示灯 ⑥ を消灯します。

③④ [EXT REC IN] 外部記録入力端子

外部からの信号で全カメラ記録を開始、停止します。ただし、映像信号が入力されていないカメラは記録されません。

③⑤ [OPE ON/OFF] オペレート ON/OFF 端子

信号が入力されると、オペレート ON/OFF が切り換わります。(※ 32 ページ)

ご注意：

- 入力ポート ③①～③⑤ は、メインメニュー表示中は動作しません。メインメニュー表示中にアラームなどが入力されても無視されます。

■ 出力ポート

③⑥ [COMMON] 信号グランド端子

共通のグランド端子です。接続機器の信号グランド端子と接続します。(共通グランド端子が足りなくなった場合にご使用ください。)

③⑦ [ALARM OUT] アラーム出力端子

アラームにより記録を開始したときに信号を出力します。

③⑧ [WARNING OUT] ワーニング出力端子

ハードディスクの動作異常など、エラーが起きたときに信号を出力します。

③⑨ [REC TALLY] 記録状態出力端子

本機の記録状態を出力します。

④① [OPTION OUT1][OPTION OUT2]OPT OUT 出力端子 1/2

イベントを検知したときに信号を出力します。

④② [COMMON] 信号グランド端子

③⑥ と同じです。

④③ [SIGNAL GND] 信号グランド端子

共通のグランド端子です。接続機器の信号グランド端子と接続します。

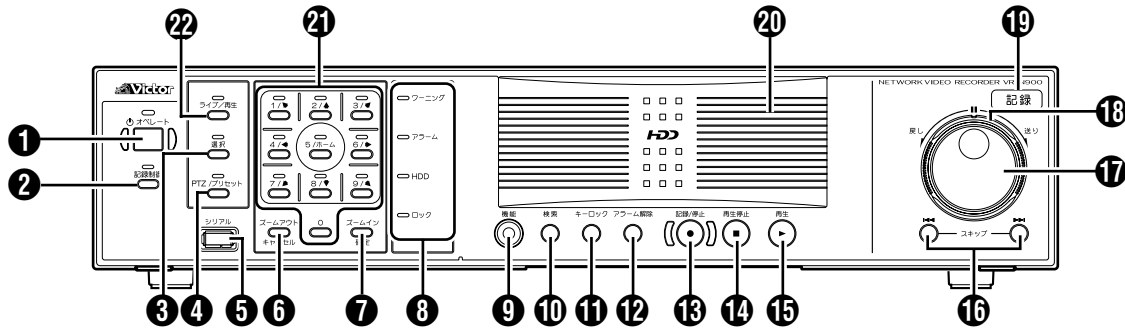
共通グランド端子が足りなくなった場合にご使用ください。

メモ：

- 安全アースとして使用しないでください。

各部の名称とはたらき (VR-N900)

前面



① [オペレート] ボタン・表示灯

オペレート ON/OFF を切り換えます。ボタンを押すと“ON”、長押しすると“OFF”となり、起動処理中および終了処理中は表示灯が点滅します。

② [記録制御] ボタン・表示灯

記録制御モードの ON/OFF を切り換えます。記録制御モード時は表示灯が点灯します。

[機能] ボタンを押しながら [記録制御] ボタンを押すと、メインメニューが表示されます。

メモ:

- 記録制御モード時および記録中は、メインメニューを表示させることはできません。
- 記録制御モードは、カメラ記録設定に従って記録されるモードです。(☞ 55 ページ)

③ [選択] ボタン・表示灯

テンキー ④ をカメラ選択モードに設定します。カメラ選択モード時は、表示灯が点灯します。(☞ 38 ページ)

④ [PTZ/プリセット] ボタン・表示灯

テンキー ④ の PTZ/プリセットモードを切り換えます。ボタンを押すたびに両モードが切り換わります。PTZ モード時は表示灯が点灯し、プリセットモード時は表示灯が点滅します。

⑤ [シリアル] 端子

マウス (別売)、フラッシュメモリー (別売)、または UPS (別売) の通信制御端子と接続します。

メモ:

- 増設用ハードディスクは背面の [SERIAL 1~4] 端子に接続してください。(☞ 14 ページ)

ご注意:

- 使用しない場合は、付属のシリアル端子カバーを付けてください。
- 静電気により誤動作する場合があります。あらかじめ静電気を除去したあとに作業を行なってください。

⑥ [ズームアウト/キャンセル] ボタン

PTZ モード時はズームアウト (☞ 37 ページ)、プリセットモード時はビューを選択します。

メインメニュー画面では選択をキャンセルします。また [機能] ボタンを押しながら [ズームアウト/キャンセル] ボタンを押すと、VGA 出力の解像度切り換えができます。

⑦ [ズームイン/確定] ボタン

PTZ モード時はズームイン (☞ 37 ページ)、プリセットモード時はビューを選択します。

メインメニュー画面では選択を確定します。また [機能] ボタンを押しながら [ズームイン/確定] ボタンを押すと、VGA 出力の解像度切り換えができます。ソフトウェアキーボード表示中は、マウスのクリック動作を行うことができます。(☞ 29 ページ)

⑧ 状態表示灯

■ [ワーニング] 表示灯

エラーなどが発生すると、点灯します。(☞ 152 ページ)
[アラーム解除] ボタンを長押しすると、消灯します。

■ [アラーム] 表示灯

アラーム発生時に点灯します。
[アラーム解除] ボタンを押すと、消灯します。

■ [HDD] 表示灯

内蔵 HDD アクセス時に点灯します。

■ [ロック] 表示灯

オペレーションロック中に点灯します。(☞ 22 ページ)

⑨ [機能] ボタン

このボタンを押しながら、他のボタンを押すことで、それぞれの機能が利用できます。

『特殊なキー操作について』(☞ 136 ページ)

⑩ [検索] ボタン

再生モード時に日時検索入力画面を表示します。
(☞ 42 ページ)

11 [キーロック] ボタン

[機能] ボタンを押しながら [キーロック] ボタンを押すと、フロントパネルのキー操作が無効となります。(キーロックモード) 解除する場合は、再度同じ操作をしてください。“ソフトウェアキーボード”を表示/非表示させるときに押します。

メモ:

- ソフトウェアキーボードは、文字を入力するために使います。(☞ 28 ページ)

12 [アラーム解除] ボタン

イベント発生時やモーション検知時の [アラーム] 表示を解除します。長押しすると、[ワーニング] 表示灯が消灯します。

13 [記録/停止] ボタン

このボタンを押すことで、全カメラの記録を開始します。(記録制御モード中は、記録制御モード解除後全カメラの記録を開始します。) 記録を停止するときには、このボタンを長押しします。

また、記録制御モード中に長押しすると、記録制御モードが解除されます。

メモ:

- 映像信号が入力されていないカメラは記録されません。
- 強制記録モードは、カメラ記録設定にかかわらず全カメラを記録するモードです。カメラ記録設定で設定する画像保存のフレームレートで記録されます。(☞ 58 ページ)

14 [再生停止] ボタン

再生モード時に再生を停止します。

15 [再生] ボタン

再生モード時、シャトル角度に応じた再生を行います。

16 [スキップ] ボタン

■ [◀◀]

メニュー画面や設定画面で、選択されている項目を逆方向へ移動させるときに押します。再生モード時、選択カメラの1つ前のシーケンスの先頭へ移動します。長押しで選択カメラのデータベースの先頭画像へ移動します。

■ [▶▶]

メニュー画面や設定画面で、選択されている項目を順方向へ移動させるときに押します。再生モード時、選択カメラの次のシーケンスの先頭へ移動します。長押しで選択カメラのデータベースの最後の画像へ移動します。

メモ:

- シーケンスはイベント、モーション検出で記録される記録画像のまとめりです。
- 記録画像はデータベースとして保存されます。本機では記録データをデータベースと呼んでいます。

17 ジョグダイヤル

再生モード時、コマ送りをします。

18 シャトルダイヤル

再生モード時、再生スピードと再生方向を設定します。角度に応じて 1/20, 1/5, 1, 2, 5, 10, 20 倍速が設定できます。

19 [記録] 表示灯

記録中に、点灯します。また、エマージェンシー記録、EXT REC IN 記録中は点滅します。

20 センターパネル

取りはずさないでください。

21 テンキー・表示灯

[0] ~ [9]

ライブ映像を見たり、記録画像を再生するときには、表示するカメラ入力を選びます。

カメラ選択モード時は選んだカメラ入力に対応する表示灯が点灯します。

PTZ モード時はカメラを所定の位置の方へ移動し、プリセットモード時はプリセット番号を入力し、検索モード時は検索したい日付、月、週、時刻などを絞り込む際に使用します。ソフトウェアキーボード表示中は、マウスカーソルを移動することができます。メインメニュー表示中は、[2/↑] ボタン・[8/↓] ボタンで項目を移動できます。また、数値入力時のテンキーとして使用します。

22 [ライブ/再生] ボタン・表示灯

[ライブ映像表示] モード、[再生] モードを切り換えます。

[ライブ映像表示] モード時は表示灯が点灯します。

壁紙画面で [ライブ/再生] ボタンを押すと、[ライブ映像表示] 画面が表示されます。

[機能] ボタンを押しながら [ライブ/再生] ボタンを長押しすると、システムをログオフします。

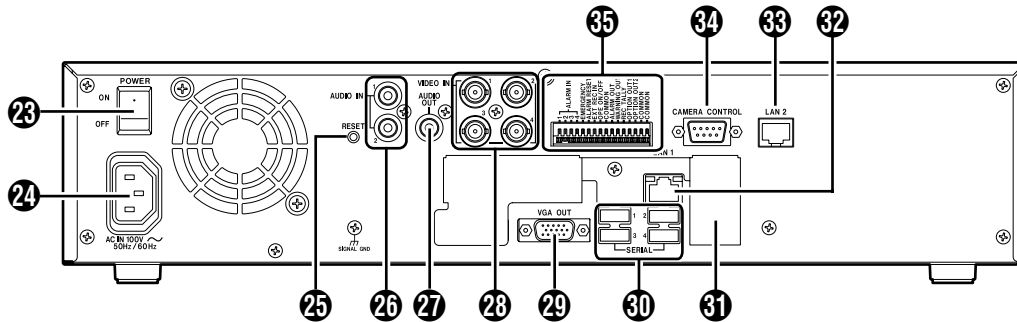
[機能] ボタン、[アラーム解除] ボタン、[選択] ボタンを同時に押しすると、NVR Viewer と本体内部の配信サーバーを再起動します。

メモ:

- [オートログオン] が設定されている場合は、ログオフ後すぐにログオン動作が始まります。(☞ 71 ページ『ユニット設定』)

各部の名称とはたらき (VR-N900) (つづき)

背面



23 電源スイッチ

電源を入/切します。

- メモ： _____
- 電源を切る場合は、必ず前面のオペレートボタンを長押ししてオペレート OFF 状態にしてください。

24 [AC IN 100V \sim 50Hz/60Hz] 電源入力端子

付属の電源コードで AC100V のコンセントに接続します。

25 [RESET] ボタン

システムをリセットします。万一システムが異常動作になったときのために用意されています。

- ご注意： _____
- 通常は押さないでください。

26 [AUDIO IN 1/AUDIO IN 2] 音声入力端子 1・2 (RCA)

音声記録したい機器の音声出力端子と接続します。

27 [AUDIO OUT] 音声出力端子 (RCA)

ライブ映像表示のときは、ライブ音声を出力します。再生中は、記録されている音声を出力します。

- メモ： _____
- 静止画再生時、x1 以外のサーチ時、コマ送り再生時は、音声出力されません。

28 [VIDEO IN1 ~ 4] カメラ映像信号入力端子 1 ~ 4

アナログカメラ (別売) の映像出力端子と接続します。

29 [VGA OUT]VGA 出力端子

ライブ映像、記録画像やメニュー画面を出力します。

30 [SERIAL 1 ~ 4] シリアル端子 1 ~ 4

マウス (別売)、フラッシュメモリ (別売)、増設用ハードディスク (別売)、または UPS (別売) の通信制御端子と接続します。

31 コネクターカバー

- メモ： _____
- 取りはずさないでください。

32 [LAN1]LAN1 接続端子 (カメラネットワーク)

LAN ケーブルでネットワークカメラ (別売) のネットワークに接続します。

	色	状態	
左側 表示灯		消灯	ネットワークに接続していないか、10Mbit/秒のネットワークに接続しています。
	緑色	点灯	100Mbit/秒のネットワークに接続しています。
	オレンジ色	点灯	1Gbit/秒のネットワークに接続しています。
右側 表示灯	オレンジ色	消灯	通信していません。
		点滅	通信中です。

33 [LAN2]LAN2 接続端子 (イントラネットワーク)

LAN ケーブルでリモートパソコンのネットワークに接続します。

	色	状態	
左側 表示灯	緑色	消灯	ネットワークに接続していません。
		点滅	ネットワークに接続しています。
右側 表示灯	緑色	消灯	通信していません。
		点滅	通信中です。

34 [CAMERA CONTROL] カメラ制御端子

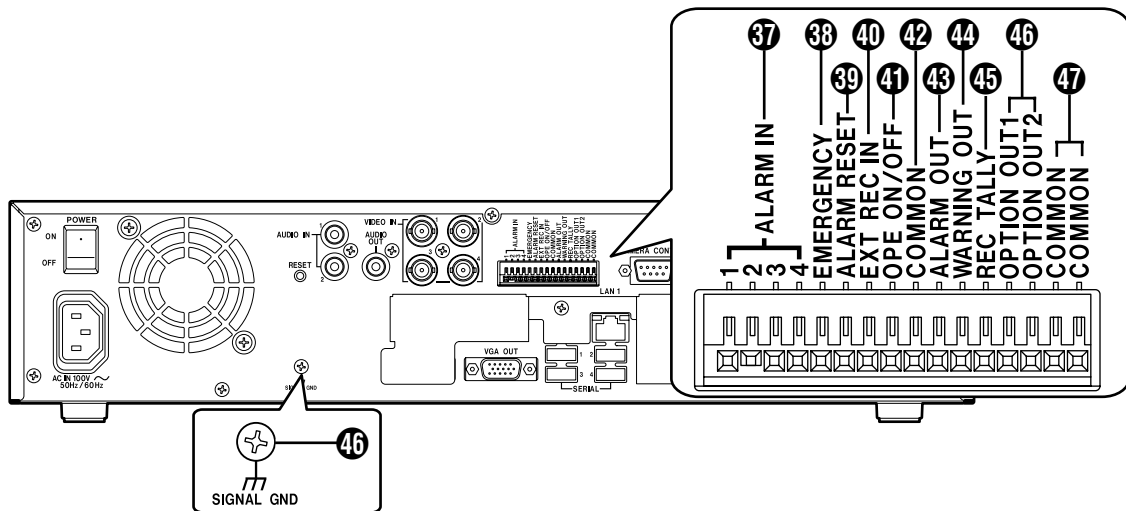
アナログカメラの制御を行います。

35 信号入出力端子

外部アラームの信号や、外部機器からの信号を受け本機を動作させたり、また信号を出力することにより外部機器を動作させたりします。

- メモ： _____
- 適合線径 AWG22 ~ 28

背面入出力端子



■ 入力ポート

③⑥ [ALARM IN1 ~ 4] アラーム入力端子 1 ~ 4

信号がこの端子に入力されるタイミングでアラーム記録を開始させます。

③⑦ [EMERGENCY] エマージェンシー入力端子

信号がこの端子に入力されると、全カメラの記録を開始します。

③⑧ [ALARM RESET] アラームリセット入力端子

ALARM OUT 信号を出力中に信号が入力されたとき、ALARM OUT 出力を停止させます。

本体の [アラーム] 表示灯 ⑧ を消灯します。長押しすると、本体の [ワーニング] 表示灯 ⑧ を消灯します。

③⑨ [EXT REC IN] 外部記録入力端子

外部からの信号で全カメラ記録を開始、停止します。ただし、映像信号が入力されていないカメラは記録されません。

④⑩ [OPE ON/OFF] オペレート ON/OFF 端子

信号が入力されると、オペレート ON/OFF が切り換わります。(☞ 32 ページ)

ご注意：

- 入力ポート ③⑥～④⑩ は、メインメニュー表示中は動作しません。メインメニュー表示中にアラームなどが入力されても無視されます。

■ 出力ポート

④① [COMMON] 信号グランド端子

共通のグランド端子です。接続機器の信号グランド端子と接続します。(共通グランド端子が足りなくなった場合にご使用ください。)

④② [ALARM OUT] アラーム出力端子

アラームにより記録を開始したときに信号を出力します。

④③ [WARNING OUT] ワーニング出力端子

ハードディスクの動作異常など、エラーが起きたときに信号を出力します。

④④ [REC TALLY] 記録状態出力端子

本機の記録状態を出力します。

④⑤ [OPTION OUT1][OPTION OUT2]OPT OUT 出力端子 1/2

イベントを検知したときに信号を出力します。

④⑥ [COMMON] 信号グランド端子

③⑥ と同じです。

④⑦ [SIGNAL GND] 信号グランド端子

共通のグランド端子です。接続機器の信号グランド端子と接続します。

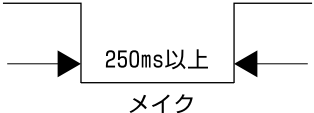
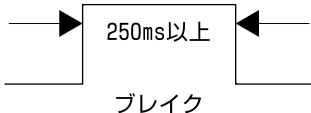
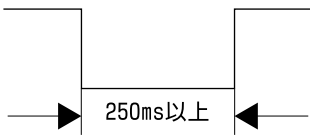
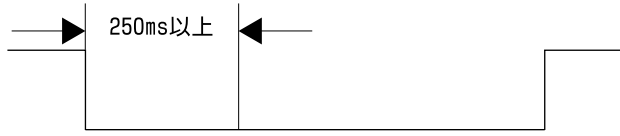
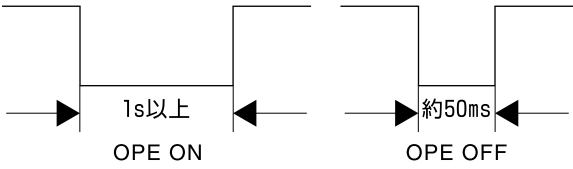
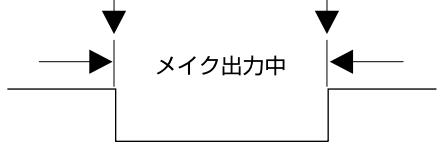
共通グランド端子が足りなくなった場合にご使用ください。

メモ：

- 安全アースとして使用しないでください。

背面の端子について

背面入力端子

端子		備考
[ALARM IN]	<p>● 入力イベント名： Alarm IN 1~8 Falling (VR-N1600) Alarm IN 1~4 Falling (VR-N900)</p>  <p>250ms以上 メイク</p> <p>● 入力イベント名 Alarm IN 1~8 Rising (VR-N1600) Alarm IN 1~4 Rising (VR-N900)</p>  <p>250ms以上 ブレイク</p> <p>メモ： ● 出力側のインピーダンスは 10kΩ 以下にしてください。</p>	メイク接点入力
[EMERGENCY] [ALARM RESET]	 <p>250ms以上</p> <p>メモ： ● 出力側のインピーダンスは 10kΩ 以下にしてください。</p>	メイク接点入力
[EXT REC IN]	 <p>250ms以上</p> <p>メモ： ● 出力側のインピーダンスは 10kΩ 以下にしてください。</p>	メイク接点入力
[OPE ON/OFF]	 <p>1s以上 OPE ON</p> <p>約50ms OPE OFF</p> <p>メモ： ● 出力側のインピーダンスは 10kΩ 以下にしてください。</p>	メイク接点入力
[REC TALLY] [ALARM OUT] [WARNING OUT] [OPTION OUT1] [OPTION OUT2]	<p>● 出力イベント名 Set output Option Out 1, 2 high</p> <p>● 出力イベント名 Set output Option Out 1, 2 low</p>  <p>メイク出力中</p> <p>(外部プルアップレベル) 各出力端子と COM 端子でメイク接点を構成します。本機の電源を切ると、各出力端子出力はブレイクになります。</p>	オープンコレクタ出力 (DC15V, 10mA 以下)

カメラ制御端子 (VR-N900)

接続ケーブルは下図を参考にしてください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。


信号名	ピン番号
RX+	1
RX-	2
TX-	3
TX+	4
GND	5
NC	6
NC	7
NC	8
NC	9

(D-sub 9ピン、オス)

VR-N1600 と VR-N900 の操作の違いについて

VR-N1600 と VR-N900 では、操作ボタンの名称や操作方法が違う場合がありますが、下記のルールで表記します。

■ 操作ボタンの名称が違う場合

- ① [VR-N1600 のボタン名] (VR-N900 のボタン名) で表記
- ② 文末に  印を入れる

① [16/確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す  ②

■ 操作の内容が違う場合

それぞれの動作を表記し、文末に機種名をいれる

ラックに取り付ける

付属のラックマウント金具を使用し、本機を EIA ラックに取り付けます。ラックへの取り付けは専門業者または販売店にご依頼ください。

1 ねじ①でラックマウント金具を取り付ける

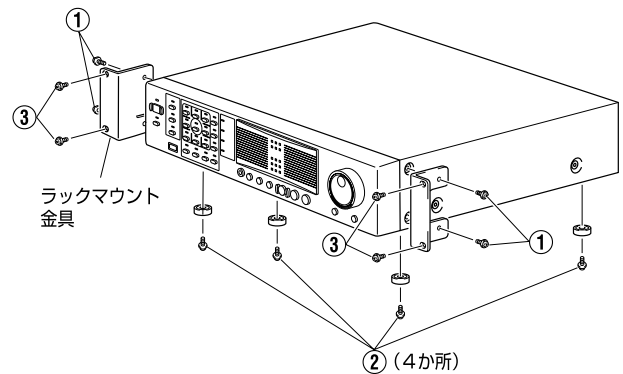
- 付属のねじ (M4x10mm) 4本で本機の両側に固定します。

2 底面の足 (4か所) のねじ②をはずす

- 足を取ります。

3 ねじ③でラックに取り付ける

- 付属のねじ (M5x11mm) 4本でラックに固定します。



ご注意:

- ラックに取り付けた本機の上に、物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがや破損の原因になることがあります。
- 本機を2台以上ラックに取り付ける場合、必ず1ユニット以上離して取り付けてください。
- 取りはずしたフットを再度取り付ける場合、必ず同じねじ (M3 x 6 mm) を使用してください。これより長いねじを使用すると故障の原因となります。

オペレーションロック

本機には、誤ってオペレート OFF してしまったり、いたずらにより記録されてしまうなどを、未然に防止するオペレーションロック機能があります。

オペレーションロックする

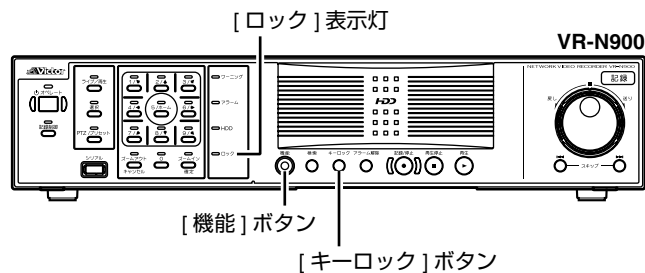
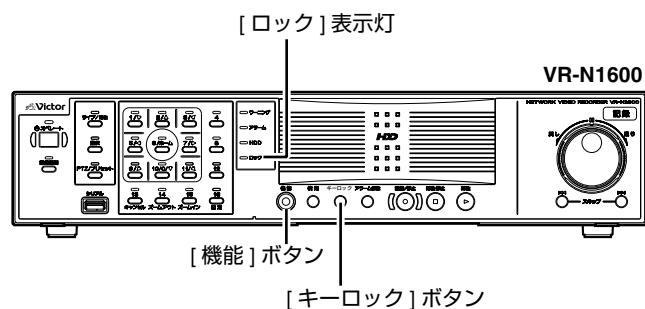
1 [機能] ボタンを押しながら [キーロック] ボタンを押す

- オペレーションがロックされます。オペレーションロックモード時、[ロック] 表示灯が点灯します。

オペレーションロックを解除する

1 (オペレーションロック時に) [機能] ボタンを押しながら [キーロック] ボタンを押す

- オペレーションロックが解除されます。
- [ロック] 表示灯が消灯します。

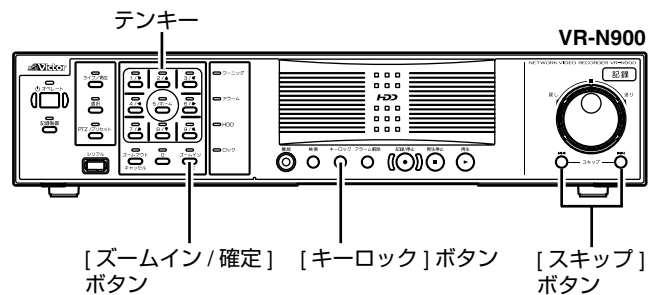
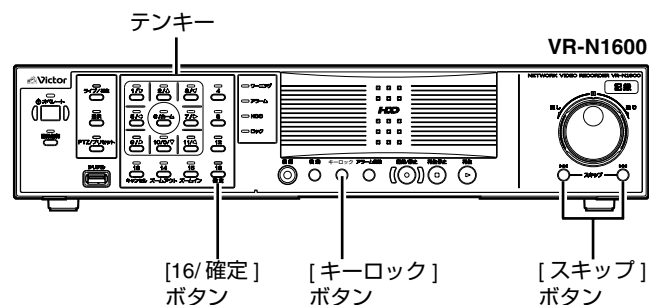


初回起動時について

初めて本機を起動するとき、言語設定、カメラの自動登録を行います。

起動の前に・・・

- ネットワークカメラはあらかじめ IP アドレスを設定しておく必要があります。
- ネットワークカメラの設定につきましては、ご使用のカメラの [取扱説明書] をご覧ください。
- 初期状態では本機の LAN1 側 IP アドレスは 192.168.0.253、サブネットマスクは 255.255.255.0 です。
- ネットワークカメラの IP アドレスは本機の LAN1 と同じセグメントに設定しておく必要があります。



本機を起動する

1 背面の電源スイッチを ON にする

- 本機が起動します。

言語を選択する

初めて本機が起動すると、[言語設定]画面が表示されます。使用する言語を以下の手順で選びます。



1 使用する言語を選ぶ

- 言語選択には、テンキーの [2/↑] または [10/0/↓](8/↓) ボタンを使います。🔥

2 [スキップ] ボタンで [OK] を選び、[16/ 確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す 🔥

- 設定によっては、“システムを設定中です” と表示され、システムが再起動します。

メモ： _____

- [OK] を選ぶと、[OK] の文字が茶色からオレンジ色に変わります。

カメラを自動登録する

始めて本機を起動して、言語選択が終了すると、[自動検出]画面が表示されます。

1 [自動検出] が選択されているのを確認して、[16/ 確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す 🔥

- “しばらくお待ちください。” と表示されます。

メモ： _____

- 選択されている項目は、文字がオレンジ色になります。



メモ： _____

- VR-N900 の場合、アナログ入力が “192.168.201.12” の “Analog-In” のネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) として最初から [自動検出] 画面に表示されています。

2 カメラが検出されたことを確認する

- メッセージが消えると、検出されたカメラがリストに表示されます。
- 全てのカメラが検出されない場合は、再度 [自動検出] ボタンを押してください。それでも検出されない場合は、カメラとの接続、カメラの IP アドレスを確認してください。



3 検出されたカメラの順番を入れ換える

- [スキップ] ボタンでソートボタンを選び、[16/ 確定] (ズームイン/確定) ボタンを押すと、検出されたカメラの順番をソートすることができます。🔥
- ソートボタンには、[IP] ソート、[MAC] ソート、[CH] ソート、[MAKER] ソート、[MODEL] ソートがあります。
- [スキップ] ボタンでリストを選び [2/↑]、[10/0/↓](8/↓) でカメラを選んだ後、[スキップ] ボタンで [上へ]、[下へ] を選び [16/ 確定] (ズームイン/確定) ボタンを押すと、カメラの順番が入れ換わります。🔥
- 使用しないカメラの場合はチェックをはずしてください。

ご注意： _____

- Analog-In のチェックははずさないでください。(VR-N900)

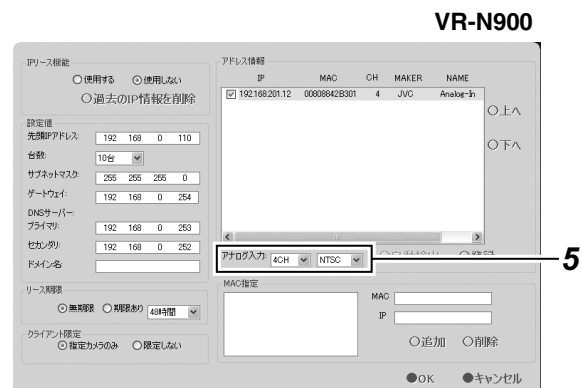
メモ： _____

- リスト順の上位にあるカメラが優先的に使用され、上から順にカメラ番号が登録されます。

4 [スキップ] ボタンで [登録] を選び、[16/ 確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す 🔥

- 自動検出されたカメラがシステムに登録されます。

5 使用するアナログ入力のチャンネル数と信号フォーマットを選択する (VR-N900)



5

初回起動時について (つづき)

カメラを自動登録する (つづき)

6 [スキップ]ボタンで[OK]を選び、[16/確定](ズームイン/確定)ボタンを押す

- [デバイスの設定]画面が表示されます。



7 ネットワークカメラに設定したパスワードを入力する

- [キーロック]ボタンを押し、ソフトウェアキーボードを表示させます。(p. 29 ページ)
- テンキーを使って、ソフトウェアキーボードのキーの上にマウスカーソルを動かします。
- [16/確定](ズームイン/確定)ボタンを押すと、キーボードの文字がパスワード欄に入力されます。

8 パスワード入力が終了したら、再度[キーロック]ボタンを押して、ソフトウェアキーボードを終了する

9 [スキップ]ボタンで[OK]を選び、[16/確定](ズームイン/確定)を押す

10 検出されたカメラごとに、手順5～7を繰り返す

- [カメラ記録設定]画面が表示されます。



11 全カメラの表示レートの合計が 80ips (VR-N1600)/60ips (VR-N900) 以下になるよう、各カメラの表示レートを設定する

- 表示レート初期値は、8ips に設定されています。11 台以上のカメラが自動検出されると、最大表示性能の 80ips を超えてしまいます。その場合、下記手順で、各カメラの表示レートを調整する必要があります。(VR-N1600)
- 表示レート初期値は、8ips に設定されています。8 台以上のカメラが自動検出されると、最大表示性能の 60ips を超えてしまいます。その場合、下記手順で、各カメラの表示レートを調整する必要があります。(VR-N900)

ご注意:

- 全カメラの表示レートの合計が 80ips (VR-N1600)/60ips (VR-N900) を超えると、記録レートが落ちることがあります。

① [スキップ]ボタンを押してデバイスマネージャーを選択する

- 一番上のデバイスが選択されます。



② [2/↑]、[10/0/↓](8/↓) ボタンでデバイスを選択する



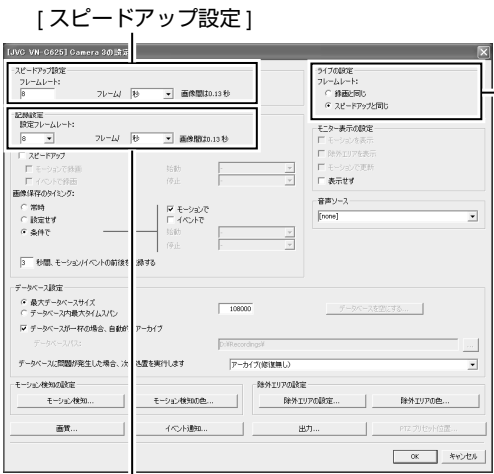
③ [7/→](5/→) ボタンでカメラを表示させる



④ [10/0/↓](8/↓) ボタンでカメラを選択する



⑤ [スキップ] ボタンで [カメラ設定...] を選び、[16/確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す
● [カメラ設定] 画面が表示されます。



[記録設定]

[ライブの設定]

- ⑥ ライブの表示レートを設定する
- ライブの表示レートは、[ライブの設定] で、“録画と同じ” または “スピードアップと同じ” を選択します。
 - “スピードアップと同じ” を選択した場合、[スピードアップ設定] で設定した [フレームレート] がライブ画像の表示レートとなります。
 - “録画と同じ” を選択した場合、[記録設定] で設定した [設定フレームレート] がライブ画像の表示レートとなります。

- メモ：
- 項目の移動は [スキップ] で行います。
 - 設定項目の選択は [2/↑]、[10/0/↓] (8/↓) ボタンで行います。
 - 数字を入力する場合は、[選択] ボタンを押して、[選択] 表示灯を点灯させます。数字を入力したら [PTZ/プリセット] ボタンを押して [PTZ/プリセット] 表示灯を点灯させます。

⑦ [スキップ] ボタンで [OK] を選び、[16/確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す

12 カメラごとに手順 10 を繰り返し行う

13 [スキップ] ボタンで [閉じる] を選び、[16/確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す

- 設定が終了し、[ライブ映像表示] 画面が表示されます。
- [記録制御] 表示灯が点灯し、記録制御モードでの記録を開始します

- メモ：
- 記録制御モードにつきましては、『カメラ映像を記録する』(54 ページ) をご覧ください。
 - 少数点の値はソフトウェアキーボードから設定可能です。

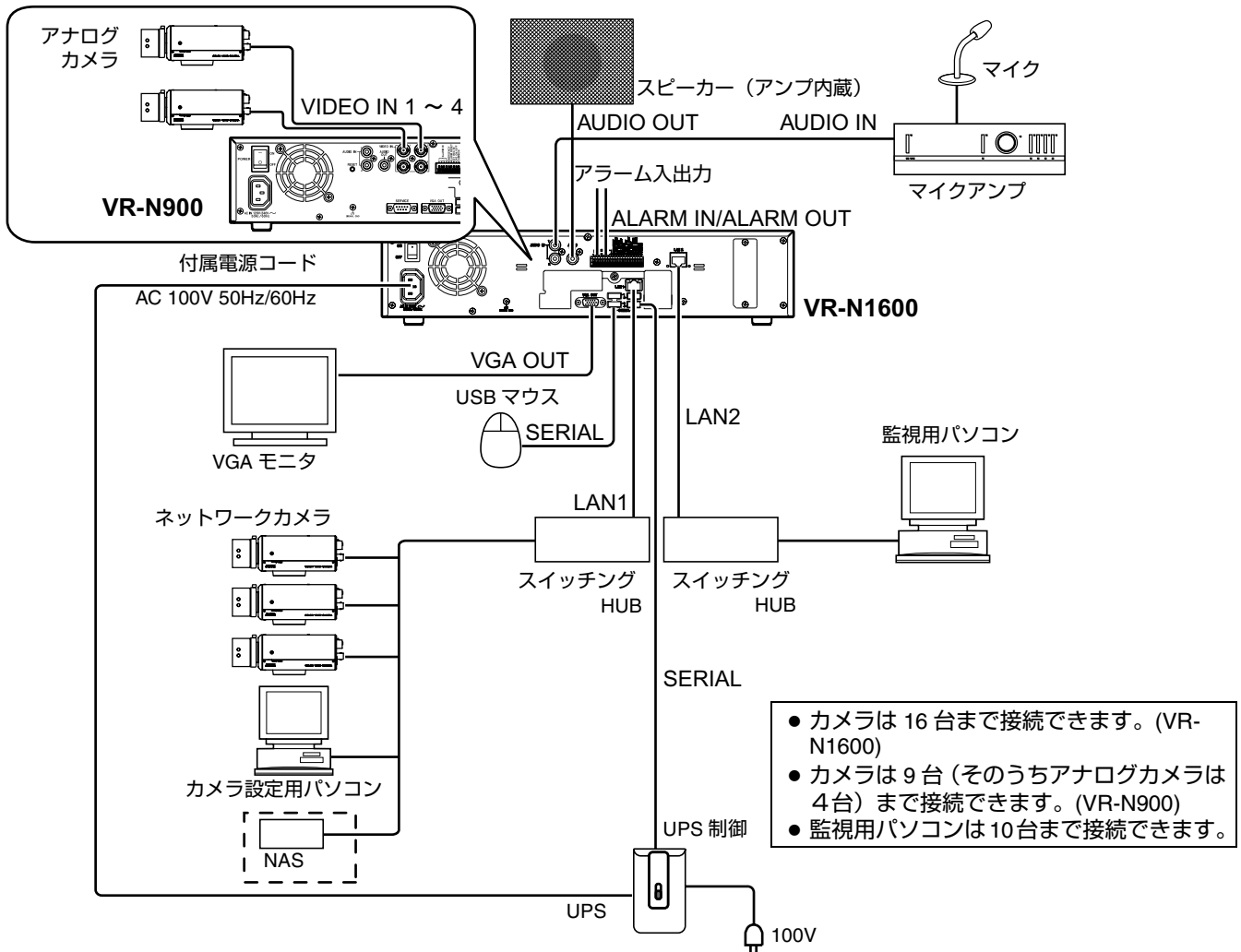


[ライブ映像表示] 画面

システム接続例

このシステムでは次のことが可能です。

- 最大 16 台 (VR-N1600)/9 台 (VR-N900) のカメラを監視 (ライブ、記録、再生)
- VGA モニタで記録画像の確認を行う
- 音声を記録、再生
- 音声を指定カメラへ送信 (VR-N1600)
- アラームによる記録
- パソコンを使用しての遠隔監視



メモ:

- LAN1 はカメラのネットワークに接続してください。
- LAN2 は監視用パソコンのネットワークに接続してください。
- LAN1 のネットワークで、ネットワークカメラの使用するプロトコル、ポート番号については、ネットワークカメラの取扱説明書をご覧ください。
- LAN2 のネットワークで使用するプロトコル、ポート番号は以下の通りです。
 - 監視用パソコン: HTTP 80 番
 - メール送信: SMTP 25 番、POP 110 番
 - 時刻同期: NTP 123 番
- NAS は LAN1 のネットワークに接続してください。
- 時刻サーバーは LAN2 のネットワークに接続してください。

ご注意：

- 接続する際は、全ての機器の電源を“OFF”にしてから接続してください。
- カメラ側のIPアドレスは192.168.0.xxxに設定してください。カメラ側のIPアドレスを192.168.0.xxx以外に設定する場合は、LAN1側のIPアドレスもあわせて変更してください。カメラ側のIPアドレスの変更方法は各カメラの「取扱説明書」をご覧ください。
- LAN1側はインターネットに接続しないでください。インターネットの混雑状況や中継機器などの状況により重要なカメラの映像が保存できなくなる場合があります。記録性能を確保するために専用ネットワークとすることをおすすめします。また、LAN1のカメラネットワークは同一セグメント(NAT、NAPTなどのアドレス変換やルーターを使わない)としてください。
- LAN2側をインターネットに接続して監視用パソコンで使用する場合は、IPマスカレードの設定が必要となります。
- LAN1、LAN2間は通信できません。LAN2に接続された監視用パソコンからLAN1に接続されたカメラを設定することはできません。LAN1に接続されたカメラを設定するには、カメラ設定用のパソコンをLAN1側に接続してください。
- LAN1、LAN2はQoS非対応です。回線の状況により音声正常に再生されない場合があります。
- LAN1側の初期のIPアドレスは、192.168.0.253、LAN2側の初期のIPアドレスは192.168.1.253です。変更する場合は、『OS設定』(p.75ページ)で変更してください。
- VR-N900内部では、アナログ入力をネットワークエンコーダ(IPビデオサーバー)として扱い、そのIPアドレスは192.168.201.12に設定されています。LAN1、LAN2のIPアドレスを変更する場合は、192.168.201.0～192.168.201.255以外のアドレス(違うセグメント)に設定してください。また、LAN1、LAN2についても同じセグメントにならないように設定してください。
- 1台のネットワークカメラを複数のVR-N900/VR-N1600で登録すると、ネットワークカメラによっては正常に記録されない場合があります。またカメラ制御(PTZ制御など)が不安定になる場合があります。1台のカメラは1台のVR-N900/VR-N1600で登録/PTZ操作することをお勧めします。
- 故障したハブやルーター、劣化したネットワークケーブルなどは接続しないようにしてください。システムが正しく動作しないことがあります。
- キーボードの接続は推奨しません。

時計表示について

本機には時計表示機能が搭載されています。
現在時刻を画面上に表示することができます。

1 [機能]ボタンを押しながら、テンキーの[2/↑]ボタンを押す

- 画面左上、パフォーマンスメーターの横に時計が表示されます。

メモ：

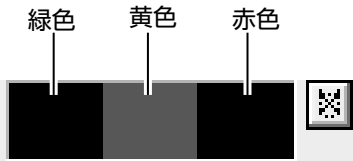
- 時計が表示されている時に、[機能]ボタンを押しながら、テンキーの[2/↑]ボタンを押すと、時計は非表示になります。
- 時計をマウスでドラッグすると、時計の表示位置を移動することができます。

パフォーマンスメーターについて

本機には、パフォーマンスメーターが搭載されており、本機の負荷率をメーターで確認することができます。
負荷率が高くなると、設定されたフレームレートで記録できなくなるなど、正常に動作できない場合があります。

1 [機能] ボタンを押しながら、テンキーの [1/↵] ボタンを押す

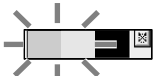
- パフォーマンスメーターが表示されます。



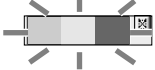
負荷率 5% 以下 灰色表示



負荷率 60% 以下 緑色点灯



負荷率 90% 以下 緑色、黄色点灯



負荷率 90% 超 緑色、黄色、赤色点灯

メモ：

- 本機を起動すると、パフォーマンスメーターは自動的に表示されます。
- パフォーマンスメーターが表示されている時に、[機能] ボタンを押しながら、テンキーの [1/↵] ボタンを押すと、パフォーマンスメーターは非表示になります。
- パフォーマンスメーターをマウスでドラッグすると、パフォーマンスメーターの表示位置を移動することができます。

ご注意：

- パフォーマンスメーターに赤色が表示されていない状態でお使いください。

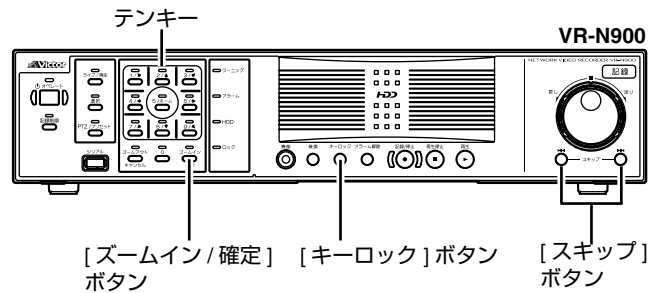
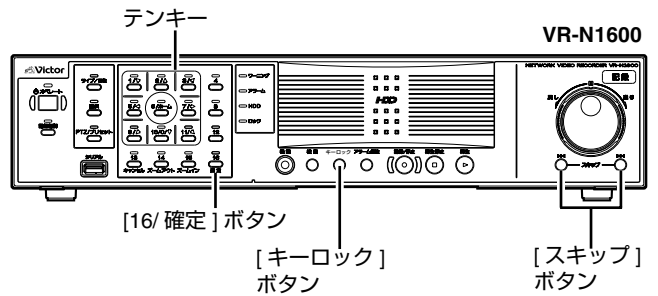
文字の入力・マウスポインターについて

文字の入力やマウスポインターの移動は、下記2通りの方法で操作できます。

- フロントパネルのボタンを使用して操作する。
- マウス（別売）を接続して操作する。

メモ：

- 複雑な設定や、文字を入力する場合は、マウスを接続すると便利です。
- キーボードの接続は推奨しません。

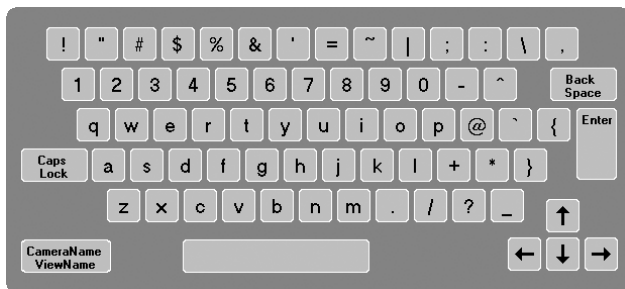


マウスを使って文字を入力する（マウスを使用する場合）

マウスを使って文字を入力する場合は、ソフトウェアキーボードを使います。

1 フロントパネルの [キーロック] ボタンを押す

- ソフトウェアキーボードが表示されます。
- もう一度 [キーロック] ボタンを押すと、ソフトウェアキーボードは非表示になります。



ソフトウェアキーボード

2 マウスポインタをソフトウェアキーボードの入力したい文字の上に移動させる

3 ソフトウェアキーボードの入力したい文字の上でマウスをクリックする

ご注意： _____

- ソフトウェアキーボードが表示されているときは [16/ 確定] (ズームイン/ 確定) ボタンはマウスのクリック動作となります。 🚫

フロントパネルからマウスポインタを操作する（マウス（別売）を接続しない場合）

マウスを接続していない場合、フロントパネルからマウスポインタを操作できます。

1 [キーロック] ボタンを押す

- ソフトウェアキーボードが表示されます。
- もう一度 [キーロック] ボタンを押すと、ソフトウェアキーボードは終了します。

2 テンキー（矢印キー）でマウスポインタを移動させる

- [16/ 確定] (ズームイン/ 確定) ボタンを押すと、マウスポインタの位置でマウスをクリックしたことになります。 🚫

メモ： _____

- ソフトウェアキーボードを移動させる場合は、ソフトウェアキーボードのキーボタン以外の部分をマウスでドラッグすると移動できます。
- フロントパネルからドラッグするには、[16/ 確定] (ズームイン/ 確定) ボタンを押しながらテンキーの矢印ボタンを押すと移動できます。 🚫
- ソフトウェアキーボードが表示されているときは、テンキーでマウスポインタを移動することができます。

カメラ名、ビュー名の日本語入力機能について

ソフトウェアキーボードを使って、カメラ名、ビュー名に日本語を入力することができます。

- カメラ名の変更については、『カメラ名変更とカメラ番号の設定』(P.62 ページ)をご覧ください。
- ビュー名の変更については、『グループ/ビュー名を変更する』(P.64 ページ)をご覧ください。

1 [キーロック] ボタンをクリックする

- ソフトウェアキーボードが表示されます。

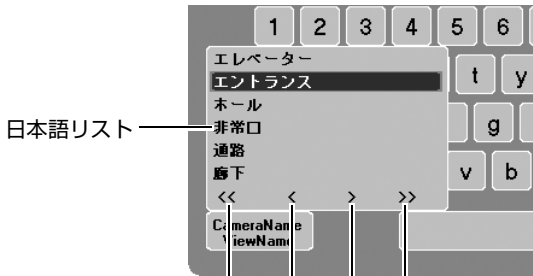


[CameraName ViewName] ボタン

ソフトウェアキーボード

2 [CameraName ViewName] ボタンをクリックする

- 日本語リストが表示されます。



日本語リスト

[<<] [<] [>] [>>] ボタン

日本語リストの各部の動作

[CameraName ViewName] ボタン :

日本語リストを表示・非表示します。
マウスポインタを日本語リストの外に移動することでも、日本語リストを非表示にできます。

日本語リスト :

マウスポインタの部分がハイライトされます。
ハイライトされた項目をマウスでクリックすると入力が確定します。

あらかじめ以下の日本語が登録されています。

- ・カメラ
- ・エレベータ
- ・エントランス
- ・ホール
- ・非常口
- ・通路
- ・廊下
- ・倉庫
- ・階
- ・車庫
- ・出口
- ・入口
- ・風除室
- ・東
- ・西
- ・南
- ・北
- ・上
- ・下
- ・左
- ・右
- ・券売機
- ・両替機
- ・計数機

[<<] :

日本語リストの前の6項目を表示します。

[<] :

日本語リストの前の1項目を表示します。

[>] :

日本語リストの次の1項目を表示します。

[>>] :

日本語リストの次の6項目を表示します。

メモ :

- ユーザ指定の日本語を入力する場合は、パソコンの[メモ帳]で“CameraView.txt”というファイルを作成しUSBメモリに保存します。[CameraView.txt]の内容は、カメラ名、ビュー名で入力する日本語です。複数の日本語を設定する場合は、複数の項目を改行して入力してください。[CameraView.txt]は文字コード[ANSI]で保存してください。



[CameraView.txt]ファイルの入ったUSBメモリを本機のシリアル端子に挿入してからソフトウェアキーボードを表示し、[CameraName ViewName]ボタンをクリックすると[CameraView.txt]の内容が日本語リストに表示されます。

ご注意 :

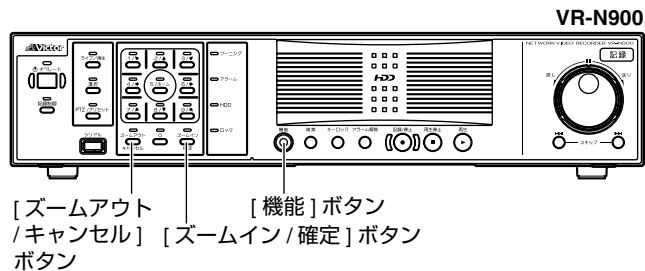
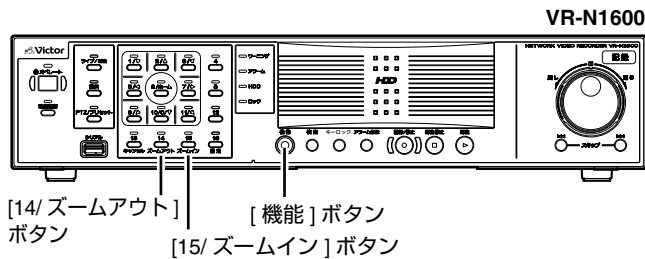
- カメラ名、ビュー名の日本語入力機能は、カメラ名とビュー名の設定以外では使用しないでください。

モニター解像度の変更

下記操作で VGA 出力の解像度を切り換えることができます。

- [機能] ボタンを押しながら [14/ズームアウト] (ズームアウト/キャンセル) ボタンを押す。 
⇒ 押すたびに解像度が大きくなります。
- [機能] ボタンを押しながら [15/ズームイン] (ズームイン/確定) ボタンを押す。
⇒ 押すたびに解像度が小さくなります。 

設定値	: 1024x 768 (初期値)
	1280x 768
	1280x1024
	1600x1200



メモ:

- モニターが対応していない解像度に設定しようとすると、モニターの同期が乱れる場合があります。

設定変更時のご注意

本機の各種設定を変更する場合、誤った操作をすると正常に動作しなくなる場合があります。

- 設定を変更する前に『フラッシュメモリーユーティリティ』 (P.113 ページ) で変更前の状態を保存しておく、変更前の状態に復帰することができます。
- 設定を変更する前に、設定データの保存を行うことをお勧めします。
- モニター解像度によっては、NVR Viewer 左側の下部セクションが操作できないことがあります。このような場合、現在開いている上部セクションのバーをダブルクリックして閉じることで、下部セクションが操作できるようになります。

電源を入れる／切る

電源を入れる

1 電源コードをつなぐ

- 付属の電源コードで AC100V (50Hz/60Hz) のコンセントにつなぎます。

2 背面の電源スイッチを“ON”にする

- 電源が入り、システムチェックが始まります。
- オペレート表示灯が点滅します。
- その後、オペレート表示灯が点灯に変わり、オペレート ON 状態になります。
- 設定が完了している場合は、記録制御モードで自動的に記録動作を開始します。(メインメニューの[ユニット設定]で[記録制御設定]が“起動時に ON”にチェックされている場合。)

ご注意：

- システムチェック中、またはオペレート ON 状態では、電源コードを抜いたり、電源スイッチを“OFF”にしないでください。故障の原因となります。

メモ：

- 背面の電源スイッチを入にしても起動しない場合は、前面のオペレートボタンを押してください。

電源を切る

1 [オペレート] ボタンを約2秒間長押ししてオペレート OFF にする

- オペレート表示灯が点滅後、消灯します。

2 背面の電源スイッチを切る

ご注意：

- 停電が発生した時刻以前のアーカイブ (112 ページ) されていない記録画像は、正常に再生されない場合があります。
- 停電などにそなえて、UPS (無停電電源装置) のご使用をお勧めします。(134 ページ)
- 電源を切る場合は、必ず前面のオペレートボタンを長押しして、オペレート OFF 状態にしてください。オペレート ON の状態で背面の電源スイッチを切ると故障の原因になります。

オペレート ON / OFF の切り換え

前面オペレートボタンで切り換える

オペレート ON とオペレート OFF の切り換えができます。

■ オペレート ON にする

1 (オペレート OFF 状態で) [オペレート] ボタンを押す

- [オペレート] 表示灯が点滅します。
- [オペレート] 表示灯が点灯し、操作が可能になります。

メモ：

- 背面の電源スイッチを入れると、自動的にオペレート ON 状態まで立ち上がります。

■ オペレート OFF にする

1 (オペレート ON 状態で) [オペレート] ボタンを約2秒間長押しする

- [オペレート] 表示灯が点滅します。
- 画面の表示が消え、オペレート OFF 状態になり、[オペレート] 表示灯が消灯します。

ご注意：

- 電源は、オペレート OFF 状態にしてから切ってください。

背面入出力端子で切り換える

背面入出力端子の配置図は、『背面入出力端子』(15 ページ) をご覧ください。

■ オペレート ON にする

1 (オペレート OFF 状態で) [OPE ON/OFF] 端子を約50ms 以上メイクにする

- [オペレート] 表示灯が点滅します。
- [オペレート] 表示灯が点灯し、操作が可能になります。

■ オペレート OFF にする

1 (オペレート ON 状態で) [OPE ON/OFF] 端子を約1秒以上メイクにする

- [オペレート] 表示灯が点滅します。
- 画面の表示が消え、オペレート OFF 状態になり、[オペレート] 表示灯が消灯します。

ご注意：

- 電源は、オペレート OFF 状態にしてから切ってください。

ログオン

[オートログオン]が“オフ”の場合は、オペレート ON 後、ログオン画面が表示されます。(初期設定は“オン”)



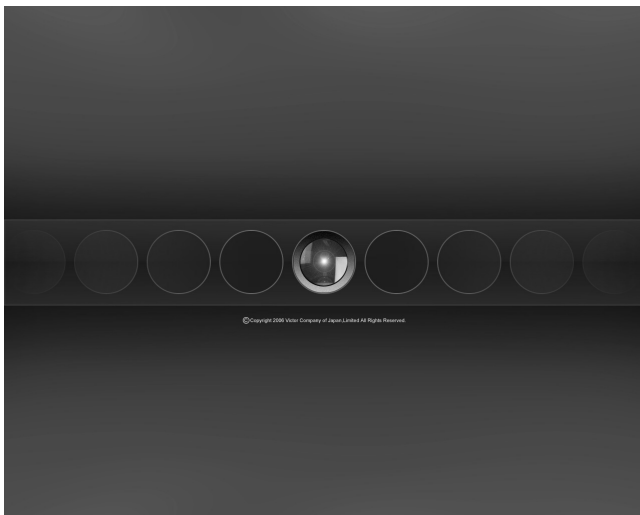
[ログオン]画面

メモ:

- [オートログオン]の[オン]・[オフ]設定は、メインメニューの[ユニット設定]で行います。(P. 71 ページ)

1 テンキーを使ってパスワードを入力し、[16/ 確定] (ズームイン/ 確定) ボタンを押す

- ログオンに成功すると壁紙画面が表示されます。



壁紙画面

- [ライブ映像表示自動スタート]設定が“オン”の場合、ログオンに成功すると [ライブ映像表示] 画面が表示されます。



[ライブ映像表示]画面

メモ:

- [ライブ映像表示自動スタート]の設定は、メインメニューの[ユニット設定]で行います。(P. 71 ページ)

ご注意:

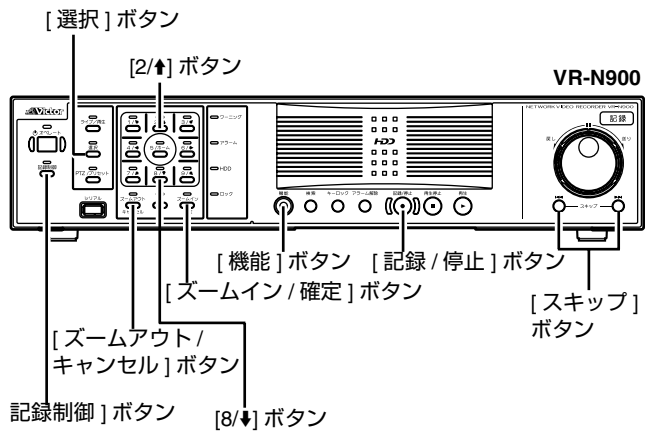
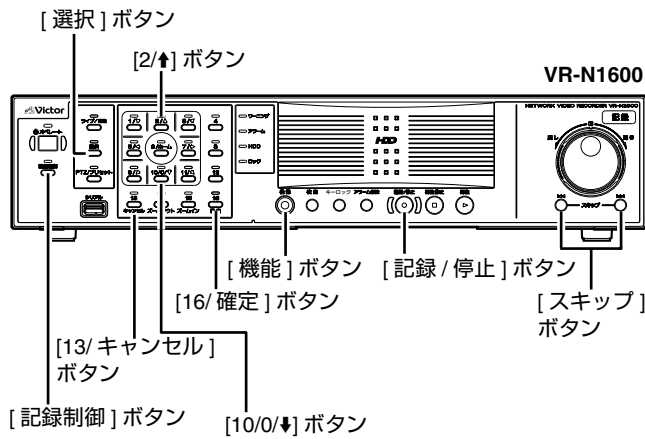
- ログオンしない場合は、本体操作が無効となります。
- ログオンしない場合は、ワーニングメッセージ (P. 152 ページ) が表示されません。この場合、[ワーニング]表示灯は点灯します。

メインメニューを表示する

各種設定を行うメインメニューを表示させます。

ご注意:

- 入力ポートはメインメニュー表示中は動作しません。メインメニュー表示中にアラームなどが入力されても無視されます。
[入力ポート] (P.15 ページ) (VR-N1600)
[入力ポート] (P.19 ページ) (VR-N900)



1 [記録/停止] ボタンを2秒以上押す

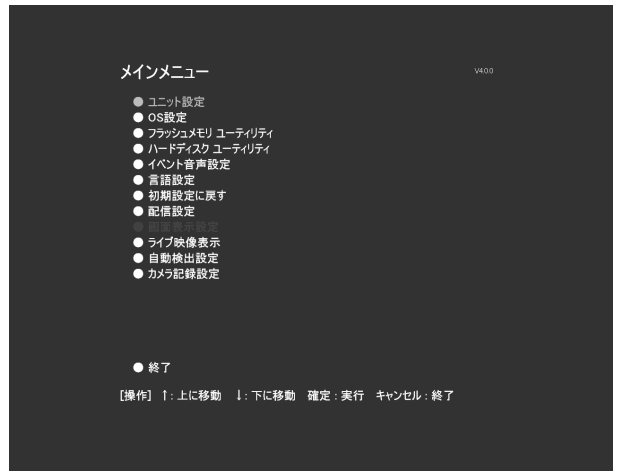
- 記録が停止します。

メモ:

- 記録制御モード中は[記録制御]ボタンを2秒以上押して、記録制御モードを解除し、記録を停止します。
- 記録モードについては『記録の種類について』(P.54 ページ)をご覧ください。

2 [機能] ボタンを押しながら[記録制御]ボタンを押す

- メインメニューが表示されます。
- [2/↑] ボタンまたは[10/0/↓][8/↓] ボタンで各メニュー項目を選択し、[16/確定][ズームイン/確定] ボタンを押してそれぞれの設定画面を表示します。● [スキップ] ボタンでも同様の操作が可能です。



メインメニュー (VR-N1600)



メインメニュー (VR-N900)

3 項目を選択する

- [2/↑] ボタンまたは[10/0/↓][8/↓] ボタンで項目を選び、設定を入力します。●
- 設定を保存するには[16/確定][ズームイン/確定] ボタンを押し、終了してメインメニューに戻るときは[13/キャンセル][ズームアウト/キャンセル] ボタンを押します。●

メモ:

- メインメニューを終了する場合は、[13/キャンセル][ズームアウト/キャンセル] ボタンを押してください。●

ご注意:

- NVR Viewer 起動中にメインメニュー表示操作を行なった場合、まれに NVR Viewer が表示されることがあります。この場合、フロントパネルの[ライブ/再生] ボタンを押した後に、再度メインメニューの表示操作を行なってください。

- メインメニューの設定など、詳細につきましては、[メインメニュー] (P.70 ページ) をご覧ください。

NVR Viewer について

- NVR Viewer を使って、ライブ映像や再生映像を見ることができます。
- パソコンから本機を遠隔監視する場合も、NVR Viewer を使います。(P. 127 ページ)
- パソコンから遠隔監視する場合、NVR Viewer の機能は一部異なります。



NVR Viewer[ライブ映像表示]画面

メモ：

- NVR ViewerはVR-N900/VR-N1600内部の配信サーバーへログインして動作しています。
- 内蔵の NVR Viewer では本機自身の配信サーバー (http://localhost または http://127.0.0.1) へログインしています。初期状態では本機自身への自動ログインが設定されています。ログインの方法につきましては『パソコンと接続する』(P. 122 ページ) をご覧ください。
- 監視用パソコンが最大クライアント数接続されている場合は、NVR Viewer はログインできません。

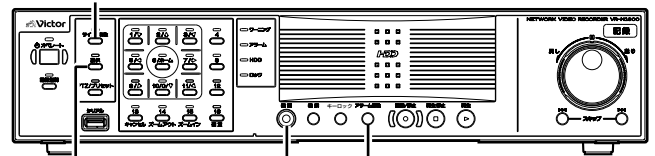
ご注意：

- メインメニューの[カメラ記録設定]の各設定画面で設定を変更した場合は、NVR Viewer をログアウトしてから、再度ログインし直してください。(P. 127 ページ)
- 初期状態では[サーバーに接続]画面で[接続]ボタンをクリックすると、ログインできます。設定を変更している場合は、『NVR Viewer にログインする』手順 2 以降の説明 (P. 126 ページ) をご覧ください。
- 下記のような状態となった場合でも、NVR Viewer を再起動することで復帰可能な場合があります。
 - ライブ映像や再生映像が真っ黒になっている。
 - NVR Viewer の動作が遅い。
 - NVR Viewer が応答しない。

ご注意：

- NVR Viewer の再起動は下記操作で行えます。このとき、VR-N900/VR-N1600 内部の配信サーバーも再起動します。
 - [機能]ボタンを押しながら[ライブ/再生]ボタンを押す。(VR-N1600)
 - [機能]ボタン、[アラーム解除]ボタン、[選択]ボタンを同時に押す。(VR-N900)

[ライブ/再生]ボタン

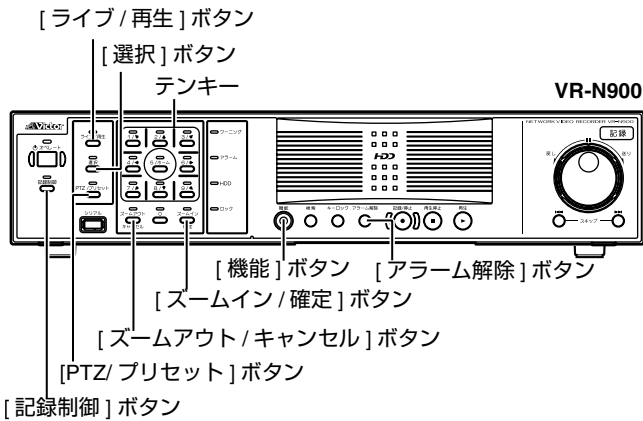
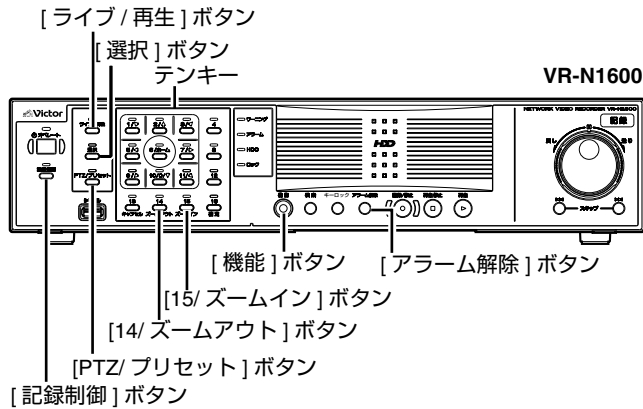


[選択]ボタン [機能]ボタン [アラーム解除]ボタン

- NVR Viewer では、映像と音声がずれて再生される場合があります。
- Eメールを設定した場合にはテストを行い、Eメールが送信されることを確認してください。(P. 109 ページ)
- 増設ハードディスクを接続している場合、起動に数分かかる場合があります。
- VR-N1600において160fpsを超えるフレームレートでの記録中は、NVR Viewer を起動しないようにしてください。記録のフレームレートが下がる場合があります。

フロントパネル操作でライブ映像を見る

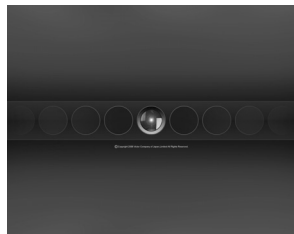
本項目は、本機のフロントパネル操作でライブ映像を見る方法を記載しています。



メモ：
 ● マウス（別売）を接続し操作する場合は、『マウス操作でライブ映像を見る』（P.38 ページ）をご覧ください。

[ライブ映像表示] 画面を表示する

1 壁紙画面 *1 またはメインメニュー *2 が表示されている状態で、[ライブ/再生] ボタンを押す



*1 壁紙画面



*2 メインメニュー画面

- [再生] 画面が表示されている場合は、[ライブ/再生] ボタンを押します。
- ボタンを押すたびに[ライブ映像表示]画面と[再生]画面が切り替わります。



[ライブ映像表示] 画面



[再生] 画面

ビューを選択する

ビューの設定につきましては『画面表示設定』（P.62 ページ）をご覧ください。

1 [PTZ/プリセット] ボタンを押して[PTZ/プリセット] 表示灯を点滅させる

- [PTZ/プリセット] ボタンを押すたびに、[PTZ/プリセット] 表示灯が点灯と点滅に切り替わります。

2 [15/ズームイン](ズームイン/確定)、[14/ズームアウト](ズームアウト/キャンセル) ボタンを押してビューを選択する

ご注意：

- 短時間にビューを頻繁に切り換えないようにしてください。
- VN-C625/VN-C655 でライブ映像が表示されない場合は、カメラ本体と本機に設定されている VN-C625/VN-C655 接続用のパスワードを再設定してください。設定方法は、使用カメラの [取扱説明書] および本書の [デバイス設定] 画面のルートパスワードの設定方法 (P.89 ページ) をご覧ください。
- [設定] 画面から[ライブ]に戻ったときは音声設定が“音声無し”になります。再度選択し直してください。

カメラを選ぶ

見たいカメラの映像を選びます。

1 [選択] ボタンを押す

- [選択] 表示灯が点灯します。

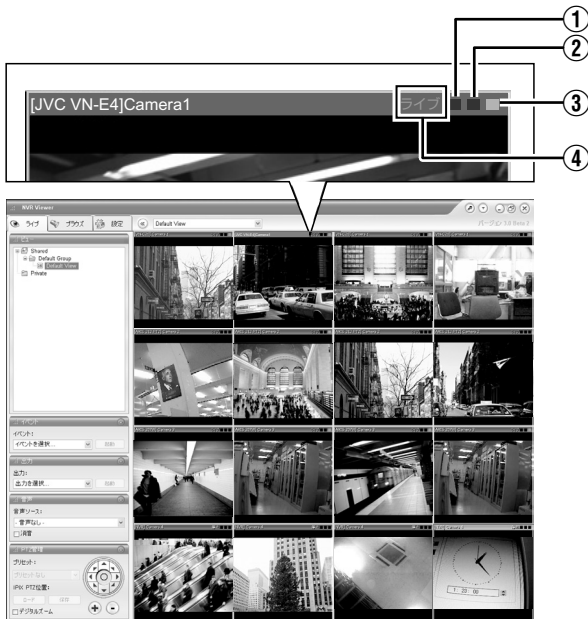
2 テンキーでカメラ番号を入力する

- VR-N1600 の場合 [1]~[16] のテンキーを、VR-N900 の場合 [0]~[9] のテンキーを使用することができます。

メモ：

- 最初に[0]を押してから[0]~[9]を押すと[10]~[19]までのカメラ番号を入力できます。20 以上は選択できません。(VR-N900)

- カメラを選択すると上部青色のバーが明るい青色に変わります。
- バーには次の機能を表示する3色の四角形のインジケータと、カメラの動作状態を示す文字が表示されます。



[ライブ映像表示]画面

メモ： _____

- ① イベントインジケータ（左：黄色）
[カメラ記録設定]で設定したイベントが発生した場合に点灯します。イベントが指定されていない場合、もしくは何もイベントが発生していない場合、インジケータは黒色のままです。
- ② モーションインジケータ（中央：赤色）
モーション（動き）が検知された場合に点灯します。
- ③ オンラインインジケータ（右：緑色）
カメラからの映像を受け取るたびに点滅します。
- ④ カメラの動作状態表示（インジケータの左側の文字）

表示	状態
ライブ（緑色）	記録していない状態でライブ映像を表示しているとき
記録（赤色）	記録しているとき
停止（黄色）	カメラからの映像が取得できないとき、またはカメラがオフラインのとき（ P.55 ページ）

- [アラーム解除] ボタンを押すと、点灯しているイベントインジケータとモーションインジケータを消すことができます。
- バーには、カメラ名とカメラが接続されているデバイス名が表示されています。
- 選択されているカメラと同じ番号を押すと、拡大表示になります。通常表示に戻すには、拡大表示されているカメラと同じ番号を押します。カメラの番号はメインメニューの[カメラ記録設定]画面で確認することもできます。

カメラを操作する

PTZとは、パン、チルト、ズームの略です。PTZ機能対応のカメラを使用している場合は、テンキー、[16/確定]（ズームイン/確定）、[13/キャンセル]（ズームアウト/キャンセル）ボタンを使ってカメラの向きを左右（パン）、上下（チルト）に変えたり、映像を拡大、縮小（ズーム）したりできます。🔥

■ パン/チルト

1 [PTZ/プリセット] ボタンを押して、テンキーをPTZモードにする

- [PTZ/プリセット] 表示灯が点灯します。
- 押すたびに“PTZモード”（表示灯点灯）と“プリセットモード”（表示灯点滅）が切り換わります。

2 1～9のテンキーを押す

- キーの矢印の方向へパン/チルトします。
- [6/ホーム]（5/ホーム）のキーを押すとホームポジションへ移動します。🔥

■ ズームイン/ズームアウト

1 [PTZ/プリセット] ボタンを押して、テンキーをPTZモードにする

- [PTZ/プリセット] 表示灯が点灯します。
- 押すたびに“PTZモード”（表示灯点灯）と“プリセットモード”（表示灯点滅）が切り換わります。

2 [15/ズームイン]（ズームイン/確定）ボタンまたは[14/ズームアウト]（ズームアウト/キャンセル）ボタンを押す 🔥

■ プリセット機能を使う

1 [PTZ/プリセット] ボタンを押して、テンキーをプリセットモードにする

- [PTZ/プリセット] 表示灯が点滅します。
- 押すたびに“PTZモード”（表示灯点灯）と“プリセットモード”（表示灯点滅）が切り換わります。

2 [1](0)～[10/0](9)のテンキーでプリセット番号を入力する 🔥

- カメラがプリセット位置に移動します。

メモ： _____

- 最初に[10/0](0)を押してから[10/0](0)～[9]を押すと、10から19までのプリセット番号を入力できます。🔥
- 20番以降を指定する場合は、マウスを使って、[PTZ管理]セクションの[プリセット]リストから選んでください。

ご注意： _____

- プリセット機能を使うには、あらかじめプリセット位置を設定しておく必要があります。
([P.94](#) ページ『プリセット位置を設定する』)

マウス操作でライブ映像を見る

本項目は、マウス操作でライブ映像を見る方法を記載しています。

[ライブ映像表示] 画面を表示する

1 メインメニューから [ライブ映像表示] を選ぶ

- NVR Viewer が起動し、[ライブ映像表示] 画面が表示されます。
- NVR Viewer の [再生] 画面または、[画面表示設定] 画面が表示されている場合、[ライブ] タブをクリックしてください。
- NVR Viewer を終了するには、[閉じる] ボタンをクリックしてください。



[ライブ映像表示] 画面

- [ライブ映像表示] 画面を終了せずにカメラ記録設定をした場合、カメラ記録設定終了後すぐにライブ映像が表示されない場合があります。その場合 [ライブ映像表示] 画面には、“サーバーへ接続できません！再試行します” または、“[デバイス名] (カメラ名) 上 127.0.0.1:80 へ接続できません” と表示されています。(127.0.0.1:80 は操作中の本機の内部的な IP アドレスです。)

メモ:

- ネットワークの回線状況によっては、カメラからの映像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- 増設ハードディスクの接続によって、[ライブ映像表示] 画面の表示に数分程度の時間がかかることがあります。

ビューを選択する

ビューの設定につきましては『画面表示設定』(62 ページ) をご覧ください。

1 [ビュー] セクションでビューを選択、またはウィンドウ上部のビューリストからビューを選択する

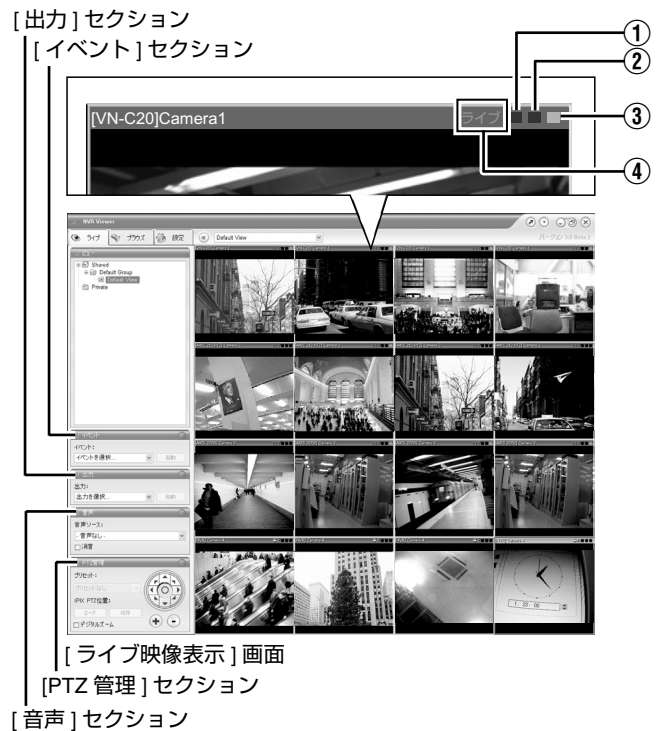
ご注意:

- 短時間にビューを頻繁に切り換えないようにしてください。
- VN-C625/VN-C655 でライブ映像が表示されない場合は、カメラ本体と本機に設定されている VN-C625/VN-C655 接続用のパスワードを再設定してください。設定方法は、使用カメラの [取扱説明書] および本書の [デバイス設定] 画面のルートパスワードの設定方法 (89 ページ) をご覧ください。
- [設定] 画面から [ライブ] に戻ったときは音声設定が“音声無し”になります。再度選択し直してください。

カメラを選ぶ

1 マウスで選択するカメラのライブ画面上部のバーをクリックしカメラを選択する

- カメラを選択すると上部青色のバーが明るい青色に変わります。



メモ:

- 各カメラを選択すると上部青色のバーが明るい青色に変わります。そのバーには次の機能を表示する3色の四角形のインジケータと、カメラの動作状態を示す文字が表示されます。

① イベントインジケータ (左: 黄色)

[カメラ記録設定]で設定したイベントが発生した場合に点灯します。イベントが指定されていない場合、もしくは何もイベントが発生していない場合、インジケータは黒色のままです。

② モーションインジケータ (中央: 赤色)

モーションが検知された場合に点灯します。

③ オンラインインジケータ (右のインジケータ: 緑色)

カメラからの映像を受け取るたびに点滅します。

④ カメラの動作状態表示 (インジケータの左側の文字)

表示	状態
ライブ (緑色)	記録していない状態でライブ映像を表示しているとき
記録 (赤色)	記録しているとき
停止 (黄色)	カメラからの映像が取得できないとき、またはカメラがオフラインのとき (P.55 ページ)

- バーには、カメラ名とカメラが接続されているデバイス名が表示されています。
- カメラの映像を拡大するには、上部青色のバーをダブルクリックします。元の大きさに戻すには、もう一度上部青色のバーをダブルクリックします。
- 点灯しているイベント、モーションインジケータをクリックすると、インジケータを消灯することができます。

PTZ 機能を使い画像を見る

PTZとは、パン、チルト、ズームの略です。

この機能はカメラがPTZ機能をサポートしている場合のみ有効です。PTZ機能をサポートしていない場合は、ボタンを押しても無視されます。

1 [PTZ管理]セクションのPTZナビゲーションボタンをクリックする

- 矢印の方向にカメラが移動します。
- 中央の丸いボタンをクリックすると、ホームポジションへ戻ります。
- [+]/[-] ボタンをクリックすると、ズームイン/ズームアウトします



ご注意:

- この機能はカメラがPTZ機能をサポートしている場合のみ有効です。PTZ機能をサポートしていない場合は、ボタンを押しても無視されます。

メモ:

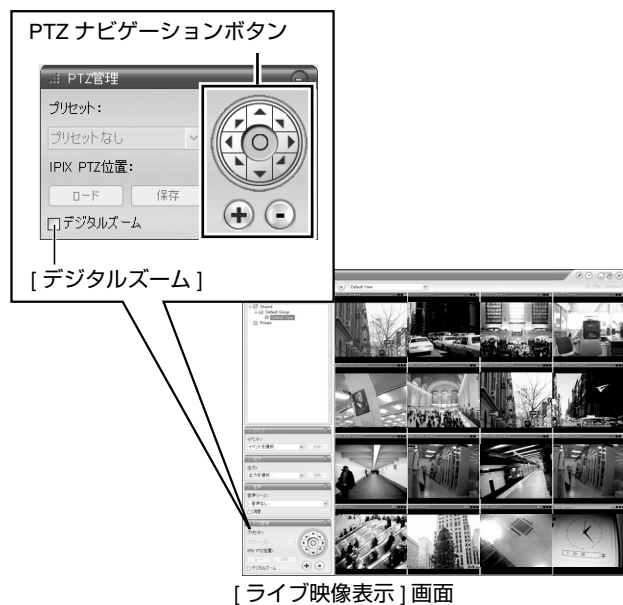
- PTZカメラからの映像画面上でマウスポインタが十字ポインタに変われば、映像画面内をポイント&クリックすることでカメラの向きを変えることができます。マウスポインタが十字ポインタにならない場合は、映像画面でカメラの操作を行うことはできません。PTZカメラによっては、マウスポインタが十字ポインタにならない場合があります。PTZカメラの種類によっては、マウスポインタが十字ポインタに変わっても、操作できない場合があります。その場合は、[PTZ管理]セクションのPTZナビゲーションボタンを使って操作してください。
- ネットワークエンコーダー (IPビデオサーバー: VN-E4など) に接続されているアナログカメラは、十字ポインタに変わりません。
- スクロールホイール付きのマウスであれば、スクロールホイールを使ってPTZカメラのズームイン/ズームアウトができます。
- VN-V686/VN-V686WPで電子ズーム機能を使用している場合、光学ズームと電子ズームの境界でズーム動作が一度停止します。引き続きズームするには、再度ズーム操作を行なってください。

マウス操作でライブ映像を見る (つづき)

PTZ 機能を使い画像を見る (つづき)

■ デジタルズーム

[PTZ 管理] セクションの [デジタルズーム] にチェックを入れると、どのカメラからの画像でもデジタルズームで見ることができます。デジタルズームを行うと、右下に小さく全体画像が表示されます。



メモ:

- デジタルズームを使用しても、記録される画像はズームされません。
- デジタルズームを使用すると、本機の負荷率が高くなるため、記録フレームレートが低下する場合があります。
- デジタルズームを終了するには [デジタルズーム] のチェックを外してください。

ご注意:

- [デジタルズーム] にチェックがされている場合、実際の PTZ 動作は行われません。

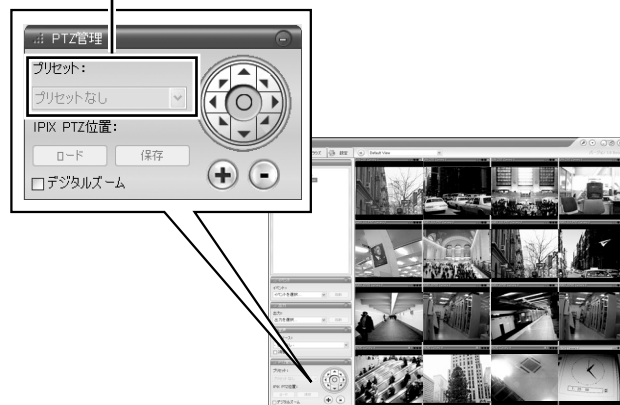
プリセット機能を使う

プリセットリストから選択することでカメラの向きをあらかじめ設定されたプリセット位置へ移動させることができます。(※94 ページ『プリセット位置を設定する』)

メモ:

- このボタンはカメラが PTZ 機能をサポートしている場合のみ有効です。

[プリセット] リスト



1 [PTZ管理]セクションの[プリセット]リストの[v]ボタンをクリックする

- プリセットリストが表示されます。

2 プリセットリストからプリセット位置を選択する

- カメラがプリセット位置へ移動します。

メモ:

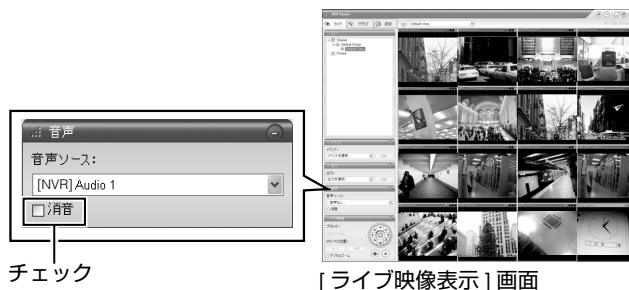
- プリセットリストはメインメニュー ⇒ [カメラ記録設定] ⇒ [設定] ⇒ [PTZ カメラ設定] から設定することが可能です。(※ 92 ページ)

その他便利な機能

■ 音声を聞く

音声を聞くには、[音声] セクションの [音声ソース] リストから音声を選択します。

一時的に消音するには、[消音] ボックスにチェックを入れてください。



ご注意:

- 複数の監視用パソコンで音声を開くと、音声が乱れる場合があります。
- [設定]画面から[ライブ]に戻ったときは、音声設定が[音声無し]になります。再度選択し直してください。

- メモ： _____
- [カメラ記録設定]の[カメラ設定]画面で音声ソースが設定されているカメラを選択したときは、設定されている音声が出力されます。(☞ 57 ページ)
 - 音声ソースが設定されていないカメラを選択したときは、最後に出力されている音声が継続出力されます。
 - 記録と同時にライブ映像を表示した場合には、表示される映像と音声がずれることがあります。(本機または増設ハードディスクへの記録には影響ありません)

■ 手動イベント

手動でイベントを発生するには、[イベント]セクションでイベントを選択し、[起動] ボタンをクリックしてください。



- メモ： _____
- イベントについては『 入出力ポート、イベントについて 』(☞97 ページ) をご覧ください。
 - あらかじめイベントを設定しておく必要があります。(☞ 97 ページ)

■ 出力制御

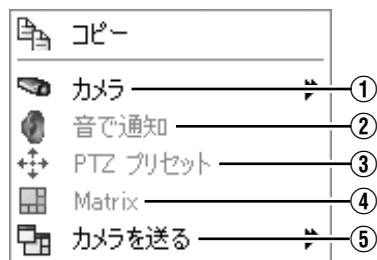
出力するには、[出力]セクションで出力を選択し、[起動] ボタンをクリックしてください。



- メモ： _____
- あらかじめ出力を設定しておく必要があります。(☞100 ページ『 出力を設定する 』)
 - (☞105 ページ『 手動操作の場合の出力を設定する 』)

■ カメラショートカットメニュー

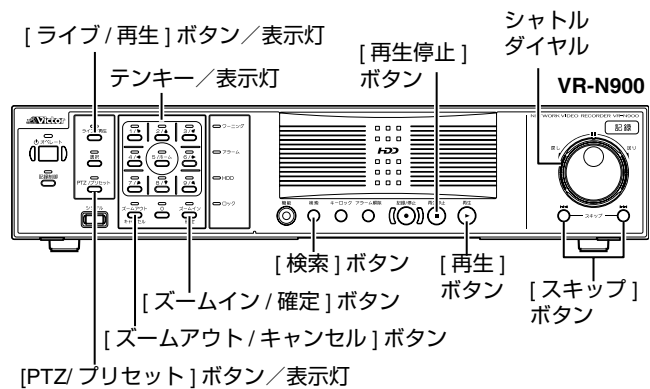
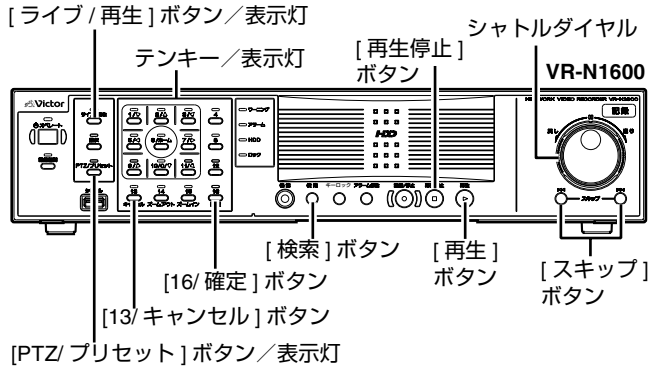
カメラ映像の画面上で右クリックすると、ショートカットメニューを開くことができます。カメラの設定によっては、メニュー項目が異なる場合があります。



項目	内容
① カメラ	選択した位置に別のカメラからの映像を表示します。
② 音で通知	警告音などを一時的に消音します。
③ PTZ プリセット	プリセット位置を選択して、カメラを移動します。
④ Matrix	Milestone Systems 社のマトリックスを使うための設定です。詳細は Milestone Systems 社の Milestone XProtect Matrix のマニュアルをご覧ください。 メモ： _____ ● 詳細につきましては、Milestone Systems 社のホームページ (http://www.milestonesys.com) をご覧ください。 ● URL は変更される場合があります。
⑤ カメラを送る	指定のウィンドウに、選択したカメラ映像を表示します。

フロントパネル操作で記録画像を再生する

本項目は、本機のフロントパネル操作で記録画像を再生する方法を記載しています。



[再生]画面を開く

- 壁紙画面またはメインメニューが表示されている場合、[ライブ/再生] ボタンを押す
 - NVR Viewer が起動し、[ライブ映像表示]画面が表示されます。
- [ライブ映像表示]画面が表示されたら、再度[ライブ/再生] ボタンを押す
 - ボタンを押すたびに[ライブ映像表示]画面と[再生]画面が切り換わります。



[ライブ映像表示]画面

[再生]画面

ビューを選択する

ビューの設定につきましては『画面表示設定』(P.62 ページ)をご覧ください。

- [PTZ/プリセット] ボタンを押して[PTZ/プリセット] 表示灯を点滅させる
 - [PTZ/プリセット] ボタンを押すたびに、[PTZ/プリセット] 表示灯が点灯と点滅に切り換わります。
- [15/ズームイン](ズームイン/確定)、[14/ズームアウト](ズームアウト/キャンセル) ボタンを押してビューを選択する

ご注意:

- 短時間にビューを頻繁に切り換えないようにしてください。
- VN-C625/VN-C655 でライブ映像が表示されない場合は、カメラ本体と本機に設定されている VN-C625/VN-C655 接続用のパスワードを再設定してください。設定方法は、使用カメラの [取扱説明書] および本書の [デバイス設定] 画面のルートパスワードの設定方法 (P.89 ページ) をご覧ください。
- [設定]画面から[ブラウザ]に戻ったときは音声設定が“音声無し”になります。再度選択し直してください。

日時指定で記録画像を検索する

フロントパネルの [検索] ボタンで日時を指定して検索し、再生することができます。

- [再生]画面で [検索] ボタンを押す
 - 日時入力画面が表示されます。



- テンキーを使って検索日時を入力する
 - [スキップ] ボタン (◀ または ▶) で入力項目を選び入れます。

- [16/確定] (ズームイン/確定) ボタンを押す
 - 右側の画像表示画面で、選択日時へジャンプします。

メモ:

- [Go To] ボタンをクリックしても選択日時へジャンプします。
- ソフトウェアキーボードをご使用の場合は、[Go To] ボタンをクリックしてください。

記録画像を再生、スキップ、停止する

[再生]、[スキップ]、[停止]ボタンで操作します。

■ フロントパネルの [再生停止]、[スキップ]、[再生] ボタンを使って操作する

● 再生する

1 [再生] ボタンを押す

- [時間ナビ]の[マスタータイム]に表示された日時から再生します。
- シャトルダイヤルの角度に応じて (1/20、1/5、1、2、5、10、20 倍速) 再生されます。

[マスタータイム]表示部



[再生]画面

[移行]ボタン

[時間ナビ]セクション

● スキップする

1 [スキップ] ボタンを押す

- [スキップ] ボタンの機能は次のとおりです。

◀◀	ひとつ前のシーケンス先頭画像に移動します。長押しすると、選択カメラのデータベース最古の画像に移動します。
▶▶	次のシーケンス先頭の画像に移動します。長押しすると、選択カメラのデータベースの最新の画像に移動します。

メモ:

- シーケンスはイベント、モーション検出で記録される記録画像のまとめです。
- 記録画像はデータベースとして保存されます。

ご注意:

- [スキップ] ボタンはカメラを選択していないと動作しません。
- 記録同時再生の際、現在時刻付近を再生すると再生が記録の終端に追いつき、“データベース終了後”または“以降の画像はありません”と表示されることがあります。
- モーション/イベントで記録する設定をしている場合 (59 ページ)、モーション/イベントが発生していない時は記録されません。しかし現在時刻付近の再生をしていると、記録されていない画像も再生されます。

● 停止する

1 [再生停止] ボタンを押す

- 再生が停止します。
- 拡大表示にする
 - 選択されているカメラと同じ番号を押すと、拡大表示になります。

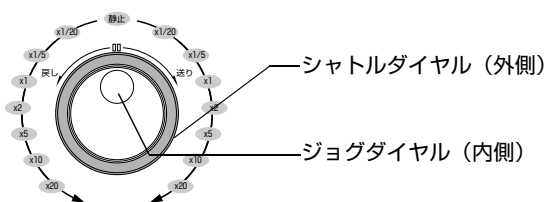
- 通常表示に戻すには、拡大表示されているカメラと同じ番号を押します。

再生速度を変える (ジョグ・シャトル再生)

フロントパネルのシャトルダイヤル/ジョグダイヤルを使い、再生速度を変えることができます。

■ シャトル再生

- 再生中または一時停止中にシャトルダイヤルを回すと、早送り、早戻し、スロー再生が始まります。



ジョグ・シャトルダイヤル

メモ:

- シャトル再生で早送りや早戻しを行う場合の再生スピードは目安です。再生のモード (分割画面、単画面) や記録のモード (モーション検知、記録フレームレート) などの条件によってスピードが変わる場合があります。

■ ジョグ再生

- ジョグダイヤルを回すと、コマ送り再生をします。
- 時計回りに回転させると、順方向のコマ送り再生、反時計回りに回転させると、逆方向のコマ送り再生をします。
- 回転をやめると、一時停止になります。ただし、順方向/逆方向コマ送りを続けていると、回転をやめてもしばらく動き続けることがあります。

ご注意:

- ジョグダイヤルはカメラを選択していないと動作しません。
- 記録中に再生速度を変更したり、高速で再生している場合、記録されるフレームレートが下がることがあります。パフォーマンスメータを見ながら赤色表示にならない範囲でご利用ください。

マウス操作で記録画像を再生する

本項目は、マウス操作で記録画像を再生する方法を記載しています。

メモ：

- [再生]画面での操作時は、記録フレームレートが低下することがあります。
- 記録と同時に記録画像を再生した場合などハードディスクへのアクセスが頻繁に発生する場合には、再生される画像が一時停止したり、音声が途切れることがあります。(本機または増設ハードディスクへの記録には影響ありません)
- [設定]画面から[再生]画面に戻ったときは音声設定が[音声無し]になります。再度選択し直してください。
- パソコンのタイムゾーンは、本機と同じ設定にしてください。タイムゾーンの違うパソコンで記録画像を再生した場合、本機の記録画像の時刻はパソコンのタイムゾーンの時刻に変換されて表示されます。
- [OS設定]でタイムゾーンを変更したときは、[機能]ボタンを押しながら[ライブ/再生]ボタンを押して、NVR Viewer を再起動してください。

[再生]画面を表示する

1 メインメニューから[ライブ映像表示]を選ぶ

- NVR Viewer が起動し、[ライブ映像表示]画面が表示されます。

2 NVR Viewer の[ブラウズ]タブをクリックする

- NVR Viewerの[画面表示設定]画面が表示されている場合も、[ブラウズ]タブをクリックしてください。

[ブラウズ]タブ



[ライブ映像表示]画面

[ビュー]セクション

閉じるボタン



- [再生]画面が表示されるまでに数分かかる場合があります。
- [再生]画面を終了せずにカメラ記録設定をした場合、カメラ記録設定終了後すぐに再生画像が表示されない場合があります。その場合[再生]画面には、“サーバーへ接続できません！再試行します”または、“[デバイス名] (カメラ名) 上 127.0.0.1:80 へ接続できません”と表示されています。(127.0.0.1:80 は操作中の本機の IP アドレスです。)
- 全く記録されていない状態で再生すると、[再生]画面には“接続：[NVR]Camera1 on 127.0.0.1:80”を表示し続けます。
- NVR Viewer を終了するには、閉じるボタンをクリックしてください。

メモ：

- [再生]画面上部のバーにオンラインインジケータが表示されます。新しい画像が表示されるたびに緑色に点灯します。
- 記録画像はデータベースとして保存されています。本機では記録データをデータベースと呼んでいます。
- [再生]画面に、“以前の画像はありません”と表示されている場合は、現在の位置より前にはデータベース(記録画像)が存在しないことを表します。
- [再生]画面に、“以降の画像はありません”と表示されている場合は、現在の位置より後ろにはデータベース(記録画像)が存在しないことを表します。

ご注意：

- [再生]画面左側で多くのセクションが開かれていると、画面内に表示できない場合があります。その場合は開いているセクションのバーをダブルクリックして、セクションを閉じてください。
- 短時間に[ライブ]と[ブラウズ]を頻繁に切り換えないようにしてください。

ビューを選択する

ビューの設定につきましては『画面表示設定』(P.62 ページ)をご覧ください。

1 [ビュー] セクションでビューを選択、またはウィンドウ上部のビューリストからビューを選択する

ご注意:

- 短時間にビューを頻繁に切り換えないようにしてください。
- VN-C625/VN-C655 でライブ映像が表示されない場合は、カメラ本体と本機に設定されている VN-C625/VN-C655 接続用のパスワードを再設定してください。設定方法は、使用カメラの [取扱説明書] および本書の [デバイス設定] 画面のルートパスワードの設定方法 (P. 89 ページ) をご覧ください。
- [設定] 画面から [ライブ] に戻ったときは音声設定が “音声無し” になります。再度選択し直してください。

[時間ナビ] で記録画像を検索する

[再生] 画面の [時間ナビ] を使い記録画像を検索します。

1 [再生] 画面で [時間ナビ] バーをダブルクリックする

2 ボックスで検索日時を選択する

- ボックスに日付、右側のボックスに時間を指定します。

3 [移行] ボタンをクリックする

- 画像表示画面で、設定された日時へジャンプします。
- [マスタータイム] 表示部に設定した日時が表示されます。



メモ:

- [マスタータイム] 表示部は、選択した記録画像の記録日時を表示します。日時情報は全カメラにリンクしており、日時を指定すると [ビュー] 内の全ての記録画像に対して正確に表示されます。
- モーション検知による記録や、ビュー内複数のカメラに指定日時に記録がない場合があります。この場合、カメラのデータベースから指定日時前の最後の画像が表示されます。(記録画像はデータベースに保存されています。)
- 現在選択されている再生スピードを表示します。

ご注意:

- [マスタータイム] 表示部は最新の記録画像の記録日時を越えて表示されることがあります。この場合、ブラウザボタンの (⏪) をクリックして最新の記録画像へ移動した後に再生ボタン (⏩) をクリックしてください。
- [時間ナビ] セクションで、“再生中、間をスキップ” がチェックされている場合、記録同時再生時に記録部分の終端を越えると再生が停止する場合があります。このような場合には [再生中、間をスキップ] のチェックをはずしてください。再生が停止した場合は、再度再生ボタンを押してください。

マウス操作で記録画像を再生する (つづき)

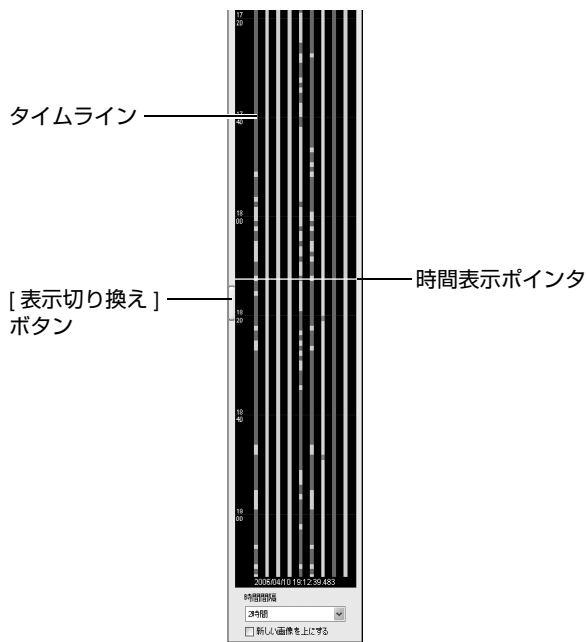
タイムライン・ブラウザで記録画像を検索する

[再生]画面右側の[タイムライン・ブラウザ]を使い記録画像の検索ができます。

上下に伸びたタイムラインは記録状況を示し、NVR Viewerで表示できるカメラの数だけ表示します。時間表示ポイントを確認しながらマウスでタイムラインを上下にドラッグして検索します。

ご注意:

- タイムラインは目安です。実際の時間とずれて表示されることがあります。



[タイムライン・ブラウザ]

■ タイムラインの色と線

選択されているカメラのタイムラインはハイライト表示されます。

赤	モーション (動き) 検知または、イベントで記録されたことを示します。(ハイライト時はピンクです。)
緑	モーション検知前後の記録を示します。(ハイライト時は薄緑色です。)
黒	記録されていない期間を示します。(ハイライト時は灰色です。)
中央の白線 (時間表示ポイント)	表示画像の時刻を示します。

メモ:

- タイムライン・ブラウザの下の項目で、タイムラインに表示する時間間隔 (1時間、2時間、~1日) と、タイムライン上の時間の流れを上から下にするか、下から上にするかを [新しい画像を上にする] チェックボックスで選択できます。これらの設定は保存されません。NVR Viewer を再起動すると設定していた内容は失われます。
- スクロールホイール付きのマウスを使うと、スクロールホイールを使ってタイムラインを検索できます。
- タイムラインの任意の箇所をダブルクリックすると、その時間の画像を表示することができます。
- タイムライン・ブラウザを必要としないときは、タイムライン・ブラウザの左縁中央辺りにある [表示切換え] ボタンをクリックすると隠すことができます。

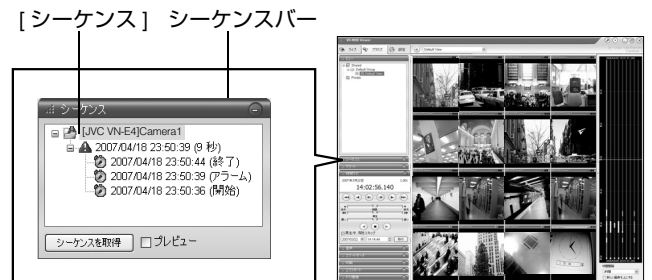
ご注意:

- マウスでタイムラインを上下にドラッグした場合、タイムラインの一部が更新されない場合があります。このような場合は、NVR Viewer を再起動 (p. 35 ページ) してください。

シーケンスを使い記録画像を検索する

シーケンスとはイベント、モーションで記録される記録画像のまとまりです。シーケンスごとに記録画像をリストアップします。

1 [再生]画面の[シーケンス]バーをダブルクリックする



[再生]画面

2 [シーケンスを取得] をクリックする

- 表示時刻前後のそれぞれ20画像がリストアップされます。
- [プレビュー] ボックスにチェックを入れると、リスト内のシーケンスをマウスでポイントしたときにプレビュー画像を見ることができます。

3 リスト内のシーケンスをクリックする

- ビュー内の全ての画像が、選択したシーケンス日時に合わせて表示されます。

メモ:

- リスト内のシーケンス横にある [+] マークをクリックすると、記録開始のきっかけとなったモーション検知やイベントなどの正確な日時と、シーケンスの最初と最後の正確な日時を表示します。

ご注意:

- 『 () 秒間、モーション / イベントの前後を記録する : 』 (p. 59 ページ) によっては、連続した複数のシーケンスが1つのシーケンスにまとめられる場合があります。

アラートリストから記録画像を検索する

モーション検知 (107 ページ) などの [警報] ごとに記録画像をリストアップします。

1 [再生]画面で[アラート]バーをダブルクリックする

2 [アラート]リストの[▼]をクリックしてアラートリストからイベントを選ぶ

- 所定のイベント、カメラまたは [Server] (サーバー) を選ぶことができます。



3 [リストを取得] ボタンをクリックする

- 検知されたイベントのリストが表示されます。
- イベントリストをクリックして、選択したイベントの記録画像を見ることができます。

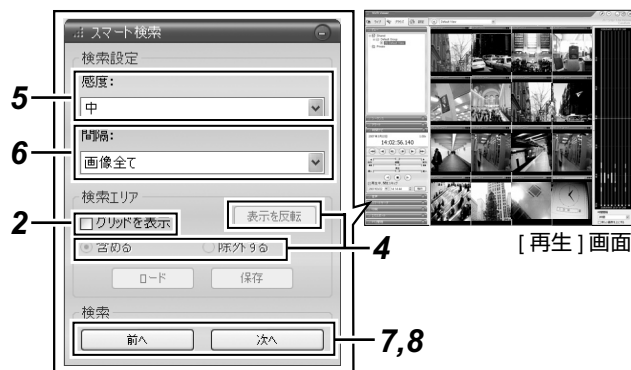
メモ:

- アラートリストは [時間ナビ] で指定された時刻近辺 (前後約 1 日) のイベントが取得されます。

スマート検索

選択カメラの記録画像から検索エリアを指定して、動きのあった部分を検索することができます。

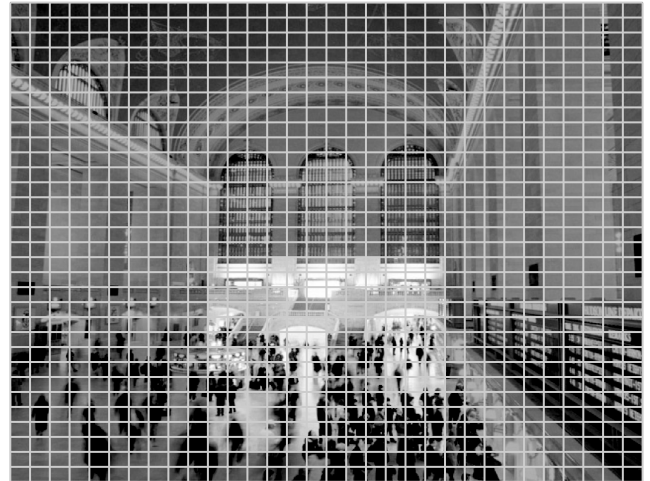
1 [再生]画面の[スマートサーチ]バーをダブルクリックする



2 [検索エリア]設定で[グリッドを表示]にチェックを入れる

3 表示するカメラを選ぶ

- 青色のグリッドが表示されます。



4 画面内をクリック・ドラッグし、検索するエリアを指定する

- 指定されたエリアは透明になります。
- [含める]にチェックを入れると、ドラッグした部分が検索エリアに追加されます。[除外する]にチェックを入れると、ドラッグした部分が検索エリアから削除されます。
- [表示を反転] ボタンをクリックすると、選択したエリアを反転します。

5 [検索設定]で、[感度]リストから感度を選ぶ

- 設定値は下記
 - [非常に高い]
 - [高い]
 - [中]
 - [低い]
 - [非常に低い]

6 [間隔]リストで時間間隔を設定する

7 エリア内モーション (動き) が検出されたデータを [前へ]、[次へ] ボタンを押しながら検索する

- 検索が開始されます。エリア内で動きが検知された場合表示され、モーションはハイライト表示されます。

ご注意:

- スマート検索は、表示されている画像の時間から [前方へ] または [後方に] 検索します。
- 記録中にスマート検索を使うと記録フレームレートが下がることがあります。パフォーマンスメータを見ながら赤色表示にならない範囲でご利用ください。

8 検索を続けるには、[前へ]、[次へ] ボタンをクリックする

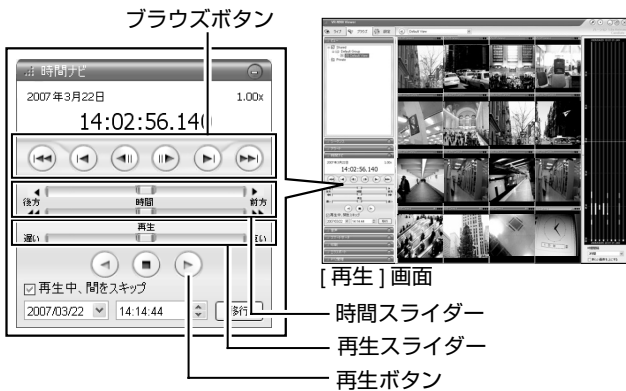
メモ:

- [保存] ボタンを使い、手順 4 で指定したエリアを一時的に保存することができます。別のエリアを指定した後、[ロード] ボタンをクリックすると、保存したエリア設定に戻すことができます。
- エリアの選択を解除するには、[除外する] にチェックを入れて全てのエリアをドラッグしてください。

マウス操作で記録画像を再生する (つづき)




記録画像を再生、スキップ、停止する

NVR Viewer の [時間ナビ] を使用して、再生、停止、スキップ操作を行います。





ボタン・スライダーのはたらきは以下のとおりです。

● ブラウズボタン

-  : 選択されているカメラのひとつ前の画像に移動します。(コマ戻し)
-  : 選択されているカメラの次の画像に移動します。(コマ送り)
-  : 選択されているカメラのひとつ前のシーケンス先頭の画像に移動します。(シーケンスが無い場合や、シーケンスの長さによっては、正しく動作しないことがあります)
-  : 選択されているカメラの次のシーケンス先頭の画像に移動します。(シーケンスが無い場合や、シーケンスの長さによっては、正しく動作しないことがあります)
-  : 選択カメラの最古の記録画像に移動します。(10倍以上で再生している場合は、正しく動作しないことがあります)
-  : 選択カメラの最新の記録画像に移動します。(10倍以上で再生している場合は、正しく動作しないことがあります)

ご注意:

- ブラウズボタンはカメラを選択していないと動作しません。
- ブラウズボタン   を押してから、移動が完了するまで、時間がかかる場合があります。移動が完了する前に連続してボタンを押すと、まとめてシーケンスの移動が行われますのでご注意ください。

● [時間] スライダー



左方向にドラッグすると記録日時を遡り、右方向にドラッグすると新しくなります。上段のスライダーは限られた期間の細やかな再生 (0.4 ~ 240 倍)、下段のスライダーは長期間の大まかな再生 (20 ~ 36,000 倍) に使います。

● [再生] スライダー

中央位置が 1 倍速、左方向へドラッグすると再生スピードが遅く、右方向へドラッグすると早くなります。左端へドラッグすると一時停止となります。

再生中のスピードはマスタータイム表示部の右上に表示されます。

● [再生] ボタン

-  : 逆再生します。
-  : 通常再生します。
-  : 再生を停止します。

ご注意:

- 再生スライダーが左端にある場合 (一時停止)、再生ボタンは動作しません。再生スライダーをご希望の速度に設定してください。
- マウスによる [時間ナビ] での再生操作には、シャトルダイヤルの角度は影響しません。

メモ:

- [時間ナビ] の “ 再生中、間をスキップ ” がチェックされていると、選択されているカメラの記録画像がない部分をスキップして再生します。
- スキップして再生した場合には マスタータイム表示部に赤字で一定時間 [スキップ] と表示されます。
- 単画面表示のときと分割画面表示のときでは、スキップ再生の動作が異なります。選択されているカメラの記録がなくても、他のカメラの記録があればスキップされません。その場合記録がない部分は、最後に表示された画像が表示されています。

音声を聞く

記録した音声を聞くには、[音声]セクションの[音声ソース]リストから音声を選択します。

一時的に消音するには、[消音]ボックスにチェックを入れてください。



ご注意:

- 複数の監視用パソコンで音声を再生すると、音声が乱れる場合があります。
- 画面表示設定から[ライブ映像表示]画面、[再生]画面に戻ったときは、音声が[音声無し]になります。音声を聞くには、[音声ソース]リストから音声を選択し直してください。
- 静止画再生時や正方向 × 1 以外のサーチ・コマ送り再生のときは、音声は出力されません。
- 記録動作中に記録画像の再生操作を行なった場合、再生される音声が途切れる場合があります。

メモ:

- 音声を設定しているカメラを選択したときは、設定されている音声が出力されます。
- 音声を設定していないカメラを選択したときは、最後に出力されている音声が続出力されます。
- 記録と同時に記録画像を再生した場合には、再生される画像が一時停止したり、音声が途切れることがあります。(本機または増設ハードディスクへの記録には影響ありません)

画像や音声を CD、DVD などに書き込む (エクスポート)

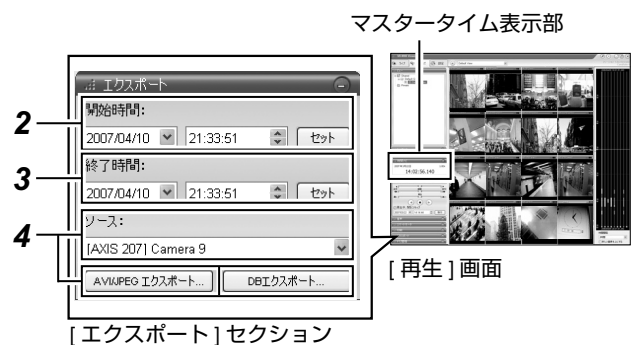
本機は記録した画像や音声を他の媒体に書き込む (エクスポートする) ことができます。

- VR-N900/VR-N1600 本体では CD-R や CD-RW、DVD-R、DVD-RW、USB メモリーに画像や音声を書き込むことができます。
- 監視用パソコンでは、記録した画像や音声をデスクトップや指定フォルダに書き込むことができます。

CD/DVD 書き込み操作 (本機での操作)

- 手順 1 ~ 9 は CD/DVD 書き込み、USB メモリーへの書き込みで共通の操作です。

- 1 [再生]画面の[エクスポート]バーをダブルクリックする
- 2 開始日と時刻を入力する
 - [セット] ボタンをクリックすると、マスタータイム表示部の日時が入力されます。
- 3 終了日と時刻を入力する
 - [セット] ボタンをクリックすると、マスタータイム表示部に表示された日時に 1 秒プラスした時刻が入力されます。
- 4 [ソース:] リストからカメラを選び、[AVI/JPEG エクスポート ...] ボタンまたは [DB エクスポート ...] ボタンをクリックする
 - ソースを選ぶ場合、[- 現ビューソース -] を選ぶことができます。[- 現ビューソース -] を選択すると、ビュー内の全てのカメラからの画像をエクスポートします。
 - エクスポート・ダイアログが表示されます。入力した開始日時と終了日時、カメラ名が表示されます。



メモ:

- 増設 HDD の接続状況によっては、エクスポートの準備に時間がかかることがあります。

画像や音声を CD、DVD などに書き込む (エクスポート) (つづき)

5 [AVI/JPEG エクスポート ...] を選んだ場合、エクスポート・フォーマットを選ぶ

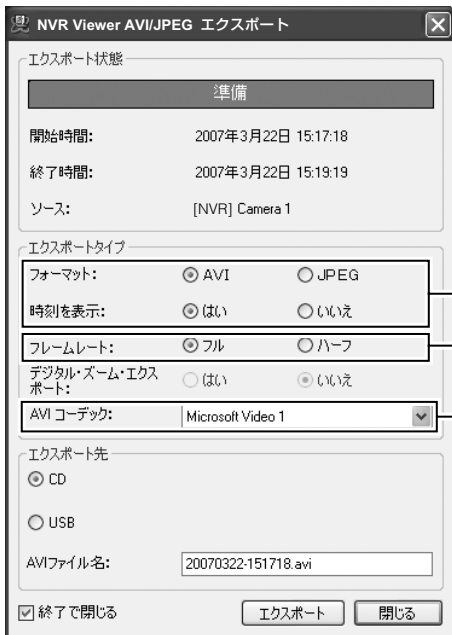
- [AVI] (ムービークリップ) か [JPEG] (静止画像) を選びます。
- エクスポートする画像に時刻を含めるか、含めないかを選択します。

6 [AVI] フォーマットを選んだ場合、フレームレートを選ぶ

- すべての画像を AVI ファイルに送る [フル] か、毎秒毎の画像を送ることで AVI ファイルサイズを減らす [ハーフ] (画像はリアルタイムで再生されます) を選びます。

7 [AVI] フォーマットを選んだ場合、[AVI コーデック] リストから [AVI コーデック] を選び、ファイル名を入力する

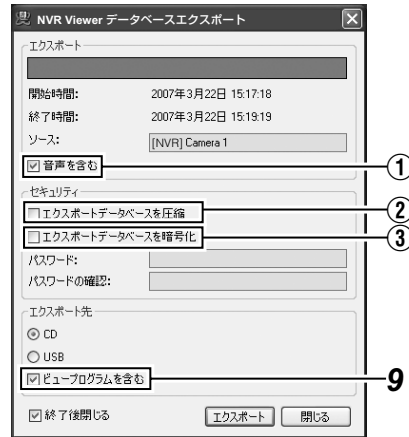
- デフォルトのファイル名は “yyyyymmdd-hhmmss.avi” となっています。



ご注意：

- デバイス名とカメラ名の合計文字数は 61 文字以下にしてください。
- 追記に失敗すると、既に書き込まれているデータが読めなくなる場合があります。
- DVD メディアには追記できません。

8 [DB エクスポート ...] を選んだ場合、以下の設定が可能になる



項目	内容
① 音声を含む	エクスポートする画像に音声を含める場合にチェックを入れます。(音声ソースが何もない場合はチェックできません。)
② エクスポートデータベースを圧縮	エクスポートするデータを圧縮する場合に、チェックを入れます。
③ エクスポートデータベースを暗号化	エクスポートするデータを暗号化する場合にチェックを入れます。暗号解読用のパスワードを設定してください。

9 スタンドアローン版のビューワー (記録画像を再生するためのアプリケーション) をエクスポートするデータに付与する

- [DB エクスポート ...] を選んだ場合、[ビュープログラムを含む] ボックスにチェックを入れると、スタンドアローン版のビューワー (記録画像を再生するためのアプリケーション) をエクスポートするデータに付与することができます。

メモ：

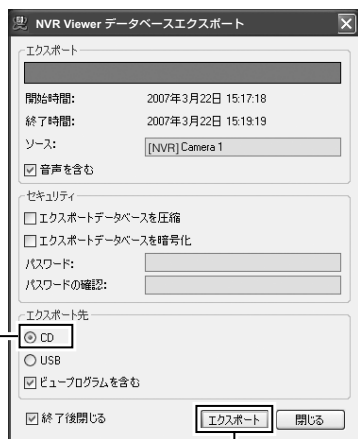
- エクスポートしたデータをパソコンで見ると、エクスポートで使用した USB メモリまたは、CD-R/RW、DVD-R/RW の [Exported Images] フォルダ内の [Browser.exe] ファイルをダブルクリックします。エクスポートビューワーが起動し、エクスポートしたデータを見ることができます。
- ビューワーにつきましては、『エクスポートビューワー』(p.139 ページ) をご覧ください。
- DB フォーマットでエクスポートした記録画像をビューワーで開いてから、ビューワー上で再度 AVI 形式でエクスポートすると、音声を含めた AVI 形式でのエクスポートが可能です。

ご注意：

- [DB エクスポート ...] フォーマットでは音声を含めてエクスポートできませんが、[AVI] または [JPEG] フォーマットでは音声のエクスポートはできません。
- エクスポート中は、記録フレームレートが低下することがあります。

10 エクスポート先を指定する

CD/DVD 書き込みを行う場合は、[CD] を選択してください。



11

11 [エクスポート] をクリックする

- CD/DVD 書き込みを準備するためのエクスポートを行います。

12 エクスポートが終了したら、本機に CD/DVD ドライブを接続する

13 前面の[機能]キーを押しながらテンキーの[4]を押す

- CD/DVD 書き込み画面が表示されます。



[選択データ削除] ボタン

[書き開始] ボタン

14 CD/DVD ドライブに書き込みメディア (CD-R/RW または DVD-R/RW) を挿入する

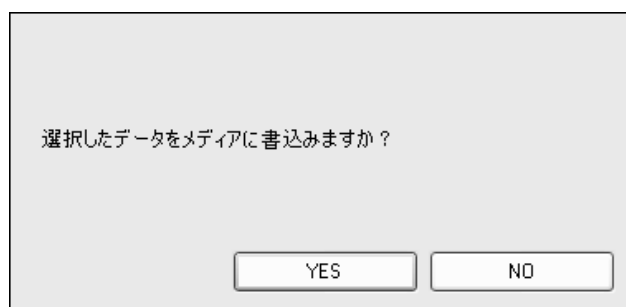
- [メディアの空き容量] に書き込みメディアの空き容量が表示されます。
- [書き開始] ボタンが有効 (操作可能) になります。

15 データリストの中から書き込みを行いたい AVI/JPG/DB をチェックする

- [選択総容量] にチェックを加えたデータの総容量が表示されます。
- [全選択] ボタンを押すと、全ての項目にチェックが入ります。
- [全選択解除] ボタンを押すと、全ての選択が解除されます。

16 [書き開始] ボタンを押す

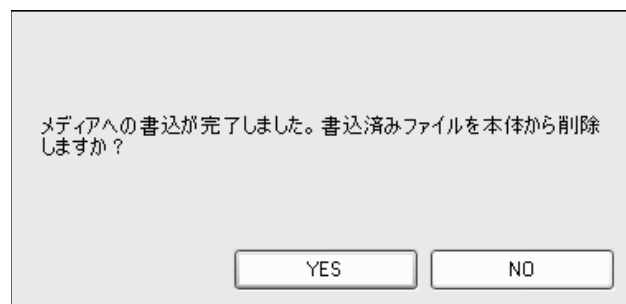
- 書き込み開始 [YES] か [NO] のメッセージが表示されるので、“YES” を選択してください。



メモ:

- データリストが未選択の場合は、エラーになります。
- メディアの空き容量よりも選択した総容量が大きい場合は、エラーになります。

17 書き込みが完了すると、以下のメッセージが表示される



- 一時ファイルを削除する場合は“YES”を選択してください。
- 再度同じデータを書き込む場合は、“NO”を選択してください。

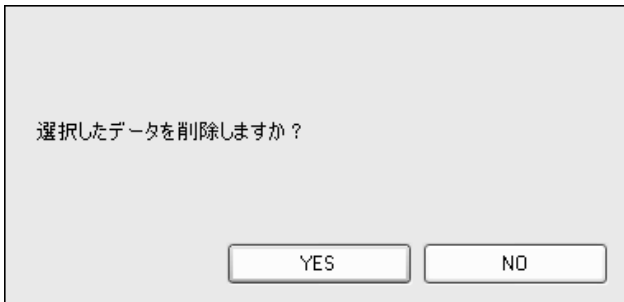
画像や音声を CD、DVD などに書き込む (エクスポート) (つづき)

一時ファイルの削除 (本機での操作)

1 データリストの中から削除したい一時ファイルにチェックする

2 [選択データ削除] ボタンをクリックする

選択データの削除開始 [YES] か [NO] のメッセージが表示されるので、“YES” を選択してください。



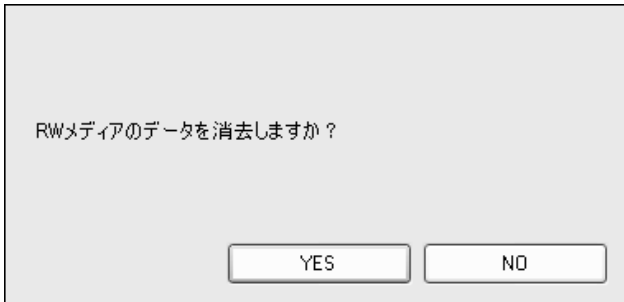
RW の消去 (本機での操作)

1 CD/DVD を挿入する

- [RW 消去] ボタンが “有効” になります。

2 [RW 消去] ボタンをクリックする

- RW消去開始[YES]か[NO]のメッセージが表示されるので、“YES” を選択してください。



ご注意:

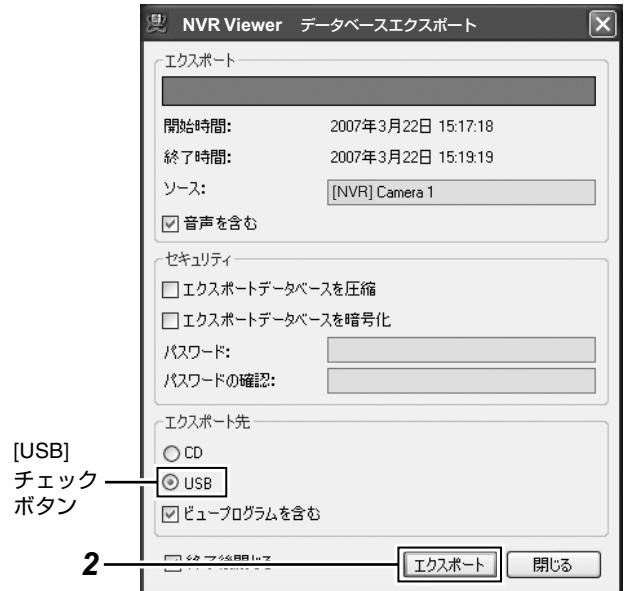
- CD/DVD 書き込み操作中は、ほかの操作はできません。
- CD/DVD への書き込みを行なっている間は、記録画像に抜けが発生する場合 (一時的に記録できない状態) があります。
- エクスポート中は CD/DVD 書き込み画面を表示しないでください。
- CD/DVD ドライブにメディアを挿入したまま接続しないでください。
- CD/DVD 書き込み画面の表示中に CD/DVD ドライブの接続を解除しないでください。
- メディアが認識されない場合は、CD/DVD 書き込み画面を再起動してください。

USB 書き込み操作 (本機での操作)

エクスポート先の USB メモリを VR-N900/VR-N1600 へ挿入し、[CD/DVD 書き込み操作] 手順 1 ~ 9(※ 49 ページ) と同じ操作を行なってください。

1 エクスポート先を指定する

- USB メモリへのエクスポートを行う場合は、[USB] を選択してください。



2 [エクスポート] をクリックする

- エクスポートが開始されます。

監視用パソコンからの操作

[CD/DVD 書き込み操作] 手順 1～9(49 ページ) と同じ操作を行なってください。

1 エクスポート先を指定する



デスクトップ :	デスクトップにエクスポートする場合はこちらを選択してください。
パス	エクスポートするフォルダを指定する場合はこちらを選択してください。

2 [エクスポート] をクリックする

- エクスポートが開始されます。

記録画像を印刷する (監視用パソコンからの操作)

画面に表示している再生画像を印刷することができます。

ご注意 :

- VR-N900/VR-N1600 本体からは印刷できません。本機能は監視用パソコンにダウンロードした、[NVR Viewer] で使用する機能です。

1 [再生] 画面の [印刷] バーをダブルクリックします。



メモ :

- 印刷バー右のボタンを使えば、クリック一回で表示できます。

2 [印刷] セクションの [印刷...] ボタンをクリックします。

- [NVR Viewer 監視レポート] 画面が表示されます。



3 [NVR Viewer監視レポート]画面の[ページの設定] ボタンをクリックしてプリンタの設定をする

4 [印刷] ボタンをクリックして印刷を開始する

- 印刷が終了したら、[閉じる] ボタンをクリックして、印刷画面を終了します。
- [ユーザーノート] にコメントを入力すると、プリント時に印刷されます。

カメラ映像を記録する

記録の種類について

記録のモードは下記4種類です。

- 記録制御モード
- 強制記録モード
- EXT REC IN 入力信号による記録モード
- エマージェンシー記録モード

■ 記録制御モード (☞ 55 ページ)

[カメラ記録設定]に応じて記録するモードです。

[記録制御]表示灯は点灯しています。

[記録制御]ボタンを長押しすると、記録制御モードをオン・オフすることができます。

- [スケジューラ]設定 (55 ページ) でカメラのオン・オフを設定します。
- [カメラ設定] (57 ページ) でフレームレート、記録開始条件などを設定します。

ご注意：

- [スケジューラ]でオフライン設定されている期間は、[カメラ設定]にかかわらず記録されません。
- メインメニュー表示中、各種設定中、記録中は、[記録制御]ボタンは“無効”です。
- 未接続のカメラがあると、[記録制御]表示灯が点灯するまで、時間がかかる場合があります。

メモ：

- [記録/停止]ボタンを押すと、“記録制御モード”は解除され、強制記録モードになります。
- [記録/停止]ボタンを長押しすると、すべての“記録モード”は解除され、記録は停止します。
- オペレートONにすると、自動的に“記録制御モード”になります。(メインメニューの[ユニット設定]で[記録制御設定]が“起動時にON”にチェックされている場合。)

■ 強制記録モード

強制記録モードは、[カメラ記録設定]にかかわらず全カメラを記録するモードです。[カメラ設定]画面の[記録設定]-[設定フレームレート]で設定されているフレームレートで記録されます。

[記録/停止]ボタン操作によって全カメラの記録を開始、または停止します。[記録/停止]ボタンを押すと、記録開始、[記録/停止]ボタンを長押しすると記録停止となります。

[記録制御]表示灯は消灯しています。

■ [EXT REC IN] 入力信号による記録モード

背面入出力端子の[EXT REC IN]入力端子が、メイクされている期間、全カメラの記録が開始されます。[カメラ設定]画面の[記録設定]-[設定フレームレート]で設定されているフレームレートで記録されます。

[記録制御モード]、[強制記録]中より、[EXT REC IN]入力信号による記録が優先されます。

[EXT REC IN]端子からの入力信号による記録が終了すると、もとの記録モードに戻ります。

メモ：

- [EXT REC IN]端子からの入力信号による記録中は、[記録制御]表示灯は消灯し、[記録]表示灯が点滅します。
- [スケジューラ]設定、[カメラ設定]にかかわらず、全カメラの記録を開始、または停止します。
- [記録/停止]ボタンを押すと、[EXT REC IN]端子からの入力信号による記録は解除され、“強制記録モード”になります。[記録]表示灯は“点滅”から“点灯”に変わります。
- [記録/停止]ボタンを長押しすると、[EXT REC IN]端子からの入力信号による記録は解除され、記録は停止します。

■ エマージェンシー記録モード

背面入出力端子の[EMERGENCY]入力端子にメイク信号が検出されると、全カメラの記録が開始されます。[カメラ設定]画面の[記録設定]-[設定フレームレート]で設定されているフレームレートで記録されます。

[ユニット設定](☞ 72 ページ)の[エマージェンシー記録]で指定した時間だけ、記録されます。

[記録制御モード]、[強制記録]モード中より、エマージェンシー記録が優先されます。

エマージェンシー記録が終了すると、もとの記録モードに戻ります。

メモ：

- エマージェンシー記録中は、[記録制御]表示灯は消灯し、[記録]表示灯が点滅します。
- [スケジューラ]設定、[カメラ設定]にかかわらず、全カメラの記録を開始、または停止します。
- [記録/停止]ボタンを押すと、エマージェンシー記録は解除され、“強制記録モード”になります。[記録]表示灯は“点滅”から“点灯”に変わります。
- [記録/停止]ボタンを長押しすると、すべての記録モードは解除され、記録は停止します。

ご注意：

- 強制記録モード、[EXT REC IN]入力信号による記録モード、エマージェンシー記録モードの場合、モーション検知/イベント記録の設定は無視されます。

停電時の記録動作について

記録中に停電した場合は、停電復帰後に停電前の記録モードで記録を再開します。

- 記録制御モードで、モーション、イベントでの記録は、停電復帰後に再度モーション、イベントが発生しないと、記録は再開しません。
- 記録制御モードの状態は、停電前の状態に戻ります。

ご注意：

- 停電が発生した時刻以前のアーカイブ(☞ 110 ページ)されていない記録画像は、正常に再生されない場合があります。
- 停電などにそなえて、UPS(無停電電源装置)のご使用をお勧めします。(☞ 134 ページ)
- アーカイブやハードディスクのフォーマット中に停電が発生すると、UPSを接続している場合でもその後の運用に支障をきたすことがあります。

記録制御モードにする

記録制御モードで記録するには、メインメニューの[カメラ記録設定]から、スケジュールの設定 (☞ 55 ページ)、画像の記録設定 (☞ 57 ページ)、画質の設定 (☞ 60 ページ) などを行う必要があります。

1 カメラの記録が停止 ([記録] 表示灯が消灯) されている状態で [記録制御] ボタンを長押しする。

- [記録制御] 表示灯が点灯し、記録制御モードになります。
- カメラ記録設定に従って、記録が行われます。

メモ:

- 記録制御モード以外で記録中 ([記録] 表示灯が点灯または点滅) の場合は、[記録/停止] ボタンを長押しして記録停止にします。[記録] 表示灯が消灯した後、[記録制御] ボタンを長押ししてください。
- 記録制御モードを終了するには、[記録制御] ボタンを長押しするか、[記録/停止] ボタンを長押しします。
- カメラの状態などによっては、記録制御モードにしてから実際に記録が開始されるまでに時間がかかることがあります。

ご注意:

- カメラ記録設定中は、絶対に電源を切らないでください。

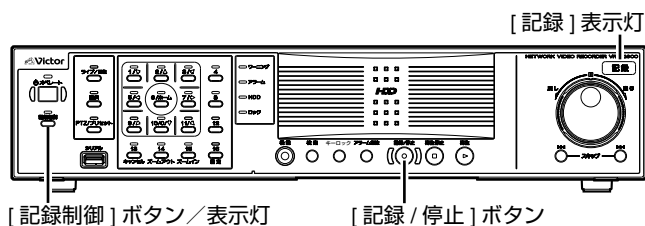
強制記録モードにする

1 [記録/停止] ボタンを押す

- 強制記録モードになり、全カメラの記録を開始します。
- [記録] 表示灯が点灯します。

メモ:

- 強制記録モードを終了するには、[記録/停止] を長押しします。このとき、[記録] 表示灯は消灯します。
- [記録/停止] を長押しすると、全ての記録モードは解除されます。



スケジュールの設定

いつカメラがオンラインになるかを設定したり、イベント発生によりオンラインになったりオフラインになったりするかの設定を行います。

メモ:

- オンラインの間は、カメラ記録設定に応じて記録します。
- オフラインの間は、カメラ記録設定にかかわらず記録をしません。
- モーション (動き) が検知された場合、Eメールでの通知が作動される時間帯の設定や、PTZ機能を持ったカメラによる自動パトロール (☞ 95 ページ) を起動させる時間帯の設定などを行います。
- 設定の最小単位は 5 分です。

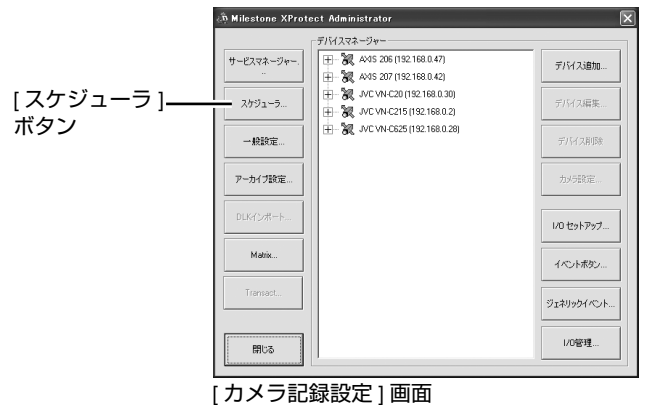
ご注意:

- 強制記録、背面 [EXT REC IN] 端子の入力信号による記録、エマージェンシー記録は、オンライン・オフラインに影響されません。
- スケジュールで“オフライン”や“イベント”に設定されている場合でも、[一般設定] の [リモートライブ要求でカメラを起動する] (☞ 108 ページ) が設定されている場合は、[NVR Viewer] でライブ映像を表示すると“オンライン”になります。
- “オフライン”に設定されている期間は、“オンライン”になっても記録はされません。“イベント”に設定されている期間は、“オンライン”になると記録設定に従って記録されます。

1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ

2 [スケジュール] ボタンをクリックする

- [スケジュール] 画面が表示されます。



3 [カメラ] からスケジュールを設定するカメラを選ぶ



カメラ映像を記録する (つづき)

スケジューラの設定 (つづき)

4 [モード]から[セット]を選ぶ

- マウスポインタが“鉛筆”に変わります。
- マウスポインタをカレンダーの曜日部分に移動すると、カレンダーの拡大・縮小を切り換えることができます。詳細なスケジュールを確認する場合は、カレンダーの曜日の部分をクリックして拡大表示に切り換えてください。

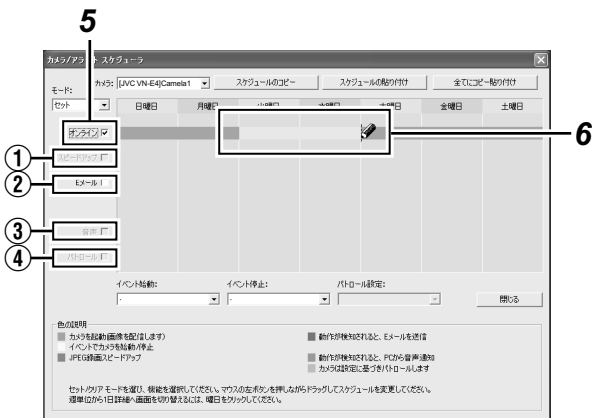
モード



5 [オンライン]にチェックを入れる

6 カレンダー部でオンラインにする期間を指定する

- カレンダー部でマウス左ボタンを押しながら、マウスポインタを移動させて、期間を設定します。
- 選択された期間は、水色で表示されます。



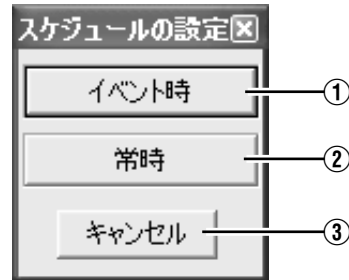
メモ：――

- [Eメール],[パトロール],[スピードアップ]にチェックを入れると、以下の設定ができます。

① スピードアップ	[カメラ設定]でスピードアップが“有効”になっている場合(☞ 58 ページ)に、条件にかかわらず常にスピードアップとなる期間を指定します。
② Eメール	モーションでEメールを送信する設定がされている場合(☞ 98 ページ)に、Eメールを送信する期間を指定します。
③ 音声	設定できません。
④ パトロール	パトロール計画とパトロール期間を指定します。[パトロール計画]のリストからパトロール計画を選び、カレンダー部で期間を指定します。あらかじめ[パトロール計画]を設定しておく必要があります。(☞ 96 ページ)

7 スケジュールの設定ウィンドが表示される

- [イベント時]、または[常時]をクリックします。

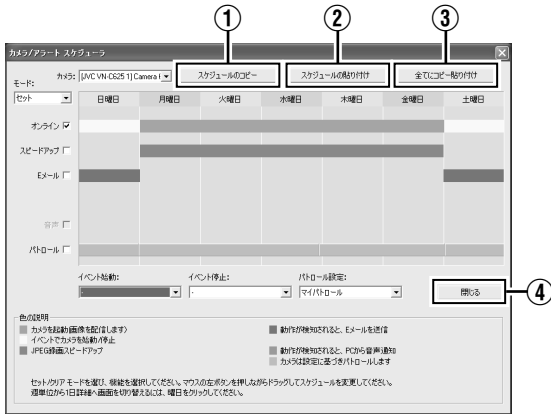


① イベント時	イベント発生時のみオンラインにします。イベント始動/イベント停止項目でイベントを指定します。
② 常時	常にオンラインにします。
③ キャンセル	設定を取り消します。

メモ：――

- 期間を削除するには、左上の[モード]から[クリア]を選択し、削除する項目([オンライン],[Eメール],[パトロール])のチェックボックスにチェックを入れ、カレンダー部で削除する期間をマウス左ボタンを押しながら、マウスポインタを移動させます。

■ カメラ / アラートスケジューラ画面



① スケジュールのコピー	カレンダー部に表示されているスケジュールをコピーします。
② スケジュールの貼り付け	[スケジュールのコピー]①でコピーしたスケジュールを、選択したカメラのスケジュールにはり付けます。
③ 全てにコピーを貼り付け	カレンダー部に表示されているスケジュールを、全てのカメラにはり付けます。
④ 閉じる	[スケジュール]画面を終了します。

● 表示バーについて

表示バーは各々のオプション ([オンライン]、[Eメール]、[パトロール]) ごとに期間を違った色で表示します。

● オンライン・バー

ピンク	カメラの映像を本機が常に表示する期間を表します。
黄色	本機に指定のイベントが入力されたときに、カメラの映像を表示する期間を表します。

● Eメール・バー

有効期間は、青で表示します。

● パトロール・バー

有効期間は、灰色で表示します。

メモ：

- パトロール・バーは最低1種類の[パトロール計画]が事前に登録されている必要があります。複数の計画が登録され、連続して使用される場合、各計画は細い垂直線によって区別されます。(☞ 96 ページ)
- [パトロール計画]を確認するには、カレンダー部で確認したい期間のバーをクリックすると、[パトロール計画]リストに、その期間に設定されている[パトロール計画]が表示されます。

画像の記録設定をする

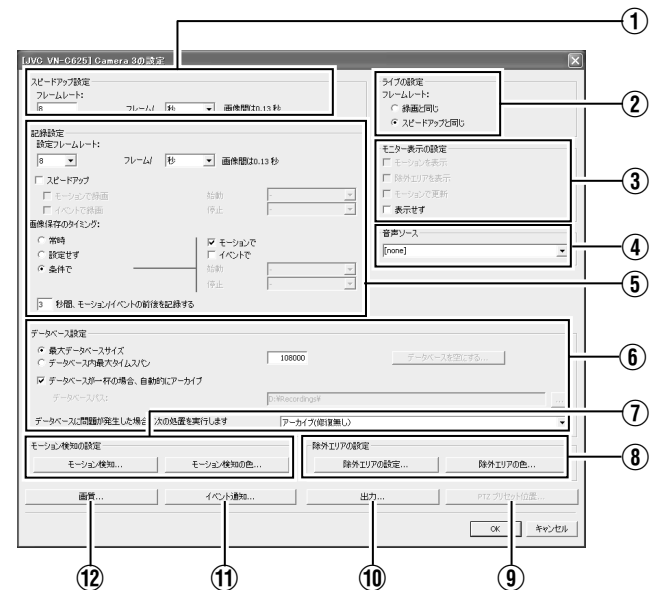
1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ



[カメラ記録設定] 画面

2 [デバイスマネージャ] からカメラを選択し、[カメラ設定] をクリックする

- [カメラ設定] 画面が表示されます。
- 各項目について設定します。(☞ 58 ページ)



[カメラ設定] 画面

カメラ映像を記録する (つづき)

カメラ設定画面の説明

(● : 工場出荷値)

項目	設定値	内容
① スピードアップ設定		
フレームレート	—	<p>カメラから取得するフレームレートを設定します。スピードアップ記録時のフレームレートになります。[ライブ映像表示]画面で表示されるビュー内の全カメラのフレームレートの合計が、各ビューごとにVR-N1600の場合80ips、VR-N900の場合60ips(イメージ/秒)以下になるように設定してください。</p> <p>ご注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カメラの能力を超える値を設定しないでください。 ● カメラに指定のフレームレートがない場合、カメラが対応しているフレームレートに変換されます。
② ライブの設定		
フレームレート	録画と同じ ● スピードアップと同じ	<p>ライブ画面の表示フレームレートを表示します。</p> <p>スピードアップと同じ： [スピードアップ設定]項目①で設定したフレームレートで、ライブ映像を表示します。</p> <p>録画と同じ： [記録設定]項目⑤で設定したフレームレートで、ライブ表示を行います。</p> <p>スピードアップが“ON”の場合、動き検出などにより記録レートが上がると、ライブ表示レートも上がります。</p>
③ モニター表示の設定	モーションを表示 除外エリアを表示 モーションで更新 表示せず	<p>カメラを使用しない場合は、“表示せず”にチェックを入れます。</p> <p>メモ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● “モーションを表示”、“除外エリアを表示”、“モーションで更新”は選択できません。
④ 音声ソース	[none]	<p>NVR Viewerでカメラを選択した場合に再生される音声ソースを設定します。</p> <p>また、NVR Viewerで[DB エクスポート...]フォーマットでエクスポートするソースに音声を含める場合の音声ソースを設定します。(P.49 ページ『画像や音声をCD、DVDなどに書き込む(エクスポート)』)</p> <p>音声の記録には影響しません。</p>
⑤ 記録設定		
設定フレームレート	—	<p>記録するフレームレートを設定します。[スピードアップ設定]項目①の[フレームレート]よりも大きい値は設定できません。[ライブ映像表示]画面で表示されるビュー内の全カメラのフレームレートの合計が、各ビューごとにVR-N1600の場合80ips、VR-N900の場合60ips(イメージ/秒)以下になるように設定してください。</p> <p>ご注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各機種が記録可能なフレームレートは下記の数値です。全カメラのフレームレートの合計がそれぞれの値以下になるように設定してください。スピードアップ設定を使用する場合は、スピードアップ設定のフレームレートを元に設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> ● VR-N1600 : 160ips 以下 (NASを使用する場合: 80ips 以下) ● VR-N900(A),(B) : 120ips 以下 (NASを使用する場合: 60ips 以下) VR-N900(A),(B)のアナログ入力 : 60ips 以下 VR-N900のアナログ入力 : 20ips 以下 ● 記録フレームレートは本機の信号処理の負荷の状況により、設定したフレームレート以下になる場合があります。 ● 以下の場合には、記録フレームレートが低下することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ● エクスポートしているとき ● 表示画像の画質変更を行なったとき ● 表示画像のフレームレートの合計(パソコンでの表示含む)がVR-N1600の場合80ips、VR-N900の場合60ips(イメージ/秒)を越えたとき ● 高フレームレート設定の場合は、記録フレームレートが多少前後する場合があります。

項目	設定値	内容
⑤ 記録設定 (つづき)		
スピードアップ	モーションで録画 イベントで録画	モーションやイベントがあったときに、フレームレートを上げて記録するかどうかを設定します。 [イベントで録画]を選択した場合、[始動]と[停止]欄で、開始イベントと終了イベントを指定します。 スピードアップ記録のフレームレートは、[スピードアップ設定]①項目の[フレームレート]が使用されます。
画像保存のタイミング	常時 設定せず ● 条件で	<p>常時 : 常に画像を記録する場合にチェックを入れます。</p> <p>設定せず : 記録制御モードでの記録を行いません。[記録/停止]ボタンを押すことで映像を記録します。</p> <p>記録制御モードで記録する条件を設定します。[条件で]を選択した場合は、以下の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● モーションで : モーションが検知された画像を全て記録する場合にチェックを入れます。 ● イベントで : モーションに関わらず、あるイベントが起きてから次のイベントが起きるまでの画像を全て記録する場合にチェックを入れます。 [始動]と[停止]欄で、開始イベントと終了イベントを指定します。 <p>メモ :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イベントについては、『入出力ポート、イベントについて』(P.97 ページ)をご覧ください。 <p>ご注意 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [画像保存のタイミング]で設定したモーションやイベントが発生すると、記録状態に関わらず、フロントパネルの[アラーム]表示灯が点灯します。[アラーム解除]ボタンを押すと[アラーム]表示灯は消灯します。 <p>() 秒間、モーション/イベントの前後を記録する : モーションまたはイベントの前後を記録することができます。発生の前後何秒間までを記録するか指定します。(P.136 ページ)</p> <p>メモ :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● “0秒” は設定しないでください。 ● [スケジューラ]でオフラインの場合は、記録されません。 ● 強制記録、エマージェンシー記録、[EXT REC IN]入力による記録には影響を与えません。
⑥ データベース設定	—	データベースの設定を行います。(P.112 ページ)
⑦ モーション検知の設定	—	
モーション検知		モーション検知の2つのパラメーター、[感度]と[しきい値]の設定を行います。(P.106 ページ)
モーション検知の色		モーション検知の色の設定を行います。

カメラ映像を記録する（つづき）

カメラ設定画面の説明（つづき）

項目	設定値	内容
⑧ 除外エリアの設定	—	モーション検知から除外するエリアを設定します。(P. 106 ページ)
除外エリアの設定		
除外エリアの色		使用しません。
⑨ PTZ プリセット位置	—	プリセットとパトロールの設定を行います。 このボタンは、設定可能なカメラが選択されている場合、[出力] ボタンの右に表示されます。
⑩ 出力	—	出力設定を行います。(P. 104 ページ)
⑪ イベント通知	—	イベント通知を行うイベントを選択します。(P. 104 ページ)
⑫ 画質	—	画像の解像度、画質に関する設定を行います。(P. 60 ページ)

ご注意：

- 記録用プログラム（レコーディングサーバー）稼動中は、[PTZ プリセット位置] ボタンを押すことができません。[カメラ記録設定] 画面で [サービスマネージャ] ボタンを押してから [一時停止] ボタンをクリックして、レコーディングサーバーを一時停止してください。(P. 86 ページ)
- 一時停止中は、映像も音声も記録されません。また、監視用パソコンでの映像表示も停止されます。
- 記録制御モードでは、[画像保存のタイミング]④で“常時”を選んでも、[スケジューラ]設定で“オフライン”になっている期間は記録されません。(P. 55 ページ)
- [キャンセル] をクリックしても、画質設定などの別画面で設定した内容はキャンセルされません。

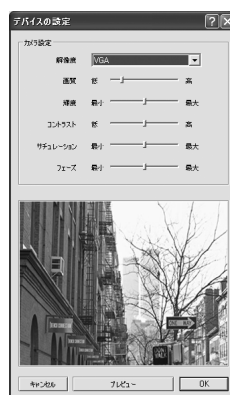
画質設定をする

設定調整中に [プレビュー] ボタンをクリックすると、設定結果を確認することができます。

- 1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ
- 2 [デバイスマネージャ] からカメラを選択し、[カメラ設定] をクリックする
 - [カメラ設定] 画面が表示されます。
- 3 [画質 ...] をクリックする
 - [デバイスの設定] 画面が表示されます。

ご注意：

- VGA 24KByte 程度の設定をおすすめします。高画質に設定すると、音声途切れたり、映像がコマ落ちすることがあります。



[デバイスの設定] 画面の一例

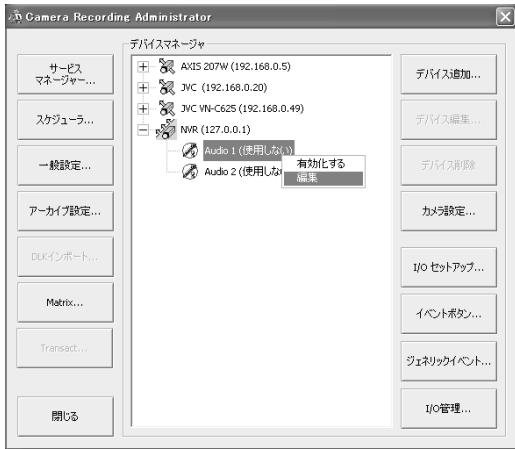
メモ：

- [デバイスの設定] 画面は各カメラによって異なります。
- 設定項目については、各カメラの [取扱説明書] を参考にしてください。

音声の記録設定をする

1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ

- [Camera Recording Administrator]画面が表示されます。



メモ :

- 下記操作でも、音声の設定が可能です
 - ① 音声ソースをもつデバイスの横にある[+]マークをクリックする
 - ② 音声ソースを選択して右クリックし、[編集]をクリックし、[音声デバイス設定]画面で設定をする。

2 [デバイスマネージャ] から音声を選択し、[カメラ設定] ボタンを押す

- [音声デバイス設定]画面が表示されます。
- 音声はマイクのアイコンで表示されています。



- 下記項目について設定します。

項目	内容
① 有効	音声ソースを有効 / 無効にします。 メモ : ● [デバイスマネージャ] セクション内のカメラまたは音声ソースを右クリックすることで、[無効にする]または[有効化する]を選択することもできます。
② デバイス名	音声ソース名を表示します。新しい名前を書き換えることもできます。
③ 記録先データベース	音声を、どのカメラのデータベースと共に記録するかを設定します。

メモ :

- 音声は、[記録先データベース]項目③に指定したカメラ画像のデータベース内に記録されます。
- [記録先データベース]項目③に指定したカメラのスケジューラがオンラインの間は、音声は常に記録されます。
- VR-N1600の場合、背面の[AUDIO IN 1/AUDIO IN 2]に入力された音声信号は、[デバイスマネージャ]上で、デバイス[NVR (127.0.0.1)]に[Audio1]、[Audio2]として割り当てられています。
- VR-N900の場合、背面の[AUDIO IN 1/AUDIO IN 2]に入力された音声信号は、[デバイスマネージャ]上で、デバイス[N900](192.168.201.12)に[Audio1]、[Audio2]として割り当てられています。

ご注意 :

- [記録先データベース]項目③に指定したカメラを“無効”にすると、音声は記録されません。
- [記録先データベース]項目③に指定したカメラのカメラ設定で音声ソースとして設定されていない場合は、そのカメラを選択しても音声は出力されません。

VR-N1600 のアナログ音声ソースを有効にする場合のご注意

NVR の Audio1、Audio2 設定の [記録先データベース] に設定するデバイスは、そのデバイス自身の音声デバイスを記録するチャンネルより後の入力チャンネルを使用してください。

(例)

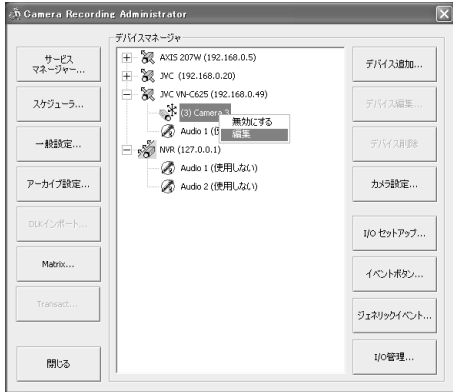
- × VN-E4 Audio1 ⇨ E4 Camera2、NVR Audio1 ⇨ VN-E4 Camera 1
- VN-E4 Audio1 ⇨ E4 Camera 1、NVR Audio1 ⇨ VN-E4 Camera2
- VN-E4 Audio1 ⇨ Disable、NVR Audio1 ⇨ VN-E4 Camera 1

カメラ映像を記録する（つづき）

カメラ名変更とカメラ番号の設定

1 カメラ名を選択して右クリックし、[編集]をクリックする

- [カメラ名と番号] 編集画面が表示されます。



項目	内容
① カメラ名	カメラ名を表示します。新しい名前 に書き換えることもできます。
② カメラ番号	カメラ番号を設定します。

ご注意：

- カメラ番号は、他と重ならないようにしてください。重複していると正しく動作しません。

画面表示設定

画面表示について（グループとビュー）

複数のカメラからの分割表示設定を、[ビュー]といいます。ビューはすべて[グループ]と呼ばれるフォルダに収納されます。

メモ：

- [グループ]には次の2つのフォルダがあります。
 - [Private]（個人）フォルダ：このフォルダ内のビューは、それを作成したユーザーしかアクセスできません。
 - [Shared]（共有）フォルダ：このフォルダ内のビューは、システムにアクセスできる全てのパソコンユーザーからアクセス可能です。
(63 ページ『グループとビューを作成する』)

[ビュー]セクション



ご注意：

- デフォルトのユーザーは、“Administrator” に設定されています。
- 自動検出機能で作成されたビュー (Default View) では、ビュー内のカメラの配置が変わることがあります。配置を固定したい場合はビューに名前をつけて保存してください。
- [Shared]（共有）フォルダのビューを変更する際に、[ビューグループ保存エラー]画面が表示されることがあります。この場合は [OK] ボタンをクリックして画面を閉じてから、[NVR Viewer] からログアウト (127 ページ) し、再度ログインして、ビューの変更をやりなおしてください。

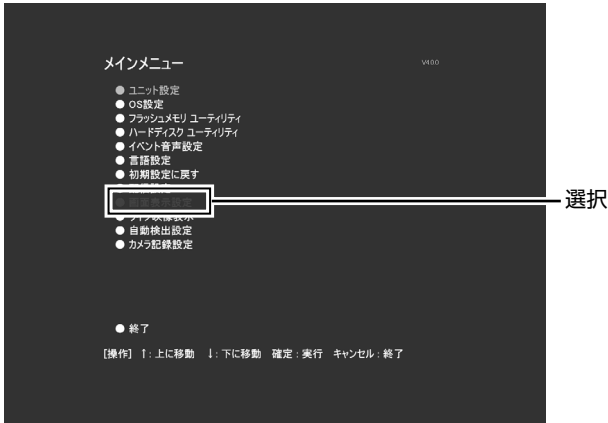


グループとビューを作成する

■ [グループ] を作成する

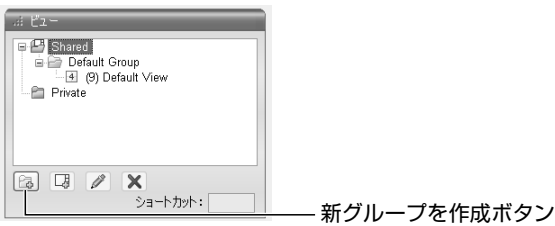
1 メインメニューから [画面表示設定] を選ぶ

- [ライブ映像表示]画面、[再生]画面が表示されているときは、マウスで [設定] タブをクリックすることもできます。



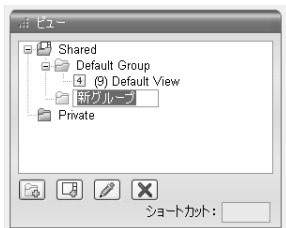
メインメニュー

2 新しくグループを作成したいルートフォルダを選ぶ

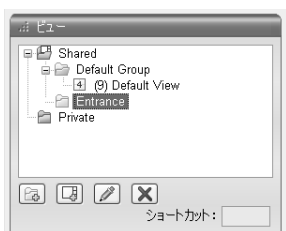


3 [ビュー]セクションの新グループを作成ボタンをクリックする

- 新しいグループが作成されます。

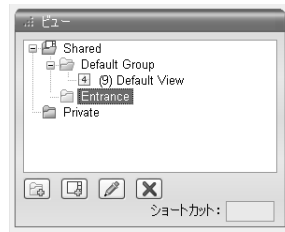


4 新しく作成するグループ名を入力する

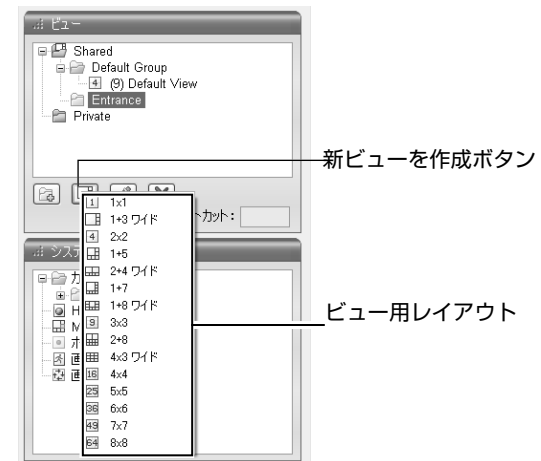


■ [グループ] 内に [ビュー] を作成する

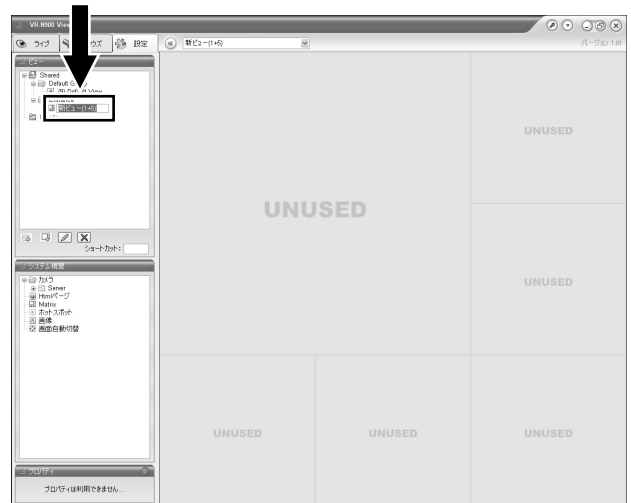
1 新しくビューを作成するグループを選ぶ



2 新ビューを作成ボタンをクリックし、新しいビュー用レイアウトを選ぶ



- 新しいビューがグループ内に作られます。



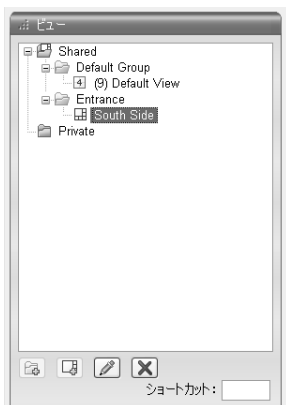
ご注意:

- 同時に 17 画面以上の表示をしないでください。(VR-N1600)
- 同時に 10 画面以上の表示をしないでください。(VR-N900)

画面表示設定 (つづき)

グループとビューを作成する (つづき)

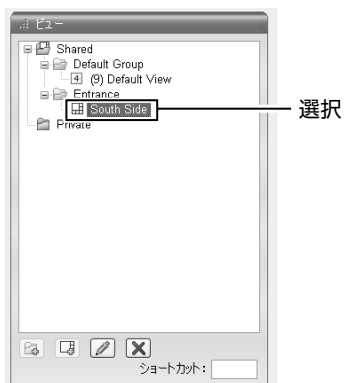
3 ビュー名を入力する



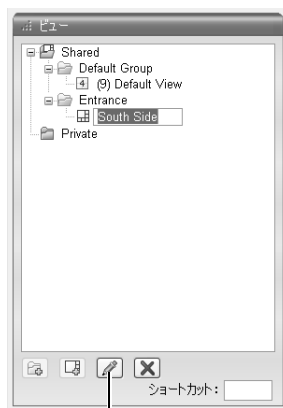
- 次にカメラをビューに追加します。(65ページ『カメラをビューに追加する』)

■ グループ／ビュー名を変更する

1 ビューから名前を変更したいグループ／ビューを選ぶ

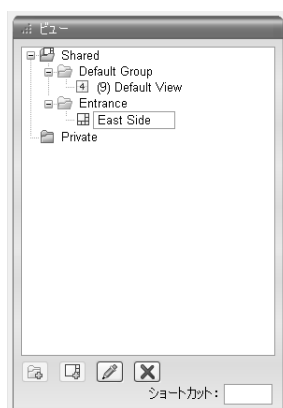


2 名前の変更ボタンをクリックする



名前の変更ボタン

3 グループ／ビュー名に上書きする



■ グループ／ビューを削除する

1 ビューから削除したいグループ／ビューを選ぶ

2 削除ボタン をクリックする

選択したグループとグループ内のすべてのビュー、あるいは選択したビューを削除してよいか、確認メッセージが表示されます。

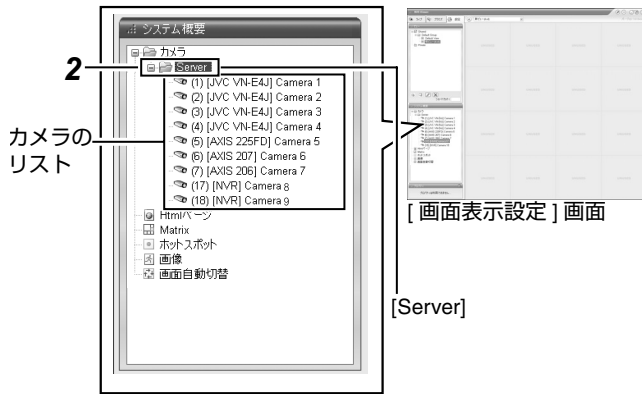
カメラをビューに追加する

1 ビューを選択する

- 選択した表示レイアウトが表示されます。

2 [システム概要]で[Server]の左側のプラス記号[+]をクリックする

- 利用できるカメラのリストが表示されます。



3 リストから表示したいカメラを選び、右側画像表示画面の画面上にドラッグする

- 選択カメラからの画像がカメラ名とともに表示されます。
- 各カメラについて同様の操作を繰り返します。

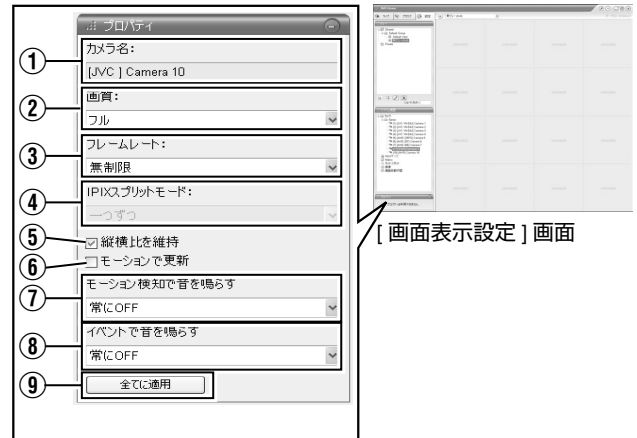
メモ：

- 同時に表示できるカメラの数は最大 16 台です。(VR-N1600)
- 同時に表示できるカメラの数は最大 9 台です。(VR-N900)

カメラ設定を調節する

1 [画面表示設定]画面で調節したいカメラを選ぶ

2 [プロパティ]を選ぶ



3 以下の設定から、必要に応じて調節する

項目	内容
① カメラ名	選択したカメラの名前を表示します。 (表示のみの項目です。)
② 画質	表示されたときの画像の解像度、画質を調節します。常に[フル]を選択してください。
③ フレームレート	表示のフレームレートです。 [カメラ設定]画面の『ライブの設定』(P.58 ページ)で設定したフレームレートに対して、[無制限] (デフォルトの設定、ライブの設定と同じ)、[中] (25%のフレームレート) または [低い] (5%のフレームレート) から選択します。
④ 縦横比を維持	チェックを入れると、表示位置のサイズに合わせて画像を伸縮しません。記録されたときのままのアスペクト比 (画面の縦横比) で表示されます。
⑤ モーションで更新	チェックを入れると、モーションが検知されたときのみ [ライブ映像表示] 画面の画像を更新します。
⑥ モーション検知で音を鳴らす	カメラからの画像を [ライブ映像表示] 画面で見ているときにモーションが検知されると、単純な音による通知を発するようにします。
常に OFF	モーション検知で通知を発しません。
常に ON	モーション検知が行われる度に音による通知を発します。

画面表示設定 (つづき)

カメラ設定を調節する (つづき)

項目	内容
⑦ イベントで音を鳴らす	カメラからの映像を [ライブ映像表示] 画面で見ているときに、選択したカメラに関連づけられたイベントが発生すると、単純な音による警告を発するようにします。 この機能を利用するには、イベント通知が設定されている必要があります。 (104 ページ)
常に OFF	カメラに関連づけられたイベントが発生しても音を出さない。
常に ON	カメラに関連づけられたイベントが発生するたびに音を出します。
⑧ 全てに適用	全てのカメラで一括して設定変更する場合に押します。

ご注意:

- 本機から全ての監視用パソコンに配信するフレームレートの合計が 80ips (VR-N1600)/30ips (VR-N900) 以下になるように設定してください。
- 画質を変更すると、記録フレームレートが低下することがあります。[画質] 設定の変更は記録性能に影響を与えますので“フル”のままでお使いください。
- 本機からはモーション検知、イベント発生時の通知音は出力されません。監視用パソコンにダウンロードした NVR Viewer のための機能です。

4 別のカメラの設定を調節するときは、手順 2～3 を繰り返す

メモ:

- すべてのカメラで一括して設定変更する場合、[全てに適用] ボタンを押すと、変更したカメラ設定はビュー内のすべてのカメラに適用されます。

他のパソコンからビューを使う

[Private] ビューを含めユーザー設定は本機に保存されます。したがって、本体および“NVR Viewer”をインストールした監視用パソコン (124 ページ) からユーザー名とパスワードを使い [Private] ビューを利用することができます。

1 NVR Viewer の [設定] タブをクリックする

ご注意:

- [設定] タブへアクセスできないように、ユーザー権限が設定されている場合があります。この場合、システム管理者にご相談ください。

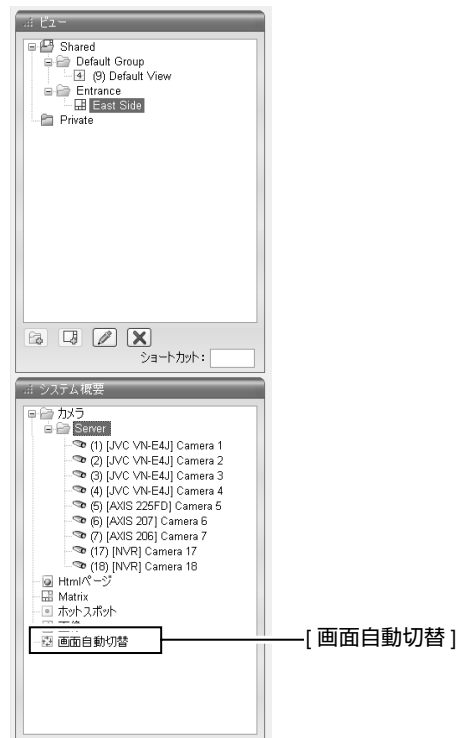
2 [ビュー] で利用したいフォルダを選ぶ

- ビューを作成したり、編集したりすることができます。
- 編集できないフォルダには [ロック] アイコンが表示されています。

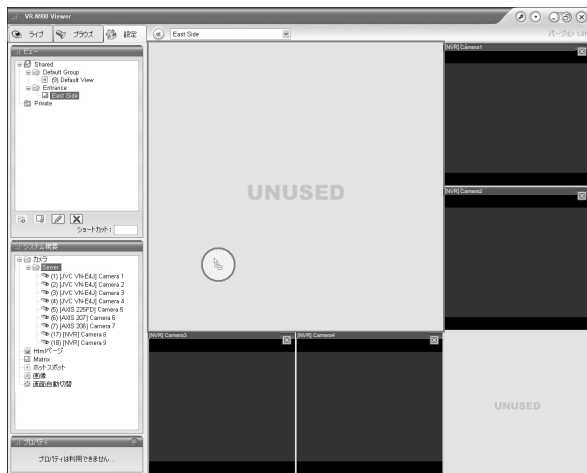
画面自動切替を設定する

画面自動切替機能を使うと、1 つの表示位置に複数のカメラからの映像を順番に表示させることができます。また、表示するカメラ切替間隔を設定することができます。

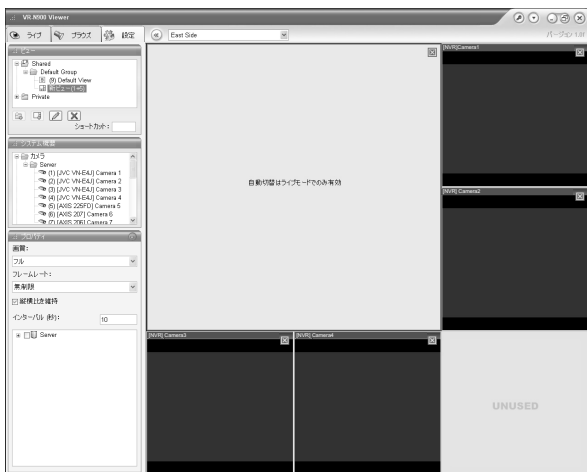
1 [画面表示設定] 画面を表示する



2 [システム概要]セクションで[画面自動切替]をクリックし、ビュー内の設定したい位置にドラッグする

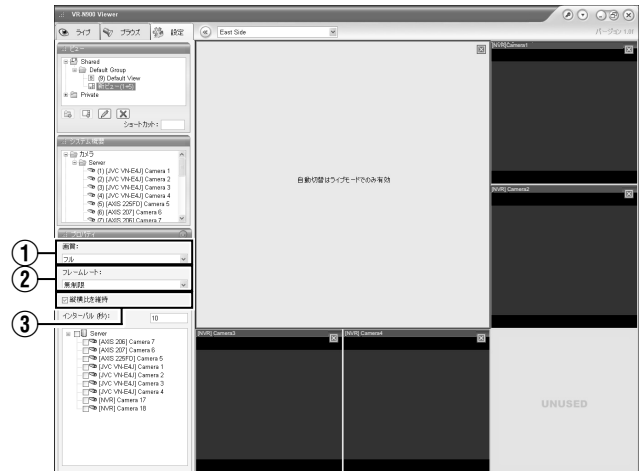


3 設定したい位置でマウスボタンを離す



4 画面自動切替に設定した位置を選択し、[プロパティ]セクションでプロパティを設定する

- はじめに、画面自動切替に追加するカメラを選択します。[Server]アイコン横のボックスにチェックを入れると、サーバー内全てのカメラを一度に選択することができます。



項目	内容
① 画質	表示されたときの画像の解像度、画質を調節します。常に[フル]を選択してください。
② フレームレート	表示のフレームレートです。 [カメラ設定]画面の『ライブの設定』(58 ページ)で設定したフレームレートに対して、[無制限] (デフォルトの設定、ライブの設定と同じ)、[中] (25% のフレームレート) または [低い] (5% のフレームレート) から選択します。
③ 縦横比を維持	チェックを入れると、表示位置のサイズに合わせて画像を伸縮しません。記録されたときのままのアスペクト比 (画面の縦横比) で表示されます。

ご注意：

- 画質を変更すると、記録フレームレートが低下することがあります。[画質]の設定は記録性能に影響を与えますので“フル”のままお使いください。

メモ：

- 緑色の枠は、その位置が画面自動切替に設定されていることを示します。
- 画面自動切替に表示させるカメラの順番は、[デバイス名+カメラ名]によって自動的に決まります。カメラはアルファベット順に繰り返し表示されます。

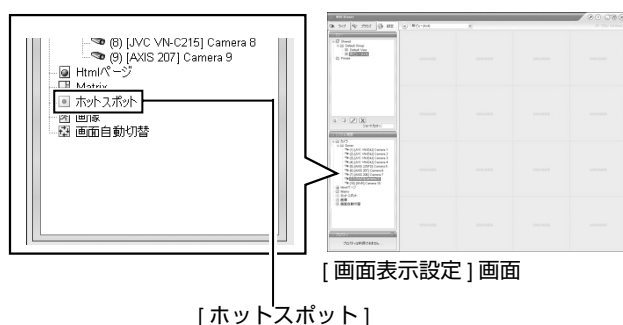
画面表示設定（つづき）

ホットスポット（拡大画像）を設定する

ホットスポット指示位置には、ビュー内で選択したカメラを表示します。通常は他より大きい表示位置、例えば [1 + 7] のレイアウトの [1] の部分などにホットスポットを設定すると、選択した時に拡大した画像で見ることができます。

1 [画面表示設定] 画面を表示する

2 [システム概要] セクションで [ホットスポット] をクリックし、[ビュー] 内の設定したい位置にドラッグする



3 設定したい位置でマウスポタンを離す

4 [ホットスポット] に設定した位置を選択し、[プロパティ] セクションでプロパティを設定する

項目	内容
① 画質	表示されたときの画像の解像度、画質を調節します。常に [フル] を選択してください。
② フレームレート	表示のフレームレートです。 [カメラ設定] 画面の『ライブの設定』(58 ページ) で設定したフレームレートに対して、[無制限] (デフォルトの設定、ライブの設定と同じ)、[中] (25% のフレームレート) または [低い] (5% のフレームレート) から選択します。
③ 縦横比を維持	チェックを入れると、表示位置のサイズに合わせて画像を伸縮しません。記録されたときのままのアスペクト比 (画面の縦横比) で表示されます。

ご注意：

- 画質を変更すると、記録フレームレートが低下することがあります。[画質] の設定は記録性能に影響を与えますので “フル” のままでお使いください。

メモ：

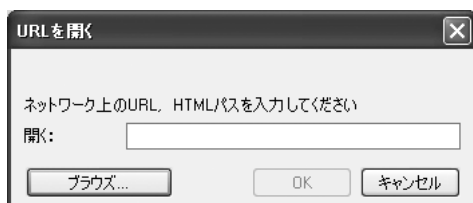
- [ホットスポット] 機能を使うと、他の画像には低いフレームレートを使用し、ホットスポットには高いフレームレートを使用するといった、便利な使い方ができます。
- オレンジ色の枠は、その位置がホットスポットに設定されていることを示します。
- 複数のビューでホットスポットを設定しビューを切り換えた場合、切り換え後のビューに設定したホットスポットウィンドウには、切り換え前のビューで表示していたカメラ映像が引き続き表示されます。

[Html ページ] を使う

1 [システム概要] から [Html ページ] をクリックする



2 所定の場所までマウスをドラッグ・ドロップする
[URL を開く] 画面が表示されます。



3 URL を入力し、[OK] をクリックする

4 [ビュー] 内の [Html ページ] を選択し、[プロパティ] セクションでプロパティを設定する

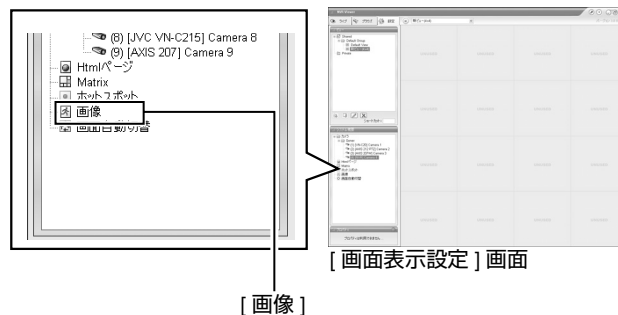
項目	内容
URL	新しい URL を入力する場合は、[変更 ...] ボタンをクリックします。
スケーリング	HTML ページの表示サイズを選びます。
HTML スクリプトは有効	ナビゲーション機能やトリガー機能を含む HTML ファイルを指定する場合にチェックします。

ご注意：

- ActiveX、Flash などを含むページには対応していません。
- ActiveX のインストールは行わないでください。
- リンク先によってはセキュリティ上問題になることがありますのでご注意ください。

静的イメージ (GIF, JPEG ファイルなど) を使う

1 [システム概要] から [画像] をクリックする



2 所定の場所までマウスをドラッグ・ドロップする
● [ファイルを開く] 画面が表示されます。



[ファイルを開く] 画面

3 画像ファイルを選ぶ

ご注意：

- 監視用パソコンから接続している場合は、別のパソコンで設定した静的イメージを表示することはできません。
- 本機に静的イメージを追加することはできません。

マトリックスの表示位置を設定する

Milestone Systems 社のマトリックスを使うための設定です。

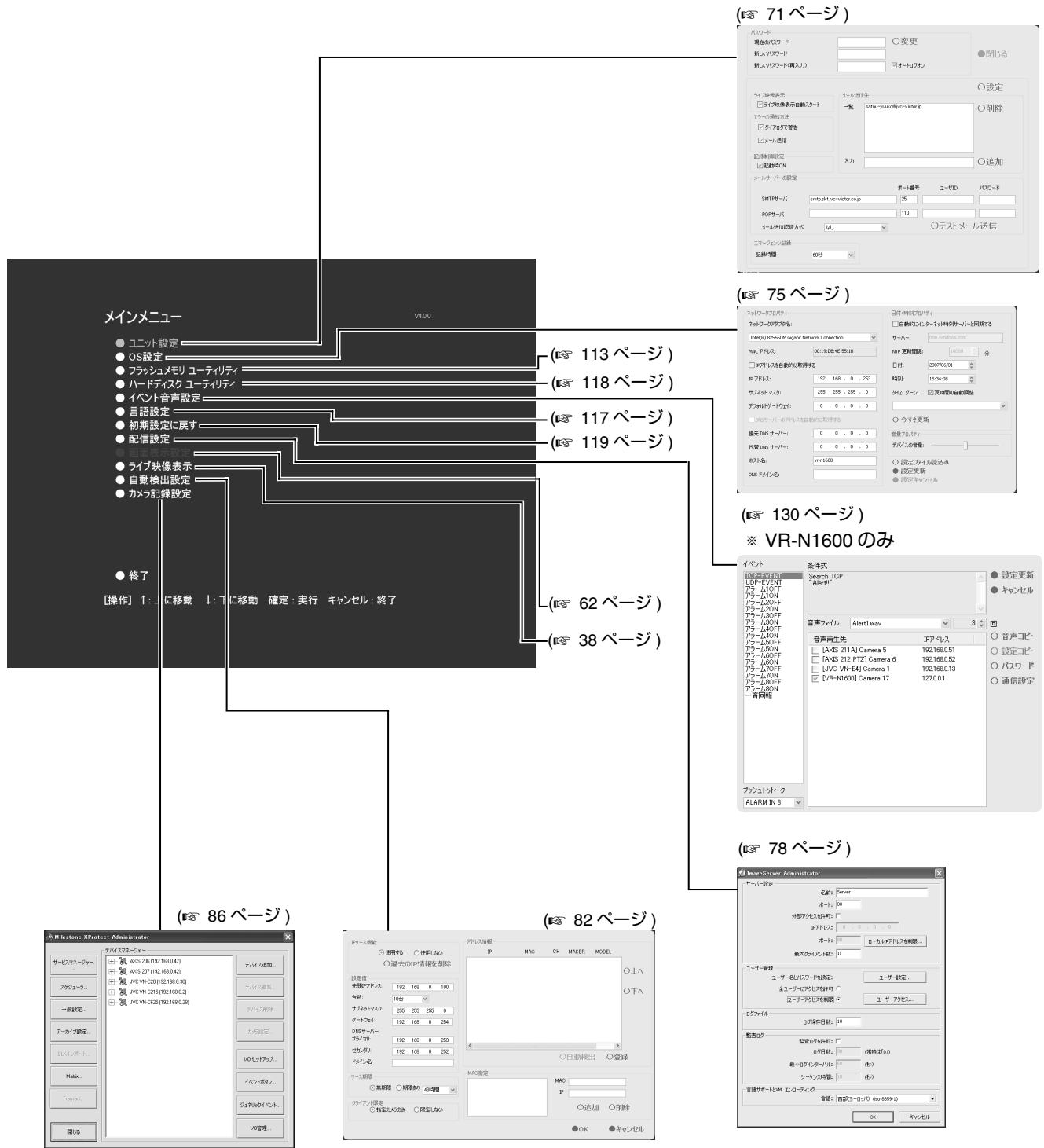
詳細は Milestone Systems 社の XProtect Smart Client User's Manual をご覧ください。
(<http://www.milestonesys.com>)

メモ：

- URL は変更される場合があります。

メインメニュー

メニュー画面一覧



ユニット設定

アカウント設定やエラー発生時の処理、シリアルポートの設定などのユニット関連の設定を行います。

項目	設定値	内容	参照ページ
① パスワード		本機のログオンパスワードに関する設定をします。 ご注意： ● パスワードは数字のみで設定してください。	☞ 33 ページ
現在のパスワード	—	パスワードを変更する場合に、[現在のパスワード]を入力します。	
新しいパスワード	—	新しいパスワードを入力します。	
新しいパスワード (再入力)	—	確認のため、再度新しいパスワードをに入力し、[変更...]をクリックし、パスワードの変更を有効にします。	
オートログオン	● チェック チェックなし	電源投入時に、自動的にログオンしたいときは、[オートログオン]をチェックしてください。	
変更...	—	パスワードの変更を実行します。	
② ライブ映像表示			
ライブ映像自動スタート	● チェック チェックなし	チェックを入れるとシステム起動時に自動的にライブ映像を表示します。	

メインメニュー（つづき）

ユニット設定（つづき）

項目	設定値	内容	参照ページ
③ エラーの通知方法			
ダイアログで警告	● チェック チェックなし	[ダイアログで警告]を選択すると、画面上に警告ダイアログが表示されます。	☞ 152 ページ
メール送信	● チェック チェックなし	[メール送信]を選択すると、あらかじめ登録されている送信先にメールで異常を伝えます。 メモ： ● エラーの内容につきましては、[ワーニング]表示灯点灯時の対応をご覧ください。(☞ 152 ページ)	—
④ 記録制御設定			
起動時に ON	● チェック チェックなし	チェックを入れるとシステム起動時に記録制御モードが ON の状態になります。	—
⑤ メールサーバーの設定			
SMTP サーバー		メール送信サーバーの設定です。	—
ポート番号	● 25		
ユーザー ID	—		
パスワード	—		
POP サーバー		メール受信サーバーの設定です。	—
ポート番号	● 110		
ユーザー ID	—		
パスワード	—		
メール送信認証方法	● なし SMTP 認証 POP before SMTP	メールを送信するときのユーザー認証方式を選びます。設定値については、メールシステム管理者にご相談ください。	
テストメール送信		クリックすると、[メール送信先]項目⑦で設定したアドレスにテストメールを送信します。	
⑥ エマージェンシー記録			
記録時間	しない 30秒 ● 60秒 5分 10分 20分 継続	リアパネルの [EMERGENCY] 端子からの信号を入力すると、全チャンネル記録を始めるエマージェンシー記録の継続時間を選択します。 “継続”を選ぶと、フロントパネルで記録停止操作が行われるまで記録を継続します。	☞ 54 ページ

項目	設定値	内容	参照ページ
⑦ シリアル設定 (VR-N900)		カメラを制御するシリアルポートに関する設定を行います。 設定値については、ご使用になられるカメラの取扱説明書を参照の上、全てのパラメータを正確に設定してください。	—
通信速度	1200 1800 2400 4800 ● 9600 19200 38400		
データ長	7 ● 8		
パリティ	● なし 奇数 偶数		
ストップビット	● 1 2		

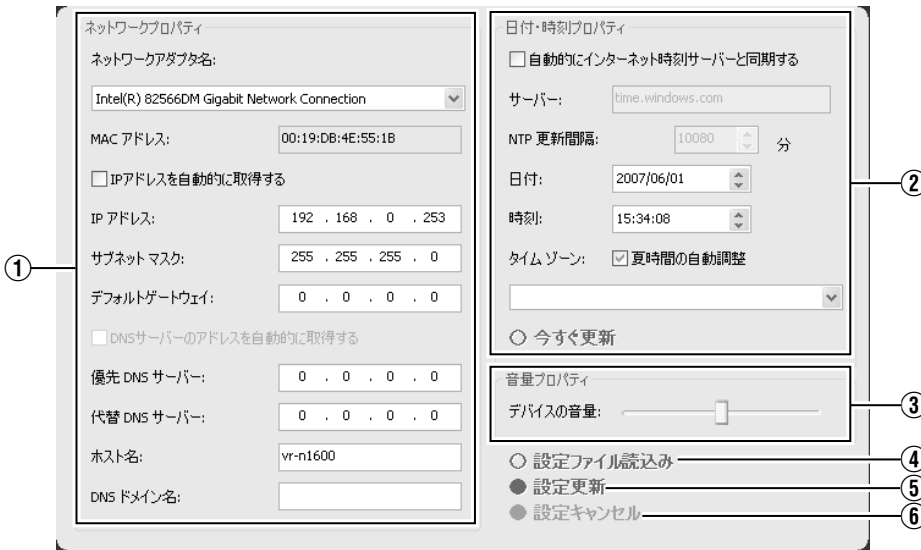
メインメニュー (つづき)

ユニット設定 (つづき)

項目	設定値	内容	参照ページ
⑧ エンコードの方式 (VR-N900)	Variable File Size ● Average File Size Constant File Size	<p>アナログ画像データをデジタルデータにエンコードするときの方式について、次の3つから選択できます。</p> <p>JPEG エンコード時の符号量制御方式と目標ファイルサイズを指定します。</p> <p>Variable File Size : ファイルサイズは画像に応じて増減します。画質を一定に保ちたい場合はこれを選択してください。</p> <p>メモ: _____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JPEG ファイルを記録する場合、本選択ではファイルサイズが増減するので、最大記録時間も変動する点にご注意ください。 <p>Average File Size : 複数の JPEG ファイルの平均サイズが指定サイズになるようにエンコードされます。</p> <p>Constant File Size : 1枚1枚の JPEG ファイルのサイズが指定サイズになるようにエンコードされます。Constant File Size では処理負荷が大きいため、処理できる最大フレームレートが約4分の1に低下します。</p> <p>メモ: _____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指定サイズは [カメラ記録設定] の [デバイス設定] 画面 (☞ 60 ページ) の [画質] バーで設定します。 	—
フィールド補間	● チェック チェックなし	動く物体による櫛状ノイズ (ギザギザに見えるノイズ) が気になる場合にチェックを入れます。	—
⑨ メール送信先		[エラーの通知方法] 項目③で“メール送信”を選択した場合のメール送信先を設定します。送信先を追加する場合は、入力欄にメールアドレスを設定し、[追加]を押します。通知先から削除する場合は、[一覧]から削除するメールアドレスを選択し、[削除]を押します。	—
一覧	—		
入力	—		
⑩ 閉じる		ユニット設定画面を閉じます。	—

OS 設定

ネットワーク設定や時刻設定、音量設定などの OS 関連の設定を行います。
設定によっては再起動が必要な場合があります。



■ ネットワークアダプター

本機の IP アドレスなどの設定を行います。本機は、カメラネットワーク、イントラネットワーク、それぞれに IP アドレスを持っており、初期値はカメラネットワーク (192.168.0.253)、イントラネットワーク (192.168.1.253) です。ホスト名は各アダプタに共通の設定です。

● LAN1 (カメラネットワーク) の設定を行う場合

項目	設定値	内容
① ネットワークアダプタ名	VR-N1600 : IntelT 82566DM Gigabit Network Connection VR-N900 : Realtek RTL8169/ 8110 Family Gigabit Ethernet NIC	LAN1 (カメラネットワーク) を使用する場合の設定です。
IP アドレスを自動的に取得する	チェック ● チェックなし	
IP アドレス	● 192.168.0.253	メモ : _____ ● 初期値以外の設定にする場合の IP アドレスなどは、システム管理者にご相談ください。 ● ホスト名を変更した場合には、[配信設定] の [ユーザ管理] で [Windows user を追加] する必要があります。(P. 120 ページ) ● [OS設定]画面でカメラネットワークとイントラネットワークそれぞれに、デフォルトゲートウェイを設定しないでください。正常に動作しなくなる場合があります。
サブネットマスク	● 255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	● 0.0.0.0	
優先 DNS サーバー	● 0.0.0.0	
代替 DNS サーバー	● 0.0.0.0	
ホスト名	VR-N1600 : vr-n1600 VR-N900 : vr-n900	
DNS ドメイン名	—	

メインメニュー（つづき）

OS 設定（つづき）

● LAN2（イントラネットワーク）の設定を行う場合

項目	設定値	内容
① ネットワークアダプタ名（つづき）	IntelE8225xER PCI Adapter	LAN2（イントラネットワーク）を使用する場合の設定です。
IP アドレスを自動的に取得する	チェック ● チェックなし	
IP アドレス	● 192.168.1.253	メモ： _____ ● 初期値以外の設定にする場合の IP アドレスなどは、システム管理者にご相談ください。 ● ホスト名を変更した場合には、[配信設定] の [ユーザ管理] で [Windows user を追加] する必要があります。(P. 120 ページ) ● [OS 設定] 画面でカメラネットワークとイントラネットワークそれぞれに、デフォルトゲートウェイを設定しないでください。正常に動作しなくなる場合があります。
サブネットマスク	● 255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	● 192.168.1.254	
優先 DNS サーバー	● 0.0.0.0	
代替 DNS サーバー	● 0.0.0.0	
ホスト名	VR-N1600 : vr-n1600 VR-N900 : vr-n900	
DNS ドメイン名	—	

● アナログカメラネットワークの設定を行なう場合（VR-N900 のみ）

項目	設定値	内容
① ネットワークアダプタ名	Enc Board Bus Master Driver	アナログカメラを使用する場合の設定です。
IP アドレスを自動的に取得する	チェック ● チェックなし	
IP アドレス	● 192.168.201.253	メモ： _____ ● 初期値以外の設定にする場合の IP アドレスなどは、システム管理者にご相談ください。 ● ホスト名を変更した場合には、[配信設定] の [ユーザ管理] で [Windows user を追加] する必要があります。(P. 120 ページ) ● [OS 設定] 画面でカメラネットワークとイントラネットワークそれぞれに、デフォルトゲートウェイを設定しないでください。正常に動作しなくなる場合があります。
サブネットマスク	● 255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	● 0.0.0.0	
優先 DNS サーバー	● 0.0.0.0	
代替 DNS サーバー	● 0.0.0.0	
ホスト名	● vr-n900	
DNS ドメイン名	—	

ご注意： _____

- VR-N900 内部では、アナログ入力をネットワークエンコーダ（IP ビデオサーバー）として扱い、その IP アドレスは“192.168.201.12”に設定されています。
工場出荷時、VR-N900 のアナログカメラネットワーク IP アドレスは“192.168.201.253”に設定されています。通常は設定を変更しないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

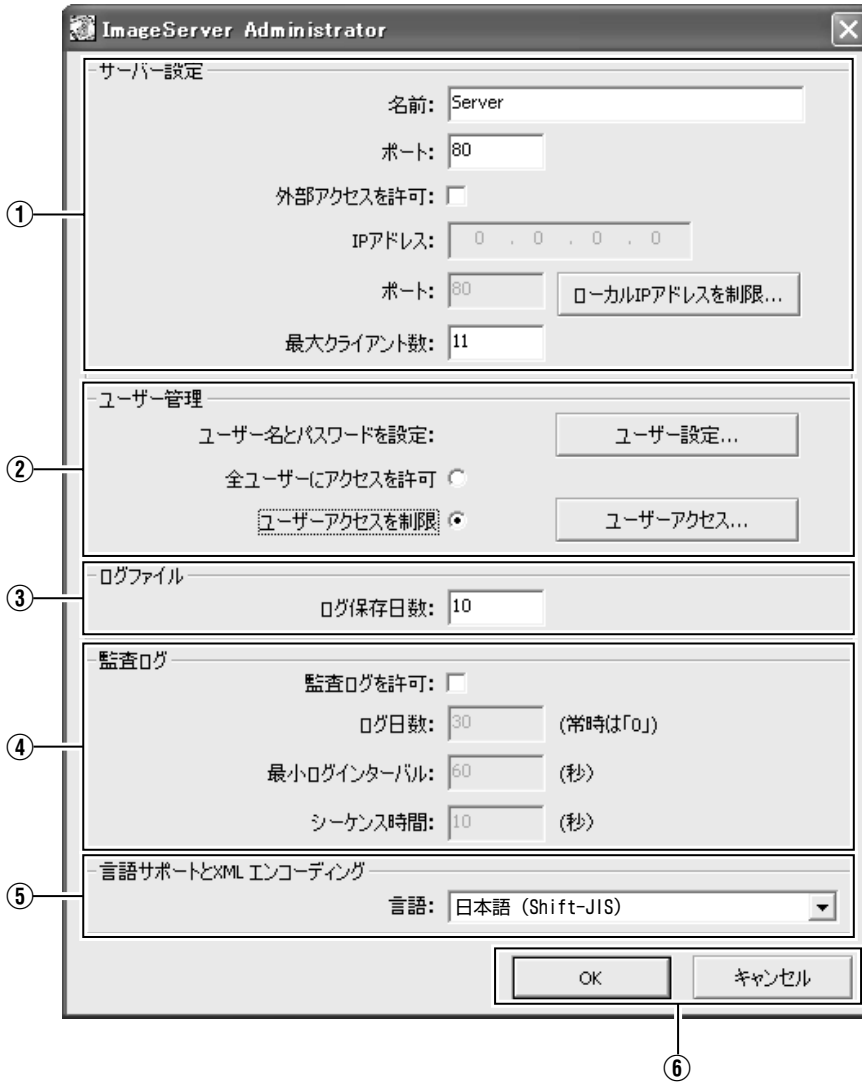
● その他の設定

項目	設定値	内容
② 日付・時刻プロパティ		
自動的にインターネット時刻サーバーと同期する	チェック ● チェックなし	インターネット時刻サーバーとの同期もしくは、手動での日付・時刻設定を行う場合、[今すぐ更新]をクリックします。 チェックをするとシステムの時刻を時刻サーバーと同期させる設定にします。 ご注意： <ul style="list-style-type: none"> ● チェックすると、手動で時刻と日付を設定することはできません。設定ボックスは変更不可になります。 ● 日付・時刻プロパティの設定は、[今すぐ更新]をクリックしないと反映されません。 ● 時刻変更により、記録が重なった時間は、正常に再生できないことがあります。 ● 運用中に時分秒の“時”が変更された場合、ライブ映像表示が正常動作しなくなる場合があります。この場合は本機を再起動してください。
サーバー	—	インターネット時刻サーバーのアドレスを入力します。 ご注意： <ul style="list-style-type: none"> ● 時刻サーバーは LAN2 のネットワークに接続してください。
NTP 更新間隔	—	インターネット時刻サーバーを同期する時間間隔を分単位で選択します。
日付	—	手動で日付を設定するときに入力します。 ご注意： <ul style="list-style-type: none"> ● [日付・時刻プロパティ]の設定は、[今すぐ更新]をクリックしないと反映されません。 ● 時刻変更により、記録が重なった時間は、正常に再生できないことがあります。 ● 運用中に時、分、秒の“時”が変更された場合、ライブ映像表示が正常動作しなくなる場合があります。この場合は本機を再起動してください。
時刻		
タイムゾーン	● (GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo	タイムゾーンを設定します。 ご注意： <ul style="list-style-type: none"> ● 以前記録したデータの日時と重複する日時を設定しないでください。 ● タイムゾーンを正しく設定しないと、インターネット時刻サーバーと同期した場合に、正しい時刻がシステムで利用されません。 ● タイムゾーンを変更したときは、[機能]ボタンを押しながら[ライブ/再生]ボタンを押して、NVR Viewer を再起動してください。
③ 音量プロパティ		
デバイスの音量	● センター位置	スライダーを操作してボリューム設定をします。
④ 設定ファイル読み込み	—	以前に設定した、設定ファイルを読み込んで画面に表示します。
⑤ 設定更新	—	入力、選択した内容がシステムに設定され、終了します。 手動での時刻更新は行いません。手動で時刻を更新するには [日付・時刻プロパティ]項目 ③ で行なってください。
⑥ 設定キャンセル	—	入力、選択したすべての設定を無視して終了します。

メインメニュー (つづき)

配信設定

パソコンと接続するための設定や、[ライブ映像表示]画面、[再生]画面を表示するための設定を行います。
本機での[ライブ映像表示]画面、[再生]画面、[画面表示設定]画面の操作についても配信設定が適用されます。



項目	設定値	内容
① サーバー設定		サーバー名、ポート番号、外部からのアクセス詳細を設定します。
名前	● Server	サーバー名を設定します。
ポート	● 80	サーバー用に使用するポート番号を設定します。
外部アクセスを許可	<input type="checkbox"/> チェック <input checked="" type="checkbox"/> チェックなし	<p>インターネットに接続されている監視用パソコンから、ルーターやファイアウォールを通してインターネット経由で本機に接続できるようにする場合はチェックを入れます。</p> <p>チェックを入れた場合は、[IP アドレス] 欄にルーターまたはファイアウォールのインターネット側のグローバル IP アドレスを、[ポート] 欄に監視用パソコンがアクセスするためのポート番号を指定してください。</p> <p>インターネットに接続された監視用パソコンからのアクセスを許可する場合は、ルーターやファイアウォールで適切なポートフォワーディングの設定を行なってください。</p> <p>詳しくは、各機器の [取扱説明書] をご覧ください。</p>
IP アドレス	—	インターネットで本機に接続する際のグローバル IP アドレスを指定します。
ポート	—	インターネットで本機に接続する際のポート番号を指定します。
ローカル IP アドレスを制限	—	<p>Milestone Systems 社の Master/Slave 機能を使うための設定です。</p> <p>画面の左欄に IP アドレス範囲の始まりを、右欄に IP アドレス範囲の終わりをを入力し、[追加] ボタンをクリックします。</p> <p>IP アドレス範囲は必要なだけ設定することができます。</p> <p>メモ： —</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 つの IP アドレスを設定することも可能です。(例：192.168.10.1 ~ 192.168.10.1) ● 詳細につきましては、Milestone Systems 社のホームページ (http://www.milestonesys.com) をご覧ください。URL は変更される場合があります。
最大クライアント	● 11	同時接続できる NVR Viewer の最大ユーザー数を指定します。本機で [ライブ映像表示] 画面、[再生] 画面で [NVR Viewer] を使う場合もユーザー数に含まれます。11 以上を設定しないでください。
② ユーザ管理		ユーザーの登録とユーザー権限の設定を行います。
ユーザー設定 ...	—	<p>ボタンをクリックすると [ユーザ管理] 画面が表示され、[ユーザー] とパスワードを設定できます。ユーザーの追加方法には 2 通りあります。</p> <p>メモ： —</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーを追加した場合、[ユーザ管理] 画面のアイコンの左上に小さな四角形が表示されます。[ユーザーを追加] と [Windows user を追加] で同じユーザー名を登録した場合、この記号で区別することができます。
ユーザー	VR-N1600 : vr-n1600 VR-N900 : vr-n900 Administrator	<p>タイプ：基本ユーザー</p> <p>パスワード：vr-n1600 (VR-N1600)、vr-n900 (VR-N900)</p> <p>タイプ：Windows もしくは Active Directory ユーザー</p> <p>パスワード：なし</p>
ユーザーを追加	—	ユーザー名とパスワードによる認証を行う監視システム専用のユーザーアカウントを作成します。

メインメニュー（つづき）

配信設定（つづき）

項目	設定値	内容
② ユーザ管理（つづき）		
ユーザー設定 ...（つづき）		
Windows user を追加	—	<p>通常は使用しません。この設定はシステム管理者にご確認ください。</p> <p>ご注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> OS 設定でホスト名を変更した場合には、[ユーザーまたはグループの選択] 画面の [選択するオブジェクト名を入力してください] に、[Administrator] と入力し、[名前の確認] ボタンをクリックしてください。その後 [OK] ボタンをクリックしてください。 Windows ユーザーは、[OS 設定] の [ホスト名] で設定したホスト名ごとに Windows ユーザーを設定する必要があります。(☞ 75 ページ) [ユーザ管理] 画面ではユーザーのホスト名が表示されないため、ホスト名を変更した場合には、Windows ユーザーを削除してから、あらためて Windows ユーザーを追加することを推奨します。(☞ 120 ページ)
削除	—	<p>設定済みのユーザーを削除します。</p> <p>[現ユーザー / グループ] リストで削除したいユーザーを選び、[削除] ボタンを押してください。リストから削除されたユーザーは、NVR Viewer ログインできなくなります。</p>
パスワードを変更	—	<p>設定済みのユーザー名とパスワードを編集します。</p> <p>[現ユーザー / グループ] リストで編集したいユーザーを選び、[パスワードを変更 ...] ボタンを押してください。</p>
ユーザー名とパスワードを設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ユーザーにアクセス許可 ユーザーアクセスを制限 	<p>[全ユーザーにアクセス許可]: 全ユーザーに NVR Viewer の全機能と全てのカメラへのアクセスを許可する場合にチェックを入れます。</p> <p>[ユーザーアクセスを制限]: ユーザーアクセスを制限する場合にチェックを入れます。次に、[ユーザーアクセス ...] ボタンをクリックしてユーザーごとにアクセス権限を設定します。</p> <p>メモ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユーザー権限の詳細は、[ユーザー権限の設定方法] (84 ページ) をご覧ください。

項目	設定値	内容
③ ログファイル		ログ情報は、障害発生時の解析に必要となる場合があります。
ログ保存日数	● 10	[配信設定] でイベント・ログを保存する日数を指定します。
④ 監査ログ		クライアントパソコンユーザーに関するログファイルの設定を行います。
監査ログを許可	チェック ● チェックなし	
ログ日数	● 30	監査ログを保存する日数を指定します。
最小ログインターバル	—	ログを取得する最小間隔を指定します。
シーケンス時間	—	同一シーケンスと見なす最大閲覧時間を指定します。
⑤ 言語サポートと XML エンコーディング		使用可能な言語を選択します。カメラ名、ユーザー名、パスワード用の言語 (ローカル・キャラクターセット) を選択します。ご使用の言語に合わせて設定してください。
言語	標準中国語 (Big5) 日本語 (euc-jp) 簡体字中国語 (GB2312) 中央および東ヨーロッパ言語 (ibm852) キリル文字 (ibm866) 西部 (ヨーロッパ)(iso-8859-1) タイ語 (iso-8859-1) 中央および東ヨーロッパ言語 (iso-8859-2) 南ヨーロッパ言語 (ラテン系) (iso-8859-3) バルト語 (iso-8859-4) キリル文字 (iso-8859-5) アラブ語 (iso-8859-6) ギリシャ語 (iso-8859-7) ヘブライ語 (iso-8859-8) トルコ語 (iso-8859-9) 韓国語 (ks_c_5601-1987) ● 日本語 (Shift-jis) ユニバーサル (UTF7)(utf-7) ユニバーサル (UTF8)(utf-8) 中央および東ヨーロッパ言語 (windows-1250) キリル文字 (windows-1251) 西部 (ヨーロッパ)(windows-1252) ギリシャ語 (windows-1253) ヘブライ語 (windows-1255) アラブ語 (windows-1256) バルト語 (windows-1257) ベトナム語 (windows-1258) タイ語 (windows-874) 日本語 (_iso-2022-jp\$ESC)	必ず“日本語 (Shift-jis)”に変更してご使用ください。日本語 (Shift-jis) 以外で使用すると不具合が発生します。

ご注意：

- [配信設定]-[ログファイル] 項目 ③ の [ログ保存日数] と [監査ログ] 項目 ④ の [ログ日数] の設定は機能しません。
[カメラ記録設定]-[一般設定]-[ログファイル設定] (108 ページ) が有効になります。

メインメニュー（つづき）

自動検出設定

カメラへの IP アドレス割り振り、自動検出関連の各種設定を行います。

自動検出機能の手順については、『自動検出機能を使う』（P.116 ページ）をご覧ください。



項目	設定値	内容	参照ページ
① IP リース機能	使用する ● 使用しない	各ネットワークカメラに IP アドレスを割り振る機能を設定します。 メモ： ● IPリース機能でネットワークカメラのIPアドレスを割り振るためには、ネットワークカメラの DHCP を有効にしておく必要があります。ネットワークカメラの DHCP を有効にするには、ネットワークカメラの [取扱説明書] をご覧ください。 ● 本機を複数台同時使用するネットワークの場合、[IP リース機能] を有効にするのは、1 台だけにしてください。また、同一ネットワーク上に DHCP サーバーが稼働している場合には、“使用しない” を選ぶようにしてください。[IP リース機能] を同時に 2 台以上有効にすると、固定 IP になってしまうなど、カメラが誤動作する場合があります。	115 ページ
② 設定値			—
先頭 IP アドレス	● 192.168.0.100	カメラに割り振る IP アドレスの先頭アドレスを指定します。	
台数	● 20 台 1 台 ~ 99 台	カメラに割り振る IP アドレスの台数を選びます。先頭 IP アドレスから選んだ台数分の IP アドレスが割り振られます。	
サブネットマスク	● 255.255.255.0	カメラに設定するサブネットマスクを指定します。	
ゲートウェイ	● 192.168.0.254	カメラに設定するゲートウェイを指定します。	
DNS サーバー			
プライマリ	● 192.168.0.253	カメラに設定するプライマリ DNS を指定します。	
セカンダリ	● 192.168.0.252	カメラに設定するセカンダリ DNS を指定します。	
ドメイン名	—	カメラに設定するドメイン名を指定します。	
③ リース期限	● 無期限 期限あり	カメラに割り当てる IP アドレスの有効期限を設定します。“期限あり” を選択すると、リース期限を時間単位で選択することが出来ます。(設定値：1 時間 ~ 99 時間)	
④ クライアント限定	● 指定カメラのみ 限定しない	IP アドレスを割り当てる際に、機器を限定するかを選択します。“指定カメラのみ” を選択した場合は、対応カメラのみ IP アドレスを割り当てます。“限定しない” を選択した場合は、どの機器に対しても IP アドレスの割り当てを行います。	

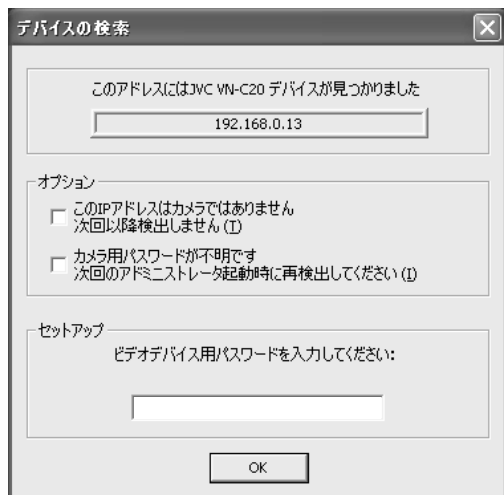
メインメニュー（つづき）

自動検出設定（つづき）

項目	設定値	内容	参照ページ
⑤ アドレス情報	—	<p>[アドレス情報] リストには、自動検出したカメラの IP アドレス、MAC アドレス、映像 CH 数、メーカー名、機種名が表示されます。</p> <p>[自動検出] をクリックすると自動検出を行い、画面に表示します。上位にあるカメラが優先的に使用されます。</p> <p>ソートボタンをクリックすると検出されたカメラの順番をソートすることができます。</p> <p>ソートボタンには、[IP] ソートボタン、[MAC] ソートボタン、[CH] ソートボタン、[MAKER] ソートボタン、[MODEL] ソートボタンがあります。</p> <p>検出されたカメラを選んでから [上へ]、[下へ] ボタンをクリックすると、カメラの順番が入れ替わります。使用しないカメラの場合はチェックをはずしてください。この状態で [登録]⇒[OK] をクリックすると、[デバイス検索] 画面が表示されます。カメラのパスワードを入力すると [カメラ記録設定] 画面が表示されます。[閉じる] をクリックすると DefaultView が自動的に作成されます。このビューを保存したい場合は、ビューの名前を変更してください。</p> <p>メモ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スイッチング HUB などのネットワーク機器にマルチキャストパケットを通さない設定がされていると、カメラなどの自動検出が正しく行えない場合があります。 ● [Analog-in] は、VR-N900 内蔵のアナログ入力です。使用する CH 数が、最優先で設定されます。(VR-N900) <p>ご注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [Analog-in] のチェックを外すと、背面信号入力端子の [ALARM IN1 ~ 4] が使用できなくなります。(VR-N900) 	<p>115 ページ</p> <p>23 ページ</p>
⑥ MAC 指定	—	<p>[MAC 指定] はカメラに、指定した IP アドレスを割り当てたい場合に設定します。指定した MAC アドレスには、常に指定した IP アドレスが割り当てられます。[MAC] 欄と [IP] 欄に値を設定して [追加] を押すと設定されます。また、表示されている MAC アドレスと IP アドレスを選択して、[削除] を押すと、設定が解除されます。</p>	
⑦ OK/ キャンセル	—	<p>クリックすると設定画面が非表示になり、設定に従って IP 割り振り機能が開始または停止します。</p>	

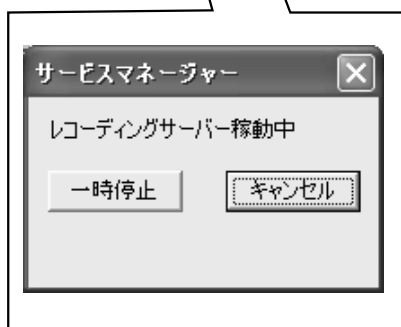
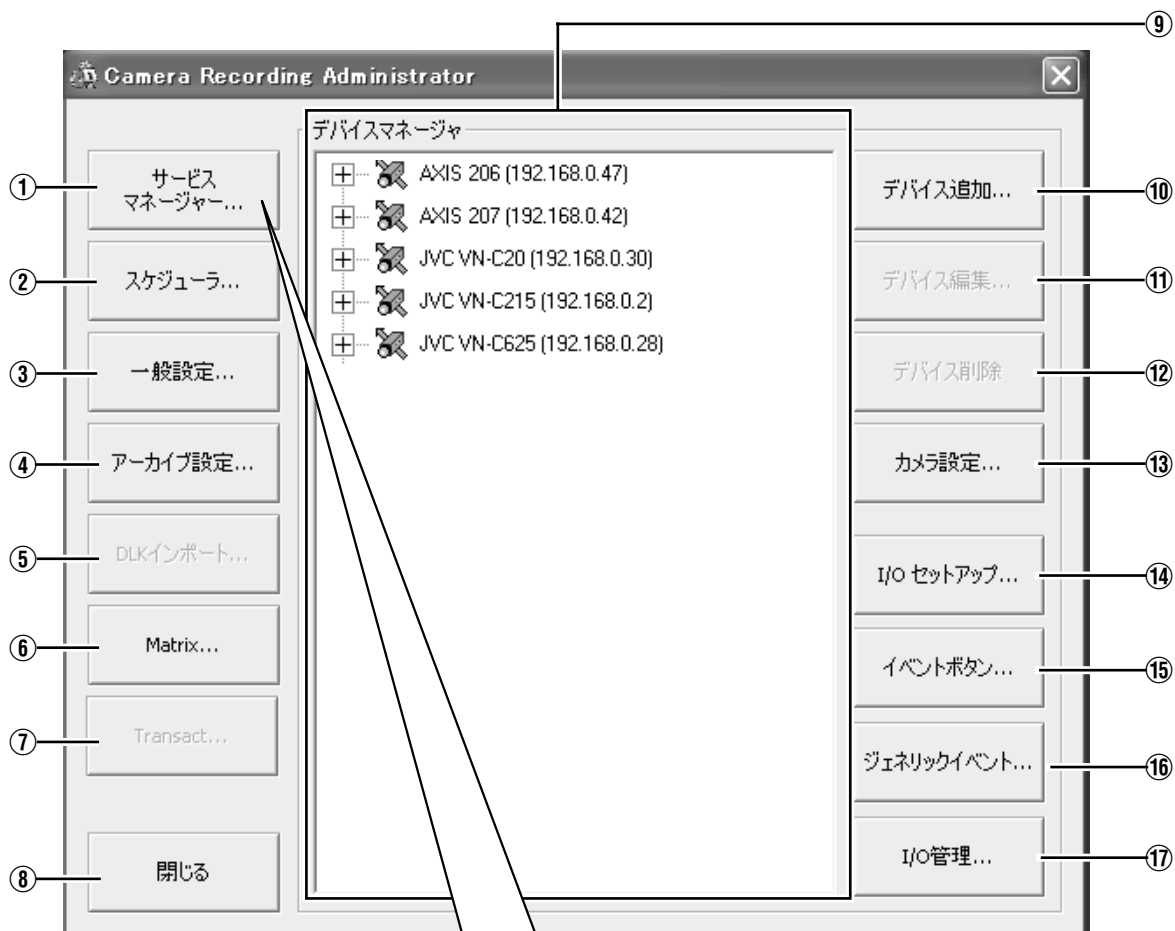
ご注意：

- 自動検出の操作を行う際、[デバイス検索]画面で“次回以降検出しません”をチェックすると、以降の自動検出操作では、当該カメラの[デバイス検索]画面が表示されなくなります。再度、検出対象にしたい場合は、手動で追加することが可能です。
[カメラを追加する] (☞88 ページ)



メインメニュー（つづき）

カメラ記録設定



- メモ：
- [カメラ設定...]ボタン⑬から[PTZプリセット]設定を行う場合、本メニューから、レコーディングサーバーを一時停止してください。(P. 92 ページ)

項目	内容	参照ページ
① サービスマネージャ ...	[サービスマネージャ] ボタンを押すと小さな [サービスマネージャ] 画面が表示され、記録用プログラム“レコーディングサーバー“を一時停止/再開することができます。 PTZ カメラの設定を行う場合など、一時停止する必要がある場合に使用します。	☞ 92 ページ
② スケジューラ ...	[スケジューラ] 画面を表示します。	☞ 55 ページ
③ 一般設定 ...	[一般設定] 画面を表示します。	☞ 108 ページ
④ アーカイブ設定 ...	[アーカイブ設定] 画面を表示します。	☞ 110 ページ
⑤ DLK インポート ...	使用しません。	—
⑥ Matrix...	Milestone 社の Milestone マトリックスを使うための設定です。 メモ : _____ ● 詳細につきましては、Milestone Systems 社のホームページ (http://www.milestonesys.com) をご覧ください。 ● URL は変更される場合があります。	—
⑦ Transact...	使用しません。	—
⑧ 閉じる	[カメラ記録設定] 画面を閉じます。	—
⑨ デバイスマネージャ	全ての追加デバイスと接続カメラが一覧表示されており、監視システムの概要を確認することができます。	—
⑩ デバイス追加 ...	デバイスセットアップ画面を表示します。	☞ 88 ページ
⑪ デバイス編集 ...	[デバイス設定を編集する] 画面を表示します。	☞ 89 ページ
⑫ デバイス削除	[デバイスマネージャ] セクション ⑨ で選択したデバイスを削除します。 ご注意 : _____ ● デバイスを削除すると記録画像の表示ができなくなります。将来、記録画像の表示が必要なデバイスは削除せずに、[カメラ設定] 画面の『 モニター表示の設定 』(☞58 ページ) で“表示せず”を選択するようにしてください。記録画像を表示するときには、[モニター表示の設定] で“表示せず”を解除してください。	—
⑬ カメラ設定 ...	選択したカメラの記録設定または、選択した音声デバイスの設定を行います。	☞ 57 ページ ☞ 61 ページ
⑭ I/O セットアップ ...	[I/O セットアップ] 画面を表示します。	☞ 97 ページ
⑮ イベントボタン ...	[イベントボタン] 画面を表示します。	☞ 101 ページ
⑯ ジェネリックイベント ...	[ジェネリックイベント] 画面を表示します。	☞ 102 ページ
⑰ I/O 管理 ...	[I/O 管理] 画面を表示します。	☞ 104 ページ

カメラを追加する

カメラの接続に関する設定はまずデバイス（ネットワークカメラまたはネットワークエンコーダ（IPビデオサーバー））の追加から行います。デバイスは自身の IP アドレスもしくはホスト名を持っており、本システムはこの IP アドレスもしくはホスト名を識別し、使用します。

メモ：

- 各デバイスは固有の IP アドレスもしくはホスト名で管理されますが、複数のアナログカメラがネットワークエンコーダ（IP ビデオサーバー）に接続されている場合は数台のカメラを 1 台のデバイスに接続し、同じ IP アドレスもしくはホスト名を共有することがあります。この場合、1 台のデバイスに複数のカメラが接続されていますが、本機では各カメラを個別に管理します。
- ネットワークカメラまたはネットワークエンコーダ（IP ビデオサーバー）以外に、専用の I/O（入出力）デバイスをシステムに追加・活用することができます。I/O デバイスはカメラと同じようにイベントの設定・運用が可能になります。
- デバイスがシステムに登録されると、[カメラ記録設定] 画面にリストアップされます。デバイスの追加は以下の手順で行います。まずデバイスの IP アドレス、パスワードをカメラの取扱説明書等にしたいが設定してください。
- ユーザーアクセスが制限されているカメラは追加できません。アクセス制限については、各カメラの [取扱説明書] をご覧ください。
- ユーザーアクセス制限 ON 状態で登録したカメラは、アクセス制限されたカメラとして登録されるため、設定変更しなければライブ表示できません。

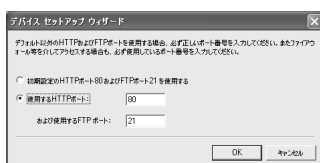
1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ

2 [デバイス追加 ...] をクリックする

- デバイスセットアップ画面が表示されます。

3 システムで識別される IP アドレスもしくは DNS ホスト名を入力する

- DNS ホスト名を入力する場合、[DNS ホスト名を使用] にチェックを入れ、続いて [次へ] をクリックします。



[デバイスセットアップ] 画面

ご注意：

- デフォルトでは、“http ポート 80” そして “FTP ポート 21” が使用されます。別のポートを使用する場合、[ポートの設定] をクリックし、必要なポート番号を入力してください。NAT ルータやファイアウォールが起動しているときは、別のポート設定が必要になることがあります。この場合は、デバイスが使用できるようにルータやファイアウォールを設定してください。

4 デバイス管理者パスワードが設定されている場合はパスワードを入力する

- 通常 [root] もしくは [admin] が使われています。
- [デバイスの自動検出] はそのまま [次へ] をクリックします。

5 検出されたデバイスに他と重ならないように名前を入力する

- [デバイスマネージャ] にリストアップされます。

6 [終了] をクリックする

- デバイスに接続されたカメラを見るには、デバイス名左側のプラス記号をクリックします。

メモ：

- デフォルト設定ではカメラ名は [Camera1]、[Camera2]、[Camera3]、[Camera4]……となっています。名前を変えるにはデバイスを選択し、カメラ名をクリックすると変更できます。
- 追加した順にカメラ番号が増加します。
- カメラを自動登録することもできます。(115ページ『自動検出設定』)

アナログカメラについて (VR-N900)

VR-N900 ではアナログ入力をネットワークエンコーダ（IP ビデオサーバー）として扱い、その IP アドレスは、192.168.201.12 に設定されています。

[カメラ記録設定] 画面のデバイスマネージャ上では “[N900](192.168.201.12)” として登録されています。

背面のアナログ入力端子 [VIDEO IN1 ~ 4] に接続されたカメラは、“N900” のカメラ 1 - 4 に対応しています。

初期状態の名前 “N900” は [デバイス編集 ...] ボタンで変更することができますが、IP アドレスの “192.168.201.12” は変更できません。

メモ：

- 背面の [AUDIO IN 1/AUDIO IN 2] に入力された音声信号は、[デバイスマネージャ] 上で、デバイス [N900](192.168.201.12) に [Audio1]、[Audio2] として割り当てられています。

アナログカメラを追加する場合 (VR-N900)

VR-N900 でアナログカメラを手動で追加する場合 [デバイス設定] 画面で IP アドレスに “192.168.201.12” を指定してください。パスワードは設定されていないので、パスワードを入力しないで次に進んでください。

メモ：

- VR-N900 の初期状態では、アナログカメラはすでに登録されています。

デバイス編集

追加済みデバイスの設定を編集できます。

1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ

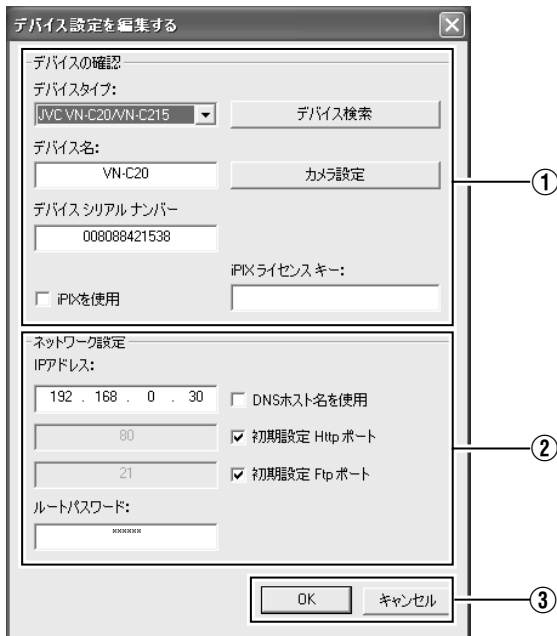
- [Camera Recording Administrator]画面が表示されます。



[カメラ記録設定]画面

2 [デバイスマネージャ]セクションでデバイスを選び、[デバイス編集...]ボタンをクリックする

- デバイスセットアップ画面が表示されます。



[デバイス設定を編集する]画面

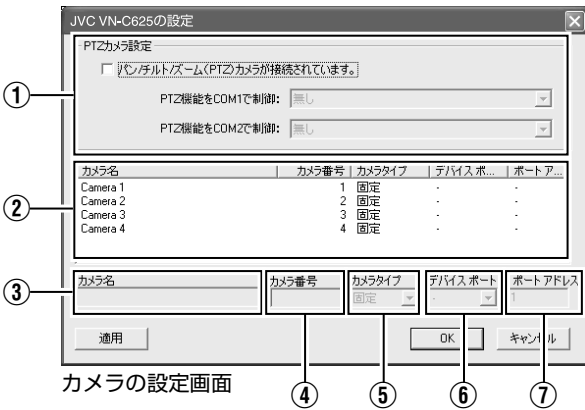
- 以下の項目が設定できます。

項目	内容
① デバイスの確認	
デバイスタイプ	リストからデバイスの種類を選択します。
デバイス検索	ボタンをクリックすると、デバイスの種類とシリアル番号を自動で検出します。
デバイス名:	名前はデバイスを他と区別するのに使います。複数のデバイスに同じデバイス名をつけることはできません。
カメラ設定	カメラの設定画面を表示します。
デバイスシリアルナンバー	デバイスのシリアル番号。通常はデバイスが持っている 12 文字の MAC アドレスと同じです。
② ネットワーク設定	
IP アドレス	デバイスの IP アドレスまたは DNS ホスト名。
DNS ホスト名を使用	チェックすると、IP アドレスではなく DNS ホスト名でデバイスを認識します。
初期設定 Http ポート	チェックすると、デバイスへの HTTP 通信をデフォルトのポート番号 80 を通して行います。 他のポート番号を使用したい場合は、チェックを外し、チェックボックスの左欄でポート番号を設定してください。
初期設定 Ftp ポート	チェックすると、デバイスへの FTP 通信をデフォルトのポート番号 21 を通して行います。 他のポート番号を使用したい場合は、チェックを外し、チェックボックスの左欄でポート番号を設定してください。
ルートパスワード	ルートアカウント (Admin アカウント、Administrator アカウント、管理者アカウントと呼ばれることもあります) を使用してデバイスにログインする場合に必要なパスワードを設定してください。 ご注意: ● VN-C625/VN-C655 をお使いの場合、間違ったパスワードを入力して OK をクリックしても、エラーは表示されませんが、ライブ映像を見ることができなくなるなど、カメラに正常にアクセスすることができなくなります。
③ OK/キャンセル	設定の実行、キャンセルを行います。

PTZ カメラの設定 (COM1/COM2)

カメラの設定画面では、カメラに関するいくつかの情報を設定します。PTZ カメラやネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) に接続された機器がカメラでない場合は、カメラの設定画面で行える設定が限られる場合があります。

1 [デバイス設定を編集する] 画面で [カメラ設定] ボタンをクリックする



項目	内容
① PTZ カメラ設定	
<p>パン／チルト／ズーム (PTZ) カメラが接続されています。</p> <p>PTZ 機能を COM1/COM2 で制御</p>	<p>ネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) に接続されたカメラの中に PTZ カメラがある場合は、チェックを入れます。 チェックボックスが無効の場合は、そのデバイスでは PTZ 機能が利用できません。</p> <p>PTZ カメラがネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) の COM1/COM2 ポートを通して制御される場合は、PTZ カメラに適した制御方式をリストから選びます。 COM1/COM2 ポートを通して制御される PTZ カメラが 1 つもない場合は、[無し] を選びます。</p>
② カメラリスト	<p>カメラリストには、デバイスのカメラ番号が順に並びます。 一番上にあるのがカメラ番号 1、二番目にあるのがカメラ番号 2……となります。 カメラの設定を変えるには、リストからカメラ番号を選び、以下の項目を設定して [適用] ボタンをクリックします。</p>
③ カメラ名	<p>名前は、選択したカメラを他と区別するのに使用されます。カメラ名は他のデバイス名と重ならないようにしてください。</p> <p>ご注意：_____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カメラ名は、カメラ自体に設定された名前ではなく、本機で識別するために設定する名前です。
④ カメラ番号	<p>カメラの番号を設定します。</p> <p>ご注意：_____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カメラ番号は、他と重ならないようにしてください。

⑤ カメラタイプ	<p>選択したカメラ番号のカメラが [固定] か [移動可能] かを設定します。</p> <p>固定 : 固定カメラ 移動可能 : PTZ カメラ</p>
⑥ デバイスポート	<p>[カメラタイプ]項目⑤で“移動可能”を選択した場合のみ設定できます。</p> <p>PTZ機能を制御するのに、ネットワークエンコーダ (IPビデオサーバー) のどのコントロールポートを使用するか設定します。</p>
⑦ ポートアドレス	<p>[カメラタイプ]項目⑤で“移動可能”を選択した場合のみ設定できます。</p> <p>カメラのポートアドレスを設定します。通常は“0”または“1”になります。</p> <p>直列接続した PTZ カメラを使用している場合は、ポートアドレスでそれぞれを識別するので、カメラの [取扱説明書] で推奨されている設定を確認してください。</p>

VR-N900 背面の [CAMERA CONTROL] 端子について (VR-N900)

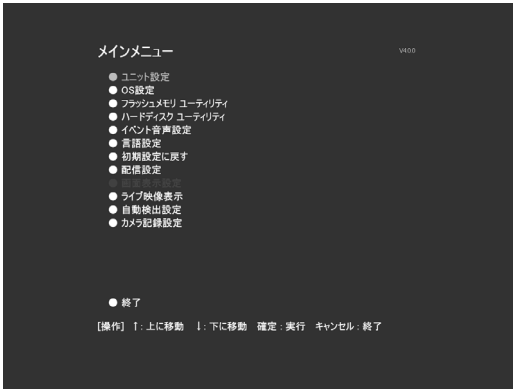
VR-N900 内部では、アナログカメラをネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) として扱い、そのデバイス名は [N900] として設定されています。背面の [CAMERA CONTROL] 端子は、カメラの設定画面で、“COM1”として割り当てられています。(☞ 90 ページ)

PTZ プリセット設定

レコーディングサーバーを停止する

PTZ カメラの設定をするときは、レコーディングサーバーを停止します。

1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ

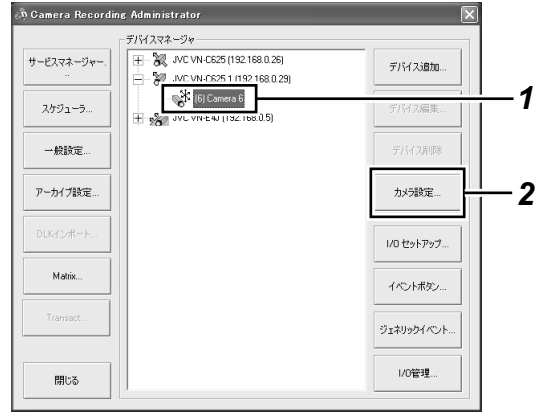


[メインメニュー] 画面

[PTZ プリセット] 画面を表示する

[PTZ プリセット] 画面では、プリセットに関する設定を行います。

- 1 メインメニューから [カメラ記録設定] を選ぶ
- 2 [デバイスマネージャ] から所定のカメラを選び [カメラ設定] をクリックする



[Camera Recording Administrator] 画面



[Camera Recording Administrator] 画面

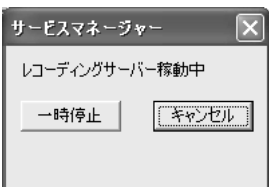
2 [サービスマネージャー] ボタンをクリックする

[サービスマネージャー] 画面が表示されます。



カメラ設定画面

[PTZ プリセット位置] ボタン



[サービスマネージャー] 画面

3 [一時停止] ボタンをクリックする

ご注意:

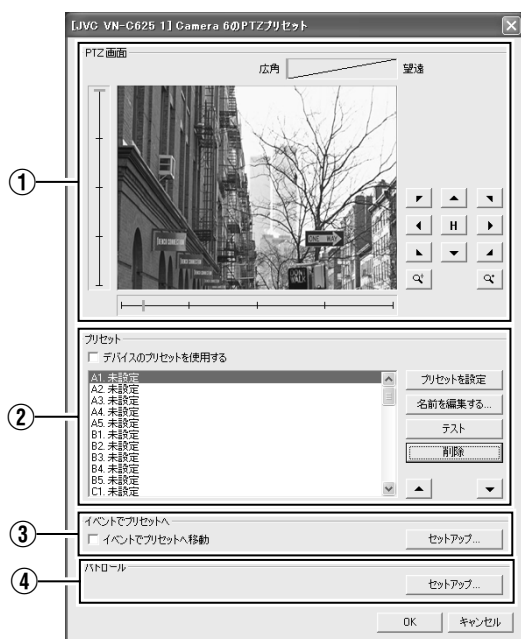
- 一時停止中は、映像も音声も記録されません。また、監視用パソコンでの映像表示も停止されます。

ご注意:

- カメラによっては、プリセット位置に数度のずれが生じる場合があります。

3 [PTZ プリセット位置] ボタンをクリックする

- [PTZ プリセット] 画面が表示されます。



[PTZ プリセット] 画面

ご注意:

- VN-V686/VN-V686WP をご使用の場合、カメラの電子ズームが機能していると、プリセット位置を登録することができません。登録できない場合もエラーなどは表示されませんのでご注意ください。誤登録防止のため、PTZ プリセット設定時は、下記の操作で電子ズームをオフにしてください。
- VN-V686/VN-V686WPの[PTZページ]から[電子ズームリミット]を“1”に設定します。
詳細につきましては、VN-V686/VN-V686WP の [取扱説明書] をご覧ください。

- [PTZ プリセット] 画面では以下のことができます。

項目	内容
① PTZ 画面	PTZ カメラを希望位置に移動させます。[プレビュー] 画面で位置を確認できます。
② プリセット	PTZ カメラの位置を登録、削除、テストします。
デバイスのプリセットを使用する	本機能を持っているカメラのみ設定できます。 カメラまたはネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) によって定められたプリセット位置を使用する場合は、チェックを入れます。
ご注意: <ul style="list-style-type: none"> ● デバイスからの PTZ プリセット取り込みは、本機の PTZ プリセットを消去した後に行なわれます。本機に設定されていた PTZ プリセットは、失われますのでご注意ください。 	
メモ: <ul style="list-style-type: none"> ● カメラまたはネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) によって定められたプリセット位置を本機で使用するためには、プリセット位置の名前は英数字のみ (スペースは含まない) で構成されている必要があります。空白文字のみの名前のプリセット位置は、取り込まれません。 	
プリセットを設定	[PTZ 画面] で決めた位置をリストで選択したプリセット位置に登録します。
名前を編集する	リストで選択したプリセット位置の名前を編集します。
テスト	設定したプリセット位置をテストします。リストからプリセット位置を選択し、[テスト] ボタンをクリックします。結果は直ちに [PTZ 画面] に表示されます。
削除	リストで選択したプリセット位置を削除します。
▲/▼	リストで選択したプリセット位置を上下に移動します。
③ イベントでプリセットへ	イベント発生によりプリセット位置へ移動する設定を行います。
④ パトロール	PTZ パトロールの設定を行います。 (※95 ページ『PTZ カメラを使って自動パトロールを行う』)

ご注意:

- 使用するカメラによって、設定可能な項目が異なる場合があります。

PTZ プリセット設定 (つづき)

プリセット位置を設定する

1 [PTZ プリセット] 画面を表示する (☞ 92 ページ)



[PTZ プリセット] 画面

2 [PTZ 画面] でカメラを移動させ、位置を決める

3 [プリセット] のリストから、プリセットを登録する項目を選ぶ

- リストの一番上がプリセット番号 1 となります。
- 登録可能なプリセット数はご使用のカメラによって異なります。

4 [プリセットを設定] ボタンをクリックして、プリセット位置の名前をつける



5 他のプリセット位置を設定する場合は、手順 2 ~ 4 を繰り返す

イベントでプリセット位置を移動する

イベント発生によりプリセット位置へ移動する機能です。

1 [PTZ プリセット] 画面を表示する (☞ 92 ページ)

2 [イベントでプリセットへ] の [イベントでプリセットへ移動] にチェックを入れる

3 [セットアップ] ボタンをクリックする



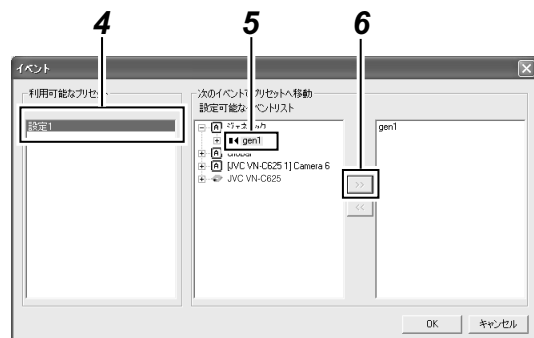
[PTZ プリセット] 画面

4 [利用可能なプリセット] リストからプリセット位置を選ぶ

5 [設定可能なイベントリスト] からイベントを選ぶ

6 [>>] ボタンをクリックする

- 選択したイベントが右端のリストにコピーされます。このリストには、選択したプリセット位置に割り当てられたイベントが表示されています。



メモ :

- プリセット位置とイベントの割り当てを解除するには、右端のリストからイベントを選択して [<<] ボタンをクリックします。

PTZ カメラを使って自動パトロールを行う

PTZ パトロールはいくつかのプリセット位置を自動的に移動する機能です。

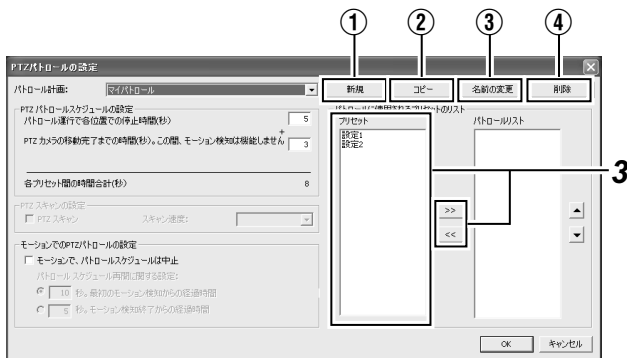
1 [PTZ プリセット] 画面を表示する (☞ 92 ページ)



[PTZ プリセット] 画面

2 [パトロール]の[セットアップ]ボタンをクリックする

- [セットアップ] 画面が表示されます。



[PTZ パトロールの設定] 画面

項目	内容
① 新規	[パトロール計画] リストに新しいパトロール計画を追加します。
② コピー	既存のパトロール計画に基づいて新たなパトロール計画を作成します。あらかじめコピーしたいパトロール計画を [パトロール計画] リストから選んでください。
③ 名前の変更	既存のパトロール計画の名前を変更します。あらかじめ名前を変更したいパトロール計画を [パトロール計画] リストから選んでください。
④ 削除	既存のパトロール計画を削除します。あらかじめ削除したいパトロール計画を [パトロール計画] リストから選んでください。

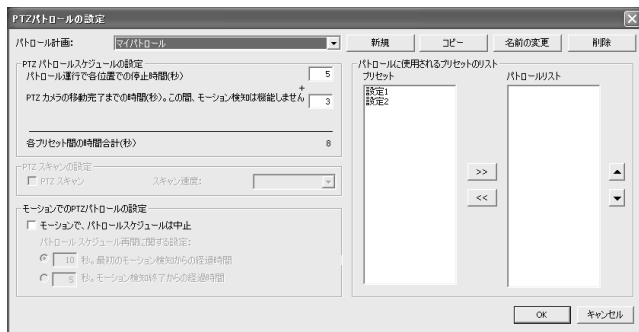
3 [プリセット]リストから使用したいプリセット位置を選び、[>>] ボタンをクリックする

- 選択したプリセット位置が [パトロールリスト] にコピーされます。
- 同じプリセット位置を何度使っても構いません。
- カメラは、[パトロールリスト] に表示されているプリセット位置を上から順に動きます。
- 順番を変えたいときは、[パトロールリスト] からそのプリセット位置の名前を選び、上下ボタンをクリックしてください。
- プリセット位置を [パトロールリスト] から削除したいときは、そのプリセット位置を選び、[<<] ボタンをクリックしてください。

PTZ プリセット設定 (つづき)

■ パトロールのタイミング設定を行う

- 1 [パトロール計画]リストから設定したいパトロール計画を選ぶ
- 2 [パトロール運行で各位置での停止時間 (秒)] 欄で、PTZ カメラが各プリセット位置で何秒とどまるかを設定する
- 3 [PTZ カメラの移動完了までの時間 (秒)。この間、モーション検知は機能しません] 欄で、PTZ カメラのプリセット位置間の移動所要時間を設定する



[PTZ パトロールの設定] 画面

メモ:

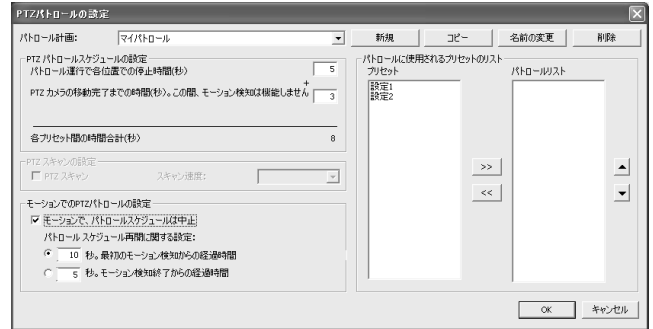
- 誤ったモーションアラームを発しないために、PTZ カメラがプリセット位置間を移動中はモーション検知および記録は自動的に無効になります。設定した時間経過後、再びモーション検知が有効になります。

ご注意:

- パトロール計画内のすべてのプリセット位置間の移動が、ここで設定した時間内に終わる必要があります。移動が終わらない場合は、誤ったモーション検知が行われる場合があります。

■ モーション検知された場合の設定を行う

- 1 [モーションで、パトロールスケジュールは中止] ボックスにチェックを入れる



- 2 PTZ カメラがパトロールを再開する条件を選ぶ

- 以降のモーション検知の有無に関わらず、最初のモーション検知から指定の時間が経ったとき
- 最後のモーション検知から指定の時間が経ったとき

- 3 選択した条件に対して、秒数を指定する

■ PTZ スキャン

PTZ スキャン機能に対応したカメラの場合は、[PTZ スキャンの設定]セクションで PTZ スキャン機能を有効にして、スキャン速度を選択することができます。

ご注意:

- パトロール計画を設定するには、最低 2 つのプリセット位置を設定してください。さらに [カメラ記録設定] → [スケジュール] でパトロール計画作動が有効な時間も設定する必要があります。
- 手動操作もしくは特定のイベント発生時、PTZ カメラを使ったパトロールは中断されます。このような場合、何秒後にパトロールを再開するかを [カメラ記録設定] → [一般設定] → [パトロール設定] で設定する必要があります。この設定はシステム内のすべての PTZ カメラに適用されます。デフォルトは 30 秒です。

入出力ポート、イベントについて

入出力ポートは本機に登録された各デバイスに装備されている入出力端子です。入力ポートは[入力イベント]、出力ポートは[出力]として登録可能です。

登録した入出力ポートは次に説明するイベントと関連付けして連動させることができます。(☞104 ページ『出力ポートの設定をする』)

- イベントは、記録を開始したり、Eメールを送信したり、PTZ カメラをプリセット位置へ移動したり、デバイスの出力ポートを制御したりするために利用されます。イベントは、以下の4種類に分けられます。

入力イベント	デバイスの入力ポートに接続するセンサなどの入力信号を[入力イベント]として登録します。
ジェネリックイベント	ジェネリックイベントとして登録します。
ビデオ・モーション	映像の動き検出を VMD イベントとして登録します。
イベントボタン	手動操作できるボタンによるイベントです。

入出力設定

1 [カメラ記録設定]画面で[I/Oセットアップ]ボタンをクリックする

- [I/O セットアップ] 画面が表示されます。
- [I/O セットアップ] 画面では、ネットワークカメラで利用できる入力イベント、VMD イベント、出力を追加することができます。



[I/O セットアップ] 画面

項目	内容
① 新規イベントを追加する	[設定済イベント]リストで選択したデバイスに入力イベントを設定します。デバイスによっては、複数のイベントを設定できます。 [設定済イベント]リストでデバイス横の[+]マークをクリックし、設定済みの入力イベントを選択して[新規イベントを追加する]ボタンをクリックすると、タイマーイベントを設定できます。(☞ 99 ページ)
② 新規出力イベントを追加する	[新規イベントを追加する]画面を表示します。(☞ 100 ページ)
③ VMD (モーション検知) イベントを追加	[設定済イベント]リストで選択したデバイスにVMD (モーション検知) イベントを設定します。VMD イベントは1つのカメラに1つしか設定できません。 ご注意: — ● VMD イベントがあまりにもたくさん生成されるのを防ぐため、1つのVMD イベントが発生した後5秒間は次のVMD イベントが発生できないようになっています。 ● VMD イベントはEメールを送信できません。
④ 詳細設定	[詳細設定]画面を開きます。(☞ 100 ページ)
⑤ 選択したアイテムを削除する	[設定済イベント]リストで選択したイベントを削除します。
⑥ 選択したアイテムを編集する	[設定済イベント]リストで選択したイベントを編集します。

ご注意: —

- ネットワークカメラで利用できるイベントはネットワークカメラごとに異なります。
- [I/Oセットアップ]画面を使ってイベントを設定した場合、カメラ側のアラーム設定が自動的に上書きされます。既にジェネリックイベントを使用している場合(手動でカメラ側のアラーム設定を行なっている場合)は、ジェネリックイベントやジェネリックイベントを使用するイベント音声(☞ 130 ページ)が動作しなくなります。(本機側のジェネリックイベント設定はそのまま残ります。)

入出力ポート、イベントについて (つづき)

■ 入力イベントを設定する

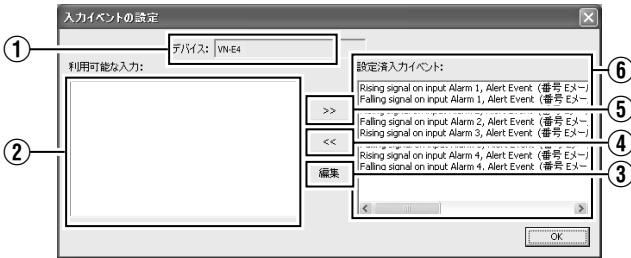
1 [I/Oセットアップ]画面の[設定済イベント]リストから、イベントを設定するカメラを選ぶ



[I/O セットアップ] 画面

2 [新規イベントを追加する] ボタンをクリックする

- [入力イベントの設定] 画面が表示されます。

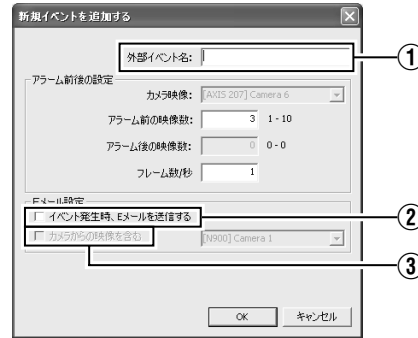


[入力イベントの設定] 画面

項目	内容
① デバイス	入力イベントが設定されるデバイス名が表示されます。(表示のみの項目です。)
② 利用可能な入力	利用可能な入力イベントが一覧表示されます。
③ 編集	[設定済入力イベント] リストで選択したイベントの設定を編集します。
④ >>	[利用可能な入力] リスト ② からイベントを選択して [>>] ボタンをクリックすると、そのイベントを使用することができるようになります。
⑤ <<	[設定済入力イベント] リスト ③ からイベントを選択して、[利用可能な入力] リスト ② に移動します。すなわち、無効にします。
⑥ 設定済入力イベント	使用できる入力イベントが一覧表示されます。

3 [利用可能な入力]リストから必要なイベントを選択し、[>>] ボタンで追加する

[新規イベントを追加する]画面でイベント名の設定、Eメール設定を行います。



[新規イベントを追加する] 画面

項目	内容
① 外部イベント名	入力イベントの名前を設定します。 メモ： ● イベント名には次の文字は使えません：<> & ' " \ / : * ? ! []
② イベント発生時、Eメールを送信する	入力イベントが発生したときにEメールで通知する場合はチェックを入れます。
③ カメラからの映像を含む	入力イベントが作動したときに記録中の映像をEメールに添付する場合はチェックを入れます。チェックボックスの横にあるリストから、カメラを選択します。

ご注意：

- ネットワークカメラで利用できるイベントがない場合は、[新規イベントを追加する] ボタンはクリックできません。
- [新規イベントを追加する] 画面は、追加するイベントの種類によって異なる場合があります。
- 設定の変更中に、[スキップ] ボタン、[↑/↓/←/→] ボタンの操作が効かなくなった場合、ソフトウェアキーボード (P. 29 ページ) またはマウスを使用してください。

背面入出力端子について

- VR-N1600 内部では、音声入力をネットワークデバイスとして扱い、そのデバイス名は“NVR”として設定されています。背面の入出力端子は、あらかじめ“NVR”デバイスとして割り当てられています。(VR-N1600)
- VR-N900 内部では、アナログ入力をネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) として扱い、そのデバイス名は“N900”として設定されています。背面の入出力端子は、あらかじめ“N900”デバイスとして割り当てられています。(VR-N900)

■ 背面入力端子

背面入力端子名	入力イベント名	イベントの説明
ALARM IN1 ～ 8 *	Alarm IN 1~8 Falling *	メイク信号入力検出時のイベント
	Alarm IN 1~8 Rising *	ブレーク信号入力検出時のイベント

* VR-N900 の場合、[ALARM IN1 ～ 4] となります。

■ 背面出力端子

背面出力端子名	出力イベント名	出力動作
OPTION OUT1,2	Set output Option Out 1, 2 high	メイクを出力します
	Set output Option Out 1, 2 low	ブレークを出力します

ご注意:

- 背面出力端子は出力情報で期間が0秒になっていますが、実際には無限に出力されます。
- 背面出力端子の出力イベントは削除できません。
- すべての端子入力がアラートとしての扱いになりますが、記録開始への対応付け (シーケンス) は1端子のみとなっています。

VMD イベントを設定する

1 [I/Oセットアップ]画面の[設定済イベント]リストから、VMD イベントを設定するカメラを選ぶ

2 [VMD (モーション検知) イベントを追加] ボタンをクリックする

ネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) などの多カメラ機器を選択した場合は、設定するカメラを選ぶダイアログが表示されます。

ご注意:

- ネットワークカメラで利用できるVMD イベントがない場合は、[VMD (モーション検知) イベントを追加] ボタンはクリックできません。

タイマーイベントを設定する

特定のイベントに、タイマーイベントを関連付けることができます。

タイマーイベントは、関連付けしたイベントが発生した後、指定された時間経過後に動作します。

1 [I/Oセットアップ]画面の[設定済イベント]リストから、タイマーイベントを追加するイベントを選ぶ (入力イベントに関連付ける場合の例)



[I/Oセットアップ]画面

2 [新規イベントを追加する] ボタンをクリックする

- [タイマー設定]画面が表示されます。



[タイマー設定]画面

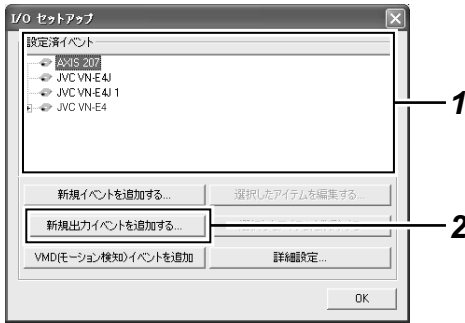
3 タイマー設定時間、タイマーイベントの名前を設定する

項目	内容
① タイマーイベントの起動は:	タイマーイベントが追加されるイベントまたはイベントボタンの名前が表示されます。(表示のみの項目です。)
② タイマーイベント名:	タイマーイベントの名前を設定します。 メモ: ● イベント名には次の文字は使えません: <> & ' " \ / : * ? []
③ タイマーイベントは次の時間経過後起動します	イベント発生またはイベントボタンをクリックされてからタイマーイベントまでの時間を設定します。秒または分で設定します。

入出力ポート、イベントについて (つづき)

出力を設定する

- 1 [I/Oセットアップ]画面の[設定済イベント]リストから、イベントを設定するカメラを選ぶ
- 2 [新規出力イベントを追加する]ボタンをクリックする



- [新規出力を追加する]画面が表示されます。



[新規出力を追加する]画面

3 出力の接続先、出力を保持する時間、出力の名前を設定する

項目	内容
① 外部出力の接続先	出力が設定されるデバイス名が表示されます。(表示のみの項目です。)
② 出力の接続先	出力の接続先を選択します。
③ 出力を保持時間	出力を保持する時間を、1/10秒または秒単位で設定します。
④ 出力名	出力の名前を設定します。 メモ： ● 出力名には次の文字は使えません：<> & ' " \ / : * ? []
⑤ テスト出力	クリックすると、出力の設定をテストすることができます。

ご注意：

- ネットワークカメラで利用できる出力がない場合は、[新規出力イベントを追加する]ボタンはクリックできません。

[詳細設定]画面

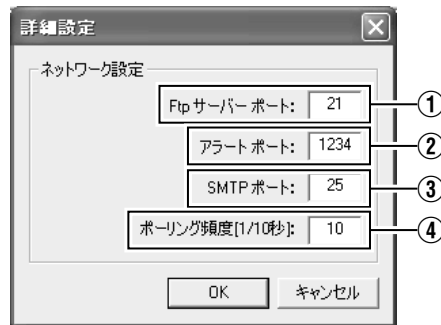
[詳細設定]画面では、イベントの扱いに関連したネットワークの設定を行います。

- 1 [I/Oセットアップ]画面の[詳細設定]ボタンをクリックする

- [詳細設定]画面が表示されます。



[I/O セットアップ]画面



[詳細設定]画面

2 以下の項目を設定する

項目	内容
① Ftpサーバーポート	デバイスから監視システムにFTPを介してイベント情報を送信する際のポート番号を設定します。(設定可能な範囲は1~65535となります。)
② アラートポート	ジェネリックイベントなど、イベントによる警告を扱うポート番号を設定します。(設定可能な範囲は1~65535となります。)
③ SMTPポート	デバイスから監視システムにSMTPを介してイベント情報を送信する際のポート番号を設定します。(設定可能な範囲は1~65535となります。)

項目	内容
④ ポーリング頻度 [1/10 秒]	<p>いくつかのデバイスにおいては、入力が受信されたかどうか検知するため、監視システムがデバイスの入力ポートの状態をチェックする必要があります。そのような定期的な状態チェックを“ポーリング”と呼びます。</p> <p>[ポーリング頻度 [1/10 秒]] 欄で、状態チェックの間隔を設定します。間隔は 1/10 秒単位で設定します。</p> <p>メモ：――</p> <ul style="list-style-type: none"> 入出力機器についてはポーリング間隔をできるだけ短く設定してください。 ポーリングを必要とするデバイスについては入出力機器の [取扱説明書] をご覧ください。

ご注意：――

- 特別な理由がない限り、これらの設定を変更しないでください。変更すると正常に動作しなくなる恐れがあります。通常は変更の必要はありません。

変更する場合の注意点

- イベント音声を使うときは、[イベント音声設定]⇒[通信設定]の[転送先ポート]に[アラートポート]の番号を一致させる必要があります。(P. 133 ページ)
- アラートポートには、[イベント音声設定]⇒[通信設定]の[イベント受信ポート]番号と異なる番号を設定する必要があります。(P. 133 ページ)

イベントボタンを設定する

ライブ映像表示画面から手動操作でイベントを作動させるときに使用します。

1 [Camera Recording Administrator] 画面で [イベントボタン ...] をクリックする



[Camera Recording Administrator] 画面

2 [グローバル] (全カメラに有効) または特定のカメラを選ぶ



3 [新規イベントを追加する ...] をクリックしてイベントボタンを追加する



[新規イベントを追加する] 画面

項目	内容
① ボタンが設定されているデバイス	イベントが設定されるカメラ名が表示されます。(表示のみの項目です。)
② 手動イベント名	メモ：―― <ul style="list-style-type: none"> イベントボタンの名前を設定します。イベント名には次の文字は使えません: <> & ' " \ / : * ? []
③ Eメール設定	<p>イベント発生時、Eメールを送信する</p> <p>イベントボタンをクリックしたときにEメールで通知する場合はチェックを入れます。</p> <p>カメラからの映像を含む</p> <p>イベントボタンをクリックしたときに記録中の画像をEメールに添付する場合はチェックを入れます。チェックボックスの下にあるリストから、カメラを選択します。</p>

メモ：――

- イベントにタイマーを設定する場合は、手順 3 で追加したイベントを選んで、[新規イベントを追加する] をクリックします。

入出力ポート、イベントについて (つづき)

ジェネリックイベントを設定する

ジェネリックイベントとは

TCP もしくは UDP プロトコルの通信を本機の入カイベントとして使用する機能です。

本機が受信した通信データに含まれる文字列が設定された条件に合致した場合、対応するジェネリックイベントが作動します。

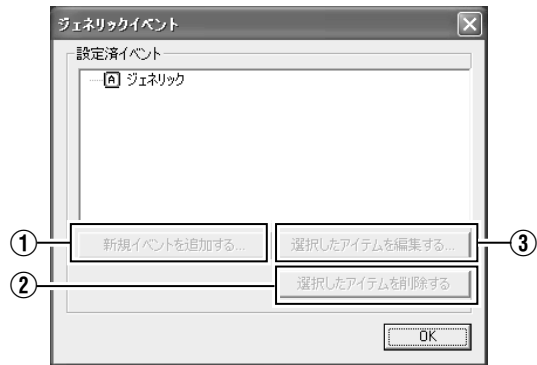
本機側で通信データの受信設定、カメラ (もしくは使用するネットワーク機器) 側で通信データの送信設定を行なう必要があります。

以下は、本機で行なう通信データの受信設定について説明しています。

1 [Camera Recording Administrator] 画面で [ジェネリックイベント ...] ボタンをクリックする



[Camera Recording Administrator] 画面



[ジェネリックイベント] 画面

項目	内容
① 新規イベントを追加する	新しいイベントを追加します。
② 選択したアイテムを削除する	[設定済イベント]リストで選択したイベントを削除します。
③ 選択したアイテムを編集する	[設定済イベント]リストで選択したイベントを編集します。

2 ジェネリックを選び、[新規イベントを追加する ...] をクリックする



[新規イベント追加設定] 画面

① イベントの設定

項目	内容
イベント名	イベントの名前を設定します。他のイベントの名前と重ならないようにしてください。 メモ： ● イベント名には次の文字は使えません：<>&'"/: * ? []
イベントプロトコル	イベントを検知するのに、本機がどのプロトコルで受信するかを選択します。
何れでも	TCP と UDP プロトコルのどちらを使ったデータも受信・解析します。
TCP	TCP プロトコルを使ったデータのみ受信・解析します。
UDP	UDP プロトコルを使ったデータのみ受信・解析します。
イベントルール	受信データを解析する際のルールを設定します。
一致	イベントが作動するためには、受信データ内に [イベントルールの設定] セクション③の [イベントに含まれるメッセージ] 欄で設定したメッセージと完全に一致する必要がある、他のメッセージを含んではいけません。
検出	イベントが作動するためには、受信データ内に [イベントルールの設定] セクション③の [イベントに含まれるメッセージ] 欄で設定したメッセージを含む必要があります。他のメッセージを含んでいても構いません。
優先イベント	1つのデータが複数のイベントに利用される場合があります。各イベントに優先順位をつけて、受信データが複数のイベント基準に合致する場合にどのイベントを作動させるかを決定します。優先度を“0”（最低）から“1000”（最高）の値で設定します。

メモ：

- 本機は [詳細設定] 画面の [アラートポート] で設定されたポートからジェネリックイベントを受信します。(P. 100 ページ)

② 通知設定

項目	内容
イベント発生時、Eメールを送信する	イベントが発生したときに E メールで通知する場合はチェックを入れます。
カメラからの映像を含む	入力イベントが作動したときに記録中の画像を E メールに添付する場合はチェックを入れます。チェックボックスの下にあるリストから、カメラを選択します。

③ イベントルールの設定

項目	内容
イベント部分列	本機がデータを解析する際に探す語句を設定します。 1つ以上の語句を指定し、[追加] ボタンをクリックしてください。指定した語句が [イベントに含まれるメッセージ] 欄に追加されます。 複数の語句を1つの項目として追加した場合は、基準に合致するためには引用符で囲まれた全てがデータ中に指定した順番で1つになって現れる必要があります。
イベントに含まれるメッセージ	実際のデータ解析に使用される文字列を表示します。本項目は、直接は編集できませんが、欄内にカーソルを置いて、以下のボタンを押すことはできません。
追加	[イベント部分列] 欄の内容を [イベントに含まれるメッセージ] 欄に追加します。
([イベントに含まれるメッセージ] 欄に [(] を追加します。 カッコは、関連する語句をひとかたまりとして一緒に処理するのに使用します。すなわち、カッコ内の処理を先に行います。
)	[イベントに含まれるメッセージ] 欄に [)] を追加します。
および	[イベントに含まれるメッセージ] 欄に演算子“および”を追加します。演算子“および”を使うと、“および”の両側の語句を含む必要があることを設定します。
あるいは	[イベントに含まれるメッセージ] 欄に演算子“あるいは”を追加します。演算子 OR を使うと、どちらかの語句を含む必要があることを設定します。
削除	[イベントに含まれるメッセージ] 欄に置かれたカーソルの左側の項目を削除します。

メモ：

- ジェネリックイベントにタイマーを設定する場合は、手順 2 で追加したイベントを選んで、[新規イベントを追加する] ボタンをクリックします。

入出力ポート、イベントについて (つづき)

イベント通知の設定をする

ある特定のイベントが発生した時にライブ映像表示画面上部のタイトルバーエリアに黄色の表示を行うことができます。

1 [カメラ記録設定] 画面から、設定するカメラを選択して [カメラ設定 ...] を選ぶ

- 設定ダイアログが表示されます。

2 [イベント通知] ボタンをクリックする

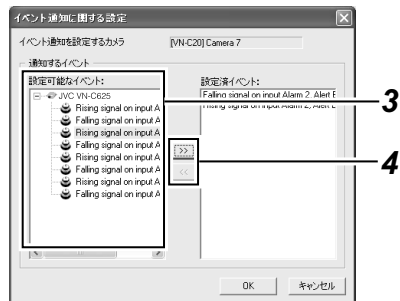


[カメラ設定] 画面

3 [設定可能なイベント] から通知させたいイベントを選ぶ

4 [>>] ボタンをクリックする

- 選択したイベントは [設定済イベント] にコピーされます。



[イベント通知に関する設定] 画面

5 イベントごとに 2～4 を繰り返す

- 通知設定したイベントを削除する場合、そのイベントを選び [<<] ボタンをクリックします。

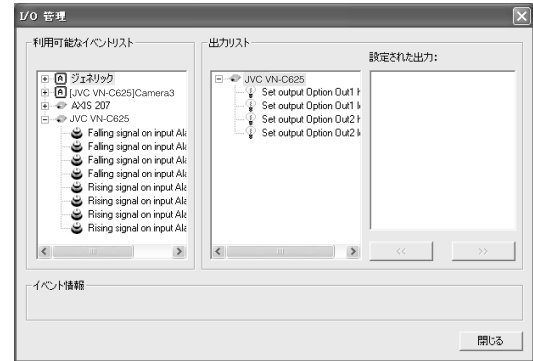
出力ポートの設定をする

特定のイベントや [手動イベント名] ボタンを出力ポートに関連づけます。

特定のイベントや手動イベントが起こったときに、出力させる出力ポートを設定します。

1 [カメラ記録設定] 画面から、[I/O 管理] を選ぶ

- 設定ダイアログが表示されます。



[I/O 管理] 画面

2 左側のリストから指定するイベントを選択する

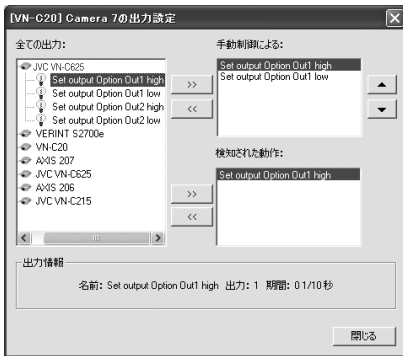
3 指定する出力を選択して、[設定された出力] 下の [>>] ボタンを押す

- [設定された出力] リストから出力を削除するには、出力を選択して [<<] ボタンをクリックします。

カメラの出力設定

[I/O セットアップ] 画面で設定された外部出力（例えばサイレンを鳴らしたり、照明を点灯させたりする）をカメラに割り当てることができます。

- 割り当てた出力はモーションが検知された場合に自動的に、または出力ボタンを手動で押した場合に作動させることができます。
- 出力設定画面は、[カメラ設定]画面(☞ 57ページ)で[出力]ボタンをクリックすると表示されます。



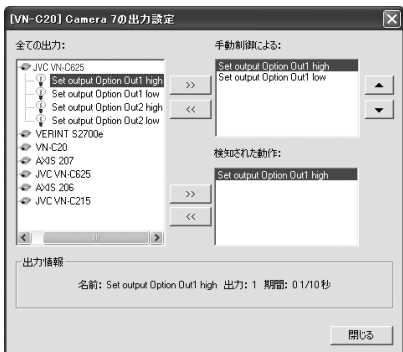
出力設定画面

■ 手動操作の場合の出力を設定する

出力ボタンや [ライブ映像表示] 画面のリストから手動でおこす出力を設定します。

- 1 [全ての出力] リストから出力を選ぶ
- 2 [全ての出力] リストと[手動制御による]リストの間にある [>>] ボタンをクリックする

- 選択した出力が [手動制御による] リストにコピーされます。
- [手動制御による] リストの右横にある上下ボタンで、選択した出力を [手動制御による] リスト内で上下させることができます。
- [手動制御による] リストから出力を削除するには、その出力を選択して [全ての出力] リストと [手動制御による] リストの間にある [<<] ボタンをクリックしてください。



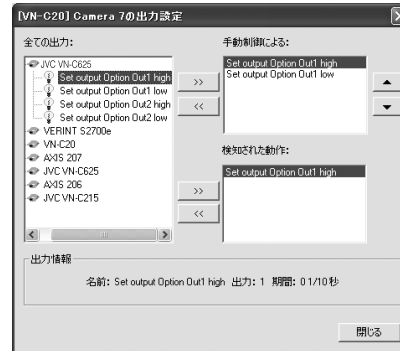
出力設定画面

■ モーション検知による出力を設定する

モーションが検知された際に自動でおこす出力を設定します。

- 1 [全ての出力] リストから出力を選ぶ
- 2 [全ての出力] リストと[検知された動作]リストの間にある [>>] ボタンをクリックする

- 選択した出力が [検知された動作] リストにコピーされます。
- [検知された動作] リストから出力を削除するには、その出力を選択して [全ての出力] リストと [検知された動作] リストの間にある [<<] ボタンをクリックしてください。



出力設定画面

モーション設定

ご注意：

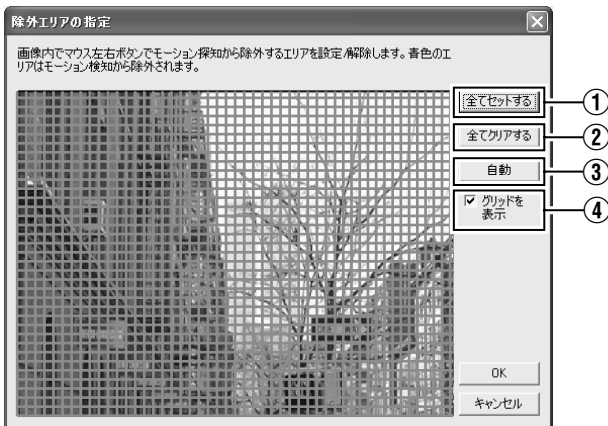
- モーション検知の設定を行う前に、画像の解像度や圧縮に関する設定や、モーション検知除外エリアの設定を終了しておくことをお勧めします。そうしないと後日画質の変更や、除外エリアの設定を行う場合、再度モーション検知の設定で感度調整をする必要があります。

モーション検知除外エリアを設定する

不必要な動き（風にそよぐ木や後方で絶えず通過する車など）の検知を防ぐために、モーション検知から一定のエリアを除外するために設定します。

1 [カメラ記録設定]画面で[デバイスマネージャ]からカメラを選び、[カメラ設定]から[除外エリアの設定]をクリックする

- [グリッドを表示]ボックスをチェックしておく、と、グリッドで細かくエリア分けされたプレビュー画面が表示されます。青色にハイライトされた部分が除外エリアとなります。



[除外エリアの設定] 画面

2 マウスの左ボタンを押しながら画面内グリッドを移動させ、エリアを設定する

- 除外エリアが青色でハイライトされ、設定されます。

メモ：

- 設定を解除する場合、マウスの右ボタンを押しながらグリッドを移動させます。

■ 設定ボタン／チェックボックス

項目	内容
① 全てセットする	プレビュー画像に表示されるグリッド内全てのセクションに除外設定をします。
② 全てクリアする	プレビュー画像に表示されるグリッド内全てのセクションの除外設定を解除します。
③ 自動	このボタンを押すと、“動き”と検知すべきでない微細な画像の変化（ノイズ）が起きたエリアを検知し、自動的に検知エリアから除外するようプレビュー画像にマーキングします。多くの画像分析データをもとにマーキングを行うため、ボタンを押してから数秒かかることがあります。
④ グリッドを表示	チェックボックスにチェックを入れておくと、プレビュー画像にグリッドが表示されます。デフォルトでは[グリッドを表示]に設定されています。

ご注意：

- 頻繁に動き検出するような設定にした場合、アラーム件数が増大して再生時の検索に時間がかかるようになりますのでご注意ください。
- カメラを接続した場合、蛍光灯などのフリッカーにより、動き検出の誤動作が発生することがあります。この場合は、カメラをフリッカーレスに設定してください。
- カメラ映像に含まれるノイズ成分が多いと、誤検出することがあります。夜間などカメラのACGが働いた場合でも、誤検出しないように設定してください。

モーション検知を設定する

モーション検知では、どの瞬間にカメラからの映像が送られるか、警報発生、外部出力（照明、サイレン）を起動するタイミングを設定します。

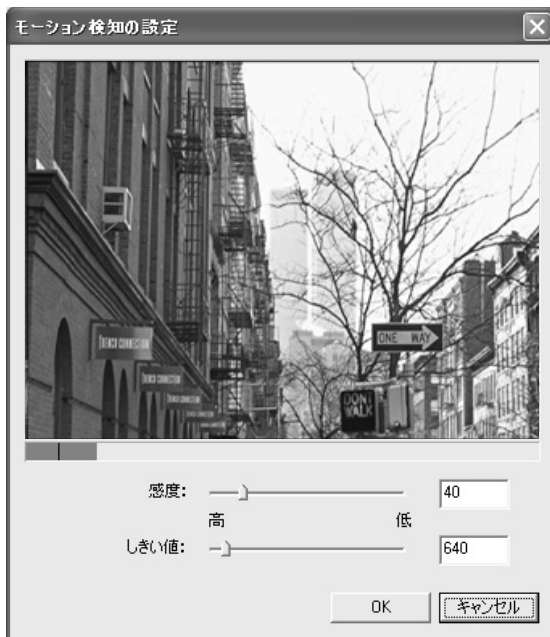
ご注意：

- モーション検知はシステム運用において非常に重要な機能であり、運用上不必要な警報を避けるためには各カメラに対する設定は慎重に行う必要があります。実際のカメラの物理的設置場所における様々な条件（昼/夜、風の強弱などを含めた天候）での十分なテスト/調整を行うことが必要です。

1 [カメラ記録設定]画面で[デバイスマネージャ]からカメラを選択し、[カメラ設定]から[モーション検知]ボタンをクリックし、[モーション検知の設定]を開く

2 [感度]と[しきい値]を設定する

- [感度]スライダーは画像ピクセル内の変化のどのレベルをモーションと認識するかを設定します。“高”設定では、ピクセル内のわずかな変化をモーション変化と認識します。ひとつ前の画像と比較し、変化した画像は色つき（デフォルトでは緑色）ハイライト表示されます。



[モーション検知の設定]画面

メモ：

- [しきい値]スライダーは何ピクセルの変化をモーション変化と判断するかを設定します。スライダーを左右に移動させると画面下のラインが移動し、境界線（しきい値）の調整を行います。検出されるモーション（動き）を表示するバー（緑）がしきい値を超えると赤色に変化し、[モーション検知]があったことを示します。

一般設定

[カメラ記録設定] → [一般設定] から E メールなどシステム全般に関する設定などを行うことができます。



ご注意：
 ● [アドミニストレーターの設定]の[パスワードを使用][パスワードを変更]の機能は使用しないでください。

項目	内容
① Milestone XProtect Central の設定	Milestone 社の Milestone XProtect Central を使うための設定です。 メモ： ● 詳細につきましては、Milestone Systems 社のホームページ (http://www.milestonesys.com) をご覧ください。 ● URL は変更される場合があります。
② パトロール設定	PTZ カメラを使ったパトロール機能を使っているときに設定します。(P.95 ページ)
③ ジョイスティック	ジョイスティックに関する設定を行います。 メモ： ● この画面からは設定できない場合があります。他の設定方法については [ジョイスティックの設定を変更する] (P.141 ページ) をご覧ください。
④ E メール設定	Eメールの設定を行います。(P.109 ページ)

項目	内容
⑤ 詳細設定	
カメラ不具合で E メール送信は行わない	チェックを入れると、カメラとのオンラインが途絶えた場合、警告の E メールを送りません。
リモートライブ要求でカメラを起動する	カメラがオフラインでもライブ映像を見ることができます。 NVR Viewer のライブ画面を表示すると、カメラが自動的にオンラインに切り換わります。スケジューラでオフラインに設定されている期間は、本機能でオンラインになっても記録は行われません。 ご注意： ● “リモートライブ要求でカメラを起動する” が設定されている場合、ライブ映像を見ている間は、カメラがオンラインになります。
新規カメラにはデフォルトスケジュールを適用する	チェックを入れると、カメラは常にオンラインのスケジュールが自動的に [スケジューラ] に設定されます。(P.55 ページ)
⑥ イベント録画の設定	変更しないでください。
⑦ ログファイル設定	変更しないでください。

Eメール設定

⑦
[Eメールの設定]画面

メモ:

- [テスト] ボタンを押すと、テスト用のメールを送ることができます。送信者のメールアドレスが送信先メールサーバーと同一のサーバーの未登録 E メールアドレスの場合、[送信者の E メールアドレスが有効ではありません。有効な E メールアドレスを再入力し、やり直してください。]と表示されることがあります。送信者の E メールアドレス、送信メールサーバーを確認して再設定してください。
- E メールは以下の場合に送られます。
 - 入力イベントが発生した時 (☞98 ページ『入力イベントを設定する』)
 - イベントボタンを押した時 (☞101 ページ『イベントボタンを設定する』)
 - ジェネリックイベントが発生した時 (☞102 ページ『ジェネリックイベントを設定する』)
 - モーションを検知した時 (☞107 ページ『モーション検知を設定する』)
 - カメラの不具合が発生した時
 - アーカイブエラーが発生した時 (☞110 ページ『アーカイブの設定』)
- モーション検知によって E メールを送信するためには『スケジューラの設定』(☞55 ページ) で E メールが送信される期間を設定しておく必要があります。
- E メールを設定した場合にはテストを行い、E メールが送信されることを確認してください。

ご注意:

- 件名に日本語を入力すると、受信メールで文字化けが発生することがあります。

項目	内容
① Eメールを使用する(モニター)	Eメール送信を行うときに、チェックします。
② 受信者	送信先のメールアドレスを入力します。複数の送信先を指定する場合は、セミコロンを入れてアドレスを続けて入力します。
③ 送信者設定	送信者のメールアドレス、出力メール(SMTP)サーバー名、メールサーバーへのログイン設定を入力します。
④ 件名	件名を入力します。
⑤ メッセージ	送信内容を入力します。
⑥ メール送信間の時間(分)	メールを送信するインターバルを分単位で設定します。
⑦ 画像を含む	送信メッセージに画像を含む場合、チェックを入れます。

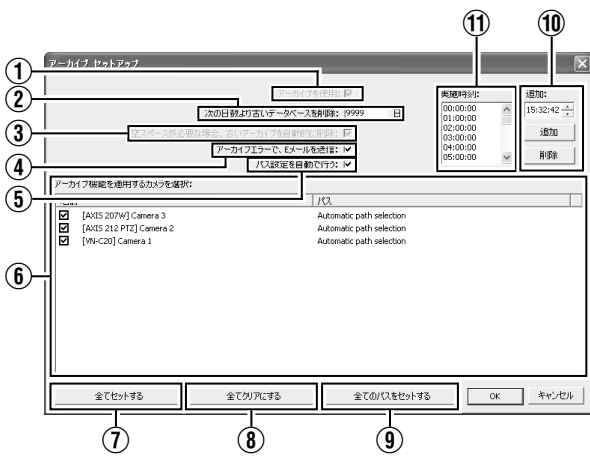
アーカイブの設定

記録画像は、アーカイブすることにより使用するハードディスクの容量一杯まで保存できます。
 デフォルトでは、カメラからの記録画像はカメラごとにデータベースに保存され、データベースが一杯になると自動的にアーカイブされます。

メモ：

- カメラごとのデータベースは[カメラ記録設定]→[デバイスマネージャ]→[カメラ名]→[カメラ設定]をクリックし、[データベース設定]で調整します。最大 600,000 フレームもしくは 40GB まで保存でき、古い情報から削除されます。毎日アーカイブすることで、画像データは使用するハードディスクの容量一杯まで保存することができます。
- 毎日設定した回数のアーカイブ作成が指定できます。
- アーカイブ用として用意する記憶装置は、自動的に選択されます。アーカイブは空き容量の大きいドライブが自動的に選択されます。
- アーカイブされた画像も通常の記録画像と同様に、再生機能を利用することができます。

1 [カメラ記録設定]→[アーカイブ設定]をクリックする



[アーカイブセットアップ]画面

2 [次の日数より古いデータベースを削除]に、何日分のアーカイブデータを保存するかを指定する

3 毎日何時にアーカイブを作成するか、[追加][削除]ボタンを使って設定する

4 アーカイブを作成するカメラを指定する

ご注意：

- アーカイブ機能の動作開始時に、記録画像が数秒間途切れる場合があります。

メモ：

- 音声ありで記録されている場合、音声データのアーカイブも作成・保存されます。

■ 設定項目と各ボタン

項目	内容
① アーカイブを使用	この項目は設定できません。常にチェックが付いています。
② 次の日数より古いデータベースを削除	アーカイブされた画像を何日残すかを指定します。
③ 空きスペースが必要な場合、古いアーカイブを自動的に削除	この項目は設定できません。常にチェックが付いています。
④ アーカイブエラーで、Eメールを送信	アーカイブが失敗したとき、Eメールで通知します。
⑤ パス設定を自動で行う	アーカイブする記憶装置を自動的に選択します。アーカイブは空き容量の大きいドライブが自動的に選択されます。通常はチェックを付けておきます。チェックをはずすと[保存先指定]ボタンが表示されます。 NASにアーカイブするなど、保存先を特定のドライブに設定したい場合にはチェックをはずします。
保存先指定	[自動パス設定]ボックスのチェックをはずすと表示されます。カメラごとのアーカイブ先を指定します。NASにアーカイブするなど、保存先を特定のドライブに設定したい場合にはここで保存先を指定します。 ご注意： ● 運用後、アーカイブ先の変更を行うと、以前のアーカイブデータは再生できなくなります。
⑥ アーカイブ機能を用いるカメラを選択	[アーカイブを使用]ボックスにチェックを入れると、アーカイブ可能なカメラの一覧が表示されます。特定のカメラにアーカイブを設定するには、カメラ名横のボックスにチェックを入れてください。
⑦ 全てセットする	全てのカメラにチェックを入れます。
⑧ 全てクリアする	全てのカメラのチェックをはずします。
⑨ 全てのパスをセットする	使用しません。

■ 設定項目と各ボタン（つづき）

項目	内容
⑩ 追加	アーカイブ時刻を指定します。
追加	[追加] 欄で指定した時刻を、[実施時刻] ⑬ 一覧に追加します。
削除	選択した実施時刻を一覧から削除します。
⑪ 実施時刻	指定されたアーカイブ時刻の一覧。アーカイブは毎日指定された時刻に行われます。

メモ：

- NAS とは、ネットワーク上に接続したファイルサーバ専用機です。本機では NAS を NAS ドライブとしてアーカイブ先に指定することができます。
- NAS ドライブの設定につきましては、[ハードディスクユーティリティ] の [詳細] 項目 (p. 119 ページ) をご覧ください。

ご注意：

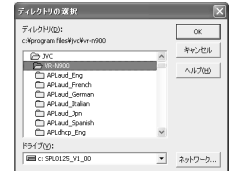
- アーカイブ処理開始時にその他の操作（ライブ映像表示の開始など）が重なると、最大 3 秒程度記録が途切れる場合があります。
- アーカイブ実施時刻の間隔は 1 時間以上あけてください。
- 複数のカメラから同じ NAS ドライブを指定しないでください。カメラ台数分の NAS を確保できない場合は、NAS を複数のパーティションに切り、別の NAS ドライブとして設定してください。
- [パス設定を自動で行う] の設定を変更すると変更前のデータの再生が出来なくなることがあります。

NAS へのアーカイブ設定変更時のご注意

アーカイブの保存先に NAS を設定している場合、「ディレクトリの選択」画面を表示したときに表示されるパスが、設定値と異なる場合がありますのでご注意ください。



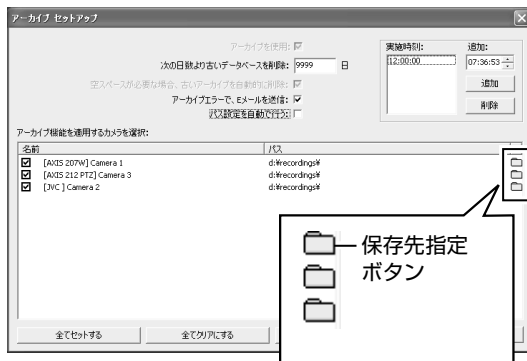
[アーカイブセットアップ] 画面 (アーカイブの保存先に h:¥が設定されている)



[ディレクトリの選択] 画面 (C ドライブが表示されている)

アーカイブ設定変更時のご注意

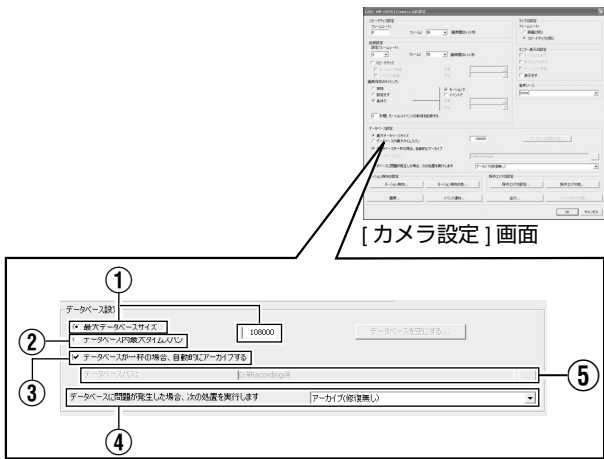
アーカイブの保存先に C、L、M ドライブを設定しないでください。正常に動作しなくなる場合があります。



データベースの設定

記録データのデータベースの設定を行います。
 [メインメニュー] → [カメラ記録設定] → [デバイスマネージャ] からカメラを選択 → [カメラ設定] を選びます。

メモ：
 ● 本機では、記録データをデータベースと呼んでいます。記録画像はデータベースとして保管されます。



■ データベース設定を行う

項目	内容
① 最大データベースサイズ	一定のレコード数（記録数）に達するまで、記録をデータベースに保存します。となりの欄でレコード数を指定します。 [データベースが一杯の場合、自動的にアーカイブする]③にチェックがされていない場合、指定したレコード数に達したら、古い記録から自動的に上書きされます。
② データベース内最大タイムスパン	一定の記録時間に達するまで、記録をデータベースに保存します。となりの欄で記録時間を指定し、時間の単位（分、時間、日）をリストから選びます。 [データベースが一杯の場合、自動的にアーカイブする]③にチェックがされていない場合、指定した記録時間に達したら、古い記録から自動的に上書きされます。
③ データベースが一杯の場合、自動的にアーカイブする	データベースが一杯になった場合、自動的にアーカイブします。 ハードディスクの空き容量が少なくなった場合、古いアーカイブから削除されます。

項目	内容
④ データベースに問題が発生した場合、次の処置を実行します	データベースに問題が発生した場合、どうするか選択します。選択肢の数は、アーカイブが有効かどうかによって変わります。 通常は“アーカイブ（修復無し）”を選択してください。他の選択肢を選択した場合は、最悪の場合データベースに問題が発生した場合に消去されてしまうことがあります。 [修復。不可能な場合はスキャンし、消去します]： 簡易版（修復）と詳細版（スキャン）の、2種類の修復方法が試されます。そのどちらもうまくいかなかった場合は、データベースの内容を削除します。 [修復。不可能な場合は消去します]： 簡易版の修復が試されます。うまくいかなかった場合は、データベースの内容を削除します。 [修復。不可能な場合はアーカイブします]： カメラのアーカイブが有効の場合のみ選択できます。簡易版の修復が試されます。うまくいかなかった場合は、データベースの内容をアーカイブします。 [削除（修復せず）]： 選択しないでください。 [アーカイブ（修復無し）]： カメラのアーカイブが有効の場合のみ選択できます。データベースの内容をアーカイブします。通常はこれを選択してください。
⑤ [データベーススパス]	設定は変更しないでください。

メモ：
 ● データベースは、最大 600,000 レコードまで保存可能です。
 ● 最大データベースサイズの初期設定は、108,000 レコードです。変更した場合、記録時間、記録性能が低下することがありますので、変更しないでください。
 ● アーカイブを使用すると、この限度に関係なく保存することが可能です。
 ● 設定によって、次の[設定を修正しますか]画面が表示される場合があります。その場合、[いいえ]をクリックしてください。



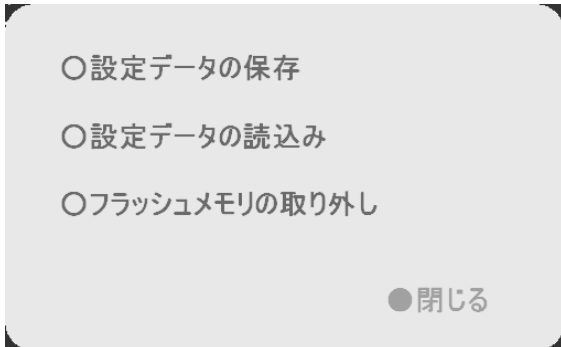
ご注意：
 ● UPS を使用しない場合は、“データベース内最大タイムスパン”を選択し、その時間を“60分”に設定することを推奨します。

フラッシュメモリユーティリティ

フラッシュメモリへの設定値の保存・復元などを行います。

1 メインメニューの [フラッシュメモリユーティリティ] を選ぶ

- フラッシュメモリユーティリティ画面が表示されます。



フラッシュメモリユーティリティ画面

■ 設定データの保存

本体設定データをフラッシュメモリに保存します。

1 前面（背面）の [シリアル](SERIAL) 端子にフラッシュメモリを挿入する

2 [設定データの保存] を選ぶ

- [設定データを保存しますか?]という確認メッセージが表示されます。
- [フラッシュメモリを検出できません]と表示されることがあります。この場合、30 秒程待ってから、再度 [設定データの保存] を選択してください。

3 [OK] を押す

- 設定データの保存が実行されます。
- 保存が完了すると [設定データを保存しました] というメッセージが表示されるので、再度 [OK] を押します。

4 [フラッシュメモリの取り外し] を選ぶ

- [フラッシュメモリを取り外しますか?]という確認メッセージが表示されるので、[OK] を押します。
- [フラッシュメモリを取り外しました]というメッセージが表示されるので、[OK] を押します。

5 前面（背面）の [シリアル](SERIAL) 端子からフラッシュメモリを取り外す

メモ：

- [メインメニュー]⇒[カメラ記録設定]の[画質]の設定(☞ 60 ページ)、[OS 設定](☞ 75 ページ)、[ユニット設定]の [パスワード] セクション(☞ 71 ページ) で設定された項目の保存は行われません。
- 設定データはフラッシュメモリ (USBメモリ) の VR-N1600 フォルダ以下に保存されます。(VR-N1600)
- 設定データはフラッシュメモリ (USBメモリ) の VR-N900 フォルダ以下に保存されます。(VR-N900)
- [フラッシュメモリの取り外し] を実行したあとで再度設定データの保存を行う場合にはシリアル端子から 1 度フラッシュメモリを取り外し、再度挿入してください。挿入時の認識は自動的に行われます。

フラッシュメモリユーティリティ (つづき)

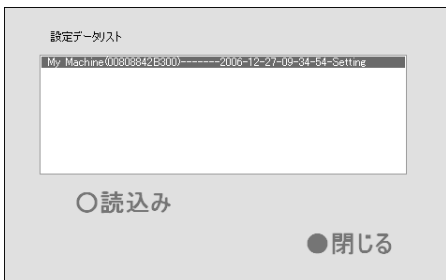
■ 設定データの読み込み

本体設定データをフラッシュメモリから読み込みます。

1 前面 (背面) の [シリアル] (SERIAL) 端子にフラッシュメモリを挿入する

2 [設定データの読み込み] を選ぶ

- フラッシュメモリに保存されたデータが存在する場合、設定データリストに、フラッシュメモリに保存されているデータの一覧が表示されます。
- [フラッシュメモリを検出できません]と表示されることがあります。この場合、30 秒程待つてから、再度 [設定データの読み込み] を選択してください。
- このセットで保存された設定データは、先頭に “My Machine” と表示されます。他の NVR で保存されたデータの場合、“Other Machine” と表示されます。続く () 内には、データを保存した NVR の Mac アドレスが表示されます。その後ろに保存した日時が “年 - 月 - 日 - 秒 - Setting” のように表示されます。
- 複数のデータが表示された場合、リストにフォーカスをあて、読み込みたいデータをハイライト状態にします。

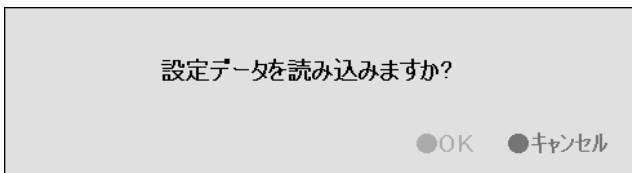


[設定データリスト] 画面

3 読み込む設定データを選び、[読み込み] を押す

- ハイライトしているデータの読み込みを行います。

4 [設定データを読み込みますか?] という確認メッセージが表示されるので、[OK] を押す



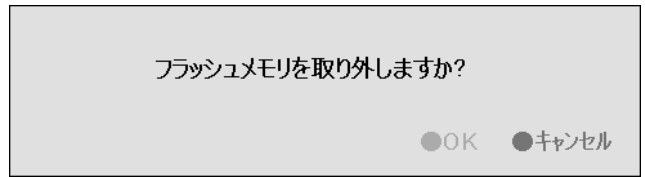
- 設定データの読み込みが実行されます。
- 読み込みが完了すると [設定データを読み込みました] というメッセージが表示されるので、[OK] を押します。

5 [閉じる] を押して、フラッシュメモリユーティリティ画面に戻る

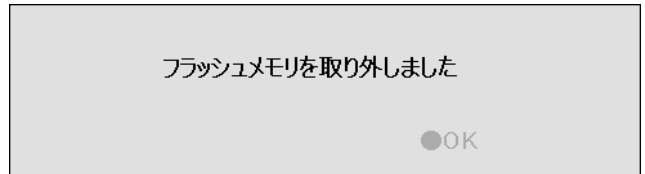
■ フラッシュメモリの取り外し

1 [フラッシュメモリの取り外し] を選ぶ

- [フラッシュメモリを取り外しますか?] という確認ダイアログが表示されるので、[OK] を押します。



- [フラッシュメモリを取り外しました] というメッセージが表示されるので、[OK] を押します。



2 前面 (背面) の [シリアル] (SERIAL) 端子からフラッシュメモリを取り外す

メモ :

- [メインメニュー]⇒[カメラ記録設定]の[画質]の設定(☞ 60 ページ)、[OS 設定](☞ 75 ページ)、[ユニット設定]の[パスワード]セクション(☞ 71 ページ)で設定された項目の読み込みは行われません。
- [フラッシュメモリの取り外し]を実行したあとで再度設定データの読み込みを行なう場合にはシリアル端子から1度フラッシュメモリを取り外し、再度挿入してください。挿入時の認識は自動的に行なわれます。

ご注意 :

- 異なる言語設定で保存された設定データを読み込んだ場合には、[メインメニュー]の[言語設定]で保存した時の言語に変更してください。
- Milestone System社のEnterpriseを使用してMaster/Slaveを構築する場合、1台のNVRの設定を他のNVRで読み込んで使用することはできません。
- VR-N900で保存したデータをVR-N1600で使うことはできません。逆の場合も同様です。

自動検出設定

カメラへの IP アドレス割り振り、自動検出関連の各種設定を行います。

IP リース機能を設定する

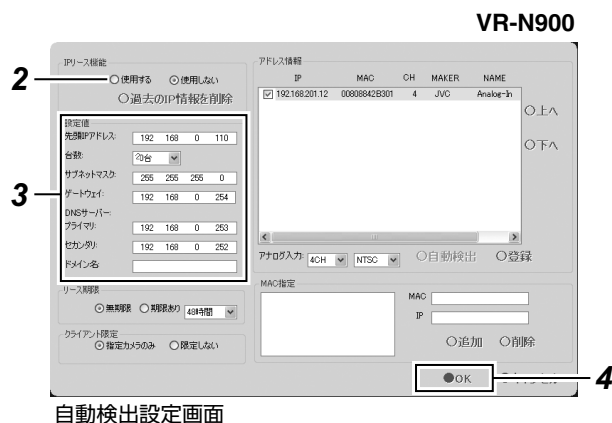
各ネットワークカメラに IP アドレスを割り振る機能を設定します。

ご注意：

- IP リース機能でネットワークカメラの IP アドレスを割り振るためには、ネットワークカメラの DHCP を有効にしておく必要があります。ネットワークカメラの DHCP を有効にするには、ネットワークカメラの取扱説明書をご覧ください。

1 [メインメニュー] から [自動検出設定] を選ぶ

- 自動検出設定画面が表示されます。



自動検出設定画面

2 [IP リース機能] で [使用する] を選択する

ご注意：

- NVR を複数台同時使用するネットワークの場合、[IP リース機能] を有効にするのは、1 台だけにしてください。また、同一ネットワーク上に DHCP サーバーが稼働している場合には、[使用しない] を選ぶようにしてください。
- [IP リース機能] を同時に 2 台以上有効にすると、固定 IP になってしまうなど、カメラが誤動作する場合があります。

3 [設定値] の各項目を設定する

項目	内容
先頭 IP アドレス	カメラに割り振る IP アドレスの先頭アドレスを指定します。
台数	カメラに割り振る IP アドレスの台数を選びます。先頭 IP アドレスから選んだ台数分の IP アドレスが割り振られます。
サブネットマスク	カメラに設定するサブネットマスクを指定します。
デフォルトゲートウェイ	カメラに設定するゲートウェイを指定します。
DNS サーバー	カメラに設定する DNS サーバーのアドレスを指定します。
ドメイン名	カメラに設定するドメイン名を指定します。
リース期限	カメラに割り当てる IP アドレスの有効期限を設定します。“期限あり”を選択すると、リース期限を時間単位で選択することが出来ます。
クライアント限定	IP アドレスを割り当てる際に、機器を限定するかを選択します。“指定カメラのみ”を選択した場合は、対応カメラのみ IP アドレスを割り当てます。“限定しない”を選択した場合は、どの機器に対しても IP アドレスの割り当てを行います。
MAC 指定	[MAC 指定] はカメラに、指定した IP アドレスを割り当てたい場合に設定します。指定した MAC アドレスには、常に指定した IP アドレスが割り当てられます。MAC 欄と IP 欄に値を設定して [追加] を押すと設定されます。また、表示されている MAC アドレスと IP アドレスを選択して、[削除] を押すと、設定が解除されます。

4 [OK] をクリックする

- 設定画面が非表示になり、IP リース機能が開始します。
- IP リース機能を停止するには、ステップ 2 で“使用しない”を選択してください。

自動検出設定 (つづき)

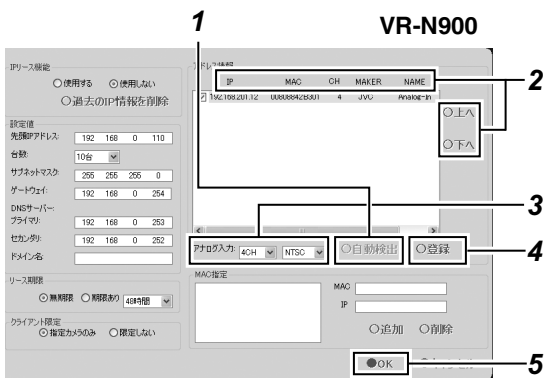
自動検出機能を使う

対応ネットワークカメラの自動検出を行います。

メモ:

- スイッチング HUB などのネットワーク機器にマルチキャストパケットを通さない設定がされていると、自動検出が正しく行えない場合があります。

[アドレス情報] のリストには、自動検出したカメラの IP アドレス、MAC アドレス、映像 CH 数、メーカー名、機種名が表示されます。



自動検出設定画面

1 [自動検出] をクリックする

- 自動検出が行われ、画面にカメラが表示されます。上位にあるカメラが優先的に使用されます。

2 検出されたカメラの順番を入れ換える

- ソートボタンをクリックすると検出されたカメラの順番をソートすることができます。
- ソートボタンには、[IP] ソート、[MAC] ソート、[CH] ソート、[MAKER] ソート、[MODEL] ソートがあります。
- 検出されたカメラを選んでから [上へ]、[下へ] ボタンをクリックすると、カメラの順番が入れ換わります。
- 使用しないカメラの場合はチェックをはずしてください。

メモ:

- リスト順の上位にあるカメラが優先的に使用されます。

3 アナログ入力を設定する (VR-N900)

- 使用するアナログ入力のチャンネル数と形式を設定します。

ご注意:

- 背面の [VIDEO IN] 端子に接続されているアナログカメラの信号が、[アナログ入力] の設定 (NTSC/PAL) と異なる場合、“ENCODE ERROR (format)” と表示されます。この場合、マウスを使い [OK] ボタンをクリックして “ENCODE ERROR (format)” 表示を非表示にしてから、[アナログ入力] の NTSC/PAL を正しく設定してください。
- マウスの使い方については [文字の入力・マウスポインターについて] (P.28 ページ) をご覧ください。

4 [登録] をクリックする

5 [OK] をクリックする

- [カメラ記録設定] 画面が表示されます。

6 [カメラ記録設定] 画面の [閉じる] をクリックする

- DefaultView が自動的に作成されます。このビューを保存したい場合は、ビューの名前を変更してください。

メモ:

- 自動検出機能で作成されたビュー (Default View) では、ビュー内のカメラの配置が変わることがあります。配置を固定したい場合はビューに名前をつけて保存してください。

ご注意:

- 自動検出の操作を行う際、[デバイス検索] 画面で、“次回以降検出しません” をチェックすると、以降の自動検出操作では、当該カメラの [デバイス検索] 画面が表示されなくなりますが、一度検出対象外にしたカメラでも手動で追加 (P.88 ページ) することが可能です。

言語設定

使用する言語の設定を行います。

- メモ： _____
- 機能および GUI は、初回電源投入時に表示される『言語を選択する』(P.23 ページ)と同じです。

1 NVR Viewer を終了する

2 メインメニューから [言語設定] を選ぶ

- NVR Viewer 初回電源投入時には、言語選択の画面が表示されます。

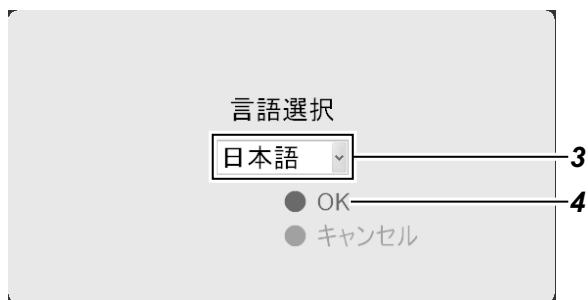
3 言語を選ぶ

- 言語選択のプルタブをクリックして変更したい言語を選びます。

4 OK をクリックする

- 選択を有効にするには [OK] を押します。言語設定を変更すると再起動します。

- メモ： _____
- キャンセルするには [キャンセル] を押します。



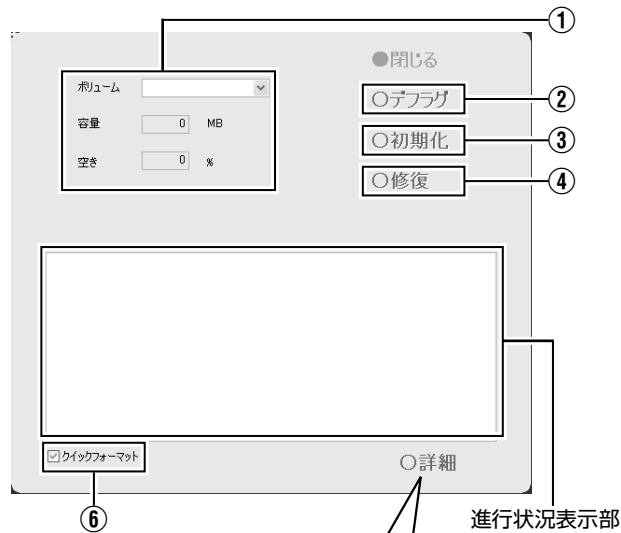
[言語選択] 画面

ご注意： _____

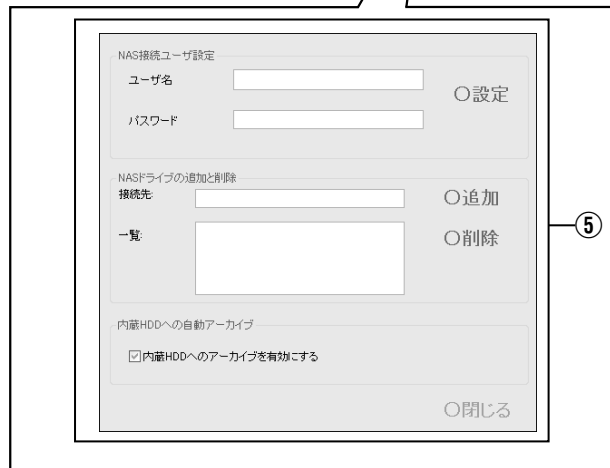
- 言語設定は、本機の起動直後に行なってください。
- 言語設定が終了すると本機は自動的に再起動します。終了するまで約5分かかります。
- 言語設定は、NVR Viewer を終了した後に行なってください。
- 言語設定中は、絶対に電源を切らないでください。

ハードディスクユーティリティ

ハードディスクの状態確認、フォーマット（初期化）、デフラグ（空き領域の断片化を解消する）を行います。進行状況表示部には、フォーマット、デフラグの進行状況を表示します。



ハードディスクユーティリティ画面



1 メインメニューから [ハードディスクユーティリティ] を選ぶ

- ハードディスクユーティリティ画面が表示されます。以下の項目を設定します。

項目	内容
① ボリューム	ボリューム欄右側の下矢印をクリックして、操作対象のハードディスクを選択します。選択するとその下側に選択したボリュームの容量と空き容量の割合が表示されます。

項目	内容
② デフラグ	<p>ボリューム欄で選択したボリュームに対してファイルの断片化を解消するデフラグ機能を実行します。ハードディスクの状態によって数時間かかる場合があります。</p> <p>状況により、実行できない場合は、“今はデフラグできません。”と表示されます。[閉じる]を押してダイアログを閉じます。</p>
③ 初期化	<p>ボリューム欄で選択したボリュームに対してハードディスクの初期化を実行します。初期化を行うと、そのボリュームに含まれている全てのデータが失われます。確認のため“初期化してかまいませんか？”と表示されます。また、フォーマットされていないディスクを選択したとき、“unformat disk”または“unpartition disk”と表示されます。</p> <p>初期化して構わない場合は、[OK]を押してください。取りやめたい場合は、[キャンセル]を押してください。状況により、実行できない場合は、“今は初期化できません。”と表示されます。[OK]、[キャンセル]のいずれかを押してダイアログを閉じてください。</p> <p>通常は、初期化された状態でハードディスクは出荷されますが、ハードディスクの種類によってはフォーマットされていない場合があります。その場合、ボリューム一覧には [unformat disk] が現れます。未フォーマット・ディスクは、[unformat disk] を選択した後、[初期化] を押してください。</p> <p>ご注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボリューム C、D、L、M は初期化できません。
④ 修復	<p>通常は選択しません。ハードディスクの障害が疑われるような場合、ディスクのデータ構造をチェックしたい場合に選びます。ハードディスクの容量が大きい場合は、数時間かかる場合があります。また、システムファイルの入っているハードディスクは、修復できません。次回、起動時に実行されます。</p> <p>修復を行おうとするボリュームが使用中で修復できないことがあります。この場合、“現在実行できません。次回のシステム起動時に、修復をスケジュールしますか。”と表示されます。[キャンセル]を押してもう一度修復ボタンを押して修復を試みるか、[OK]を押して次回のシステム起動時に修復を行うか選択してください。</p>

項目	内容
⑤ 詳細	<p>クリックすると [詳細設定] 画面が表示されます。</p> <p>NAS にアーカイブする場合の設定と、内蔵 HDD へのアーカイブの設定を行います。</p>
NAS 接続ユーザ設定	
ユーザー名	NAS へ接続するためのユーザ名を指定します。
パスワード	NAS へ接続するためのパスワードを指定します。
NAS ドライブの追加と削除	
追加	<p>[接続先] に接続する NAS の IP アドレスを入力し [追加] ボタンをクリックします。</p> <p>例) ¥¥192.168.0.200¥¥h ¥¥NAS 機器の IP アドレス¥¥共有名</p>
削除	[一覧] から削除する NAS を選択し [削除] ボタンをクリックします。
内蔵 HDD への自動アーカイブ	
内蔵 HDD へのアーカイブを有効にする	<p>通常はチェックを付けます。</p> <p>チェックをはずすと内蔵 HDD へアーカイブされません。</p>
⑥ クイックフォーマット	<p>[クイックフォーマット] にチェックを入れてから [初期化] ボタンをクリックすると、初期化にかかる時間を短縮することができます。</p> <p>HDD の初期化時に、不良セクタの検出を行なう場合は、[クイックフォーマット] のチェックを外してから [初期化] ボタンを押してください。</p>

メモ：

- NAS とは、ネットワークに接続したファイルサーバ専用機です。本機では NAS を NAS ドライブとしてアーカイブ先に指定することができます。
- NAS ドライブへのアーカイブにつきましては、『アーカイブの設定』(p.110 ページ)をご覧ください。

ご注意：

- NAS 接続ユーザー設定のユーザー名には、[OS 設定] (p.75 ページ) のホスト名と異なる名前を指定してください。
- NAS ドライブを設定した後、1 分程度 NVR Viewer 上にエラーメッセージが表示され、ライブ映像が表示できない場合があります。

初期設定に戻す

設定内容を初期状態に戻します。

1 メインメニューから [初期設定に戻す] を選ぶ

- [初期化後は自動で再起動します。開始してもよろしいですか?] のメッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックする

- 初期化後、再起動します。



ご注意：

- [メインメニュー]の[OS設定](p.75 ページ)、[言語設定]、[ユニット設定]の[パスワード]セクション(p.71 ページ)の内容は初期化されません。

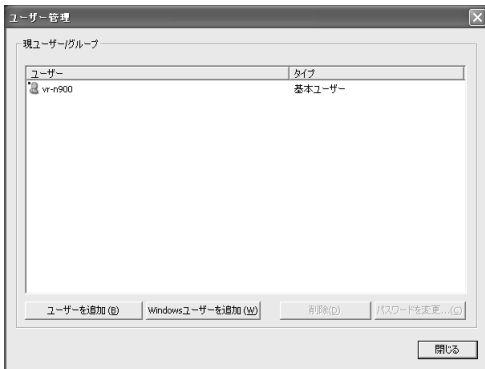
配信設定の詳細

ユーザー管理

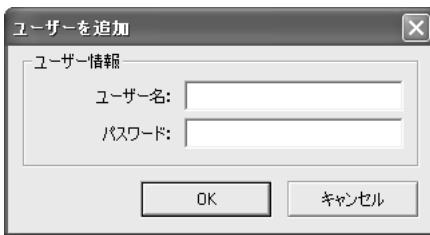
ユーザーの登録とユーザー権限の設定を行います。

■ ユーザー設定

[ユーザ管理] 画面が表示され、ユーザーとパスワードを設定できます。ユーザーの追加方法には以下の2通りがあります。

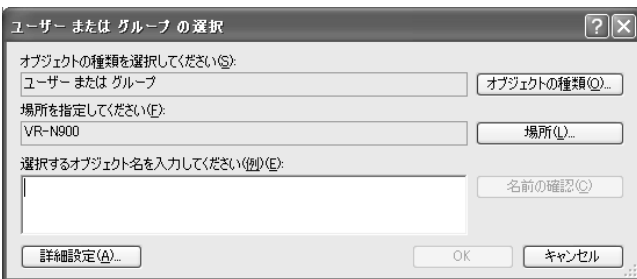


● ユーザーを追加：



ユーザー名とパスワードによる認証を行う監視システム専用のユーザーアカウントを作成します。

● Windows user を追加：



ご注意：

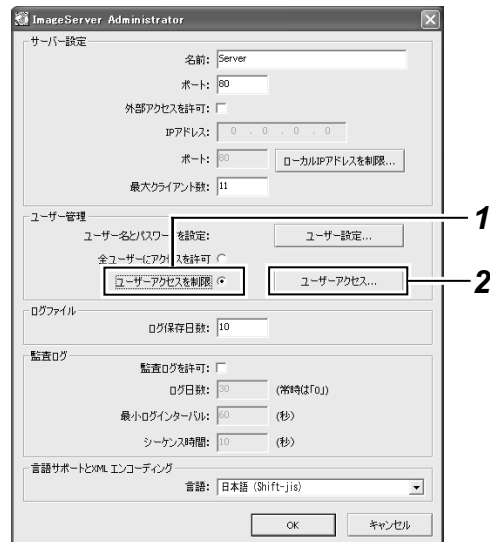
- 通常は使用しません。この設定はシステム管理者にご確認ください。
- [OS 設定] で [ホスト名] を変更した場合には、[ユーザーまたはグループの選択] 画面の [選択するオブジェクト名を入力してください] に、“Administrator” と入力し、[名前の確認] ボタンをクリックしてください。その後 [OK] ボタンをクリックしてください。
- Windows ユーザーは、[OS 設定] の [ホスト名] で設定したホスト名ごとに Windows ユーザーを設定する必要があります。[ユーザ管理] 画面ではユーザーのホスト名が表示されないため、ホスト名を変更した場合には、Windows ユーザーを削除してから、あらためて Windows ユーザーを追加することを推奨します。

メモ：

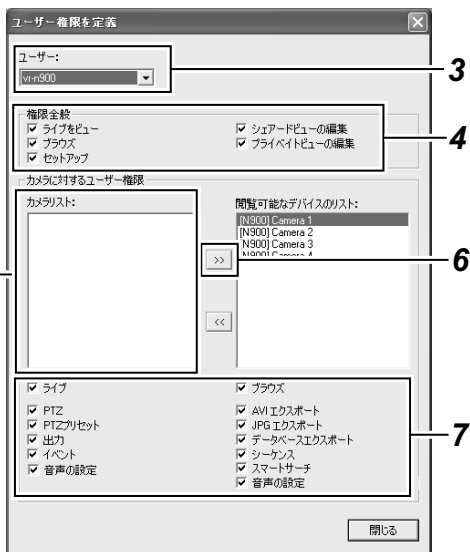
- 設定済みのユーザー名とパスワードを編集するには、[現ユーザー/グループ] リストで編集したいユーザーを選び、[パスワードを変更...] ボタンを押してください。
- 設定済みのユーザーを削除するには [現ユーザー/グループ] リストで削除したいユーザーを選び、[削除] ボタンを押してください。リストから削除されたユーザーは、NVR Viewer にログインできなくなります。
- [ユーザーを追加] でユーザーを追加した場合、[ユーザ管理] 画面のアイコンの左上に小さな四角形が表示されます。[ユーザーを追加] と [Windows user を追加] で同じユーザー名を登録した場合、この記号で区別することができます。

■ ユーザー権限の設定方法

- 1 [ユーザ管理] セクションで [ユーザーアクセスを制限] を選ぶ
- 2 [ユーザーアクセス ...] をクリックする



3 [ユーザー]リストから権限を設定したいユーザーを選ぶ



4 [権限全体]リストで、ユーザーのグローバル(カメラに限定されない)権限を選ぶ

項目	内容
ライブをビュー	ライブ映像を見ることができます。
ブラウズ	記録映像を再生することができます。
セットアップ	画面表示設定タブを使うことができます。
シェアードビューの編集	共有グループ内ビューを作成・編集することができます。
プライベートビューの編集	プライベートビューを作成・編集することができます。

5 [カメラリスト]からアクセスできるようにしたいカメラを選ぶ

6 [>>]をクリックし、[閲覧可能なデバイスのリスト]へ移動する

7 [閲覧可能なデバイスのリスト]に移されたカメラごとに機能を選ぶ

- 以下の機能から選びます。デフォルトでは全て選択されています。

項目	内容
ライブ	選択されたカメラからのライブ映像を見ることができます。
PTZ	NVR Viewer で PTZ カメラを操作することができます。
PTZ プリセット	NVR Viewer で PTZ カメラをプリセット位置に移動することができます。
出力	照明を点灯させたり、サイレンを鳴らしたりするなどの出力が可能である場合に、出力することができます。
イベント	NVR Viewer で手動イベントを発生することができます。
音声の設定	選択されたカメラからのライブ音声を聞くことができます。(カメラに音声ソースを設定している場合のみ)
ブラウズ	選択されたカメラからの記録映像を再生することができます。
AVI エクスポート	AVI フォーマットで画像をエクスポートできます。
JPG エクスポート	JPEG フォーマットで画像をエクスポートできます。
データベースエクスポート	データベースフォーマットで画像や音声をエクスポートできます。
シーケンス	選択されたカメラからの映像をシーケンス機能を使って再生できます。
スマートサーチ	NVR Viewer でスマート検索機能 (47 ページ) を使うことができます。
音声の設定	選択されたカメラからの再生音声を聞くことができます。(カメラに音声ソースを設定している場合のみ)

8 上記設定を他のユーザーに対して繰り返す

メモ：

- 運用を行うユーザは、不用意にシステムが変更されるのを防ぐために、[セットアップ]権限を制限することをおすすめします。

パソコンと接続する

パソコンと接続して以下のことができます。

- パソコンでライブ映像を見る
- パソコンでネットワークカメラの制御をする
- パソコンで記録画像を見る

ご注意：

- パソコンは LAN2 端子のネットワークに接続してください。
- LAN2 のネットワークに接続したパソコンから LAN1 のネットワークに接続したカメラの設定はできません。

パソコンの必要条件

項目	内容
OS	Microsoft Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server および Advanced Server、Windows XP Professional (32 および 64 ビット)、Windows Server 2003 (32 および 64 ビット)
CPU	Intel Pentium4以上 (大画面の場合は Xeon 推奨)、2.4GHz 必須
RAM	512MB 必須 (大画面の場合は 1GB 推奨)
ネットワーク	Ethernet、100Mbps 以上推奨
グラフィックカード	AGP または PCI-Express、1024 × 768 必須 (1280 × 1024 推奨)、16 ビットカラー以上
ハードディスク	50 MB 以上の空き容量
ソフトウェア	Microsoft .NET Framework 2.0 および DirectX 9.0 以降 Microsoft Internet Explorer 6.0

ご注意：

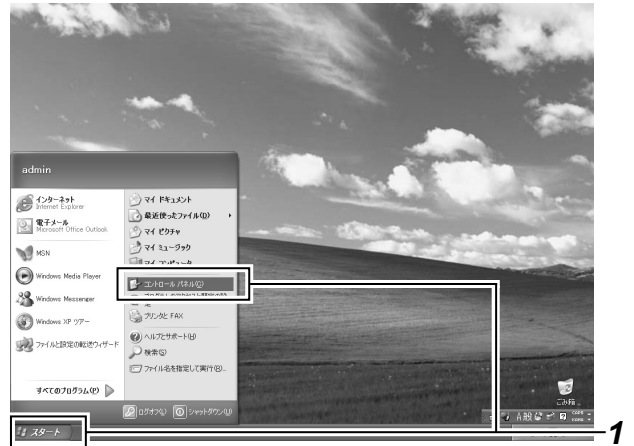
- Windows2000 でご使用の場合、日本語の文字が正しく表示されないことがあります。

パソコンのネットワーク設定をする

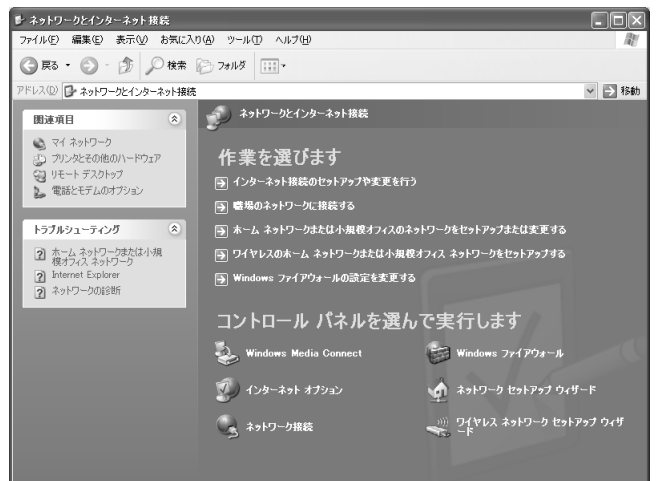
ここでは、本機の工場出荷設定を利用し、小規模の LAN を構築する場合を Windows XP professional の設定例として説明します。

(画面は全て WindowsXP SP2 の設定画面です。)

1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする



2 [ネットワークとインターネット接続] → [ネットワーク接続] をクリックする



3 NVR が接続されているネットワークを選ぶ

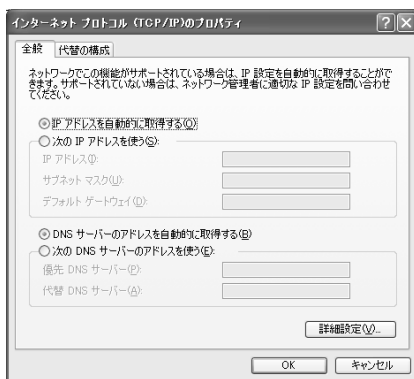


4 右クリックし、[プロパティ]を選ぶ

5 [Microsoft ネットワーク用クライアント]、[インターネットプロトコル (TCP/IP)] の両方にチェックがついていることを確認する



6 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選び、[プロパティ] ボタンをクリックする

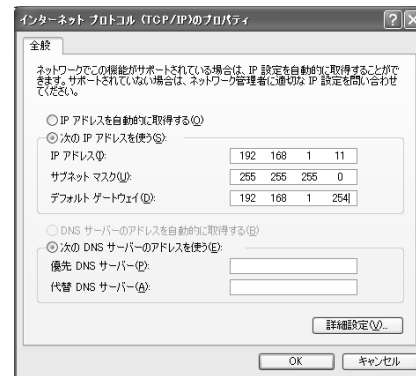


7 [次の IP アドレスを使う] を選ぶ

8 [IP アドレス] を 192.168.1.11 に設定する

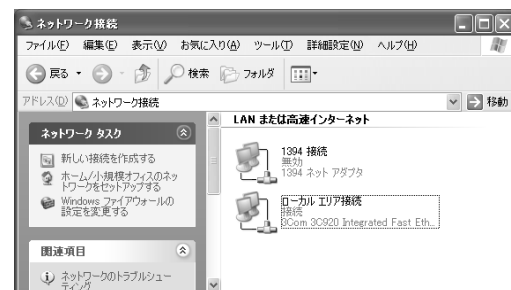
9 [サブネットマスク] を 255.255.255.0 に設定する

10 [デフォルトゲートウェイ]を192.168.1.254に設定する



11 [OK] ボタンをクリックする

12 [ローカルエリア接続のプロパティ]画面の[OK] ボタンをクリックする



ご注意：

- ネットワーク環境内で同じ IP アドレスを使わないように設定してください。
- パソコンのネットワーク設定では、1つの NIC に対して、複数の IP アドレスを登録しないでください。

パソコンと接続する (つづき)

パソコンに NVR Viewer をインストールする

ご注意:

- インストールを始める前に、Microsoft .NET Framework 2.0、DirectX9.0以降、Microsoft Internet Explorer6.0がパソコンにインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、NVR Viewerのインストールに失敗する場合があります。

1 Internet Explorer ブラウザ (バージョン 6.0 以降) を開き、NVR の IP アドレス “http://192.168.1.253” を入力する

- ウェルカム・ページが表示されます。



ご注意:

- [Remote Client] は選択しないでください。

2 [NVR Viewer をこの PC にインストールします。] をクリックする

- [このファイルを実行または保存しますか?] と確認のメッセージが表示されます。

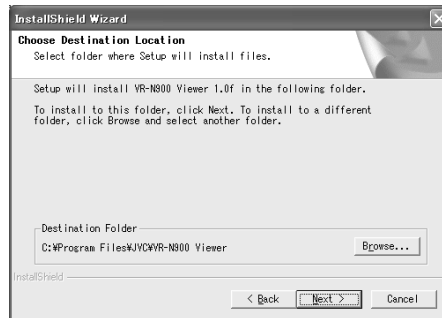
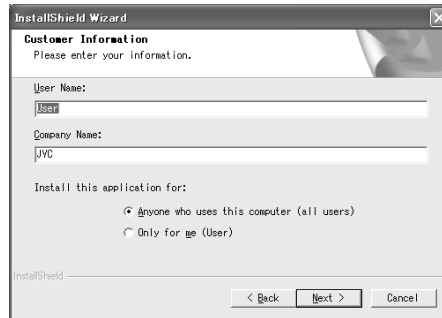
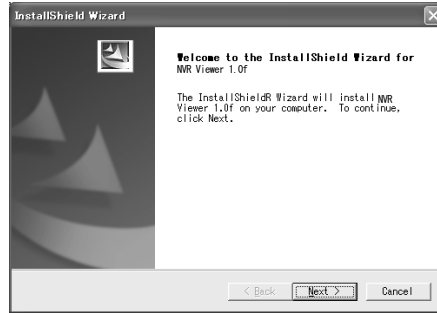


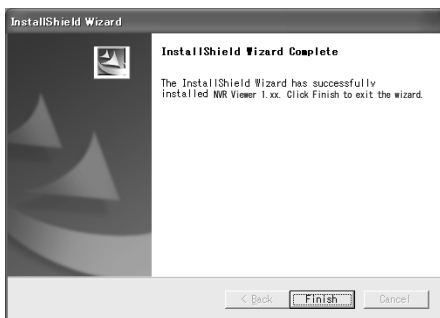
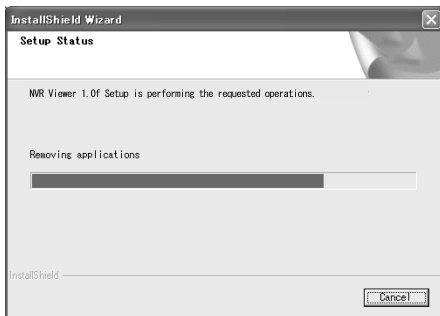
3 [実行] ボタンをクリックする

NVR Viewer セットアップ・ウィザードが開始します。



4 [Next] をクリックし、インストール指示に従って操作する





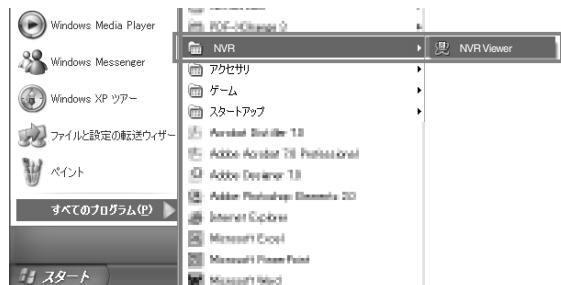
NVR Viewer にログインする

1 デスクトップにある NVR Viewer のショートカットをダブルクリックする



メモ :

- NVR Viewer のショートカットがデスクトップにない場合は、[スタート]メニューから“NVR Viewer”を選んでください。
- NVR Viewer のログイン画面が表示されます。



5 インストールの終了

- インストールが終了し、デスクトップに“NVR Viewer”のショートカットが作成されます。

パソコンと接続する (つづき)

NVR Viewer にログインする (つづき)

2 以下のログイン情報を設定する



- VR-N1600 ● VR-N900
- User name : vr-n1600 User name : vr-n900
- Password : vr-n1600 Password : vr-n900

項目	内容
① Server address	本機の IP アドレスとポート番号を指定します。(例 : [http://192.168.1.253:80] の場合、[:80] がポート番号を表しています。) ポート番号は、[配信設定] の [サーバー設定] で設定したポート番号になります。(☞ 79 ページ)
② Authentication	認証方法を 3 種類から選択します。通常は “Basic authentication” を選択します。
Windows authentication (current user)	Windows 認証です。現在の Windows ユーザーとしてログインします。
Windows authentication	Windows 認証です。Windows ユーザーとしてログインしますが、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
Basic authentication	基本認証です。本機にアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
③ User name	[Authentication] 項目 ② で “Windows authentication” を選んだ場合、Windows のユーザー名を入力します。“Basic authentication” を選んだ場合は、[配信設定] (☞ 120 ページ) の [ユーザー管理] 項目で登録したユーザー名を入力します。
④ Password	[Authentication] 項目 ② で “Windows authentication” を選んだ場合、本機のログインパスワードを入力します。“Basic authentication” を選んだ場合は、[配信設定] (☞ 120 ページ) の [ユーザー管理] 項目で登録したパスワードを入力します。

項目	内容
⑤ Remember password	パスワードを保存します。 [Authentication] 項目 ② で “Windows authentication” または “Basic authentication” を選んだ場合は、このボックスにチェックを入れると、次回から [Connect] ボタンをクリックするだけでログインできます。
⑥ Auto-login	自動ログインします。チェックを入れると、自動的に [NVR Viewer] にログインします。

3 [Connect] ボタンをクリックする

- しばらくすると、NVR Viewer 画面が表示されます。

メモ :

- 以前に NVR Viewer にログインしたことがある場合は、前回終了時に使用していたビューを表示するか聞いてきます。(監視用パソコンから接続する場合のみ)

[Main View]/ メインビュー :

チェックを入れると、前回終了時に [NVR Viewer] のメインウィンドウに使用していたビューが表示されます。

[Detached Views]/ 分離ビュー :

チェックを入れると、[Primary Display] 画面やマルチモニター、フローティング画面に表示したビューが表示されます。

ご注意 :

- 配信クライアント数の上限まで達している状態でログアウトした場合、次に接続するまで数分間待つ必要があります。
- 複数のパソコンから接続して音声を再生した場合、音声がかかることがあります。

4 表示言語を日本語に設定する

- ① 画面右上の [▼] ボタンをクリックする。
- ② 表示されたメニューから [Language] を選択する。
- ③ 表示されたサブメニューから、 “Japanese(Japan)” を選択する。→ダイアログが表示されるので、[OK] をクリックする。
- ④ 右上の [×] ボタンをクリックして、NVR Viewer を終了する。
→次回起動時より、日本語で表示されます。

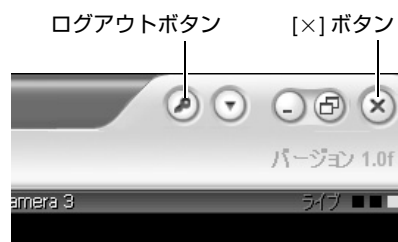


NVR Viewer の使い方

NVR Viewer の使い方については、以下のページをご覧ください。

- 『マウス操作でライブ映像を見る』(P.38 ページ)
- 『マウス操作で記録画像を再生する』(P.44 ページ)
- 『画面表示設定』(P.62 ページ)

NVR Viewer をログアウトする、終了する



■ ログアウトする

1 ログアウトボタンをクリックする

- ログアウトされ、再び NVR Viewer のログイン画面が表示されます。

ご注意：

- 本体を再起動したときや、本体の NVR Viewer を再起動した場合は、監視用パソコンでの NVR Viewer を一度ログアウトしてから再度ログインしてください。

■ 終了する

1 [X] ボタンをクリックする

- NVR Viewer が終了します。

音声送信アプリ操作 (VR-N1600)

[AUDIO IN 1] 端子に入力された音声（マイクなど）を、双方向音声対応カメラへ送信し、カメラに接続されたスピーカから出力します。

準備

■ 接続

1 [システム接続例] (☞26 ページ) を参考に、マイクをマイクアンプやミキサーに接続し、出力を背面の [AUDIO IN 1] 端子に接続する

メモ： _____

- [AUDIO IN 2] 端子に入力された音声を双方向音声対応カメラに送信することはできません。

■ 双方向音声対応カメラの登録

1 [カメラを追加する] (☞88 ページ) を参照し、双方向音声対応カメラを登録する

ご注意： _____

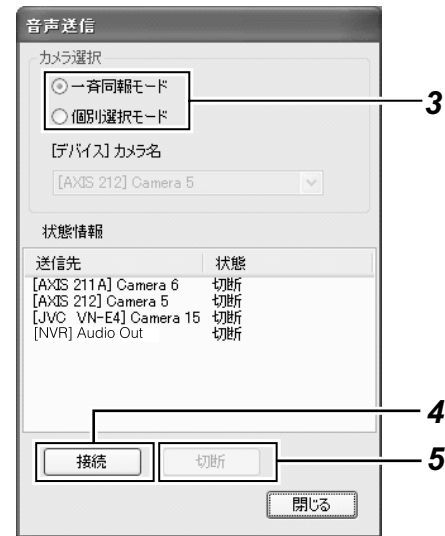
- カメラのパスワードを変更した場合、メインメニューの [イベント音声設定] で、変更したカメラのパスワード設定を行なってください。 [パスワードを設定する] (☞132 ページ)

音声の送信

1 カメラのライブ映像を確認するため、NVR Viewer を起動する

- 壁紙画面またはメインメニューが表示されている状態で、[ライブ/再生] ボタンを押すことにより NVR Viewer が起動します。

2 [機能] ボタンを押しながら、テンキーの [7/→] ボタンを押し、[音声送信] 画面を起動させる



[音声送信] 画面

3 音声送信のモードを選択する

- 音声送信モードには [一斉同報モード] と [個別選択モード] があります。 [一斉同報モード] では同時に複数のカメラに音声を送信することができます。 [個別選択モード] では、ひとつのカメラに対して音声を送信します。
- [一斉同報モード] の場合に音声を送信するカメラは、メインメニューの [イベント音声設定] 画面で選択します。 [イベント音声設定] 画面の左側にあるイベントリストから [一斉同報] を選択し、音声を送信したいカメラのチェックボックスにチェックを入れます。
- [個別選択モード] では、送信先のカメラは [[デバイス] カメラ名] で選択がすることができます。
- 送信先のカメラは、[状態情報] リストに表示されます。

4 [接続] ボタンを押し、送信先のカメラに接続し、音声送信を開始する

- [状態情報] リストの [状態] 部分にカメラとの接続状態が表示されます。 [接続] ボタンを押した後に、表示が “接続” になるとカメラに対して [AUDIO IN 1] 端子に入力された音声が送信されます。
- “切断” と表示された場合は、本機とカメラ間のネットワークやカメラの IP アドレス、カメラの電源などを確認してください。“認証失敗” と表示された場合は、メインメニューの [イベント音声設定] 画面で、“認証失敗” と表示されたカメラのパスワードを再度登録してください。 [パスワードを設定する] (☞132 ページ)

5 [切断] ボタンを押すと、カメラとの接続が切断される

メモ:

- メインメニューの [カメラ記録設定] で登録されていないカメラを選択することはできません。
- カメラの音声設定が半2重モードになっている場合、“接続”状態の間は、カメラからの音声は聞こえません。
- イベント音声設定されているカメラに対してマイク音声を送信する場合、マイク音声送信中は、イベント連動の音声再生機能は停止し、マイク音声の送信が優先されません。
- [接続]、[切断] ボタンを背面のアラーム端子から制御することが可能です。この場合、[イベント音声設定]の [プッシュアウト] で制御に使用するアラーム端子を選択してください。アラーム入力時に [接続] ボタンを押した動作となり、アラームを解除すると [切断] ボタンを押した動作となります。制御は [接続]、[切断] ボタンの表示状態が有効な場合に可能です。(☞ 130 ページ)

ご注意:

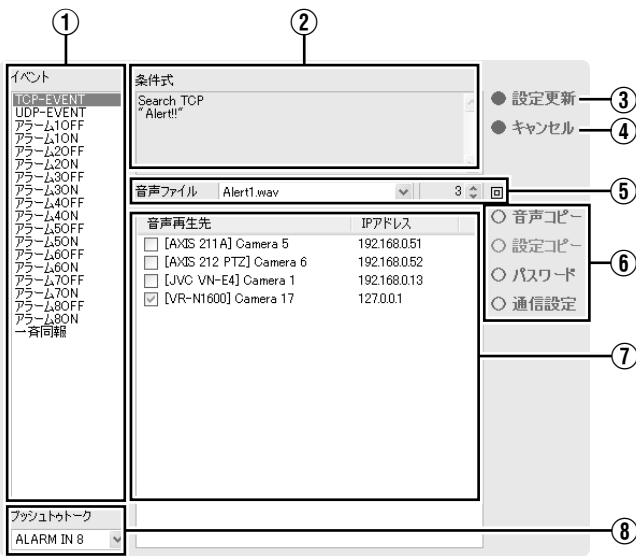
- メインメニューの [カメラ記録設定]、[イベント音声設定] で、設定や音声再生のテストを行なう場合、このダイアログを終了してから行なってください。
 - パフォーマンスメータで黄色や赤色が点灯している場合には、マイク音声が届いてしまうことがあります。確実に音声を送信するためには、一時的に記録を停止する等の操作を行ない、パフォーマンスメータの黄色、赤色が点灯しないようにしてください。
[パフォーマンスメータについて] (☞ 28 ページ)
-

イベント音声設定 (VR-N1600)

本機に登録したジェネリックイベントやリア端子へのアラーム信号などのイベントが動作したときに、特定の音声ファイルをカメラや本機など、指定した再生先から再生する機能です。イベント音声設定画面では、以上の設定とイベント音声機能に関連する設定を行います。

1 [メインメニュー]から[イベント音声設定]を選ぶ

- [イベント音声設定]画面が表示されます。



項目	内容
① イベント	<p>イベント音声で使用することのできるイベントが表示されます。</p> <p>最大 100 個のイベント ([外部アラーム端子]と、[一斉同報]の数も含まれます) を使用することができます。[カメラ記録設定]画面で設定した[ジェネリックイベント]と、VR-N1600 本体背面の[外部アラーム端子]と、[一斉同報]が表示されます。</p> <p>メモ：_____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● VR-N1600 の外部アラーム端子へのイベント設定後に、[カメラ記録設定]で本体の音声入力“NVR (127.0.0.1)”を削除しないでください。設定した情報が消去されます。
② 条件式	[イベント]項目 ① で選択した[ジェネリックイベント]の条件式が表示されます。
③ 設定更新	イベント音声機能を現在の設定に更新し、[イベント音声設定]画面を閉じます。

項目	内容
④ キャンセル	<p>すべての設定をキャンセルし、[イベント音声設定]画面を閉じます。</p> <p>メモ：_____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [パスワード]画面で設定した送信先のパスワードはキャンセルできません。
⑤ 音声ファイル	<p>イベントが作動した時に、再生される音声ファイルと再生回数を指定します。</p> <p>再生回数は“1回”から“10回”まで指定できます。無制限にループ再生する“連続”も指定できます。特定のイベントに対して再生音声指定しない場合は、空白を選択してください。</p> <p>メモ：_____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 途中で再生を停止する場合は[アラーム解除]ボタンを押してください。
⑥ 各ページの起動ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ● [音声コピー]ボタン：[音声ファイルユーティリティ]画面を起動します。(☞ 131 ページ) ● [設定コピー]ボタン：[設定コピー]画面を起動します。 ● [パスワード]ボタン：[パスワード]設定画面を起動します。 ● [通信設定]ボタン：[通信設定]画面を起動します。
⑦ 音声再生先/ IP アドレス	<p>音声再生先として使用可能なカメラと IP アドレスの一覧が表示されます。</p> <p>イベントが作動したときの音声の再生先を一覧から選択します。音声を再生するカメラのチェックボックスにチェックを入れてください。[音声再生先]および [IP アドレス]をクリックすると一覧を並べ換えることができます。</p>
⑧ プッシュトウトーク	<p>プッシュトウトークとは、マイクのボタンを押している間 (本機の [ALARM IN] 端子にメイク信号が入力され続けている間 (☞ 20 ページ)) のみ双方向音声対応カメラに対して音声送信が可能となる機能です。</p> <p>[プッシュトウトーク]機能で使用する VR-N1600 本体背面の「外部アラーム端子」を選択します。</p> <p>[プッシュトウトーク]機能を利用しないときには、空白を選択してください。</p> <p>メモ：_____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [プッシュトウトーク]機能を利用すると、[カメラ記録設定]画面で設定した [ALARM IN1 ~ 8] 端子に関連した動作は無効になります。(選択した端子番号のアラーム入力のみ無効になります。選択した端子以外のアラーム入力に関する動作は有効です。)(☞ 99 ページ)

音声をコピーする

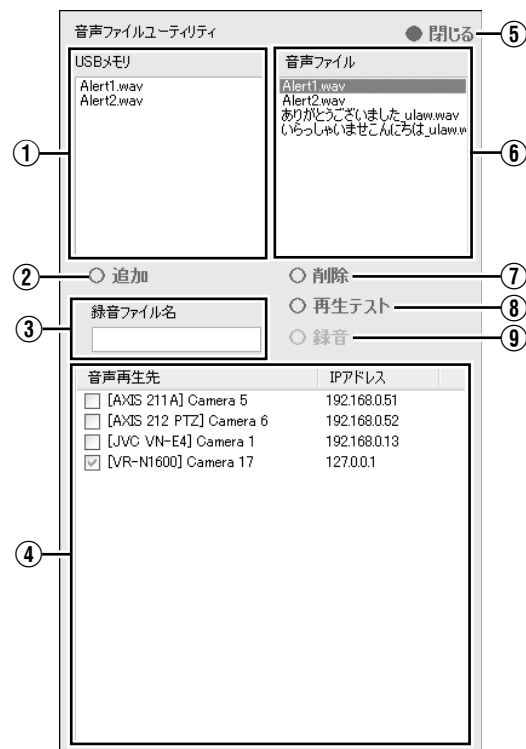
[イベント音声設定] 画面で使用する、音声ファイルのコピー（本機への登録）、削除、再生テスト、録音を行います。対応フォーマットは G711 μ -law モノラル音声です。再生時間は 300 秒まで対応しています。

メモ： _____

- 音声ファイルの再生時間は 180 秒以下にしてください。

1 [イベント音声設定] 画面の [音声コピー] をクリックする

- [音声ファイルユーティリティ] 画面が表示されます。



項目	内容
① USB メモリ	本機に接続した USB メモリのルートフォルダにある G711 μ -law モノラルフォーマットの音声ファイルが表示されます。
② 追加 (停止)	[USB メモリ] の一覧から音声ファイルの一つを選択して [追加] を押すと、[USB メモリ] 内の音声ファイルが本機にコピーされます。音声ファイルのコピー中、[追加] ボタンは [停止] ボタンとなります。音声ファイルのコピーを停止したいときは、[停止] ボタンを押してください。 メモ： _____ ● 本機に同じファイル名の音声ファイルが既に存在する場合は、上書き確認のメッセージが表示されます。 ● 本機に追加可能な音声ファイルの最大数は 100 個です。100 個を超えるとエラーメッセージが表示されコピーできません。

項目	内容
③ 録音ファイル名	本機に接続したマイクで録音を行うときのファイル名を入力します。ファイル名が入力されると [録音 (停止)] ボタン ⑨ が有効になります。
④ 音声再生先/IP アドレス	音声ファイルの再生テストをするときに、音声を再生するカメラを選択します。チェックボックスにチェックを入れてカメラを選択してください [音声再生先] および [IP アドレス] をクリックすると一覧を並べ換えることができます。
⑤ 閉じる	[音声ファイルユーティリティ] 画面を閉じます。 音声ファイルの追加中、削除中、再生テスト中、録音中は [閉じる] ボタンを選択することはできません。
⑥ 音声ファイル	本機に保存されている G711 μ -law モノラルフォーマットの音声ファイルが表示されます。
⑦ 削除	音声ファイルを USB メモリまたは本機から削除するには、[USB メモリ] または [音声ファイル] の一覧から、音声ファイルの一つを選択して [削除] ボタンを押してください。確認メッセージが表示された後、選択した音声ファイルが削除されます。
⑧ 再生テスト (停止)	使用する双方向音声対応カメラや本機を使い、音声ファイルの再生テストを行います。 [USB メモリ] または、[音声ファイル] 一覧から音声ファイルの一つを選択し、[再生テスト (停止)] ボタンを押してください。テストに使用するカメラは、[音声再生先] 一覧 ④ から選択してください。 再生テスト中、[再生テスト] ボタンは [停止] ボタンとなります。再生テストを途中で停止するときは、[停止] ボタンを押してください。 音声送信先カメラのパスワード認証に失敗した場合、音声送信先の表示が赤色になります。音声送信先カメラへの接続に失敗したときには音声送信先の表示が黄色になります。再生中は [録音ファイル名] ③ の欄に再生時間が表示されます。 音声再生経路にはネットワークを使用しているため、再生時間の表示は目安となります。実際の再生時間とは異なることがあります。
⑨ 録音 (停止)	[録音ファイル名] ③ に、ファイル名を入力して [録音] ボタンを押すと、本機の音声入力 1 と 2 をミックスして録音することができます。(最大 180 秒間) 録音中、[録音] ボタンは [停止] ボタンとなります。録音を途中で停止するときは、[停止] ボタンを押してください。 録音中、[録音ファイル名] ③ の欄に録音時間が表示されます。

イベント音声設定 (VR-N1600) (つづき)

設定をコピーする

イベントに関連付けられた、イベント音声の各設定内容 (音声ファイル名、音声ファイル送信先、送信回数) を別のイベントにコピーします。

1 [イベント音声設定]画面の[イベント]一覧からコピー先とするイベント(設定は上書きされます)を選択する

2 [設定コピー]をクリックする

- [設定コピー選択]画面が表示されます。



項目	内容
① イベント名	コピー元とするイベント名を一覧から選択してください。
② コピー	[コピー]ボタンを押すと、設定のコピーが実行されます。その後、[イベント音声設定]画面で[設定更新]ボタンを押すとコピーされた設定が有効になります。
③ キャンセル	コピーを実行せず、[設定コピー選択]画面を閉じます。

パスワードを設定する

双方向音声対応カメラに接続するためのパスワードを入力します。正しいパスワードが入力されていない場合、双方向音声対応カメラに音声を送信できません。

メモ:

- パスワードを入力する場合、選択されているカメラがネットワーク上で通信可能な状態である必要があります。

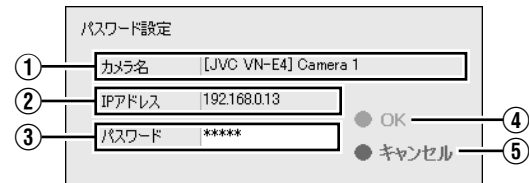
1 [イベント音声設定]画面の[音声再生先]一覧からカメラを選択する

メモ:

- カメラを選択する場合、カメラ名をクリックし、表示を反転させてください。チェックボックスにチェックを入れても選択したことにはなりません。

2 [パスワード]をクリックする

- [パスワード設定]画面が表示されます。



項目	内容
① カメラ名	パスワードを入力するカメラ名が表示されます。[カメラ名]を変更することはできません。
② IP アドレス	パスワードを入力するカメラの IP アドレスが表示されます。[IP アドレス]を変更することはできません。
③ パスワード	カメラのパスワードを入力します。初回入力時はデフォルトのパスワードが入力されています。 メモ: ● AXIS 社製カメラにはデフォルトパスワードが存在しません。AXIS 社製カメラを使用する場合、事前にカメラにパスワードを設定しておく必要があります。詳細につきましては、カメラの [取扱説明書] をご覧ください。
④ OK	入力されたパスワードを認証します。認証 OK であれば、設定を保存し [パスワード設定] 画面を閉じます。 間違ったパスワードが入力された場合、カメラがネットワークに接続されていないなど、正常にカメラにアクセスできないときは、エラーメッセージが表示されパスワード設定は保存されません。
⑤ キャンセル	カメラに対してのパスワード認証をキャンセルします。パスワード設定も保存されず [パスワード設定] 画面を閉じます。

通信設定をする

イベント音声機能を使用するためには、外部機器から発行されるジェネリックイベント作動用の通信データをイベント音声プログラムで受信してから、本機のアラートポートに転送する必要があります。

[通信設定]画面では、ジェネリックイベント作動用の通信データを受信するポート番号と、アラートポート番号(☞ 100 ページ)を入力することができます。

ご注意:

- 特別な理由がない限り、この設定を変更しないでください。変更すると正常に動作しなくなる恐れがあります。

1 [イベント音声設定]画面の[通信設定]をクリックする

- [通信設定]画面が表示されます。



項目	内容
① イベント受信ポート	外部機器から発行されるジェネリックイベント作動用の通信データを受信するポート番号を指定します。
② 転送先ポート	通信データを転送するポート番号を指定します。 メモ: _____ ● メインメニュー ⇒ [カメラ記録設定] ⇒ [I/O セットアップ] ⇒ [詳細設定] ⇒ [ネットワーク設定] ⇒ [アラートポート] と同一にしてください。
③ 転送先 IP アドレス	ジェネリックイベントを転送する IP アドレスを指定します。(127.0.0.1 で本機自身を指定)
④ OK	[通信設定]画面を閉じます。 その後、[イベント音声設定]画面で [設定更新] ボタンを押す設定が有効となります。
⑤ キャンセル	何もせずに、[通信設定]画面を閉じます。

メモ:

- 音声ファイルを再生する場合は、イベントを [カメラ記録設定] の [ジェネリックイベント] で登録してください。(☞ 102 ページ)
- 外部機器の設定について:
 - カメラなどの外部機器のアラーム出力 (ジェネリックイベント作動用の通信データ) の送信先ポートはイベント受信ポート (51234) に設定してください。
 - 送信先 IP アドレスを本機の IP アドレスに設定してください。ただし、本機の IP アドレスは 127.0.0.1 ではありません。
 - カメラの音声設定が半2重モードになっている場合、イベント音声送信中は、カメラからの音声は聞こえません。

ご注意:

- ジェネリックイベント用のアラーム出力設定をカメラ側で行なった後、[カメラ記録設定]の[I/O セットアップ]画面でカメラのイベントを設定した場合、既に登録されていたジェネリックイベント用の情報が上書きされ、正常に動作しなくなる場合があります。
- イベント受信ポートと転送先ポートに同じ番号を設定しないでください。

対応機器

周辺機器使用の場合は、各機器の使用環境に従ってください。

対応ネットワークカメラ

機能	JPG	PTZ	オーディオ	PTZ ジョイスティック	MPG4	VMD イベント
ネット ワークカメラ						
日本ビクター VN-V25	●				●	
日本ビクター VN-V26	●		●		●	
日本ビクター VN-V686	●	●		●	●	
日本ビクター VN-C20	●					
日本ビクター VN-C655	●	●		●		
日本ビクター VN-C625	●	●		●		
日本ビクター VN-E4	●	●	●	●		
日本ビクター VN-C215	●					
AXIS 206	●					
AXIS 207	●				●	●
AXIS 211	●		●		●	●
AXIS 212	●	●	●	●	●	●
AXIS 213	●	●	●	●	●	●
AXIS 214	●	●	●	●	●	●
AXIS 216	●		●		●	●
AXIS 225	●				●	●
Verint S1700		●		●	●	
Verint S1704		●		●	●	
Verint S1708		●		●	●	
Verint S1900					●	
Verint S2700E					●	

メモ：

- VN-V26 に対して、音声送信を行う場合、VN-V26 のファームウェアのバージョンが、1.01 以降である必要があります。(VR-N1600)

UPS の接続

Uninterruptible Power Supply (UPS, 無停電電源装置) を接続することにより、停電発生時は自動的にオペレートオフしてから電源を切るため、ハードディスクの破損を防ぐことができます。

- 1 [機能] ボタンを押しながら、テンキーの [3/✳] ボタンを押し、[UPS Setup] 画面を起動させる

- 2 [Use UPS Mode] を選択し [OK] ボタンを押す
- 3 背面の [SERIAL] 端子に UPS の通信ケーブルを接続する
- 4 本機の電源コードを UPS の電源出力に接続する
- 5 UPS の電源を入れてから、本機の電源を入れる

ご注意：

- 使用可能な UPS については、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にお問い合わせください。
- UPS の通信ケーブルは、本機の電源を入れる前に接続しておいてください。
- 運用中に通信ケーブルを外さないでください。
- アークアライブやハードディスクのフォーマット中に停電が発生すると、UPS を接続している場合でもその後の運用に支障をきたすことがあります。
- 停電が発生した時刻以前のアーカイブされていない記録画像は、正常に再生されない場合があります。(P. 112 ページ)
- UPS を使用しない場合は [UPS Setup] 画面で [UPS Mode] を選択しないでください。選択が適切でない場合、その後の運用に支障をきたすことがあります。

増設ハードディスクについて

本機は、背面の [SERIAL] 端子に増設ハードディスクを接続することができます。増設ハードディスクは、以下のよう組み合わせて使用することができます。これ以外の組み合わせはできません。

- 500GB1 台のみ
- 1TB1 台のみ
- 1TB1 台 +2TB1 台
- 2TB1 台のみ
- 2TB2 台 (2 台まで)

増設ハードディスクを接続する

- 1 [オペレート] ボタンを約2秒間長押ししてオペレート OFF にする

- 2 背面の電源スイッチを切る

ご注意：

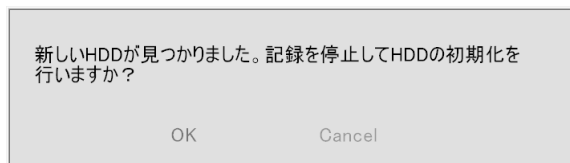
- 必ず電源スイッチを切ってください。

- 3 背面の [SERIAL] 端子に増設ハードディスクを接続し、電源を入れる

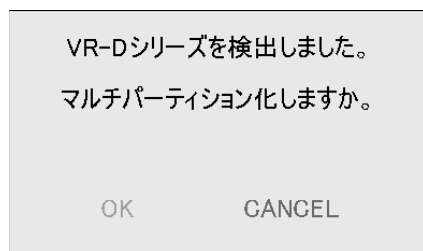
- 本機本体の電源を入れる前に必ず増設ハードディスクの電源を入れます。先に増設ハードディスクの電源を入れないと、増設ハードディスクが認識されない場合があります。

4 本機の電源を入れる

- 記録中の場合、[新しいHDDが見つかりました。記録を停止してHDDの初期化を行いますか?]と確認画面が表示されます。



- [OK] をクリックすると、マルチパーティション化の確認画面が表示されます。(VR-D シリーズ使用の場合のみ)



- [OK] をクリックしてマルチパーティション化してください。引き続き、ハードディスクユーティリティが自動的に起動します。(P. 118 ページ)
- ハードディスクユーティリティで各 "unformat disk" を初期化してください。
- 記録中でない場合は、確認画面は表示されません。



5 ボリューム欄の内容を確認した後、[初期化] ボタンを押す

- 初期化が実行されます。
- ボリューム欄が、[unformat disk]、[unpartition disk]、[unknown partition] になっていることを確認します。それ以外のボリュームを選択した場合は、記録済みのデータが削除されることがあります。

ご注意:

- 使用可能な増設ハードディスクについては、お買い上げ販売店または最寄りのビクターサービス窓口にお問い合わせください。
- 増設ハードディスクを接続している場合、アーカイブ機能の動作時に、記録画像が数秒間欠落することがあります。
- 増設 HDD 内に記録された画像を本機および複数のクライアントで同時に再生した場合、再生画像および音声が遅くなる場合がありますのでご注意ください。なおこのとき、記録画像には問題はありません。同時再生が解消または緩和された時点で正常に再生されますので、再度ご確認ください。

メモ:

- システム安定化のため、UPS のご使用をおすすめします。
- 増設ハードディスクを外して、パソコンに接続し、パソコンで記録画像を見ることはできません。

NAS について

NAS とは、ネットワーク上に接続したファイルサーバ専用機です。

NVR では NAS を NAS ドライブとしてアーカイブ先に設定することができます。

メモ:

- NAS を使用する際の本機の設定については『アーカイブの設定』(P.110 ページ)、『ハードディスクユーティリティ』(P.118 ページ) をご覧ください。
- NAS の設定については NAS の取扱説明書に従ってください。フォーマット、RAID 設定などの設定内容によっては時間がかかる場合があります。詳細は NAS のメーカーにお問い合わせください。

特殊なキー操作について

[機能] ボタンとの2重押し操作

■ [機能] + [記録制御]

メインメニューを表示します。
(☞34 ページ『メインメニューを表示する』)

■ [機能] + [ライブ/再生] (VR-N1600)

[機能] + [アラーム解除] + [選択] (VR-N900)
NVR Viewer と本体内部の配信サーバーを再起動します。
(☞ 35 ページ)

■ [機能] + [キーロック]

オペレーションロックの設定・解除を行います。
(☞22 ページ『オペレーションロック』)

■ [機能] + [1]

パフォーマンスメーターを表示・非表示します。
(☞28 ページ『パフォーマンスメーターについて』)

■ [機能] + [2]

時計を表示・非表示します。
(☞27 ページ『時計表示について』)

■ [機能] + [3]

UPS の設定・解除を行います。
(☞134 ページ『UPS の接続』)

■ [機能] + [4]

CD-R 書き込み時に使用します。
(☞49 ページ『CD/DVD 書き込み操作』)

■ [機能] + [5]

PTZ カメラの制御を行います。
(☞137 ページ『PTZ カメラ制御について』)

■ [機能] + [6]

メンテナンス情報画面を表示します。
(☞138 ページ『メンテナンス情報の表示』)

■ [機能] + [7] (VR-N1600)

双方向音声対応カメラに音声を送信するときに使用します。
(☞128 ページ『音声送信アプリ操作 (VR-N1600)』)

2秒以上の長押し操作

■ [記録制御]

記録制御モードのオン・オフを行います。
『記録制御モードにする』(☞55 ページ)

■ [アラーム解除]

[ワーニング] 表示灯が消灯します。
(☞152 ページ『ワーニング表示灯点灯時の対応』)

■ [機能] + [ライブ/再生]

システムをログオフします。

メモ：

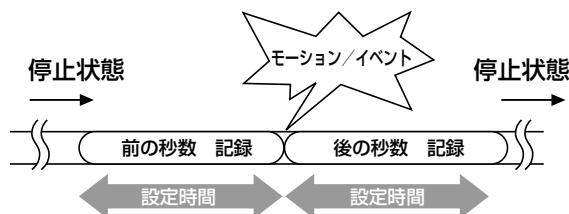
- [オートログオン] が設定されている場合は、ログオフ後すぐにログオン動作が始まります。(☞71 ページ『ユニット設定』)

■ [機能] + [オペレート]

システムを強制終了します。

イベントまたはモーション発生的前後を記録する

記録制御モード (☞ 55 ページ) で記録する場合、イベントまたはモーション発生の前後を記録することができます。



1 『カメラ設定画面の説明』(☞58 ページ)、[記録設定] → [画像保存のタイミング] で “条件で” を選択

2 “モーションで” または “イベントで” を選択

3 [() 秒間、モーション/イベントの前後を記録する] で秒数を指定する

- アラームまたはモーションが発生すると、発生した前後を指定時間記録します。



メモ：

- モーション/イベントの前後の記録のまとまりを、シーケンスと呼びます。
- シーケンスの利用については『シーケンスを使い記録画像を検索する』(☞46 ページ) をご覧ください。

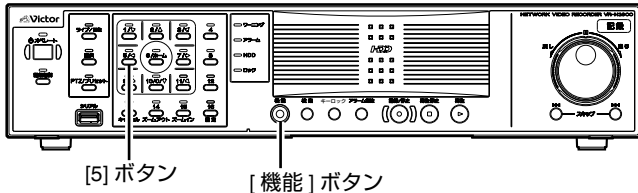
PTZ カメラ制御について

PTZ カメラを、ネットワークエンコーダ (VN-E4) の COM 端子と接続することにより、NVR Viewer のライブ画面で PTZ 制御が可能です。PTZ カメラの設定につきましては『PTZ カメラの設定 (COM1/COM2) 』(P.90 ページ) をご覧ください。

[PTZ カメラの設定 (COM1/COM2)] の “PTZ 機能を COM1/COM2 で制御” で [JCBP-S] プロトコルを設定したカメラは、NVR Viewer のライブ画面での PTZ 操作の他に、アイリス、フォーカス、カメラメニューの操作などが可能です。

メモ:

- PTZ カメラとはアナログ出力を持つアナログカメラで RS-485 による PTZ 制御が可能なカメラのことです。

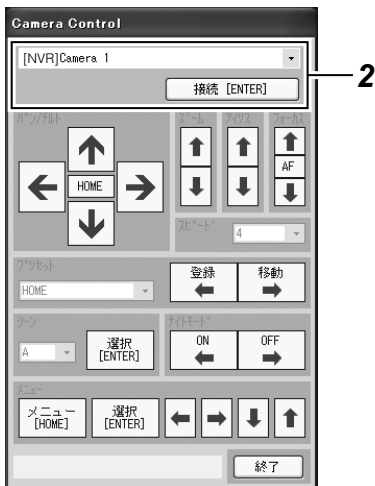


1 [機能] ボタンを押しながらテンキーの[5]ボタンを押す

- カメラ制御画面が表示されます。

2 カメラ選択のリストの中から制御したいカメラを選択し、[接続 (ENTER)] ボタンをクリックする

- カメラ制御が可能になります。
- ボタンのはたらきは以下のとおりです。



■パン/チルト

- ↑ : カメラの向きを上に移動します
- ↓ : カメラの向きを下に移動します
- ← : カメラの向きを右に移動します
- : カメラの向きを左に移動します

■ズーム

- ↑ : ズームアウトします
- ↓ : ズームインします

■アイリス

- ↑ : アイリスを開放します
- ↓ : アイリスを絞ります

■フォーカス

- ↑ : フォーカス位置を遠くにします
- AF : オートでフォーカスを合わせます
- ↓ : フォーカス位置を近くにします

■スピード

PTZ 動作の移動速度を 8 段階で設定します。(1 が最も遅い移動速度)

■プリセット

ポジション選択 : HOME またはポジションを選択します。

- 登録 ← : ポジション選択で選んだ位置に移動します
- 移動 → : ポジション選択で選んだ位置に、現在の位置を登録します

■シーン

シーン選択 : A ~ H までのシーンを選択します。







- 選択 [ENTER] : シーン選択で選んだシーンを設定します

■ナイトモード

- ON ← : ナイトモードを ON にします
- OFF → : ナイトモードを OFF にします

メンテナンス情報の表示 (つづき)


■ メニュー

-  : PTZ カメラのメニューを表示します
-  : PTZ カメラのメニューを選択します
-  : PTZ カメラのメニュー (上カーソル)
-  : PTZ カメラのメニュー (下カーソル)
-  : PTZ カメラのメニュー (右カーソル)
-  : PTZ カメラのメニュー (左カーソル)

■ 終了

PTZ カメラ制御を終了します

メモ:


- スキップボタンで制御する項目を変更することができます。
- テンキーのカーソルボタンで、各ボタンの矢印の向きと同じ制御ができます。
- [13/キャンセル](ズームアウト/キャンセル)ボタンでPTZ カメラ制御を終了することができます。 

ご注意:

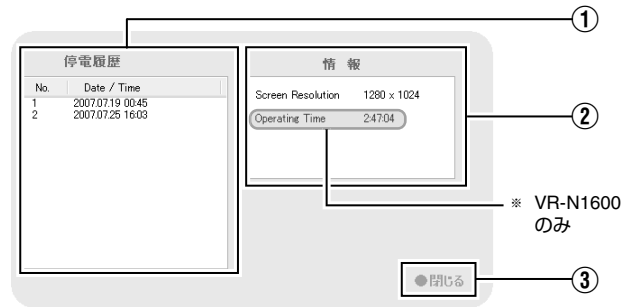
- [接続 (ENTER)] ボタンをクリックしても、カメラに接続できない場合は、レコーディングサーバーを一度停止してから再び起動してください。(☎87 ページ『サービスマネージャー ...』)

メンテナンス情報の表示

各種情報の表示を行います。

1 [機能] ボタンを押しながらテンキーの[6/ホーム](5/ホーム)を押す 

- メンテナンス情報画面が表示されます。



項目	内容
① 停電履歴	停電履歴が表示されます。1度も停電がない場合には[停電履歴]には何も表示されません。
② 情報	
Screen Resolution	画面の解像度を表示します。 単位は“横ピクセル数 x 縦ピクセル数”です。
Operating Time (VR-N1600)	VR-N1600 が稼動している時間の合計が表示されます。 単位は“時間:分:秒”です。
③ 閉じる	メンテナンス情報画面を閉じます。

エクスポートビューワー

USB メモリまたは、CD-R/RW、DVD-R/RW へエクスポートしたデータを、パソコンで見ることができます。

エクスポートビューワを起動する

1 エクスポートした USB メモリをパソコンの USB 端子に挿入する

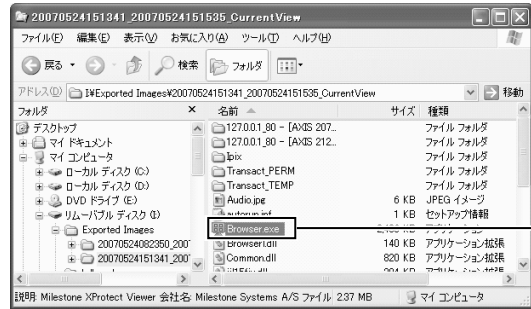
- USB メモリが、リムーバブルディスクとしてパソコンに自動的に認識されます。

2 スタートメニューの[全てのプログラム]-[アクセサリ]から[エクスプローラ]を選択する

- [エクスプローラ]が表示されます。

3 エクスプローラのフォルダリストから、認識されたリムーバブルディスクの [Exported Images] フォルダを選択する

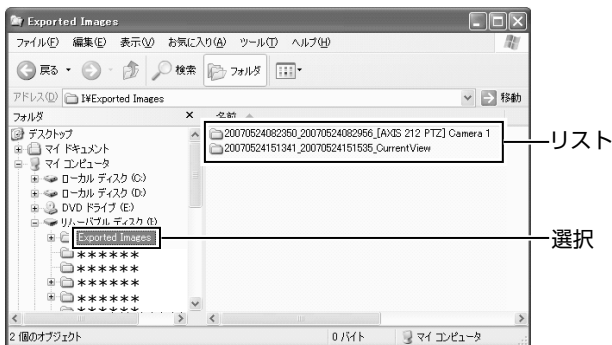
- 右側のリストにエクスポートされたフォルダが表示されます。



ダブルクリック



[Milestone XProtect Viewer] 画面



リスト

選択

メモ: _____

- エクスポートされたデータフォルダの名前は以下のようになっています。フォルダ名の日付はエクスポートの期間を表しています。
 - [YYYYMMDDhhmmss_YYYYMMDDhhmmss]_[カメラ機種名]カメラ名

エクスプローラの右側のリストから、データ

フォルダをダブルクリックする

- 右側のリストにファイルリストが表示されます。

4 エクスプローラの右側のリストから、[Browser.exe] をダブルクリックする

- エクスポートビューワが起動されます。

エクスポートビューワー (つづき)

エクスポートされたデータを見る

■ 日付 / 時刻選択を使って指定の日時のデータを見る

1 日付選択の [▼] ボタンをクリックする

- カレンダーが表示されます。



2 カレンダーから指定の日付を選択する

- 選択した日付の画像が表示されます

3 時刻選択の [▼] ボタンをクリックし時刻を指定の選択する

- 選択した時刻の画像が表示されます。



■ タイムラインを使って指定の日時のデータを見る

上下に伸びたタイムラインは記録の状況を示しています。



1 タイムラインを上下にマウスをドラッグする

- 画像を確認しながら、指定の日時のデータを見ることができます。

データの再生・停止

■ 再生

1 スピードコントロールで再生速度を設定する

2 再生ボタンをクリックする

- 設定された速度でデータベースが再生されます。



■ 再生を停止する

1 停止ボタンをクリックする

- データの再生が停止されます。

エクスポートビューワーを終了する

1 メニューの [ファイル] - [閉じる] を選択する

- エクスポートビューワーが終了します。

メモ :

- 画面右側の [×] をクリックしてもエクスポートビューワーは終了しません。

メモ :

- ビューワーの詳細につきましては、Milestone Systems 社のホームページ (<http://www.milestonesys.com>) をご覧ください。
- URL は変更される場合があります。

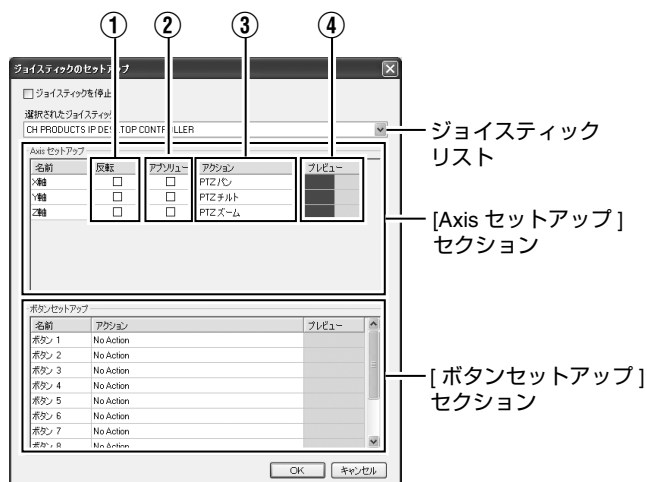
ジョイスティックの設定を変更する

1 画面右上の [▼] ボタンをクリックする

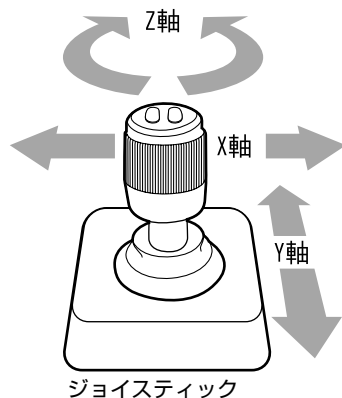


2 表示されたメニューから [ジョイスティックのセットアップ] を選ぶ

3 選択されたジョイスティックリストからジョイスティックを選ぶ



4 [Axisセットアップ]セクションで軸ごとに設定を行う



項目	内容	
① 反転	デフォルトでは、例えばジョイスティックを X 軸に沿って右に倒すと PTZ カメラは右を、Y 軸に沿って手前に倒すと上を向きます。[反転] を選択するとその反対になります。	
② アブソリュート	“アブソリュート” を選択すると、ジョイスティックの角度とカメラの向きが対応するようになります。	
③ アクション	ジョイスティックを動かしたときの動作を指定します。	
	PTZ パン	カメラを水平方向に振る
	PTZ チルト	カメラを垂直方向に振る
	PTZ ズーム	カメラをズームイン、ズームアウトする
No Action	何もしない	
④ プレビュー	ジョイスティックのどの軸がどう動くのかを、確かめることができます。	

5 [ボタンセットアップ]セクションでジョイスティックの各ボタンに動作を割り当てる

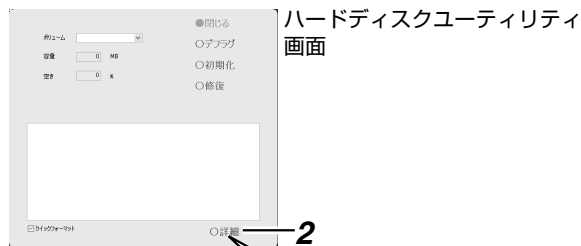
- [アクション] 欄で割り当てる動作を選びます。

ジョイスティック操作を無効にする

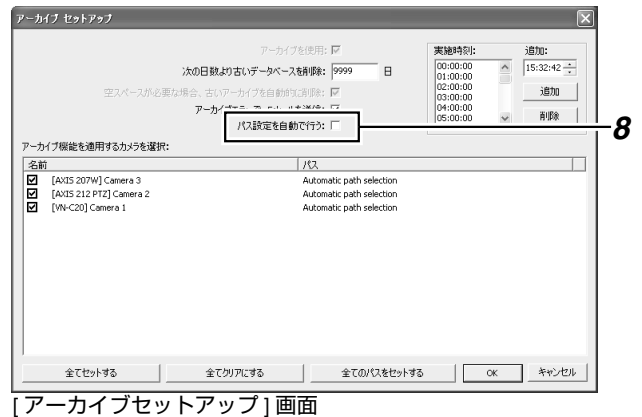
ジョイスティック操作を無効にするには、[ジョイスティックを停止] ボックスにチェックを入れます。

NAS を設定する

- 1 メインメニューから [ハードディスクユーティリティ] をクリックする (☞ 118 ページ)
 - ハードディスクユーティリティ画面が表示されます。
- 2 [詳細] をクリックする
- 3 NAS 機器で設定した、NAS アクセス用の [ユーザー名] と [パスワード] を [NAS 接続ユーザ設定] に入力し、[設定] をクリックする
- 4 [NASドライブの追加と削除]の[接続先]にNAS機器のIPアドレスと共有名を “¥¥IP アドレス¥共有名” の形を入力し、[追加] をクリックする
例) ¥¥192.168.0.200¥
- 5 画像の記録先として NAS 機器のみを使用する場合は、[内蔵 HDD へのアーカイブを有効にする] のチェックをはずす
- 6 [閉じる] をクリックする



- 7 メインメニュー ⇨ [カメラ記録設定] ⇨ [アーカイブ設定] をクリックする (☞ 110 ページ)
 - [アーカイブセットアップ] 画面が表示されます。
- 8 [パス設定を自動で行う] のチェックをはずす



9 各カメラの保存先に各 NAS ドライブを設定する

ご注意：

- NAS 接続ユーザー設定のユーザー名には、[OS 設定] (☞75 ページ) のホスト名と異なる名前を指定してください。
- 上記の設定は NAS 機器の設定が完了したあと、NAS 機器をネットワークに接続した状態で行なってください。
- 運用後、アーカイブ先の変更を行うと、以前のアーカイブデータは再生できなくなります。
- NAS ドライブを設定した後、数分の間 NVR Viewer 上にエラーメッセージが表示され、ライブ映像が表示できない場合があります。

記録時間表 (VR-N1600)

実際の記録時間は、カメラの設定内容、入力映像の内容や、ハードディスクの条件により異なります。
 下表は記録時間を知るための対応表で、目安としてご利用ください。

● 16CH 記録 / 音声記録無し / 増設 HDD 無しの場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	—	14	22	43	72	223	470	1211
		24.0	—	20	30	60	100	305	635	1623
		20.0	—	24	37	73	122	371	767	1953
		16.0	—	31	46	93	155	470	964	2447
QVGA		27.0	—	18	26	53	88	269	562	1440
		15.0	—	33	50	99	166	503	1030	2612
		8.0	—	64	96	192	319	963	1953	4918
		5.0	—	103	155	310	517	1557	3139	7883

● 16CH 記録 / 音声記録 2ch / 増設 HDD 無しの場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	—	14	22	43	72	216	441	1044
		24.0	—	20	30	59	98	292	584	1339
		20.0	—	24	36	72	120	353	695	1557
		16.0	—	31	46	92	151	441	855	1859
QVGA		27.0	—	17	26	52	86	258	521	1211
		15.0	—	33	49	98	162	470	906	1953
		8.0	—	63	95	187	306	855	1557	3017
		5.0	—	102	152	298	484	1294	2235	3929

● 16CH 記録 / 音声記録無し / 増設 HDD 1TB × 1台の場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	—	49	74	148	247	747	1519	3833
		24.0	—	67	100	200	333	1004	2033	5118
		20.0	—	80	120	241	401	1210	2444	6147
		16.0	—	101	151	303	504	1519	3061	7689
QVGA		27.0	—	59	88	177	295	890	1804	4547
		15.0	—	108	162	323	538	1621	3267	8203
		8.0	—	204	306	611	1018	3061	6147	15402
		5.0	—	327	491	981	1635	4912	9849	24658

● 16CH 記録 / 音声記録 2ch / 増設 HDD 1TB × 1台の場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	—	49	74	147	244	724	1428	3311
		24.0	—	66	99	198	328	963	1875	4232
		20.0	—	80	120	238	395	1151	2220	4912
		16.0	—	100	150	299	494	1428	2718	5853
QVGA		27.0	—	59	88	175	291	858	1678	3833
		15.0	—	107	160	319	527	1519	2880	6147
		8.0	—	202	302	596	977	2718	4912	9469
		5.0	—	323	481	943	1533	4090	7028	12317

表の記録時間は、映像を JPEG で記録した場合の目安です。

24-168	169-720	721-2160	2161-
1日~1週間	1週間~1ヶ月	1ヶ月~3ヶ月	3ヶ月以上

ご注意：

- ハードディスクの状態および映像により、記録時間が 10% 程度短くなる場合があります。
- ハードディスクの経年変化により、記録時間が短くなる場合があります。

記録時間表 (VR-N1600) (つづき)

● 8CH 記録 / 音声記録無し / 増設 HDD 無しの場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	15	31	46	93	155	470	964	2446
		24.0	21	42	63	126	210	635	1293	3269
		20.0	25	51	76	152	253	766	1557	3928
		16.0	32	64	96	192	319	964	1952	4916
QVGA		27.0	19	37	56	111	185	562	1147	2904
		15.0	34	68	102	205	341	1030	2084	5246
		8.0	65	130	195	389	649	1952	3928	9856
		5.0	104	209	313	626	1044	3138	6299	15785

● 8CH 記録 / 音声記録 2ch / 増設 HDD 無しの場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	15	31	46	92	151	441	854	1858
		24.0	21	42	62	124	204	584	1105	2301
		20.0	25	50	75	149	245	695	1293	2611
		16.0	32	63	95	187	306	854	1557	3016
QVGA		27.0	18	37	55	109	180	521	996	2112
		15.0	34	68	101	199	326	906	1640	3138
		8.0	64	128	190	370	598	1557	2611	4367
		5.0	103	203	301	580	920	2234	3489	5246

● 8CH 記録 / 音声記録無し / 増設 HDD 1TB × 1 台の場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	50	101	151	303	504	1519	3061	7689
		24.0	68	135	203	405	676	2033	4089	10259
		20.0	81	163	244	488	813	2444	4912	12316
		16.0	102	204	306	611	1018	3061	6146	15401
QVGA		27.0	60	120	180	360	599	1804	3632	9117
		15.0	109	217	326	652	1087	3267	6557	16429
		8.0	205	409	614	1228	2047	6146	12316	30826
		5.0	328	656	984	1968	3281	9848	19720	49336

● 8CH 記録 / 音声記録 2ch / 増設 HDD 1TB × 1 台の場合

[時間]

画質設定	画像サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch, 1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA		32.0	50	100	150	299	494	1428	2718	5852
		24.0	67	134	201	399	657	1874	3502	7235
		20.0	81	161	241	478	786	2220	4089	8203
		16.0	101	202	302	596	977	2718	4912	9468
QVGA		27.0	60	119	178	354	585	1678	3161	6646
		15.0	108	215	322	635	1040	2880	5172	9848
		8.0	203	403	599	1169	1888	4912	8203	13687
		5.0	324	639	946	1822	2894	7027	10945	16429

表の記録時間は、映像を JPEG で記録した場合の目安です。

24-168	169-720	721-2160	2161-
1日~1週間	1週間~1ヶ月	1ヶ月~3ヶ月	3ヶ月以上

ご注意:

- ハードディスクの状態および映像により、記録時間が 10% 程度短くなる場合があります。
- ハードディスクの経年変化により、記録時間が短くなる場合があります。

記録時間表 (VR-N900)

実際の記録時間は、カメラの設定内容、入力映像の内容や、ハードディスクの条件により異なります。
 下表は記録時間を知るための対応表で、目安としてご利用ください。

● 9CH 記録 音声記録無し 増設 HDD 無し の場合

[時間]

画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
		30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA	32	-	-	40	79	132	403	830	2112
	24	-	-	54	108	180	546	1115	2824
	16	-	-	82	165	275	830	1685	4248
	10	-	-	134	267	446	1343	2710	6811
QVGA	27	-	-	48	95	159	482	989	2507
	15	-	-	88	176	294	887	1799	4533
	8	-	-	168	336	560	1685	3393	8520
	5	-	-	270	541	901	2710	5444	13646

● 9CH 記録 音声記録 2ch 増設 HDD 無し の場合

[時間]

画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
		30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA	32	-	-	39	78	130	381	745	1648
	24	-	-	54	106	175	506	968	2054
	16	-	-	81	161	265	745	1374	2722
	10	-	-	131	258	420	1137	1993	3594
QVGA	27	-	-	47	94	155	451	871	1880
	15	-	-	87	172	282	791	1449	2837
	8	-	-	164	321	520	1374	2342	4023
	5	-	-	261	504	805	1993	3172	4897

● 9CH 記録 音声記録無し 増設 HDD 1TB × 1台 の場合

[時間]

画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
		30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA	32	-	-	133	266	443	1335	2694	6772
	24	-	-	178	356	594	1788	3600	9037
	16	-	-	269	538	896	2694	5413	13568
	10	-	-	432	864	1440	4325	8675	21723
QVGA	27	-	-	158	316	527	1587	3198	8030
	15	-	-	287	574	957	2876	5775	14474
	8	-	-	541	1081	1802	5413	10849	27159
	5	-	-	867	1734	2890	8675	17373	43469

● 9CH 記録 音声記録 2ch 増設 HDD 1TB × 1台 の場合

[時間]

画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
		30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
VGA	32	-	-	132	263	435	1264	2423	5294
	24	-	-	177	351	580	1663	3133	6588
	16	-	-	266	526	864	2423	4424	8714
	10	-	-	424	834	1359	3669	6393	11489
QVGA	27	-	-	157	312	515	1487	2823	6035
	15	-	-	284	560	920	2568	4664	9079
	8	-	-	529	1035	1677	4424	7504	12852
	5	-	-	837	1618	2582	6393	10143	15634

表の記録時間は、映像を JPEG で記録した場合の目安です。

24-168	169-720	721-2160	2161-
1日~1週間	1週間~1ヶ月	1ヶ月~3ヶ月	3ヶ月以上

ご注意：

- ハードディスクの状態および映像により、記録時間が10%程度短くなる場合があります。
- ハードディスクの経年変化により、記録時間が短くなる場合があります。

記録時間表 (VR-N900) (つづき)

● 9CH 記録 / 音声記録無し / 増設 HDD 無しの場合

[時間]

	画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
画質設定	VGA	32	31	62	93	186	310	937	1898	4781
		24	42	83	125	250	417	1257	2539	6382
		16	63	126	189	378	631	1898	3820	9586
		10	102	203	305	609	1015	3051	6126	15352
	QVGA	27	37	74	111	222	370	1115	2254	5671
		15	67	135	202	404	673	2026	4076	10226
		8	127	254	381	763	1271	3820	7664	19195

● 9CH 記録 / 音声記録 2ch / 増設 HDD 無しの場合

[時間]

	画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
画質設定	VGA	32	31	62	92	182	298	830	1514	2933
		24	41	82	123	242	395	1074	1898	3470
		16	63	124	185	360	581	1514	2539	4247
		10	100	198	293	563	894	2173	3393	5101
	QVGA	27	37	73	109	215	352	968	1733	3247
		15	67	132	197	383	618	1594	2650	4369
		8	125	246	363	693	1088	2539	3820	5467
		5	199	387	566	1054	1608	3393	4707	6126

● 9CH 記録 / 音声記録無し / 増設 HDD 1TB × 1 台の場合

[時間]

	画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
画質設定	VGA	32	101	202	303	606	1009	3034	6092	15266
		24	135	270	405	809	1349	4053	8131	20362
		16	203	406	609	1217	2029	6092	12208	30555
		10	325	650	976	1951	3252	9761	19547	48903
	QVGA	27	120	240	359	719	1198	3600	7224	18097
		15	216	433	649	1299	2165	6500	13023	32594
		8	407	813	1220	2440	4067	12208	24440	61135
		5	651	1303	1954	3908	6514	19547	39118	97830

● 9CH 記録 / 音声記録 2ch / 増設 HDD 1TB × 1 台の場合

[時間]

	画像 サイズ	データ/イメージ [kB]	1ch,1秒あたりフレームレート [ips]							
			30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
画質設定	VGA	32	101	200	299	591	969	2694	4869	9385
		24	134	267	398	783	1278	3471	6092	11096
		16	201	399	594	1159	1872	4869	8131	13567
		10	321	633	938	1806	2868	6966	10849	16285
	QVGA	27	119	237	354	698	1141	3133	5568	10386
		15	215	425	632	1233	1987	5126	8485	13955
		8	400	787	1162	2218	3485	8131	12208	17450
		5	634	1237	1809	3368	5140	10849	15031	19547

表の記録時間は、映像を JPEG で記録した場合の目安です。

24-168	169-720	721-2160	2161-
1日~1週間	1週間~1ヶ月	1ヶ月~3ヶ月	3ヶ月以上

ご注意:

- ハードディスクの状態および映像により、記録時間が 10% 程度短くなる場合があります。
- ハードディスクの経年変化により、記録時間が短くなる場合があります。

初期値一覧

スケジューラ『スケジューラの設定』(☞55ページ)

[] : 工場出荷時設定

オンライン	[全期間オンライン]
スピードアップ	[全期間オフライン]
Eメール	[全期間オフライン]
パトロール	[全期間オフライン]

カメラの設定 [デバイス編集...] - [カメラ設定画面の説明] (☞58ページ)

PTZカメラ設定

パン/チルト/ズーム (PTZ) カメラが接続されています。	[チェックなし]
カメラタイプ	[固定]

カメラ設定 『画像の記録設定をする』(☞57ページ)

スピードアップ設定

フレームレート	[8]
フレーム/	[秒]/分/時間

記録設定

設定フレームレート	[8]
フレーム/	[秒]/分/時間
スピードアップ	[チェックなし]
画像保存のタイミング	常時/設定せず/[条件で]
モーションで	[チェック]
イベントで	[チェックなし]
() 秒間、モーション/イベントの前後を記録する	[3]

ライブの設定 (☞ 58ページ)

フレームレート

録画と同じ	[チェックなし]
スピードアップと同じ	[チェック]

データベース設定 『データベースの設定』(☞112ページ))

最大データベースサイズ	[チェック] [108000]
データベース内最大タイムスパン	[チェックなし]
データベースが一杯の場合、自動的にアーカイブする	[チェック]
データベースに問題が発生した場合、次の処置を実行します	修復。不可能な場合はスキャンし、消去します/修復。不可能な場合は消去します/修復。不可能な場合はアーカイブします/削除 (修復せず) / [アーカイブ (修復無し)]

PTZプリセット 『[PTZプリセット]画面を表示する』(☞92ページ)

プリセット

デバイスのプリセットを使用する	[チェックなし]
イベントでプリセットへ	
イベントでプリセットへ	[チェックなし]

PTZパトロールの設定 『PTZカメラを使って自動パトロールを行う』(☞95ページ)

パトロール計画	[マイパトロール]
PTZパトロールスケジュールの設定	
パトロール運行で各位置での停止時間 (秒)	[5]
PTZカメラの移動完了までの時間 (秒)。この間、モーション検知は機能しません	[3]
モーションでのPTZパトロールの設定	
モーションで、パトロールスケジュールは中止	[チェックなし]

初期値一覧（つづき）

モーション検知『モーション検知を設定する』（☞107ページ）

感度	[40]
しきい値	[640]

一般設定 『一般設定』（☞108ページ）

Milestone XProtect Centralの設定

Milestone XProtect Centralへの接続を有効にする	[チェックなし]
--------------------------------------	----------

パトロール設定

手動、イベントPTZの後、パトロール再開までの時間（秒）	[30]
------------------------------	------

ログファイル設定

ログファイルパス	[L:¥Log¥MS¥]
----------	--------------

ログ保存日数	[5]
--------	-----

イベント録画の設定

パス	[D:¥Events¥]
----	--------------

保存日数	[5]
------	-----

詳細設定

カメラ不具合でEメール送信は行わない	[チェックなし]
--------------------	----------

リモートライブ要求でカメラを起動する	[チェック]
--------------------	--------

新規カメラにはデフォルトスケジュールを適用する	[チェック]
-------------------------	--------

Eメール設定

Eメールを使用する（モニター）	[チェックなし]
-----------------	----------

アーカイブのセットアップ 『アーカイブの設定』（☞110ページ）

次の日数より古いデータベースを削除	[9999]
-------------------	--------

アーカイブエラーで、Eメールを送信	[チェック]
-------------------	--------

自動パスの設定	[チェック]
---------	--------

実施時刻	[12:00:00]
------	------------

名前	全て[チェック]
----	----------

カメラの[プロパティ]『カメラ設定を調節する』（☞65ページ）

画質	[フル]／高精細(メガピクセル用)／高い／中／低い
----	---------------------------

フレームレート	[無制限]／中／低い
---------	------------

縦横比を維持	[チェック]
--------	--------

モーションで更新	[チェックなし]
----------	----------

モーション検知で音を鳴らす	[常にOFF]／常にON
---------------	--------------

イベントで音を鳴らす	[常にOFF]／常にON
------------	--------------

ジョイスティックのセットアップ『ジョイスティックの設定を変更する』（☞141ページ）

ジョイスティックを停止	[チェックなし]
-------------	----------

Axisセットアップ

	反転	アブソリュート	アクション
X軸	[チェックなし]	[チェックなし]	PTZズーム／PTZチルト／[PTZパン]／No Action
Y軸	[チェックなし]	[チェックなし]	PTZズーム／[PTZチルト]／PTZパン／No Action
Z軸	[チェックなし]	[チェックなし]	[PTZズーム]／PTZチルト／PTZパン／No Action

ボタンセットアップ

ボタン1-12	[No Action]
---------	-------------

ユニット設定『ユニット設定』(71 ページ)

パスワード	[なし]
オートログオン	[チェック]
ライブ映像表示	
ライブ映像表示自動スタート	[チェック]
エラーの通知方法	
ダイアログで警告	[チェック]
メール送信	[チェック]
記録制御設定	
起動時に ON	[チェック]
メールサーバーの設定	
SMTPサーバー	ポート [25]
POPサーバー	ポート [110]
メール送信認証方法	[なし] / SMTP 認証 / POP before SMTP
エマージェンシー記録	
記録時間	しない / 30秒 / [60秒] / 5分 / 10分 / 20分 / 継続
エンコードの方式 (VR-N900)	
エンコードの方式	Variable File Size / [Average File Size] / Constant File Size
フィールド補間	[チェック]
シリアル設定 (VR-N900)	
通信速度	1200/1800/2400/4800/[9600]/19200/38400/
データ長	7/[8]
パリティ	[なし] / 奇数 / 偶数
ストップビット	[1]/2

OS 設定 『OS 設定』(75 ページ)

ネットワークアダプタ名

IntelT 82566DM Gigabit Network Connection : LAN1 (カメラネットワーク) (VR-N1600)

Realtek RTL8169/8110 Family Gigabit Ethernet NIC : LAN1 (カメラネットワーク) (VR-N900)

IPアドレスを自動的に取得する	[チェックなし]
IPアドレス	[192.168.0.253]
サブネットマスク	[255.255.255.0]
デフォルトゲートウェイ	[0.0.0.0]
優先DNSサーバー	[0.0.0.0]
代替DNSサーバー	[0.0.0.0]
ホスト名	[vr-n1600]/[vr-n900]
DNSドメイン名	[なし]

IntelE8225xER PCI Adapter : LAN2 (イントラネットワーク)

IPアドレスを自動的に取得する	[チェックなし]
IPアドレス	[192.168.1.253]
サブネットマスク	[255.255.255.0]
デフォルトゲートウェイ	[192.168.1.254]
優先DNSサーバー	[0.0.0.0]
代替DNSサーバー	[0.0.0.0]
ホスト名	[vr-n1600]/[vr-n900]
DNSドメイン名	[なし]

初期値一覧（つづき）

OS 設定 『OS 設定』（※75 ページ）（つづき）

Enc Board Bus Master Driver：アナログカメラネットワーク (VR-N900)

IPアドレスを自動的に取得する	[チェックなし]
IPアドレス	[192.168.1.253]
サブネットマスク	[255.255.255.0]
デフォルトゲートウェイ	[0.0.0.0]
優先DNSサーバー	[0.0.0.0]
代替DNSサーバー	[0.0.0.0]
ホスト名	[vr-n900]
DNSドメイン名	[なし]

日付・時刻プロパティ

自動的にインターネット時刻サーバーと同期する	[チェックなし]
タイムゾーン	[(GMT+09:00)Osaka,Sapporo,Tokyo]

自動検出設定（『自動検出設定』（※115 ページ））

IPリース機能	使用する／[使用しない]
---------	--------------

設定値

先頭IPアドレス	[192.168.0.100]
台数	1台～/[20台]／～99台
サブネットマスク	[255.255.255.0]
ゲートウェイ	[192.168.0.254]

DNSサーバー

プライマリ	[192.168.0.253]
セカンダリ	[192.168.0.252]
ドメイン名	[なし]

リース期限	[無期限]／期限あり
クライアント限定	[指定カメラのみ]／限定しない
MAC指定	[なし]

配信設定『配信設定の詳細』（※120 ページ）

サーバー設定

名前	[Server]
ポート	[80]
外部アクセスを許可	[チェックなし]
最大クライアント	[11]

ユーザ管理

全ユーザーにアクセス許可	[チェック]
--------------	--------

ログファイル

ログ保存日数	[10]
--------	------

監査ログ

監査ログ	監査ログを許可／[チェックなし]
------	------------------

言語サポートとXMLエンコーディング

言語	言語／[日本語(Shift-jis)]
----	---------------------

ユーザ管理 (配信設定 120ページ)

VR-N1600

ユーザー	パスワード	タイプ
vr-n1600	[vr-n1600]	基本ユーザー
Administrator	[なし]	[WindowsもしくはActive Directoryユーザー]

VR-N900

ユーザー	パスワード	タイプ
vr-n900	[vr-n900]	基本ユーザー
Administrator	[なし]	[WindowsもしくはActive Directoryユーザー]

ハードディスクユーティリティ (詳細設定 119ページ)

NAS 接続ユーザ設定

パスワード	[なし]
ユーザー名	[なし]

内蔵 HDD への自動アーカイブ

内蔵HDDへのアーカイブを有効にする	[チェック]
--------------------	--------

こんなときは

症状	処置
電源が入らない。	電源ケーブルが正しく差し込まれているか確認してください。 背面の電源スイッチがONになっているか確認してください。
カメラが自動認識されない。	各カメラの[取扱説明書]にしたがい、IP設定を確認してください。 IPリース機能を使用している場合は、本機が起動している状態でカメラ電源をOFF/ONしてください。
[記録][再生]を押しても操作できない。	オペレーションロックになっていないか確認してください。
記録制御モードで記録されない。	カメラ記録設定を確認してください。 スケジュール設定がオンラインになっているか確認してください。 記録制御モードになっているか確認してください。
音声再生できない。	[カメラ記録設定]メニューでカメラデバイスのオーディオが“有効”になっているか確認してください。 [音声]セクションで[音声ソース]が選択されているか確認してください。
操作ができない。	フロントパネルの[機能]ボタンを押しながら[オペレート]ボタンを7秒以上長押しして強制的に電源を切ってください。 メモ： ● 強制的に電源を切った場合、それ以前のアーカイブ (110 ページ) されていない記録画像は正常に再生できない場合があります。
電源を入れると以下のメッセージが表示される。 “CMOS Settings Wrong CMOS Date/ Time Not Press F1 to Run SETUP Press F2 to load default values and continue”	内蔵のバックアップ電池が消耗しています。 最寄のビクターサービス窓口にご相談ください。

■ ワーニング表示灯点灯時の対応

メッセージ内容	対応
WARNING:HDD (Disk)	ハードディスクの信頼性が低下しています。 最寄のビクターサービス窓口にご相談ください。
ハードディスクが削除されました。	増設ハードディスクの電源が入っているか確認してください。 接続ケーブルが正しく差し込まれているか確認してください。 上記が異常ない場合、最寄のビクターサービス窓口にご相談ください。
WARNING:HDD (Raid)	ハードディスク (RAID 設定時) の警告です。 最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。
WARNING:HDD(ドライブ名:) Disconnect	NASドライブが切断されました。 NASの動作を確認してください。 NASとの接続を確認してください。
FAN STOP	ファンの異常です。ファンが回転しているかどうか確認してください。 ファンが回転していない場合は、運用を中止してください。 故障の原因となります。 最寄のビクターサービス窓口にご相談ください。

保証とアフターサービス

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡しますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙サービス窓口案内をご覧ください。最寄のサービス窓口にご相談ください。

消耗部品について

下表は消耗部品の一覧です。これらの部品交換にともなう部品代、および技術料、出張料を含む修理費用は、保証期間内でも有償となります。

部品名	備考
ハードディスクドライブ	18,000時間（約2年）のご使用を目安にメンテナンスしてください。
CPU ファン/リアファンユニット	30,000時間（約3年）のご使用を目安にメンテナンスしてください。
バックアップ電池 (CR2032)	長期間電源供給がなされない場合は交換する必要があります。

- メンテナンス時間は、25℃環境で使用した時の目安であり、使用環境により異なります。

メンテナンスの計画、費用などのご相談は、ご購入先の販売店、または別紙のビクターサービス窓口案内をご覧ください。最寄のサービス窓口へお願いします。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはサービス窓口にて次のことをお知らせください。

品名	: ネットワークビデオレコーダー
品番	: VR-N900/VR-N1600
お買い上げ日	:
故障の状況	: 故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	:
お名前	:
電話番号	:

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

仕様

VR-N1600

■ 一般

許容動作温度範囲

: 5℃～40℃

許容保存温度範囲

: -20℃～60℃

許容動作湿度範囲

: 30%～80%

電源 : AC 100V 50Hz / 60Hz

消費電力 : 100W

質量 : 約7.6kg

■ インターフェース

ネットワーク : RJ-45 × 2

LAN1 : 1000BASE-T/100BASE-TX/
10BASE-T

LAN2 : 100BASE-TX/10BASE-T

シリアル : USB2.0 ATYPE 相当 × 5

VGA 出力 : 最大 1600 x 1200

音声入力 : アナログオーディオ RCA × 2 -8 dBs
50 kΩ (不平衡)

音声出力 : アナログオーディオ RCA × 1 -8 dBs
600 Ω (不平衡)

入出力端子 : プッシュターミナル

入力 × 12

出力 × 5

GND × 3

■ 圧縮形式

ビデオ : JPEG/MPEG-4

オーディオ : μ-law (64 Kbps) A/D 8 bit,
Fs=8 kHz

■ 記録

HDD 容量 : 500 GB × 1

■ 記録 / 表示 / 配信性能

表示ありの場合: 最大 160 ips/80 ips/80 ips

表示なしの場合: 最大 240 ips/0 ips/80 ips
(NVR Viewer を起動しない場合)

NAS を使用する場合

表示ありの場合: 最大 80ips/80ips/80ips

表示なしの場合: 最大 80ips/0ips/80ips

■ 添付物・付属品

スタートアップガイド..... 1

保証書..... 1

安全上のご注意..... 1

ビクターサービス窓口案内..... 1

CD-ROM..... 1

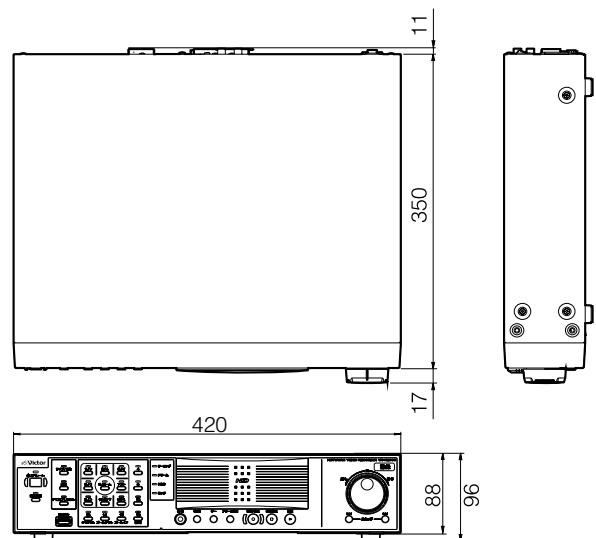
電源コード (2 m)..... 1

ラックマウント金具..... 2

スクリュー (M4 × 10 mm)..... 4

スクリュー (M5 × 11 mm)..... 4

■ 外形寸法図 (単位: mm)



※ 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

VR-N900

■ 一般

許容動作温度範囲

: 5 °C ~ 40 °C

許容保存温度範囲

: - 20 °C ~ 60 °C

許容動作湿度範囲

: 30 % ~ 80 %

電源 : AC 100 V 50 Hz / 60 Hz

消費電力 : 150 W

質量 : 約 8.0 kg

■ インターフェース

ネットワーク : RJ-45 × 2

LAN1 : 1000BASE-T/100BASE-TX/
10BASE-T

LAN2 : 100BASE-TX/10BASE-T

シリアル : USB2.0 ATYPE 相当 × 5

VGA 出力 : 最大 1600 x 1200

ビデオ入力 : NTSC コンポジットビデオ 75 Ω (BNC
不平衡) × 4

音声入力 : アナログオーディオ RCA × 2 -8 dBs
50 kΩ (不平衡)

音声出力 : アナログオーディオ RCA × 1 -8 dBs
600 Ω (不平衡)

制御端子 : RS-485 D-Sub 9pin (オス) × 1

入出力端子 : プッシュターミナル

入力 × 8

出力 × 5

GND × 3

■ 圧縮形式

ビデオ : JPEG/MPEG-4 (ネットワークカメラ)
JPEG (アナログカメラ)

オーディオ : μ -law (64 Kbps) A/D 8 bit,
Fs=8 kHz

■ 記録

HDD 容量 : 250 GB × 2

■ 記録 / 表示 / 配信性能

表示ありの場合: 最大 120 ips/60 ips/30 ips

表示なしの場合: 最大 120 ips/0 ips/82 ips
(NVR Viewer を起動しない場合)

NAS を使用する場合

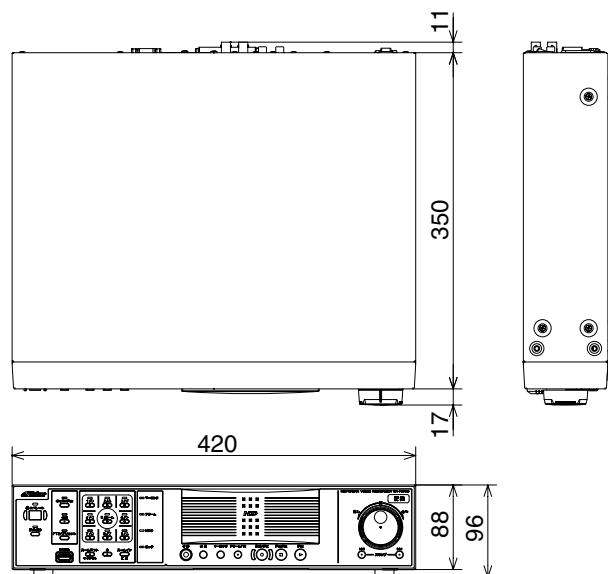
表示ありの場合: 最大 60ips/60ips/30ips

表示なしの場合: 最大 60ips/0ips/30ips

■ 添付物・付属品


スタートアップガイド.....	1
保証書.....	1
安全上のご注意.....	1
ビクターサービス窓口案内.....	1
CD-ROM.....	1
電源コード (2 m).....	1
ラックマウント金具.....	2
スクリュー (M4 × 10 mm).....	4
スクリュー (M5 × 11 mm).....	4

■ 外形寸法図 (単位 : mm)



* 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

お客様ご相談センター

 0120-2828-17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は

電話 (045)450-8950 [代表]

FAX (045)450-2275

〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ <http://www.victor.co.jp/>

日本ビクター株式会社

〒192-8620 東京都八王子市石川町2969-2 電話 (042) 660-7245